

結婚・妊娠・出産・育児に関する意識調査

報 告 書

平成 27 年 3 月

文 京 区

I 調査の概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査設計	3
4. 回収結果	3
5. 報告書の見方	3
II 調査回答者の属性	5
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 同居者	8
(4) 現在の暮らし向き	8
(5) 最終学歴	8
(6) 職業	8
(7) 雇用形態	9
III 調査結果の詳細	11
1. 結婚について	
(1) 婚姻状況	13
(1-1) 結婚について具体的に考えたこと	15
(2) 結婚についての考え	17
(2-1) 結婚したい理由	22
(2-2) 理想の結婚年齢	24
(2-3) 理想の結婚年齢の設定理由	26
(2-4) 実際に結婚すると思う年齢	28
(2-5) 理想の結婚年齢と実際に結婚すると思う年齢の差	30
(2-6) 結婚しない理由	31
2. 子どもを持つことについて	
(1) 「結婚している人」の子どもの人数	33
(1-1) 第一子を出産した年齢	35
(2) 妊娠・出産・子育てについて具体的に考えたこと	36
(3) 妊娠・出産に関する情報の取得	38
(3-1) 妊娠・出産についての情報を得た場所・機会	40
(4) 子どもを持つこと	42

目次

(4-1) 子どもを持ちたい年齢	44
(4-2) 理想とする子どもの人数	47
(4-3) 実際に持つと思う子どもの人数	51
(4-4) 実際に持つと思う子どもの人数と理想とする子どもの人数の差	56
(4-5) 理想とする子どもの人数を持ってないと思う理由	63
3. 仕事、家族についての希望や考え	
(1) 仕事のやりがい	65
(1-1) 妊娠・出産に伴う休暇の取得のしやすさ	67
(2) 仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度	69
(3) 小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方	71
(4) 育児や家事の役割分担	73
(5) 夫の家事・育児時間	75
4. 妊娠・出産に関する知識について	
(1) 妊孕性尺度	78
(2) 妊娠のための健康づくりに取り組んでいること	79
5. 子育てに対する考え方、意識について	
(1) 子どもを持つことに関する考え	81
(2) 出産と子育て初期の際に希望するサポート	85
(3) 子どもを持つうえで利用できる区のサービスの認知状況	87
(3-1) 区のサービスを知った機会	89
(4) 保健師などの継続的に相談できる人がいることの認知状況	91
(5) ライフプランについて考えるセミナーへの参加状況	93
(5-1) ライフプランについて考えるセミナーへの参加機会	94
(6) ライフプランについて考えるセミナーへの参加意向	95
6. 健康に関する状況・知識について	
(1) BMI	97
(2) 喫煙状況	99
(3) 飲酒状況	101
(3-1) 1日の飲酒量	103
(4) 1日の消費エネルギー	105
(5) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数	106
(6) 朝食摂取状況	108

(7) 外食の有無	110
(8) 中食の有無	112
(9) ヘルスリテラシー	114
7. 医療機関の利用状況について	
(1) 不妊治療の受診状況	115
(2) 生理周期や生殖に関することなどを相談できるかかりつけ病院の有無	118
(3) 生理周期や生殖に関することなどを気軽に相談できる人の有無	120
(3-1) 相談相手について	121
8. 行政による支援について	
(1) 今後力を入れてほしい施策	122
(2) 自由意見	124
IV 調査票	171

I 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、結婚・妊娠・出産・育児の時期に当たる20歳から45歳までの文京区民の結婚・妊娠・出産・育児に対する意識を調査することにより、意識の傾向及び考え方について把握し、ぶんきょうハッピーベビープロジェクト及びハッピーベビー応援団において、活動の基礎となる情報として活用することを目的とする。

2. 調査項目

- (1) 結婚について
- (2) 子どもを持つことについて
- (3) 仕事、家族についての希望や考え
- (4) 妊娠・出産に関する知識について
- (5) 子育てに対する考え方、意識について
- (6) 健康に関する状況・知識について
- (7) 医療機関の利用状況について
- (8) 行政による支援について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 文京区全域
- (2) 調査対象 文京区在住の満20歳から45歳までの男女
- (3) 標本数 8,000人
- (4) 抽出方法 無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布－郵送回収
- (6) 調査時期 平成26年11月10日～12月1日
- (7) 調査機関 株式会社エスピー研

4. 回収結果

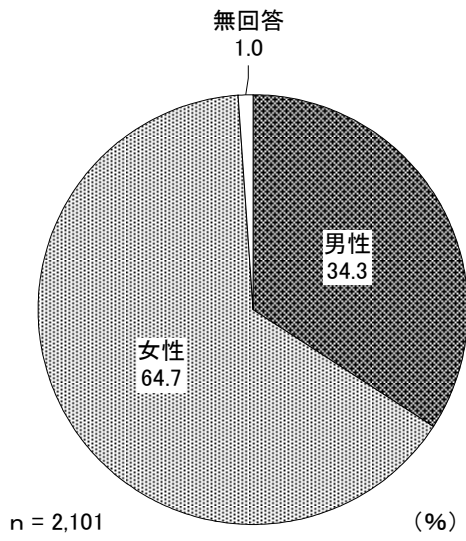
配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
7,986	2,106	2,101	26.3%

5. 報告書の見方

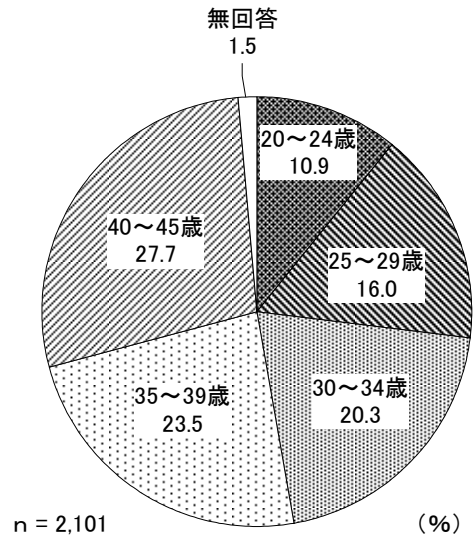
- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100.0%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100.0%を上回ることがある。
- (4) グラフの選択肢の表記は、表示の都合上、選択肢を省略している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) 回答者数が20に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。

Ⅱ 調査回答者の属性

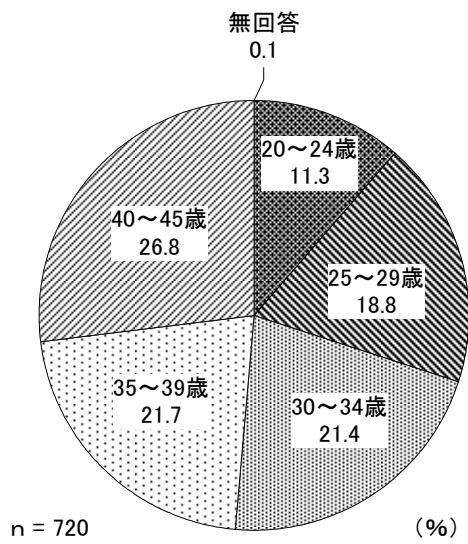
(1) 性別



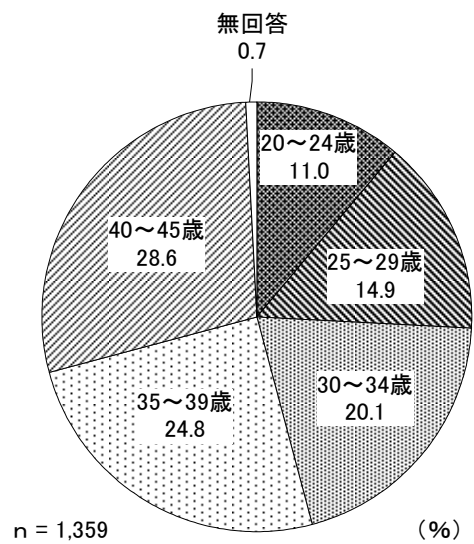
(2) 年齢



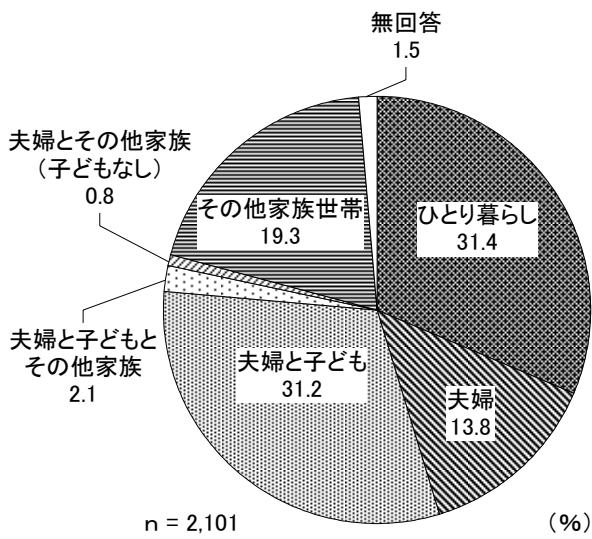
[年齢：男性]



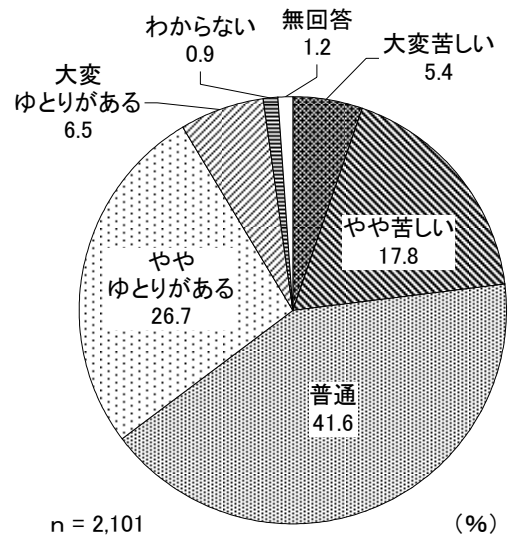
[年齢：女性]



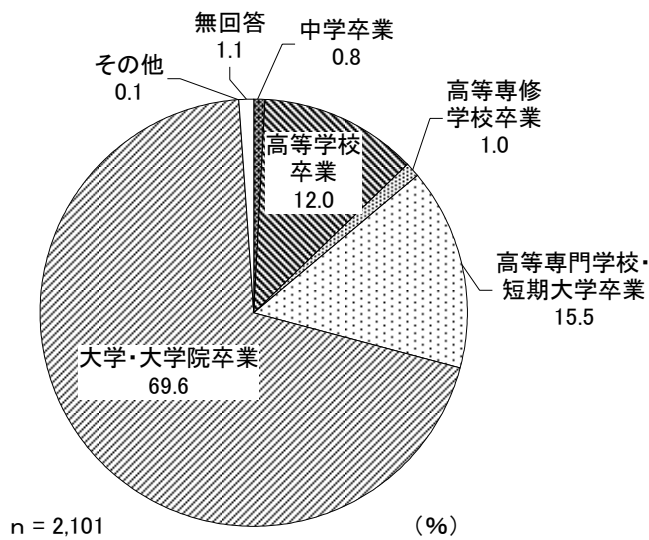
(3) 同居者



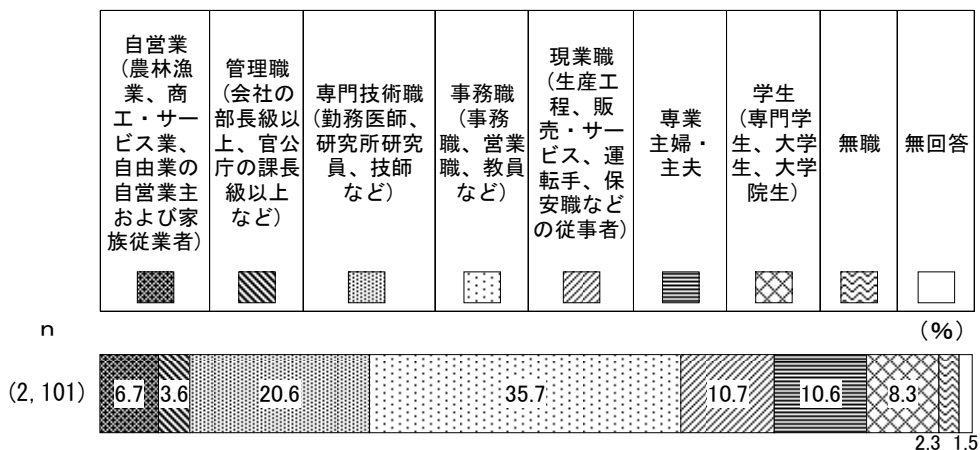
(4) 現在の暮らし向き



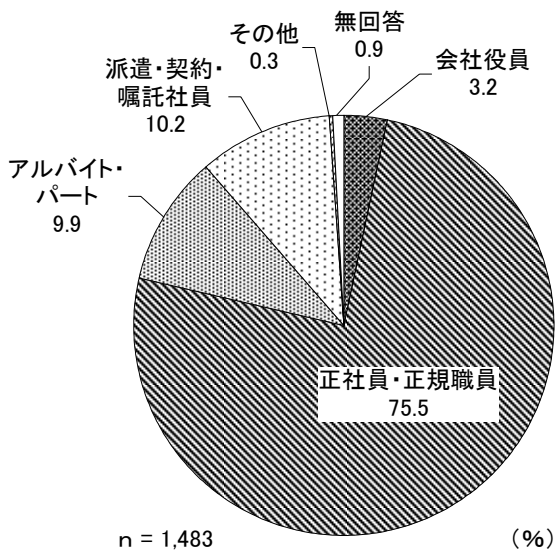
(5) 最終学歴



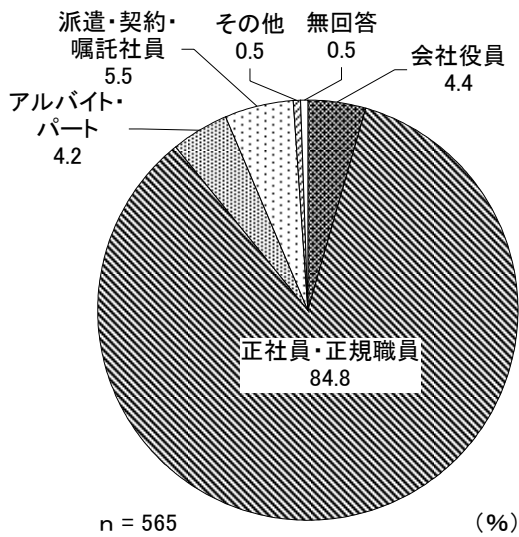
(6) 職業



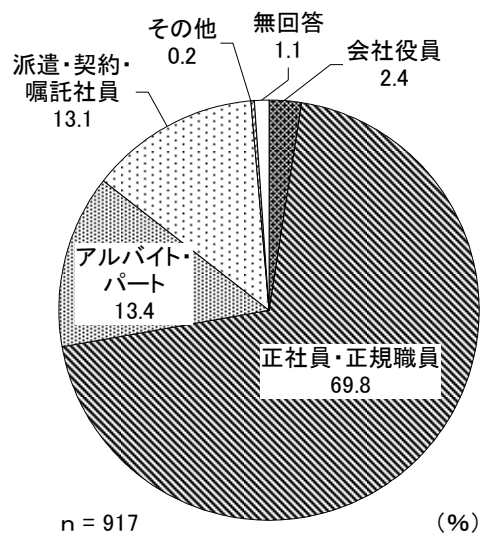
(7) 雇用形態



[雇用形態：男性]



[雇用形態：女性]



Ⅲ 調査結果の詳細

1. 結婚について

(1) 婚姻状況

◇「結婚している」が5割を超え、結婚年数は「1～5年目」が約4割

問1 婚姻状況についてお答えください。(○は1つ)

図1-1 婚姻状況

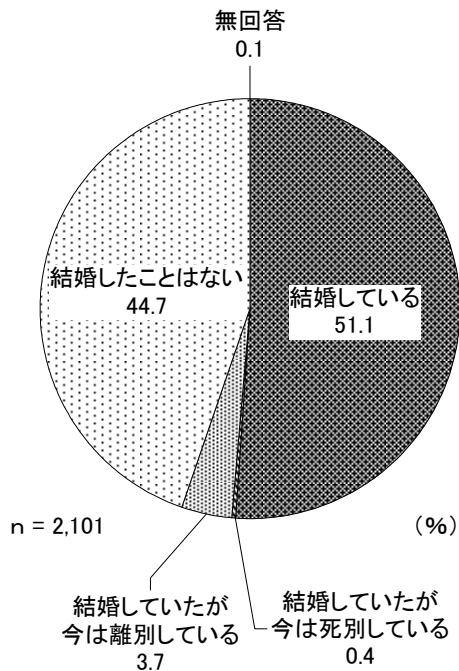
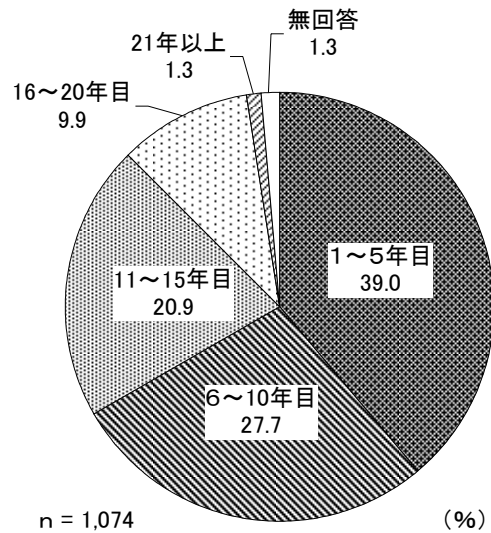


図1-2 結婚年数



婚姻状況について聞いたところ、「結婚している」(51.1%)が5割を超え、「結婚したことはない」(44.7%)は4割半ばとなっている。また、「結婚していたが今は離別している」(3.7%)と「結婚していたが今は死別している」(0.4%)はともにわずかとなっている。(図1-1)

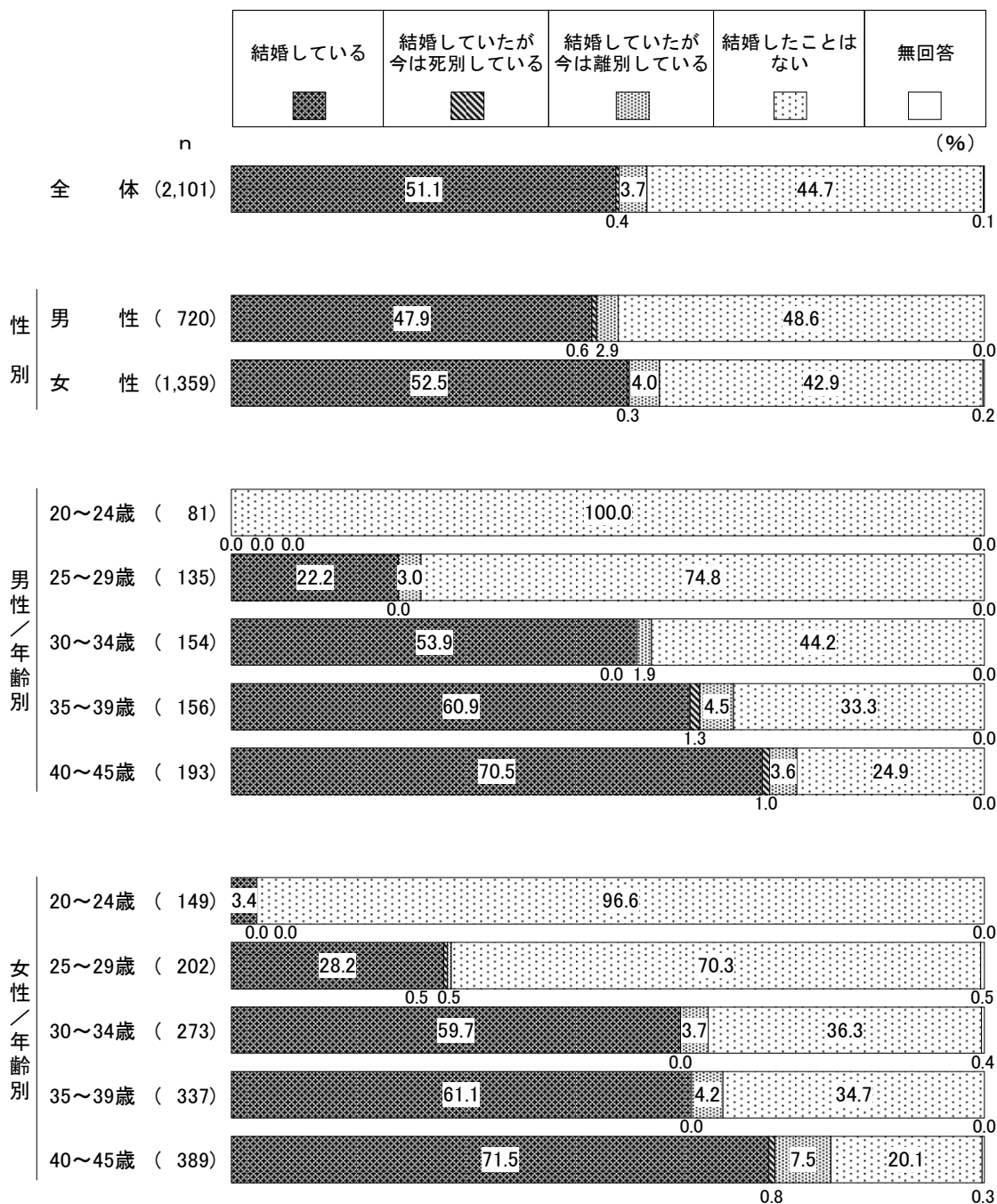
「結婚している」と答えた方(1,074人)の結婚年数をみると、「1～5年目」(39.0%)が約4割で最も高く、次いで「6～10年目」(27.7%)、「11～15年目」(20.9%)の順となっている。

(図1-2)

性別にみると、「結婚したことはない」は男性（48.6%）が女性（42.9%）より 5.7 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「結婚している」は男女ともに年齢が高くなるほど割合が高く、男女ともに 40～45 歳（男性 70.5%・女性 71.5%）で 7 割台となっている。（図 1-3）

図 1-3 婚姻状況（性・年齢別）



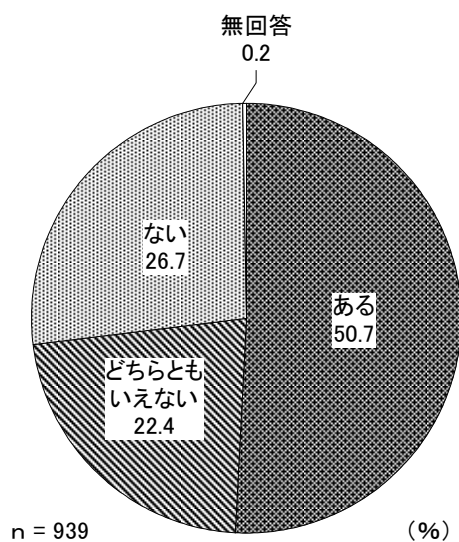
(1-1) 結婚について具体的に考えたこと

◇考えたことが「ある」は約5割

(問1で、「結婚したことはない」と答えた方に)

問1-2 自分の結婚について、これまで具体的に考えたことはありますか。(○は1つ)

図1-4

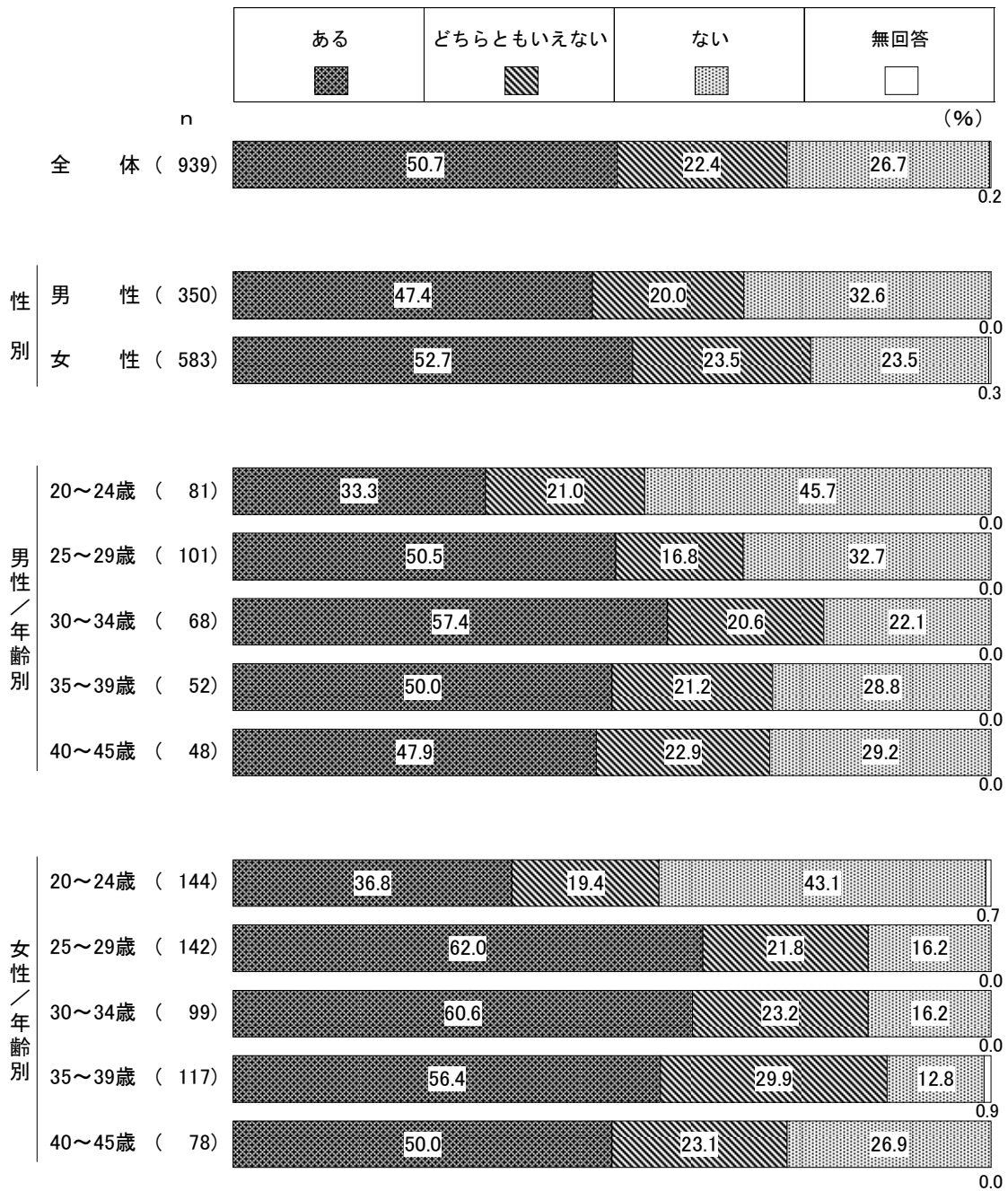


婚姻状況で、「結婚したことはない」と答えた方(939人)に、結婚について具体的に考えたことはあるか聞いたところ、「ある」(50.7%)が約5割、「ない」(26.7%)は3割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(22.4%)は2割を超えている。(図1-4)

性別にみると、「ある」は女性（52.7%）が男性（47.4%）より 5.3 ポイント高くなっている。一方、「ない」は男性（32.6%）が女性（23.5%）より 9.1 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ある」は女性の 25～29 歳（62.0%）と 30～34 歳（60.6%）で 6 割台と高くなっている。一方、「ない」は男女ともに 20～24 歳（男性 45.7%・女性 43.1%）で 4 割台と高くなっている。（図 1-5）

図 1-5 結婚について具体的に考えたこと（性・年齢別）

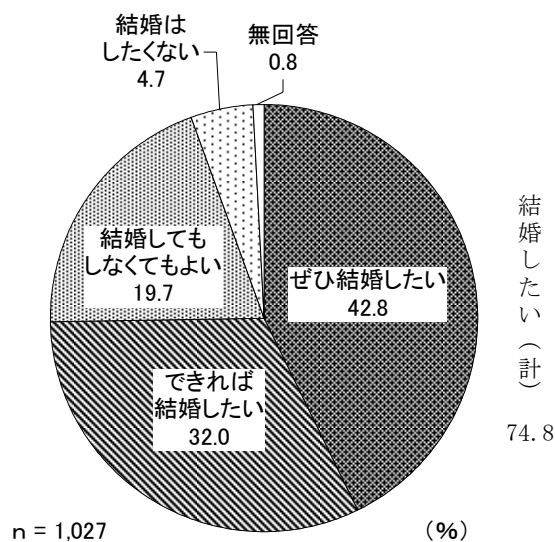


(2) 結婚についての考え

◇「ぜひ結婚したい」と「できれば結婚したい」を合わせた『結婚したい(計)』は7割半ば

問2 結婚についてのご自身のお考えにあてはまるものはどれですか。(○は1つ)

図 1-6

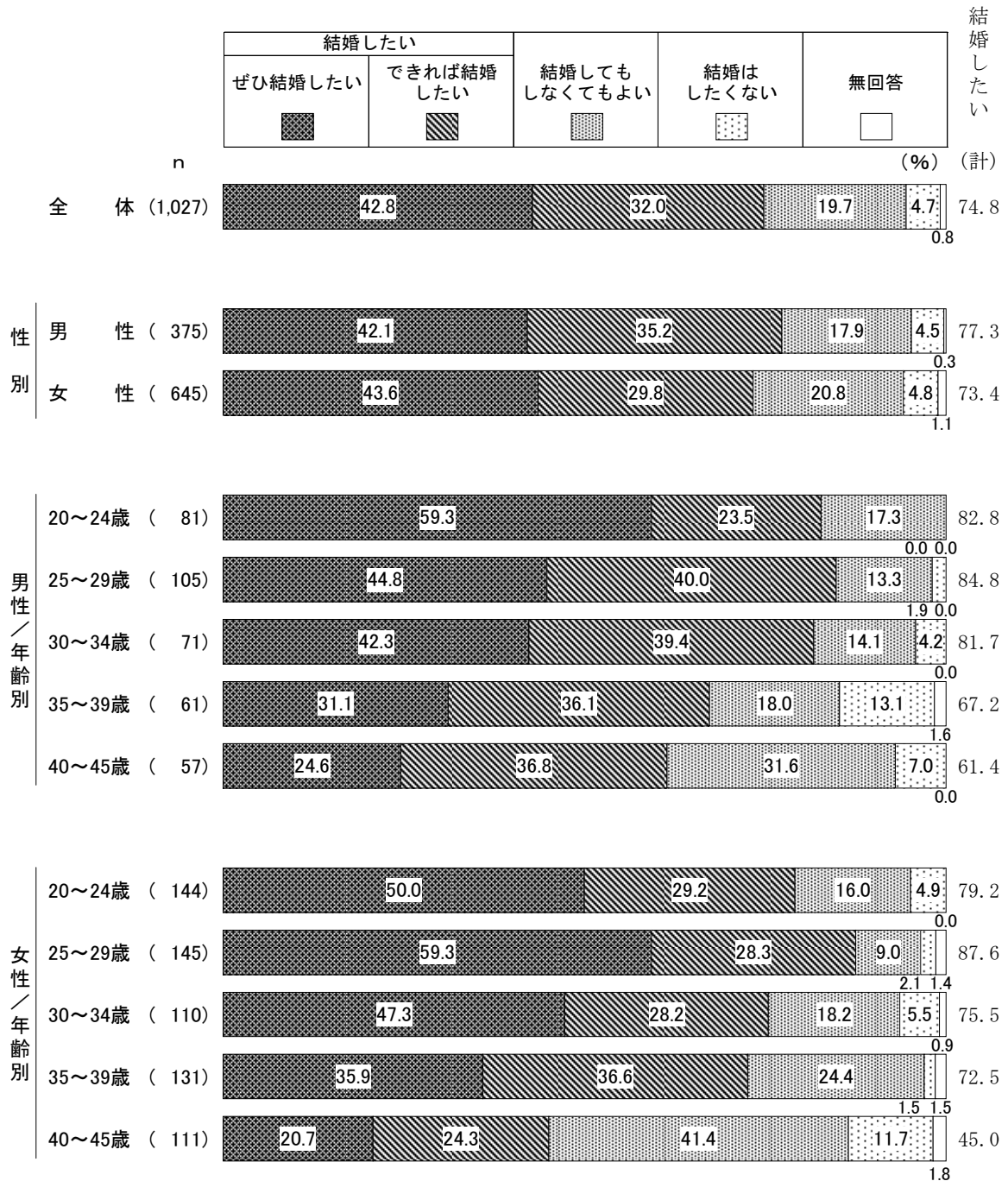


婚姻状況で、「結婚していたが今は死別している」「結婚していたが今は離別している」「結婚したことはない」と答えた方及び無回答者(1,027人)に、結婚についての考えを聞いたところ、「ぜひ結婚したい」(42.8%)が4割を超え最も高く、これに「できれば結婚したい」(32.0%)を合わせた『結婚したい(計)』(74.8%)は7割半ばとなっている。一方、「結婚してもしなくてもよい」(19.7%)は2割、「結婚はしたくない」(4.7%)はわずかとなっている。(図1-6)

性別にみると、『結婚したい（計）』は男性（77.3%）が女性（73.4%）より3.9ポイント高くなっている。

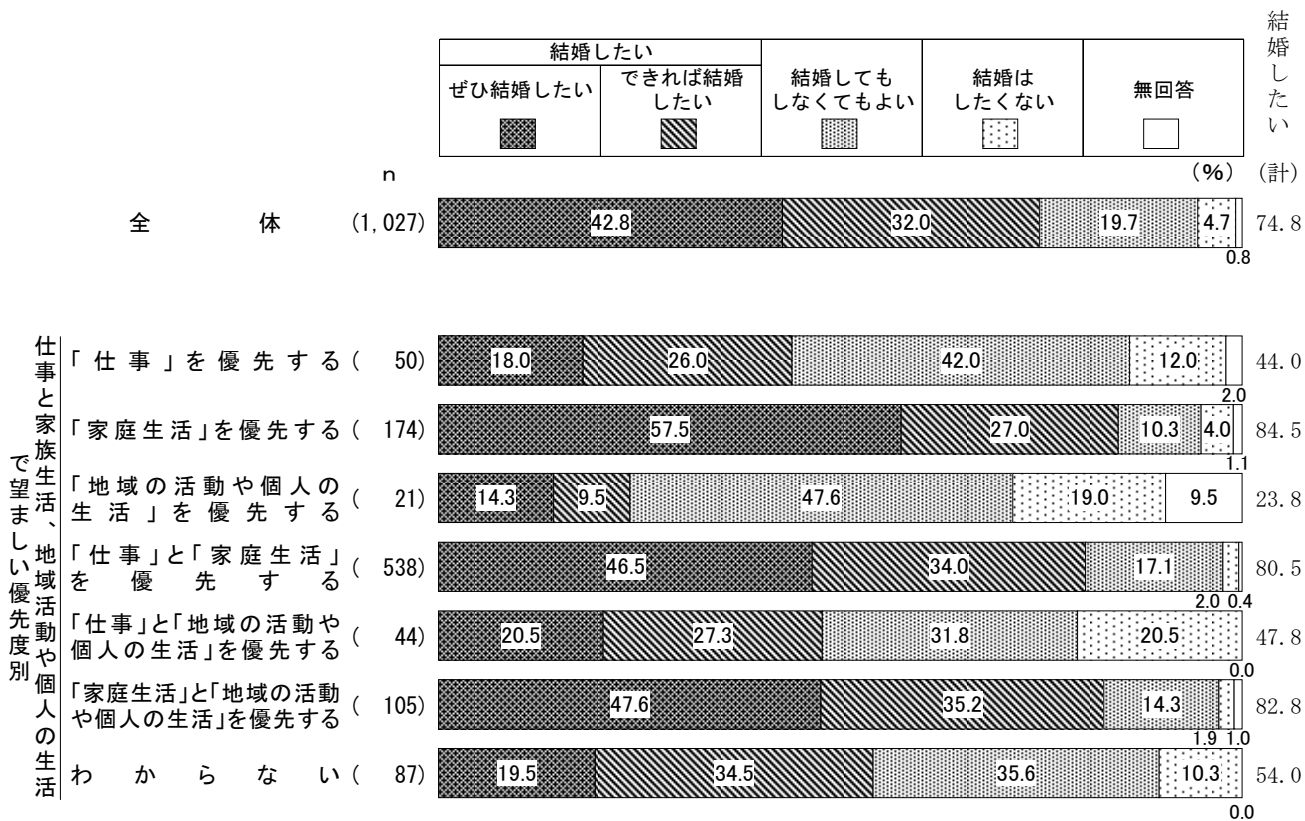
性・年齢別にみると、『結婚したい（計）』は女性25～29歳（87.6%）と男性の20～24歳（82.8%）、25～29歳（84.8%）、30～34歳（81.7%）で8割台と高くなっている。（図1-7）

図1-7 結婚についての考え（性・年齢別）



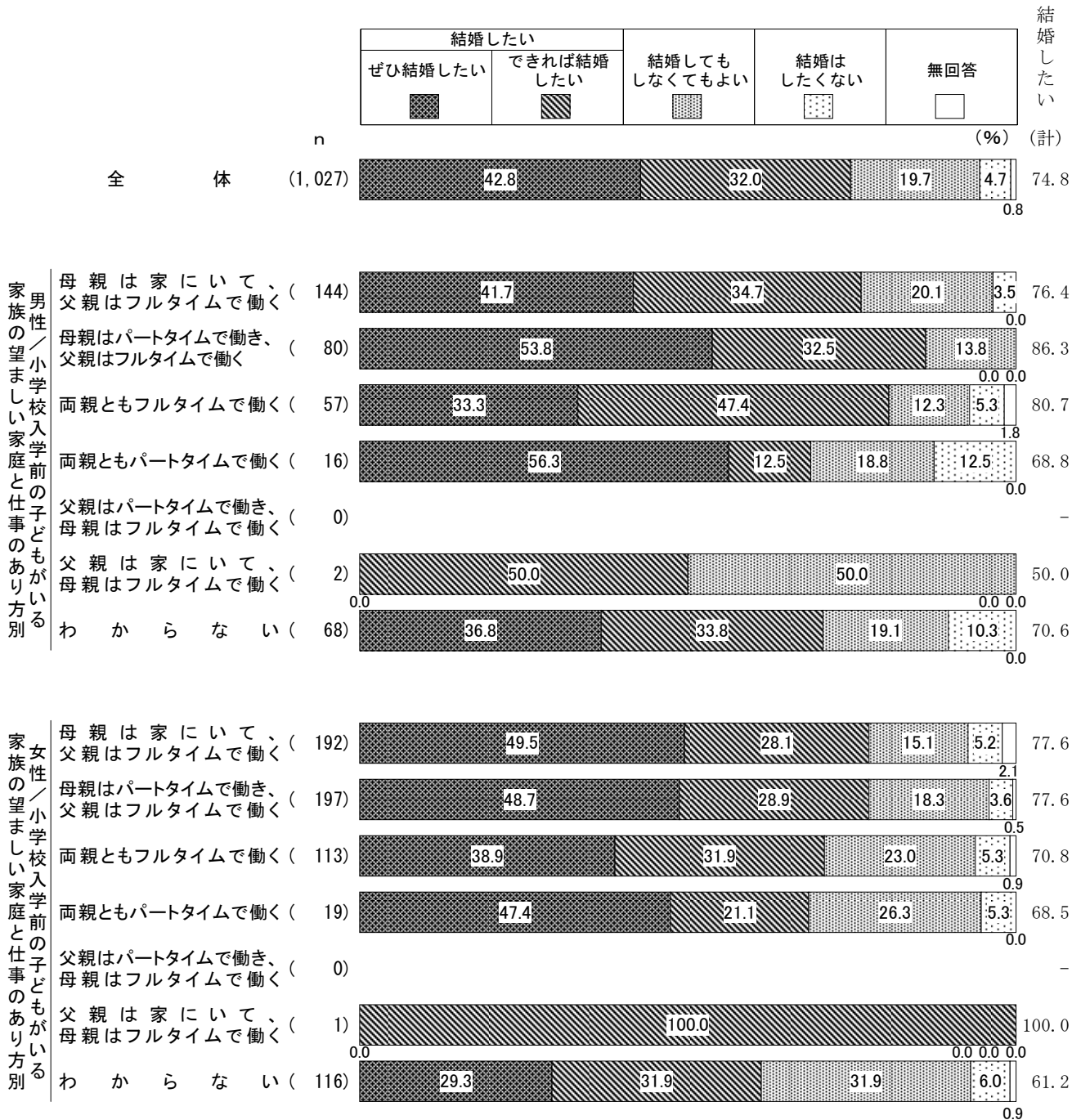
仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度別にみると、「ぜひ結婚したい」は“「家庭生活」を優先する”（57.5%）で6割近くと高くなっている。一方、「結婚はしたくない」は“「仕事」と「地域の活動や個人の生活」を優先する”（20.5%）と“「地域の活動や個人の生活」を優先する”（19.0%）で2割前後となっている。（図1-8）

図1-8 結婚についての考え（仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度別）



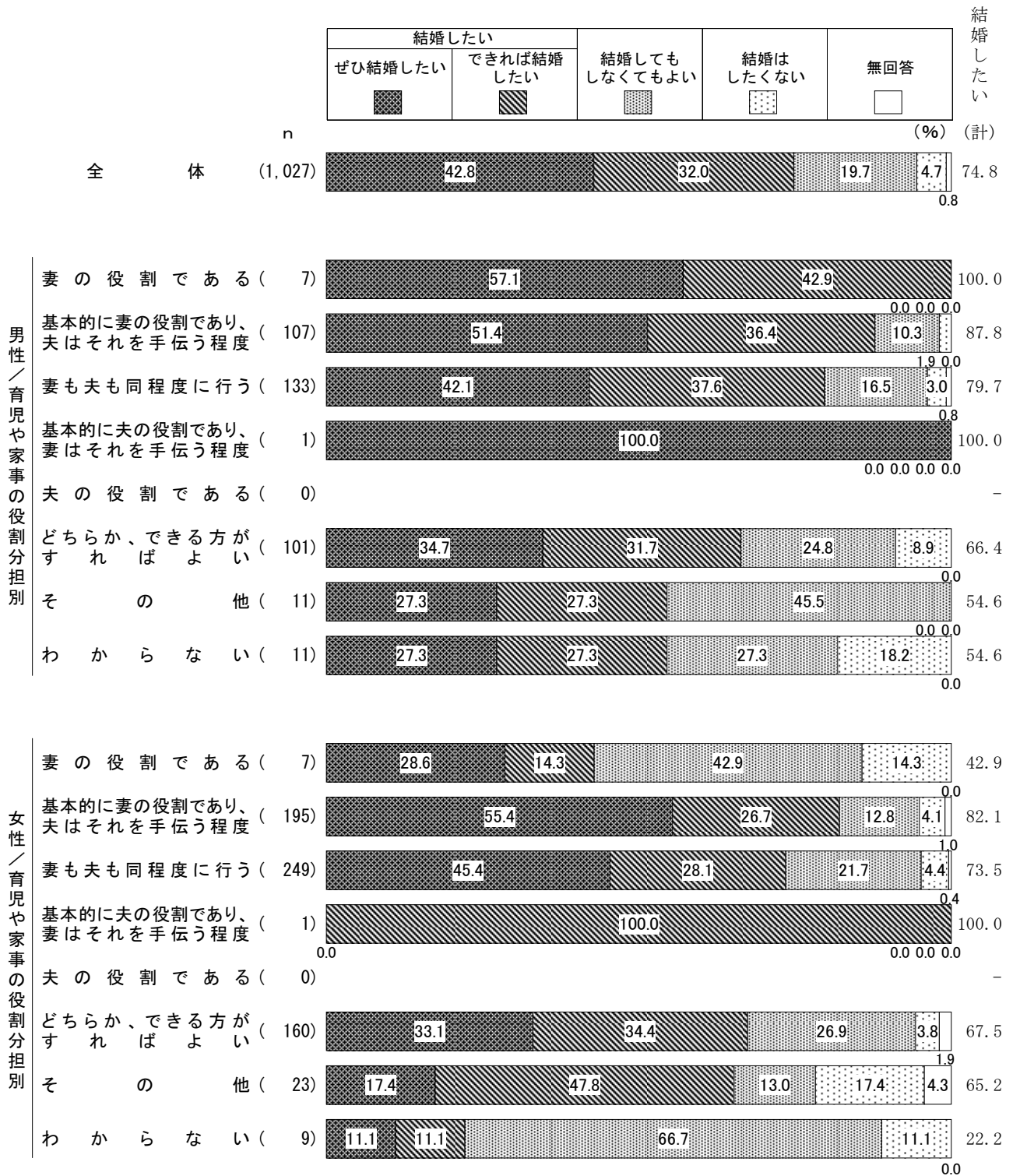
性・小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方別にみると、『結婚したい(計)』は男性の“母親はパートタイムで働き、父親はフルタイムで働く”(86.3%)と“両親ともフルタイムで働く”(80.7%)で8割台と高くなっている。(図1-9)

図1-9 結婚についての考え
(性・小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方別)



性・育児や家事の役割分担別にみると、『結婚したい（計）』は男女ともに“基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝える程度”（男性 87.8%・女性 82.1%）で8割台と高くなっている。（図 1-10）

図 1-10 結婚についての考え（性・育児や家事の役割分担別）



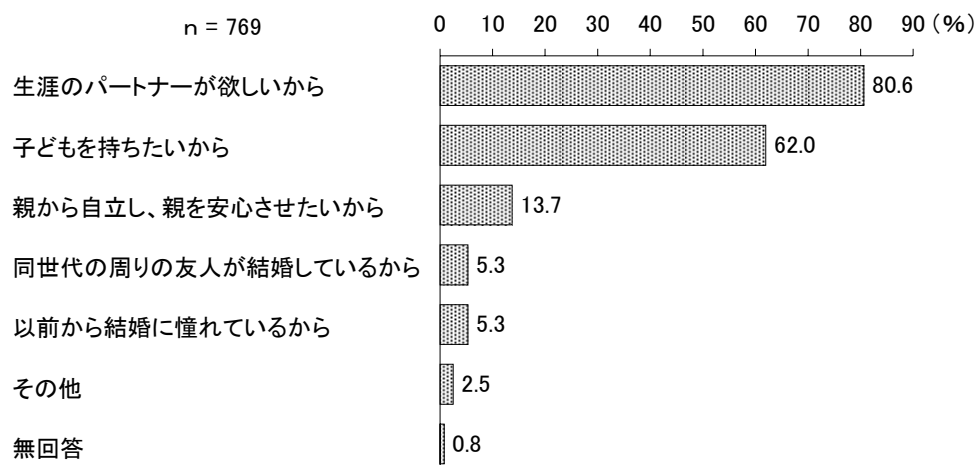
(2-1) 結婚したい理由

◇「生涯のパートナーが欲しいから」が約8割

(問2で、「ぜひ結婚したい」「できれば結婚したい」と答えた方に)

問2-1 結婚したいと考える理由としてあてはまるものはどれですか。(○は2つまで)

図1-11



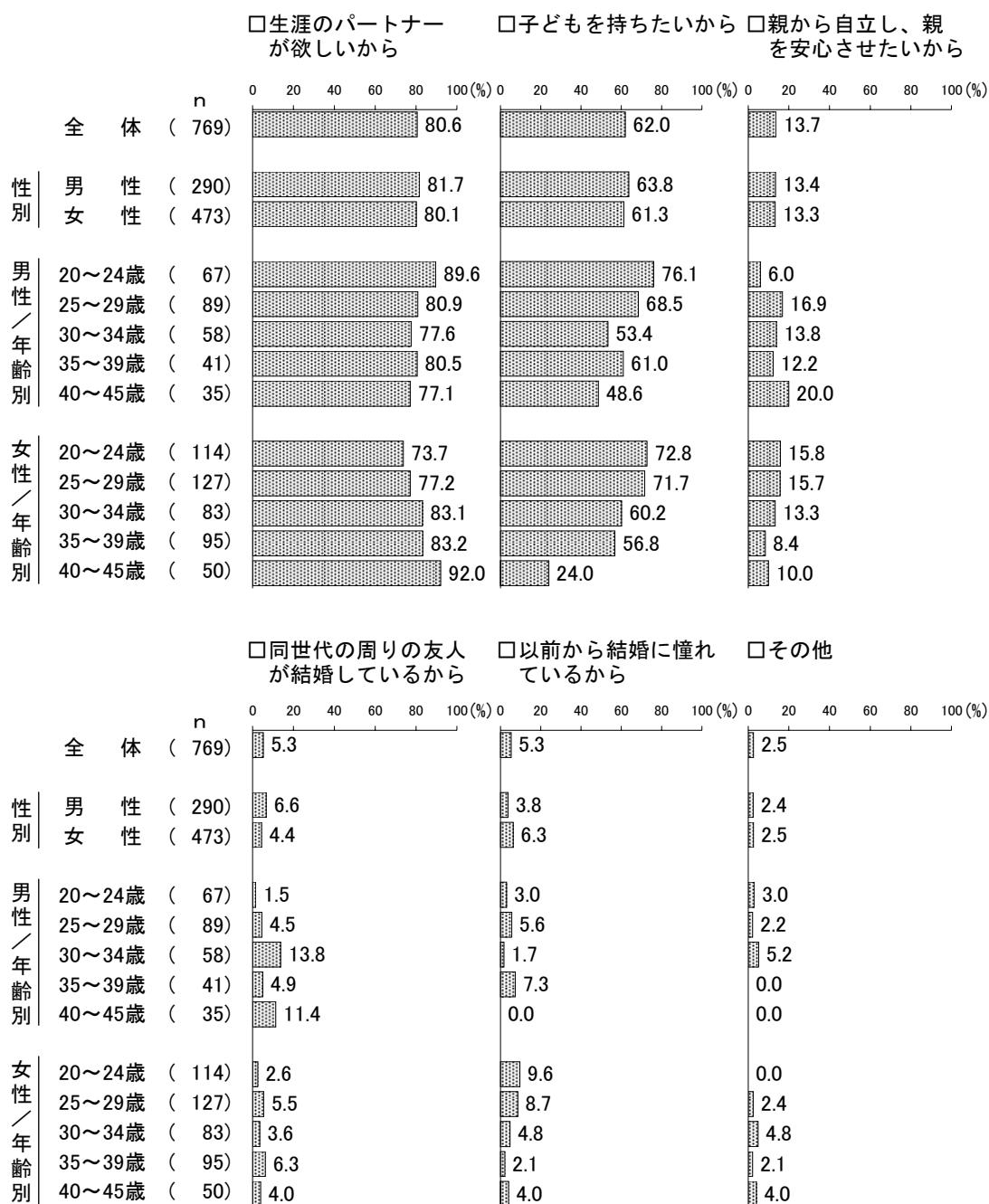
結婚についての考えで、「ぜひ結婚したい」「できれば結婚したい」と答えた方(769人)に、その理由を聞いたところ、「生涯のパートナーが欲しいから」(80.6%)が約8割で最も高く、次いで「子どもを持ちたいから」(62.0%)、「親から自立し、親を安心させたいから」(13.7%)の順となっている。(図1-11)

性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別にみると、「生涯のパートナーが欲しいから」は女性では年齢が高くなるほど割合が高く、40～45歳（92.0%）で9割を超え、男性では20～24歳（89.6%）で9割と高くなっている。また、「子どもを持ちたいから」は男女ともにおおむね年齢が低くなるほど割合が高く、男性20～24歳（76.1%）と女性の20～24歳（72.8%）、25～29歳（71.7%）で7割台となっている。

（図1-12）

図1-12 結婚したい理由（性・年齢別）

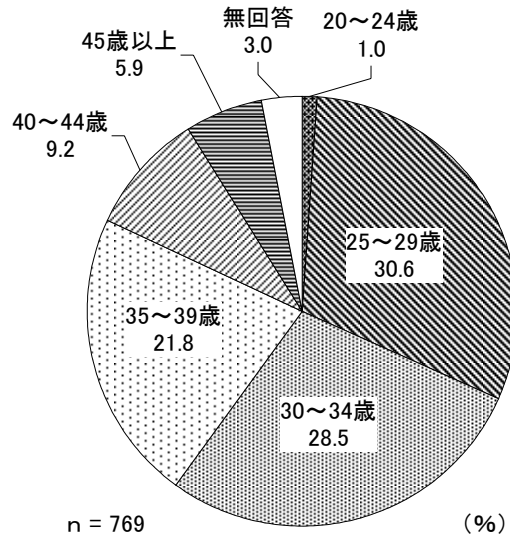


(2-2) 理想の結婚年齢

◇「25～29歳」が約3割

(問2で、「ぜひ結婚したい」「できれば結婚したい」と答えた方に)
問2-2 何歳で結婚したいとお考えですか。(回答欄に数字を記入)

図1-13

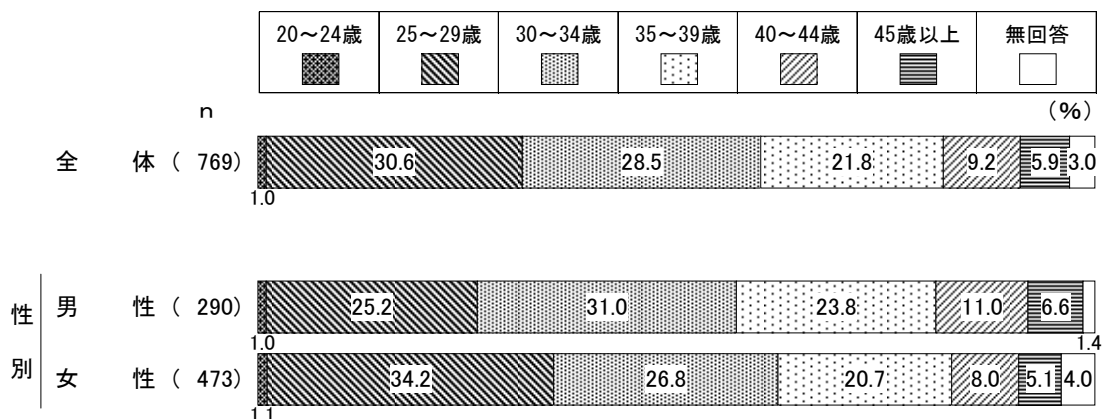


結婚についての考えで、「ぜひ結婚したい」「できれば結婚したい」と答えた方(769人)に、理想の結婚年齢を聞いたところ、「25～29歳」(30.6%)が約3割で最も高く、次いで「30～34歳」(28.5%)、「35～39歳」(21.8%)の順となっている。(図1-13)

性別にみると、「25～29歳」は女性(34.2%)が男性(25.2%)より9.0ポイント高くなっている。一方、「30～34歳」は男性(31.0%)が女性(26.8%)より4.2ポイント高くなっている。

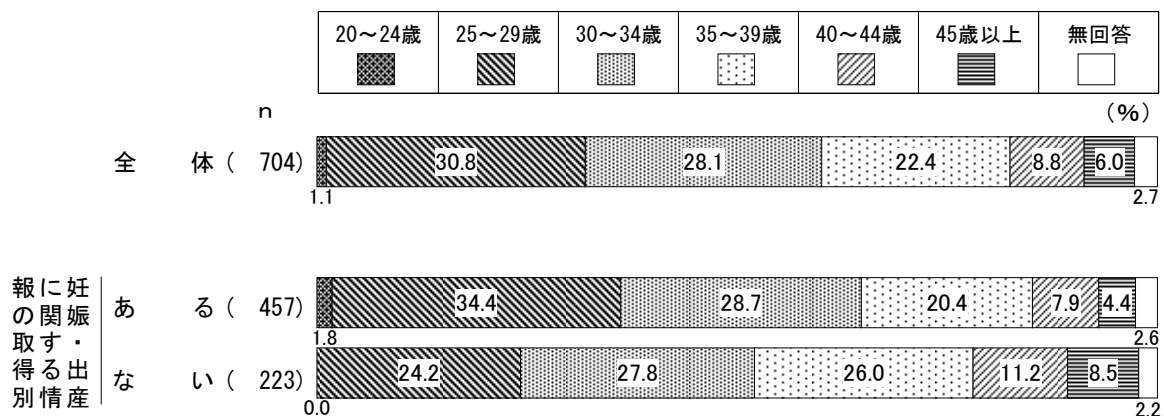
(図1-14)

図1-14 理想の結婚年齢(性別)



妊娠・出産に関する情報の取得別にみると、理想の結婚年齢が「25～29歳」の人は、妊娠・出産に関する情報を取得したことが“ある”（34.4%）が“ない”（24.2%）より10.2ポイント高くなっている。一方、理想の結婚年齢が「35～39歳」の人は、妊娠・出産に関する情報を取得したことが“ない”（26.0%）が“ある”（20.4%）より5.6ポイント高くなっている。（図1-15）

図1-15 理想の結婚年齢（妊娠・出産に関する情報の取得別）



(2-3) 理想の結婚年齢の設定理由

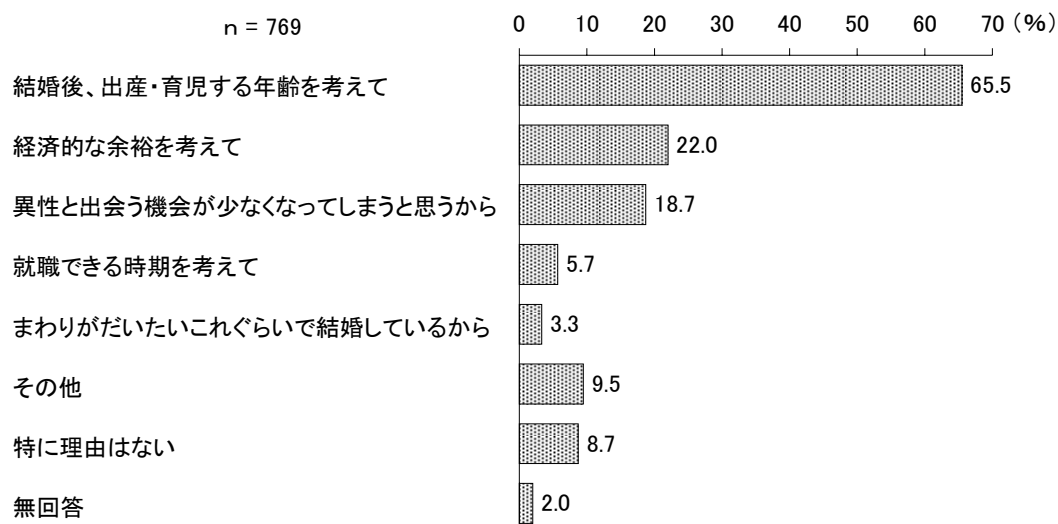
◇「結婚後、出産・育児する年齢を考えて」が6割半ば

(問2で、「ぜひ結婚したい」「できれば結婚したい」と答えた方に)

問2-3 問2-2でお答えいただいた結婚したい年齢に理由があれば教えてください。

(○は2つまで)

図1-16



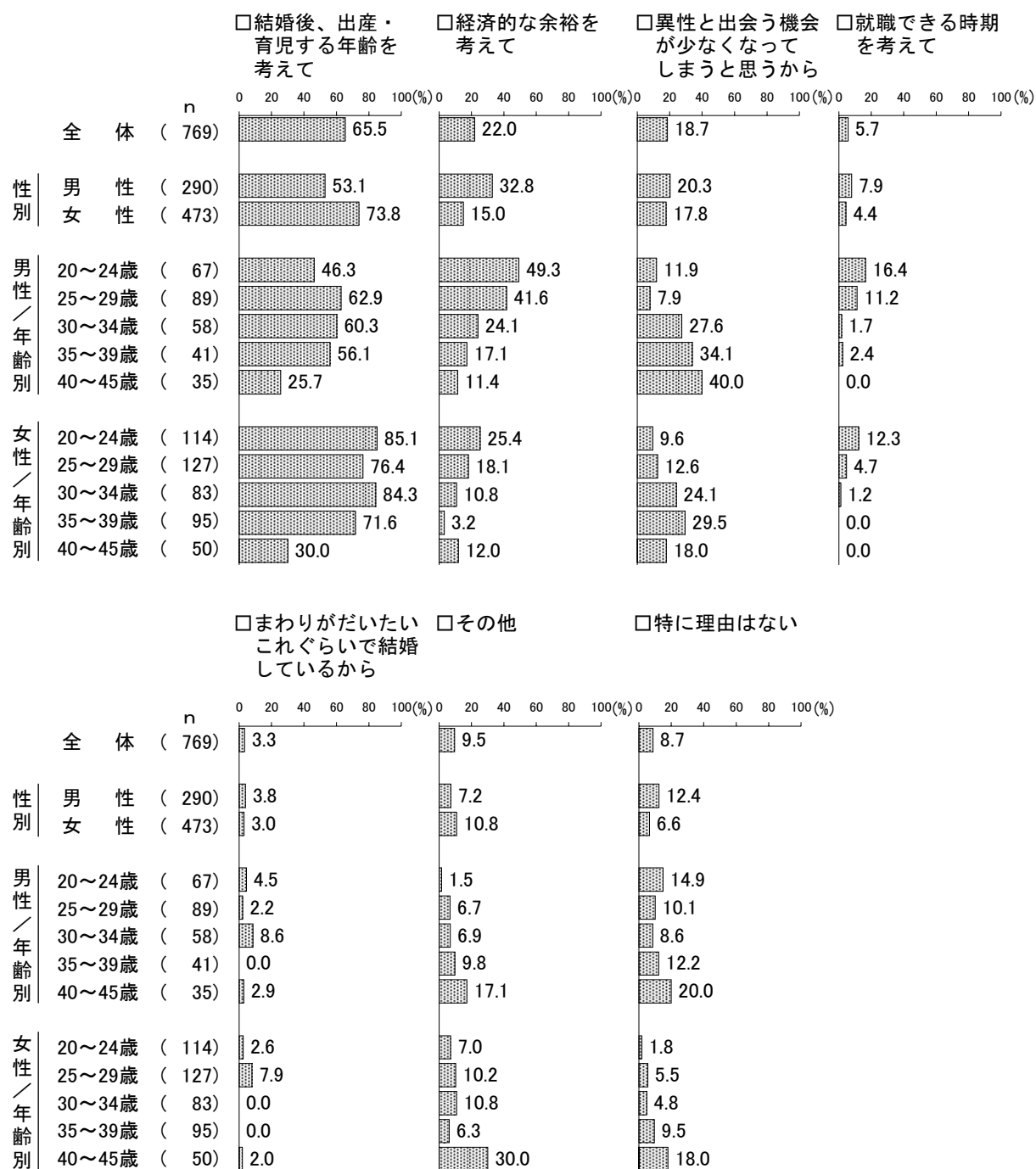
結婚についての考えで、「ぜひ結婚したい」「できれば結婚したい」と答えた方(769人)に、理想の結婚年齢の設定理由を聞いたところ、「結婚後、出産・育児する年齢を考えて」(65.5%)が6割半ばで最も高く、次いで「経済的な余裕を考えて」(22.0%)、「異性と出会う機会が少なくなってしまうと思うから」(18.7%)の順となっている。(図1-16)

性別にみると、「結婚後、出産・育児する年齢を考えて」は女性（73.8%）が男性（53.1%）より20.7ポイント高くなっている。一方、「経済的な余裕を考えて」は男性（32.8%）が女性（15.0%）より17.8ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「結婚後、出産・育児する年齢を考えて」は女性の20～24歳（85.1%）と30～34歳（84.3%）で8割半ばと高くなっている。また、「経済的な余裕を考えて」は男女ともにおおむね年齢が低くなるほど割合が高く、男性20～24歳（49.3%）で約5割となっている。

（図1-17）

図1-17 理想の結婚年齢の設定理由（性・年齢別）



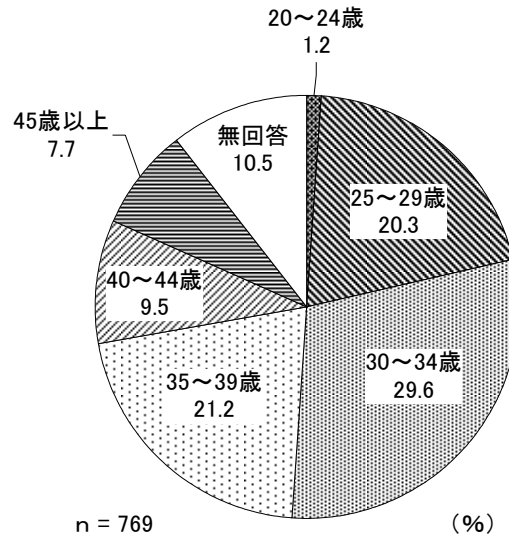
(2-4) 実際に結婚すると思う年齢

◇「30～34歳」が3割

(問2で、「ぜひ結婚したい」「できれば結婚したい」と答えた方に)

問2-4 実際に結婚する年齢は何歳だと思いますか。(回答欄に数字を記入)

図1-18

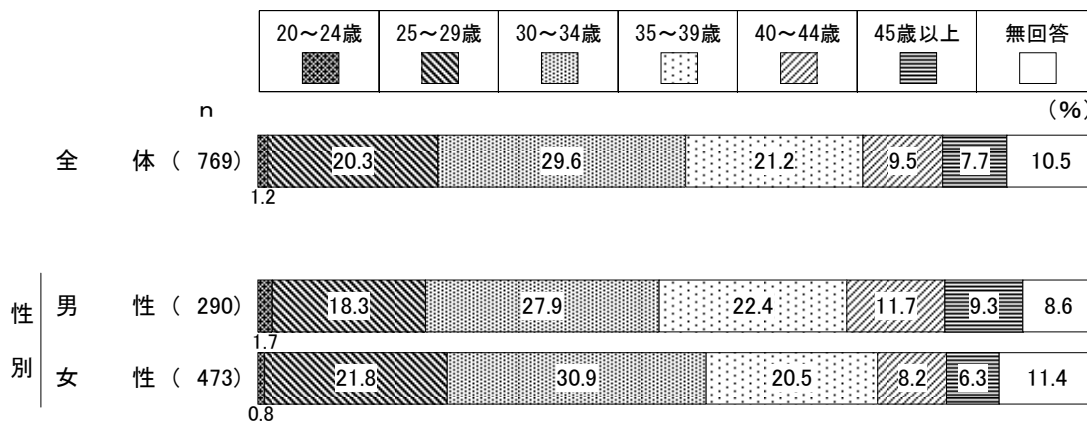


結婚についての考えで、「ぜひ結婚したい」「できれば結婚したい」と答えた方(769人)に、実際に結婚すると思う年齢を聞いたところ、「30～34歳」(29.6%)が3割で最も高く、次いで「35～39歳」(21.2%)、「25～29歳」(20.3%)、「40～44歳」(9.5%)の順となっている。(図1-18)

性別にみると、「25～29歳」は女性(21.8%)が男性(18.3%)より3.5ポイント高くなっている。一方、「40～44歳」は男性(11.7%)が女性(8.2%)より3.5ポイント高くなっている。

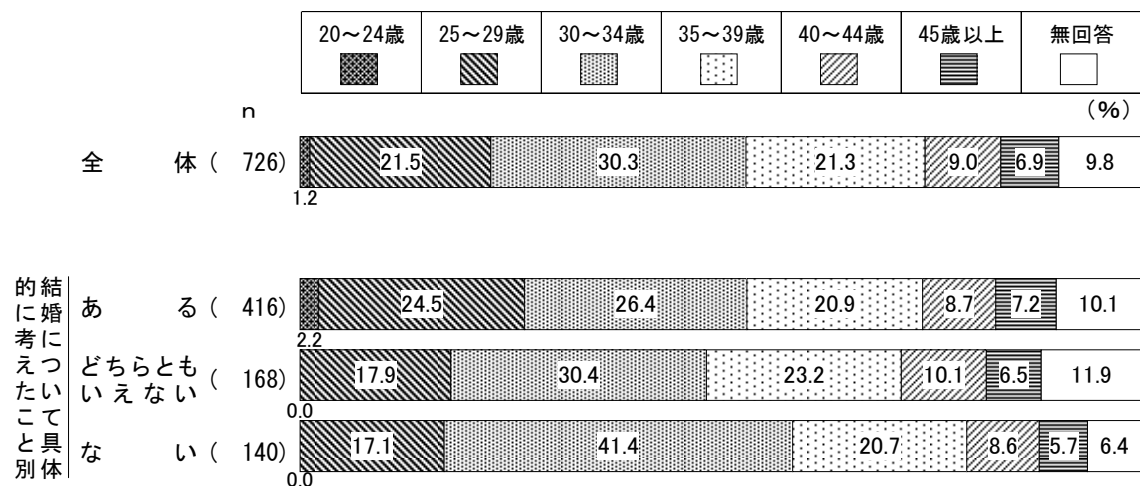
(図1-19)

図1-19 実際に結婚すると思う年齢(性別)



結婚について具体的に考えたこと別にみると、実際に結婚すると思う年齢が「25～29歳」の人は、結婚について具体的に考えたことが“ある”（24.5%）が“ない”（17.1%）より7.4ポイント高くなっている。一方、実際に結婚すると思う年齢が「30～34歳」の人は、結婚について具体的に考えたことが“ない”（41.4%）が“ある”（26.4%）より15.0ポイント高くなっている。（図1-20）

図1-20 実際に結婚すると思う年齢（結婚について具体的に考えたこと別）

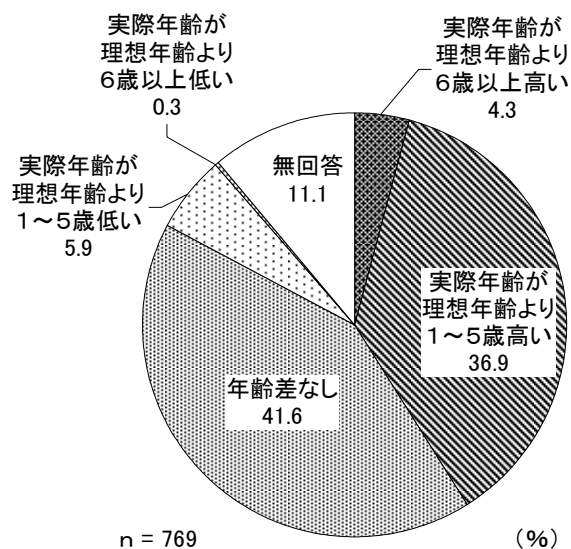


(2-5) 理想の結婚年齢と実際に結婚すると思う年齢の差

◇「年齢差なし」が4割を超える

理想の結婚年齢（問2-2）と実際に結婚すると思う年齢（問2-4）の差を求めた。

図1-21



結婚についての考えで、「ぜひ結婚したい」「できれば結婚したい」と答えた方（769人）の、理想の結婚年齢と実際に結婚すると思う年齢の差は、「年齢差なし」（41.6%）が4割を超え最も高く、次いで「実際に結婚すると思う年齢が理想の結婚年齢より1～5歳高い」（36.9%）の順となっている。（図1-21）

(2-6) 結婚しない理由

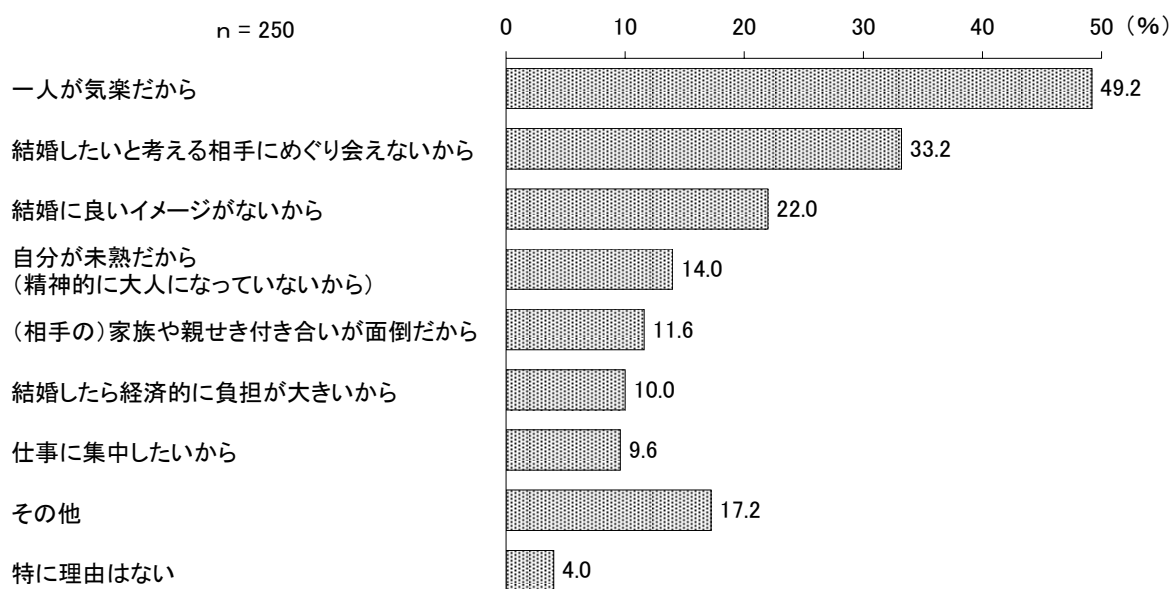
◇「一人が気楽だから」が約5割

(問2で、「結婚してもしなくてもよい」「結婚はしたくない」と答えた方に)

問2-5 結婚しなくてもよい、したくないと考える理由にあてはまるものはどれですか。

(○は2つまで)

図1-22



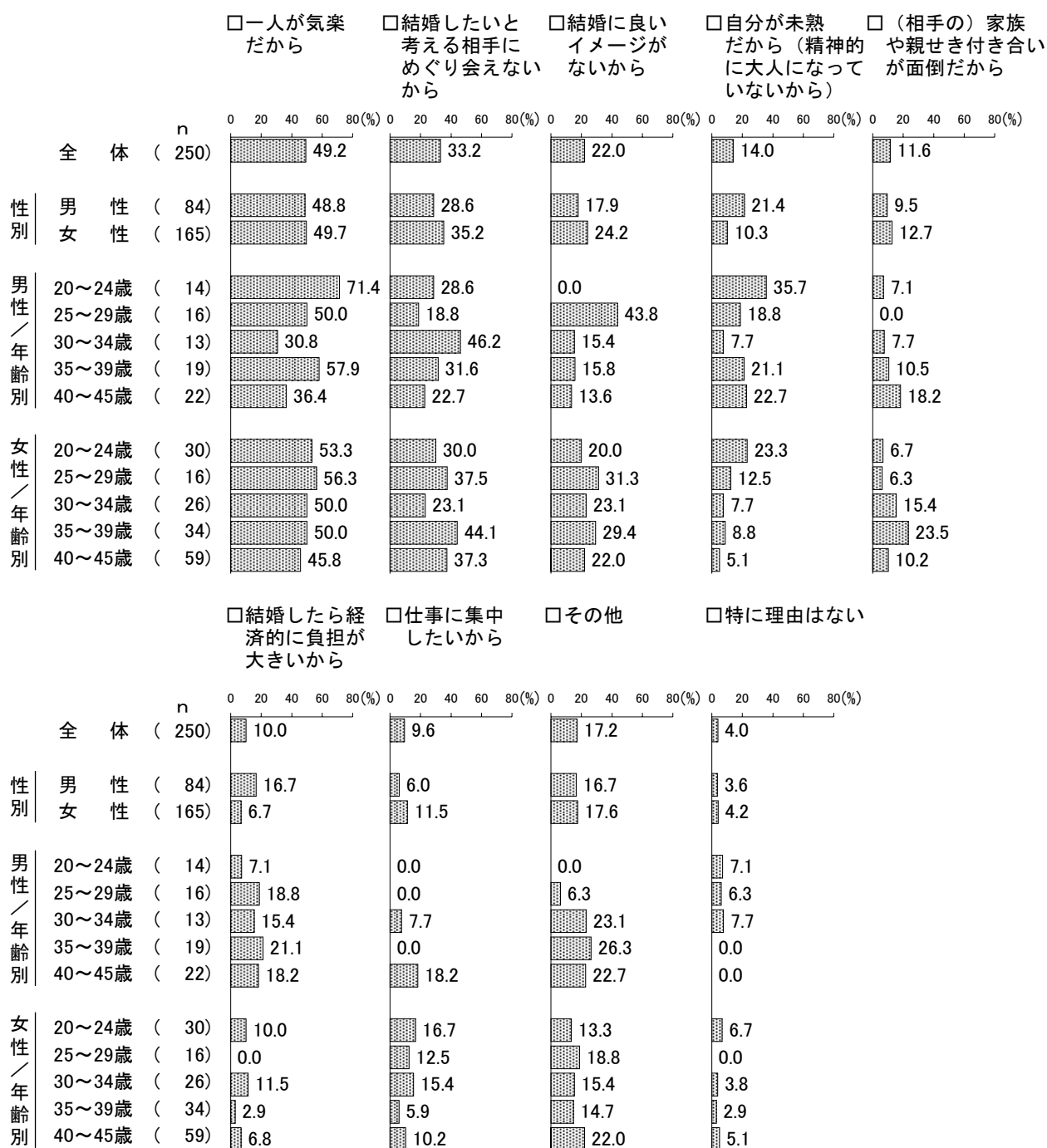
結婚についての考えで、「結婚してもしなくてもよい」「結婚はしたくない」と答えた方(250人)に、結婚しない理由を聞いたところ、「一人が気楽だから」(49.2%)が約5割で最も高く、次いで「結婚したいと考える相手にめぐり会えないから」(33.2%)、「結婚に良いイメージがないから」(22.0%)、「自分が未熟だから(精神的に大人になっていないから)」(14.0%)の順となっている。

(図1-22)

性別にみると、「自分が未熟だから（精神的に大人になっていないから）」は男性（21.4%）が女性（10.3%）より11.1ポイント高くなっている。一方、「結婚したいと考える相手にめぐり会えないから」は女性（35.2%）が男性（28.6%）より6.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「一人が気楽だから」は男性20～24歳（71.4%）で7割を超え高く、「結婚したいと考える相手にめぐり会えないから」は男性30～34歳（46.2%）と女性35～39歳（44.1%）で4割半ばと高くなっている。（図1-23）

図1-23 結婚しない理由（性・年齢別）

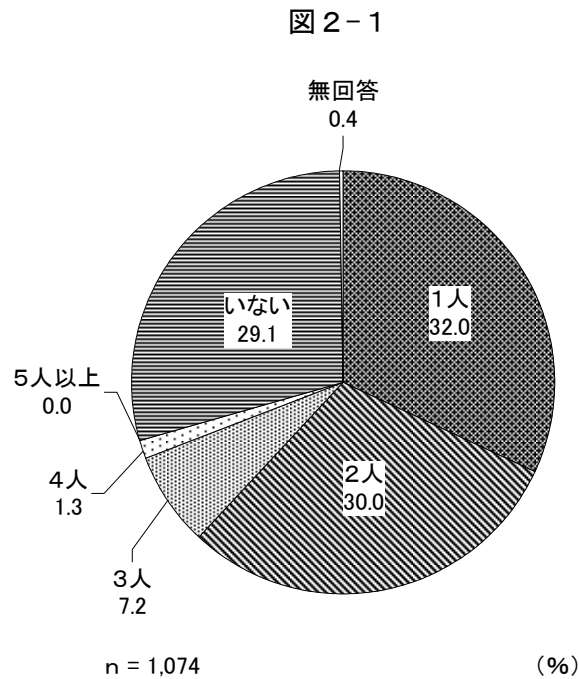


2. 子どもを持つことについて

(1) 「結婚している人」の子ども的人数

◇「1人」と「2人」がともに3割台、「いない」は約3割

問3 お子さんの人数は何人ですか。人数をお答えください。(○は1つ)

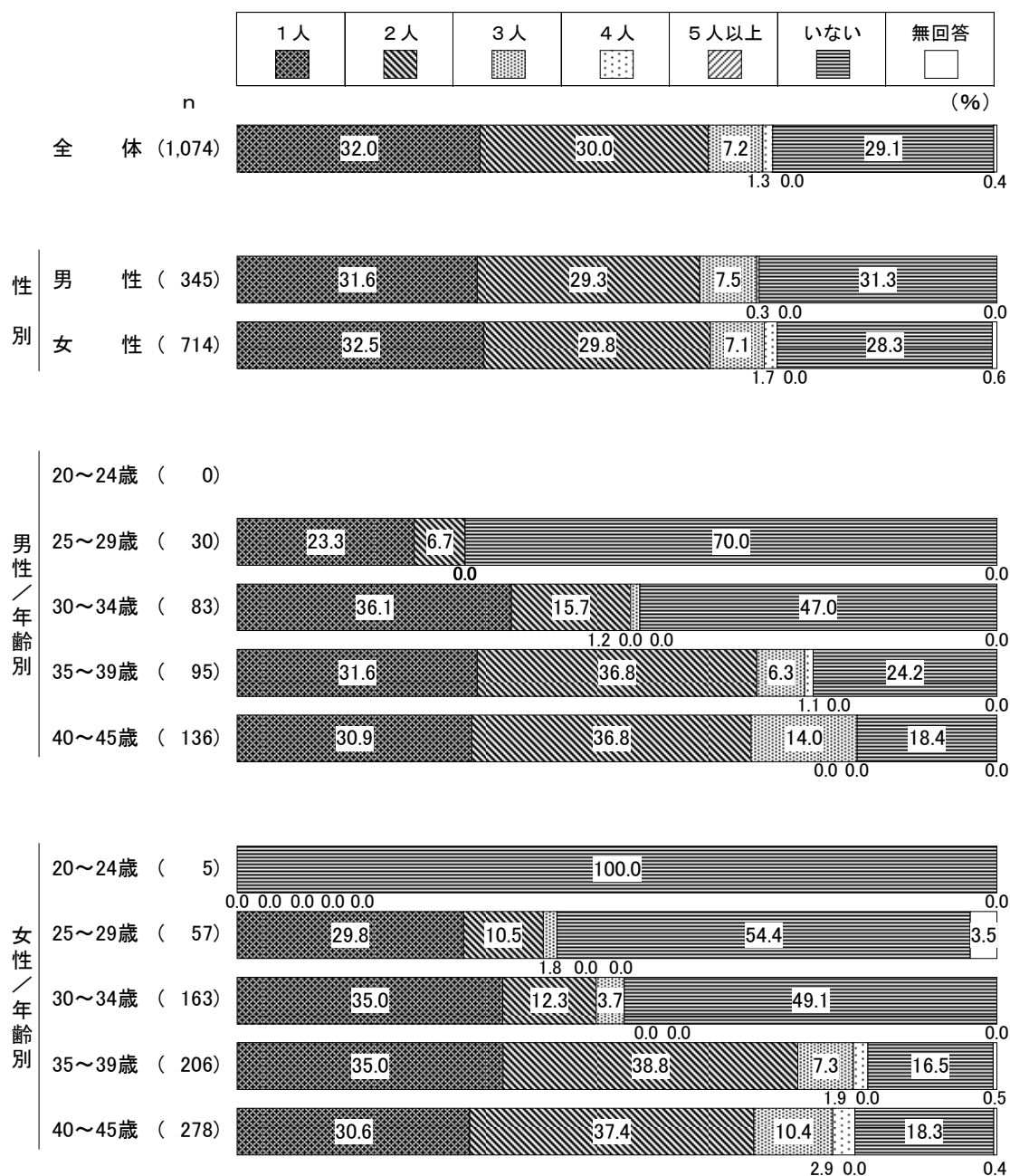


※「結婚している人」の子ども的人数は、婚姻状況（問1）で「結婚している」と答えた方（1,074人）をnとして集計した。

「結婚している人」（1,074人）の子ども的人数をみると、「1人」（32.0%）と「2人」（30.0%）がともに3割台、「3人」（7.2%）と「4人」（1.3%）はともにわずかとなっている。一方、「いない」（29.1%）は約3割となっている。（図2-1）

性別にみると、「いない」は男性（31.3%）が女性（28.3%）より3.0ポイント高くなっている。
 性・年齢別にみると、「いない」は男女ともに年齢が低くなるほど割合が高く、男性25～29歳（70.0%）で7割、女性20～24歳（100.0%）で全数となっている。（図2-2）

図2-2 「結婚している人」の子どもの人数（性・年齢別）



(1-1) 第一子を出産した年齢

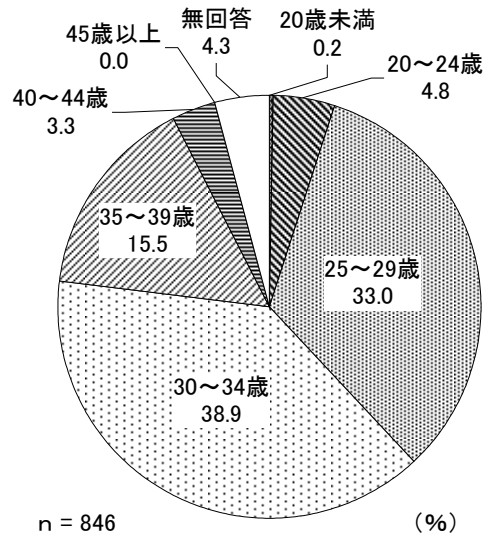
◇「30～34歳」が4割近く

(問3で、「1人」「2人」「3人」「4人」「5人以上」と答えた方に)

問3-1 第一子を出産した時のその子の母親の年齢をお答えください。

(回答欄に数字を記入)

図2-3

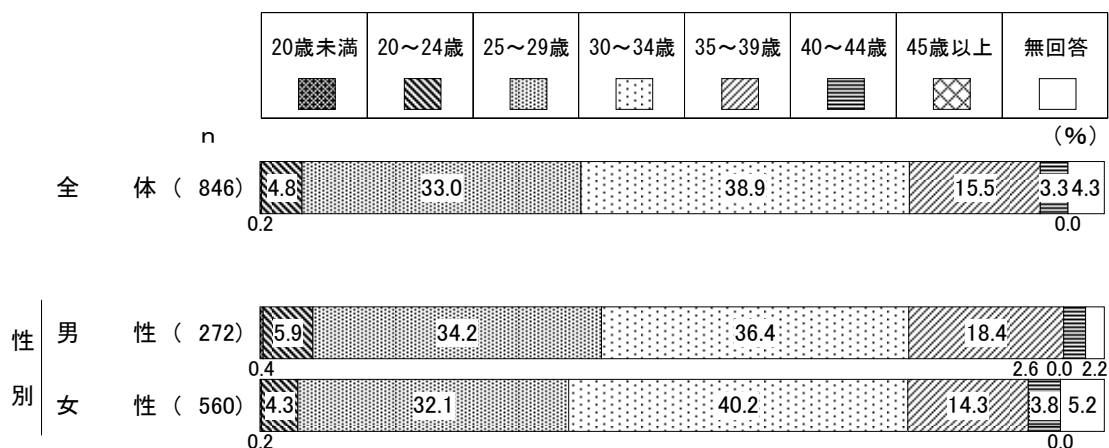


現在子どもがいる方(846人)に、第一子を出産した時のその子の母親の年齢を聞いたところ、「30～34歳」(38.9%)が4割近くで最も高く、次いで「25～29歳」(33.0%)、「35～39歳」(15.5%)、「20～24歳」(4.8%)の順となっている。(図2-3)

性別にみると、「35～39歳」は男性(18.4%)が女性(14.3%)より4.1ポイント高くなっている。一方、「30～34歳」は女性(40.2%)が男性(36.4%)より3.8ポイント高くなっている

(図2-4)

図2-4 第一子を出産した年齢(性別)

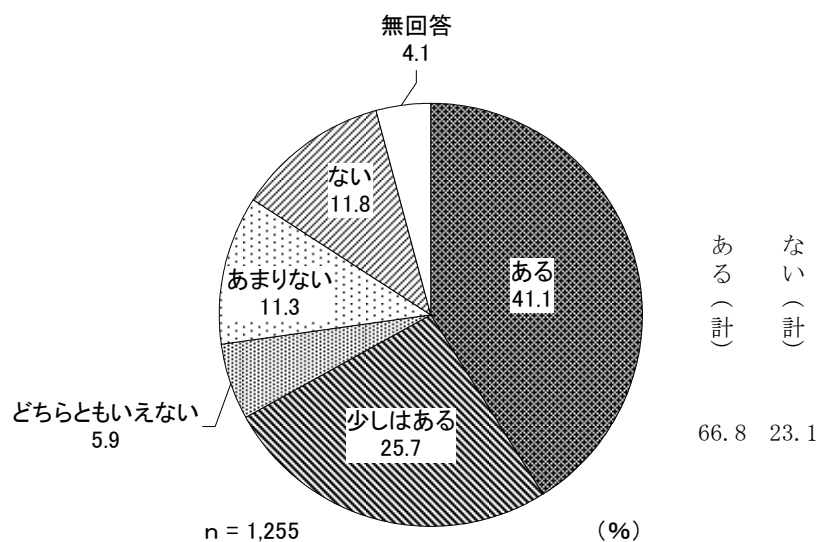


(2) 妊娠・出産・子育てについて具体的に考えたこと

◇「ある」と「少しはある」を合わせた『ある(計)』は7割近く

問4 妊娠・出産・子育てについて具体的に考えたことはありますか。(○は1つ)

図2-5



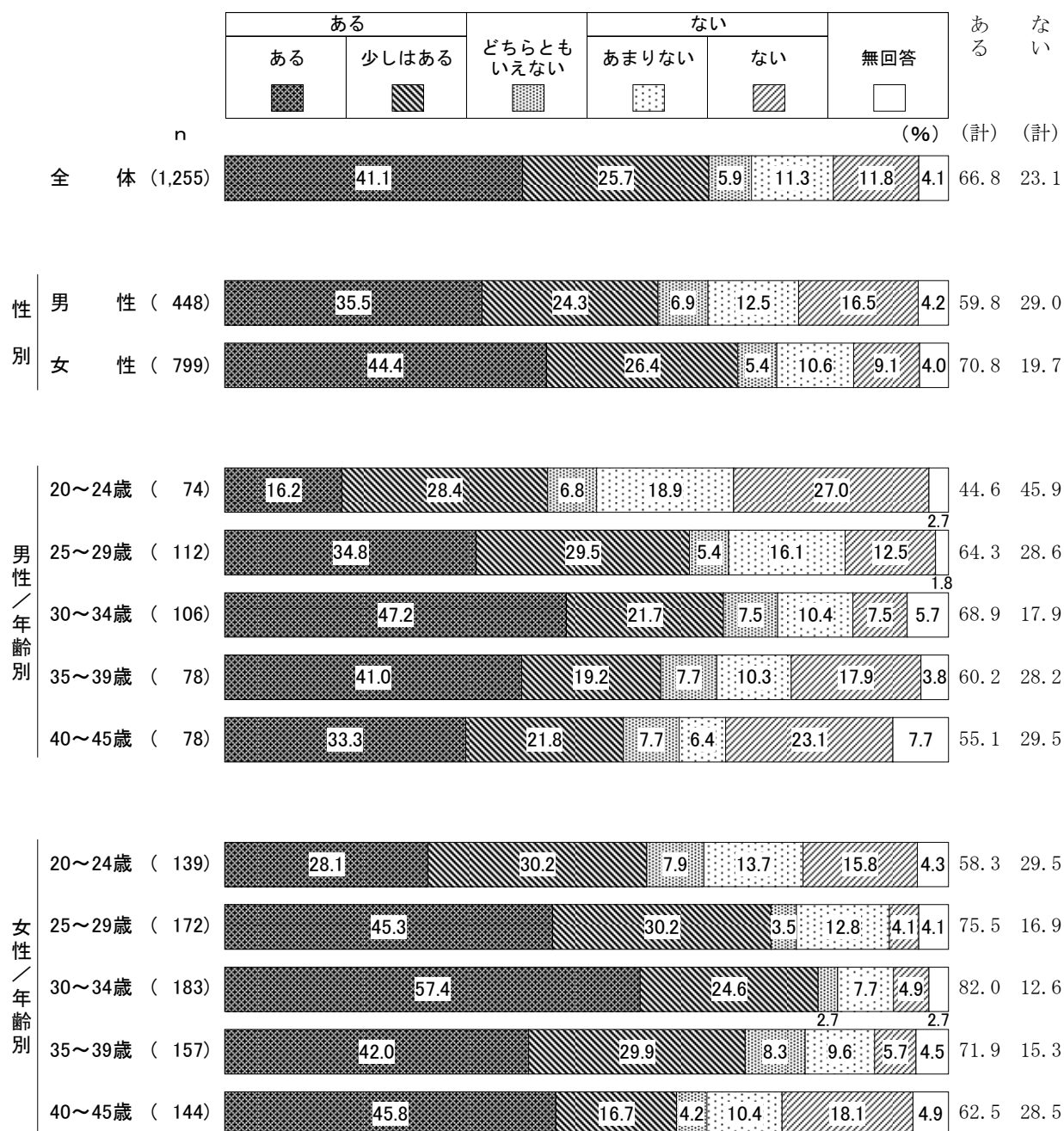
現在子どもがいない方及び子どもの人数の無回答者(1,255人)に、妊娠・出産・子育てについて具体的に考えたことはあるか聞いたところ、「ある」(41.1%)が4割を超え最も高く、これに「少しはある」(25.7%)を合わせた『ある(計)』(66.8%)は7割近くとなっている。一方、「あまりない」(11.3%)と「ない」(11.8%)を合わせた『ない(計)』(23.1%)は2割を超えている。

(図2-5)

性別にみると、『ある（計）』は女性（70.8%）が男性（59.8%）より 11.0 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『ある（計）』は女性 30～34 歳（82.0%）で 8 割を超え高くなっている。一方、『ない（計）』は男性 20～24 歳（45.9%）で 4 割半ばと高くなっている。（図 2-6）

図 2-6 妊娠・出産・子育てについて具体的に考えたこと（性・年齢別）

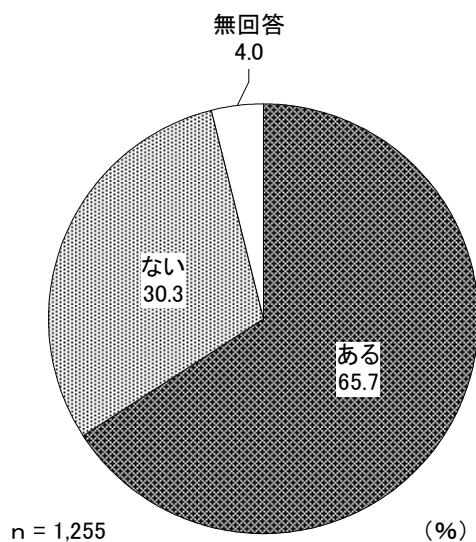


(3) 妊娠・出産に関する情報の取得

◇得たことが「ある」は6割半ば

問5 これまでに妊娠・出産に関する情報を得たことがありますか。(○は1つ)

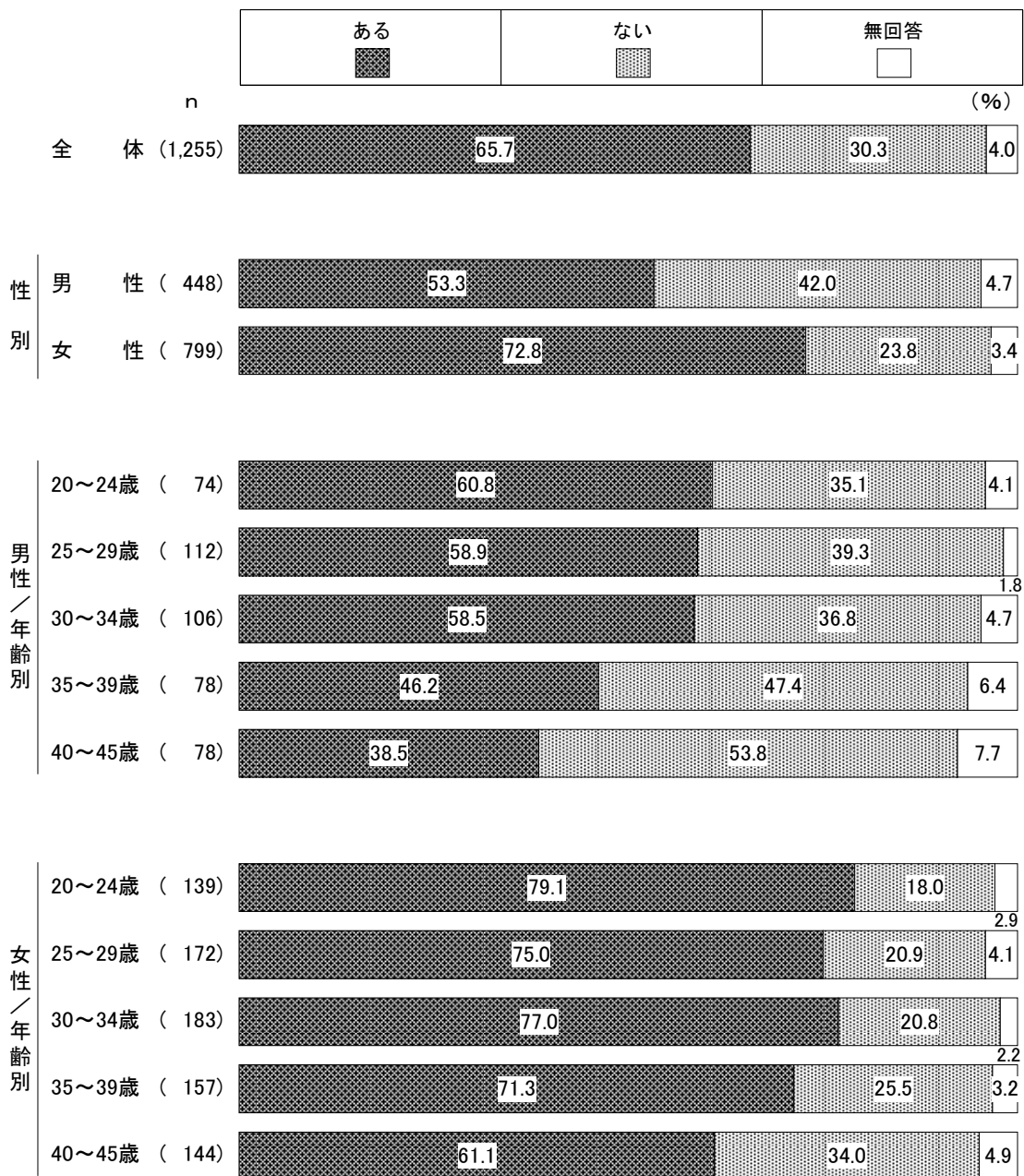
図2-7



現在子どもがいない方及び子どもの人数の無回答者（1,255人）に、妊娠・出産に関する情報を得たことがあるか聞いたところ、「ある」（65.7%）が6割半ば、「ない」（30.3%）は3割となっている。（図2-7）

性別にみると、「ある」は女性（72.8%）が男性（53.3%）より19.5ポイント高くなっている。
 性・年齢別にみると、「ある」は男女ともにおおむね年齢が低くなるほど割合が高く、女性20～24歳（79.1%）で約8割となっている。（図2-8）

図2-8 妊娠・出産に関する情報の取得（性・年齢別）



(3-1) 妊娠・出産についての情報を得た場所・機会

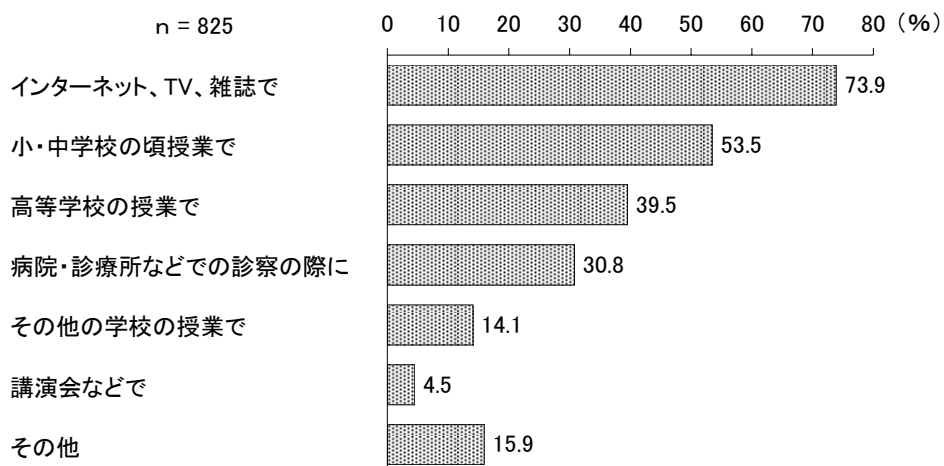
◇「インターネット、TV、雑誌で」が7割を超える

(問5で、「ある」とお答えの方に)

問5-1 妊娠・出産に関する情報を得たのはどのような場所、機会でしたか。

(〇はいくつでも)

図2-9

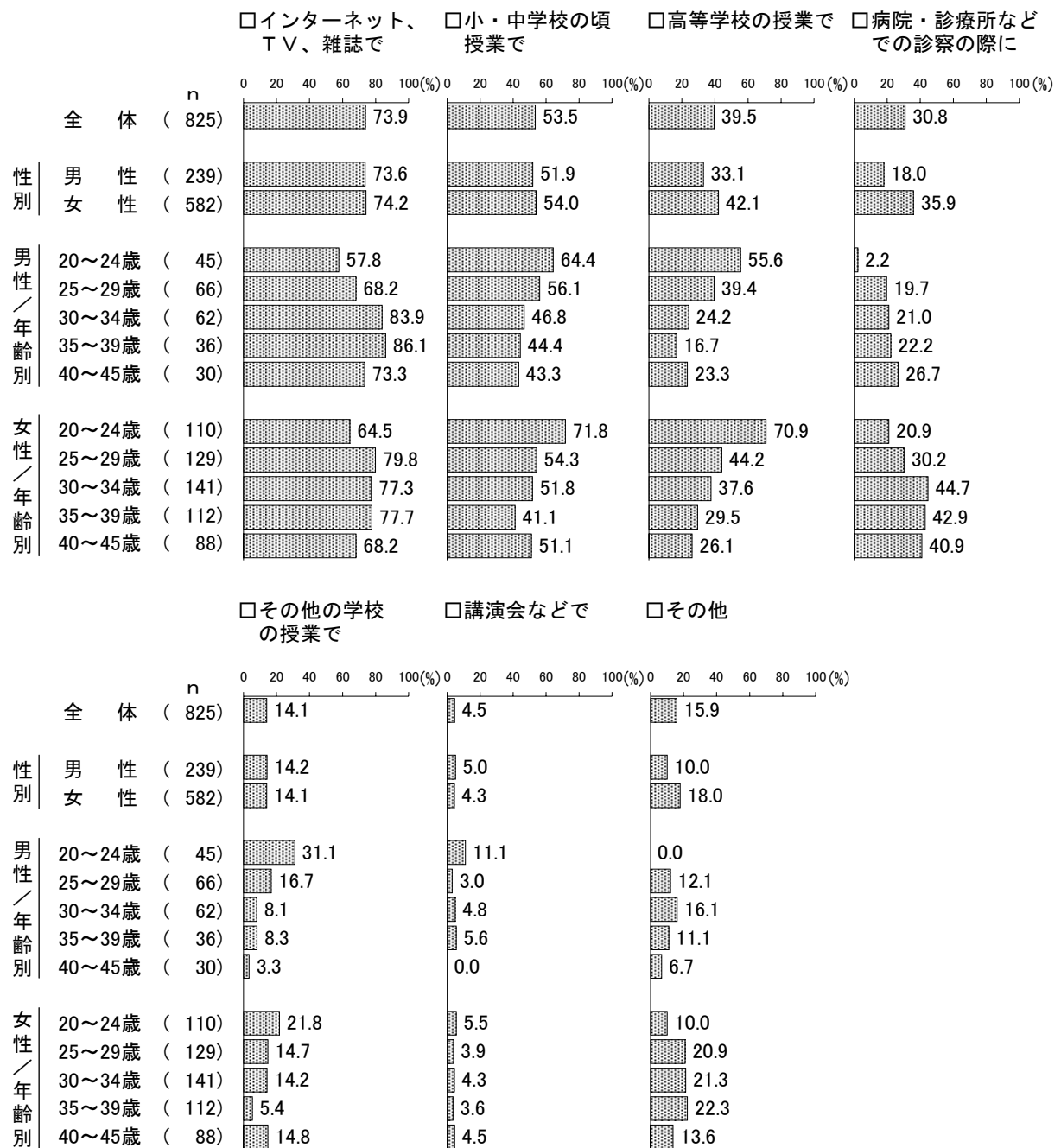


妊娠・出産に関する情報を取得したことが「ある」と答えた方(825人)に、情報を得た場所、機会を聞いたところ、「インターネット、TV、雑誌で」(73.9%)が7割を超え最も高く、次いで「小・中学校の頃授業で」(53.5%)、「高等学校の授業で」(39.5%)、「病院・診療所などでの診察の際に」(30.8%)の順となっている。(図2-9)

性別にみると、「病院・診療所などでの診察の際に」は女性（35.9%）が男性（18.0%）より17.9ポイント、「高等学校の授業で」は女性（42.1%）が男性（33.1%）より9.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「インターネット、TV、雑誌で」は男性の30～34歳（83.9%）と35～39歳（86.1%）で8割台と高く、「小・中学校の頃授業で」と「高等学校の授業で」は男女ともにおおむね年齢が低くなるほど割合が高くなっている。（図2-10）

図2-10 妊娠・出産についての情報を得た場所・機会（性・年齢別）

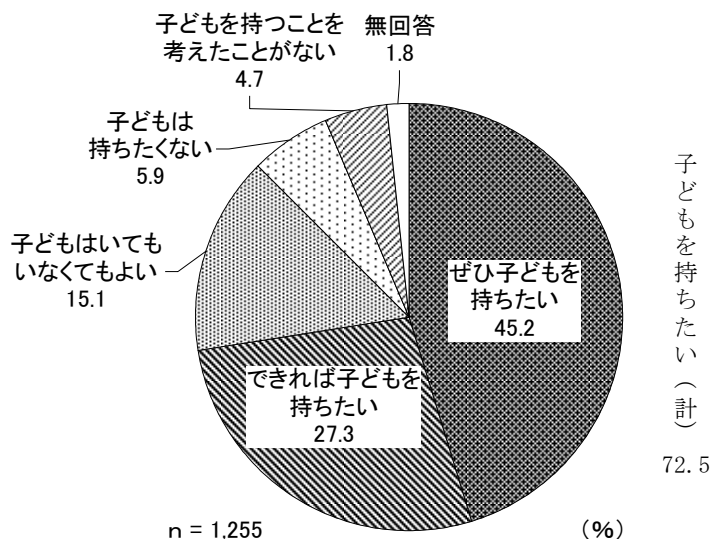


(4) 子どもを持つこと

◇「ぜひ子どもを持ちたい」と「できれば子どもを持ちたい」を合わせた『子どもを持ちたい(計)』は7割を超える

問6 あなたは、子どもを持ちたいと思いますか。(○は1つ)

図2-11

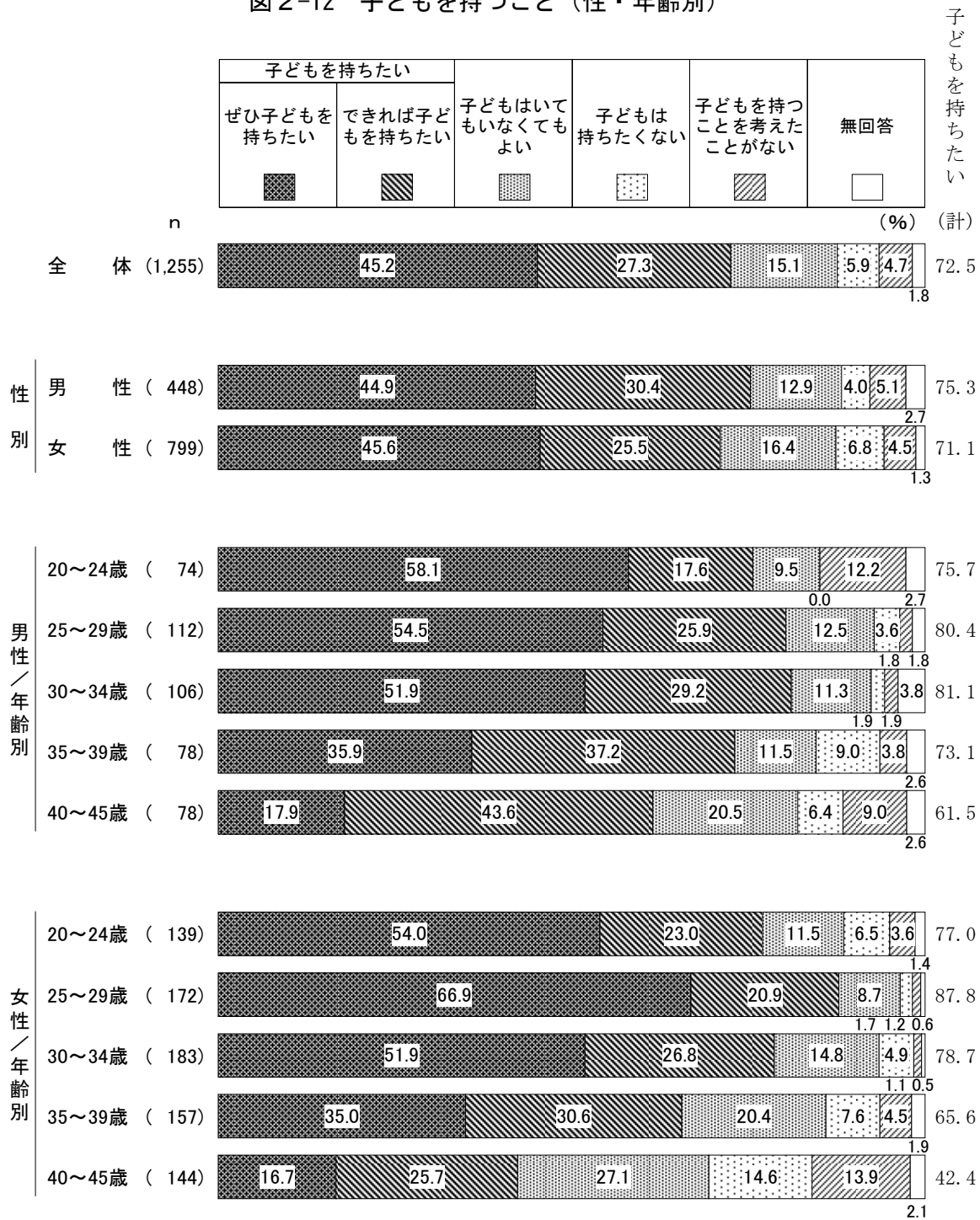


現在子どもがいない方及び子どもの人数の無回答者(1,255人)に、子どもを持ちたいと思うか聞いたところ、「ぜひ子どもを持ちたい」(45.2%)が4割半ばで最も高く、これに「できれば子どもを持ちたい」(27.3%)を合わせた『子どもを持ちたい(計)』(72.5%)は7割を超えている。一方、「子どもはいてもいなくてもよい」(15.1%)は1割半ば、「子どもは持ちたくない」(5.9%)と「子どもを持つことを考えたことがない」(4.7%)はともに1割未満となっている。(図2-11)

性別にみると、『子どもを持ちたい（計）』は男性（75.3%）が女性（71.1%）より4.2ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『子どもを持ちたい（計）』は女性25～29歳（87.8%）と男性の25～29歳（80.4%）、30～34歳（81.1%）で8割台と高くなっている。（図2-12）

図2-12 子どもを持つこと（性・年齢別）



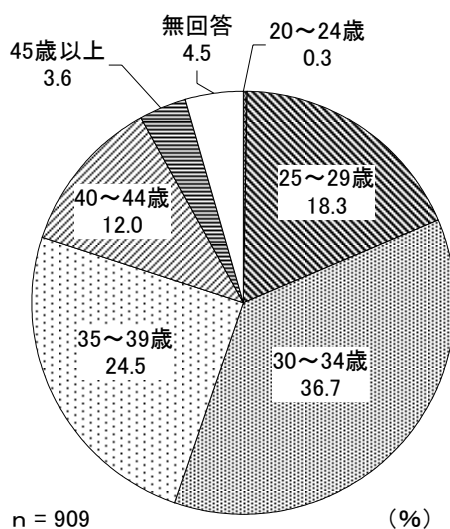
(4-1) 子どもを持ちたい年齢

◇「30～34歳」が4割近く

(問6で、「ぜひ子どもを持ちたい」「できれば子どもを持ちたい」とお答えの方に)

問6-1 何歳で子どもを持ちたいですか。(回答欄に数字を記入)

図2-13

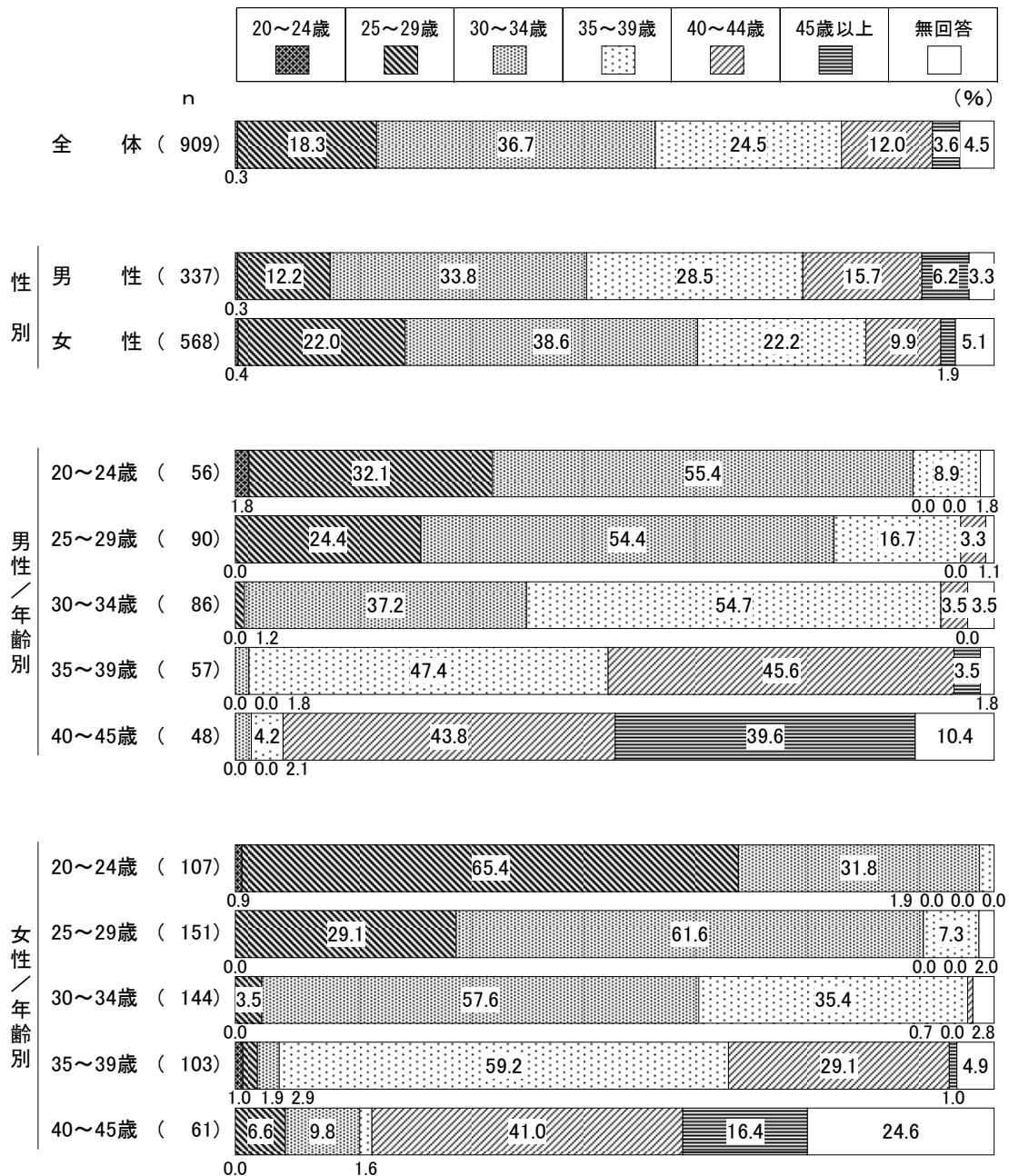


子どもを持つことについての考えで、「ぜひ子どもを持ちたい」「できれば子どもを持ちたい」と答えた方(909人)に、何歳で子どもを持ちたいか聞いたところ、「30～34歳」(36.7%)が4割近くで最も高く、次いで「35～39歳」(24.5%)、「25～29歳」(18.3%)、「40～44歳」(12.0%)の順となっている。(図2-13)

性別にみると、「25～29歳」は女性（22.0%）が男性（12.2%）より9.8ポイント高くなっている。一方、「35～39歳」は男性（28.5%）が女性（22.2%）より6.3ポイント高くなっている。

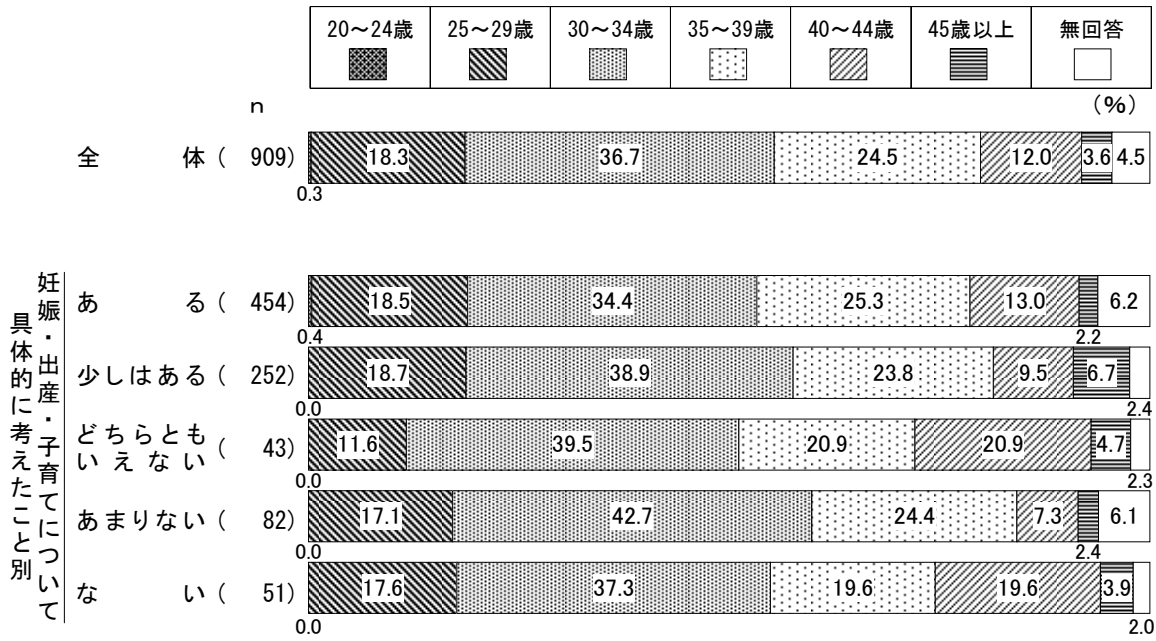
性・年齢別にみると、女性20～24歳の子どもを持ちたい年齢は「25～29歳」（65.4%）が6割半ばと高くなっている。また、女性25～29歳の子どもを持ちたい年齢は「30～34歳」（61.6%）が6割を超え高くなっている。（図2-14）

図2-14 子どもを持ちたい年齢（性・年齢別）



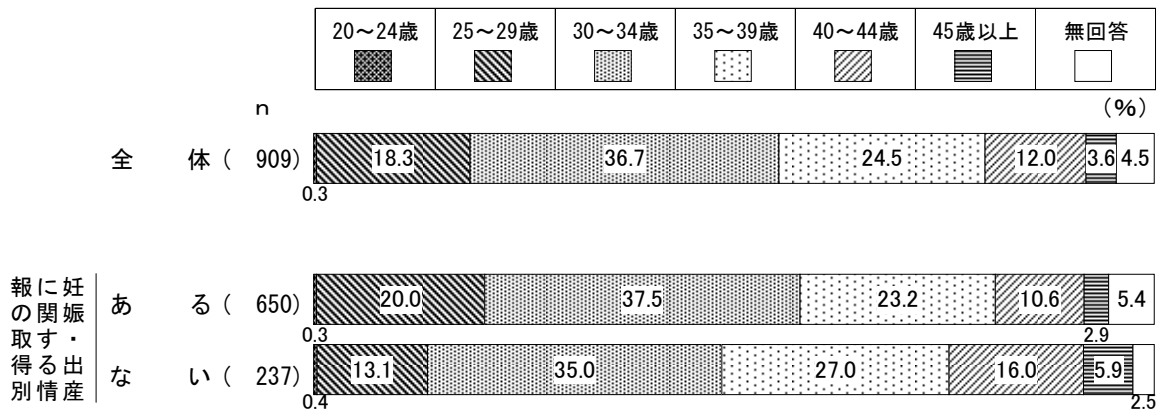
妊娠・出産・子育てについて具体的に考えたこと別にみると、子どもを持ちたい年齢が「30～34歳」の人は、妊娠・出産・子育てについて具体的に考えたことが“あまりない”（42.7%）で4割を超え高くなっている。（図2-15）

図2-15 子どもを持ちたい年齢（妊娠・出産・子育てについて具体的に考えたこと別）



妊娠・出産に関する情報の取得別にみると、子どもを持ちたい年齢が「25～29歳」の人は、妊娠・出産に関する情報を取得したことが“ある”（20.0%）が“ない”（13.1%）より6.9ポイント高くなっている。一方、子どもを持ちたい年齢が「40～44歳」の人は、妊娠・出産に関する情報を取得したことが“ない”（16.0%）が“ある”（10.6%）より5.4ポイント高くなっている。（図2-16）

図2-16 子どもを持ちたい年齢（妊娠・出産に関する情報の取得別）

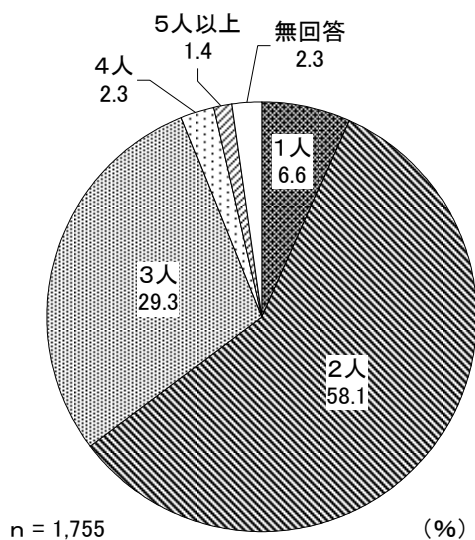


(4-2) 理想とする子どもの人数

◇「2人」が6割近く

(お子さんがいらっしゃる方)、または
(問6で、「ぜひ子どもを持ちたい」「できれば子どもを持ちたい」とお答えの方に)
問6-2 理想としては何人子どもが欲しいですか。(〇は1つ)

図2-17



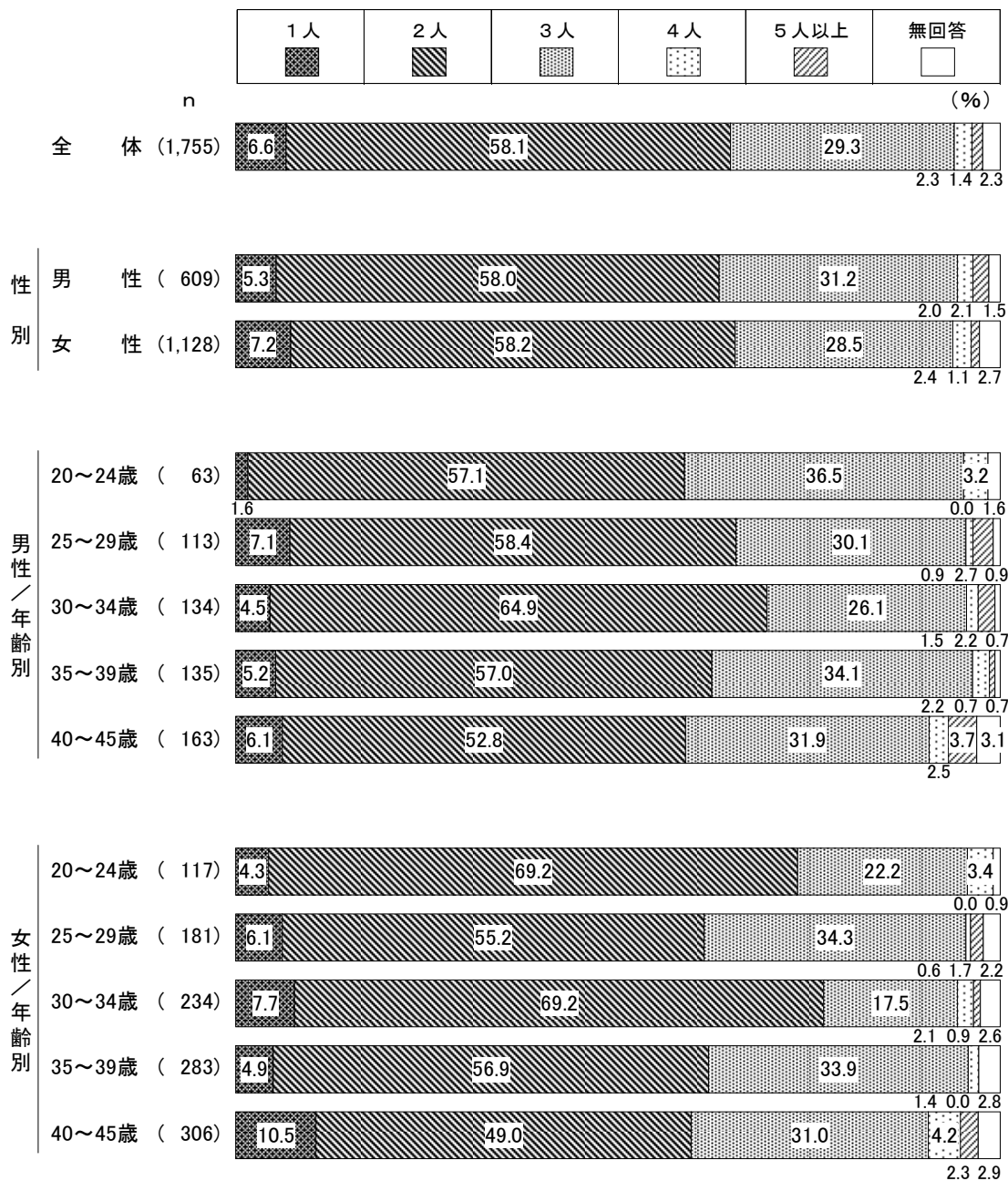
※現在子どもがいる方には、現在いる子どもを含めた人数を聞いた。

現在子どもがいる方と、子どもについて「ぜひ子どもを持ちたい」「できれば子どもを持ちたい」と答えた方(1,755人)に、理想として何人子どもが欲しいか聞いたところ、「2人」(58.1%)が6割近くで最も高く、次いで「3人」(29.3%)、「1人」(6.6%)の順となっている。(図2-17)

性別にみると、大きな違いはみられない。

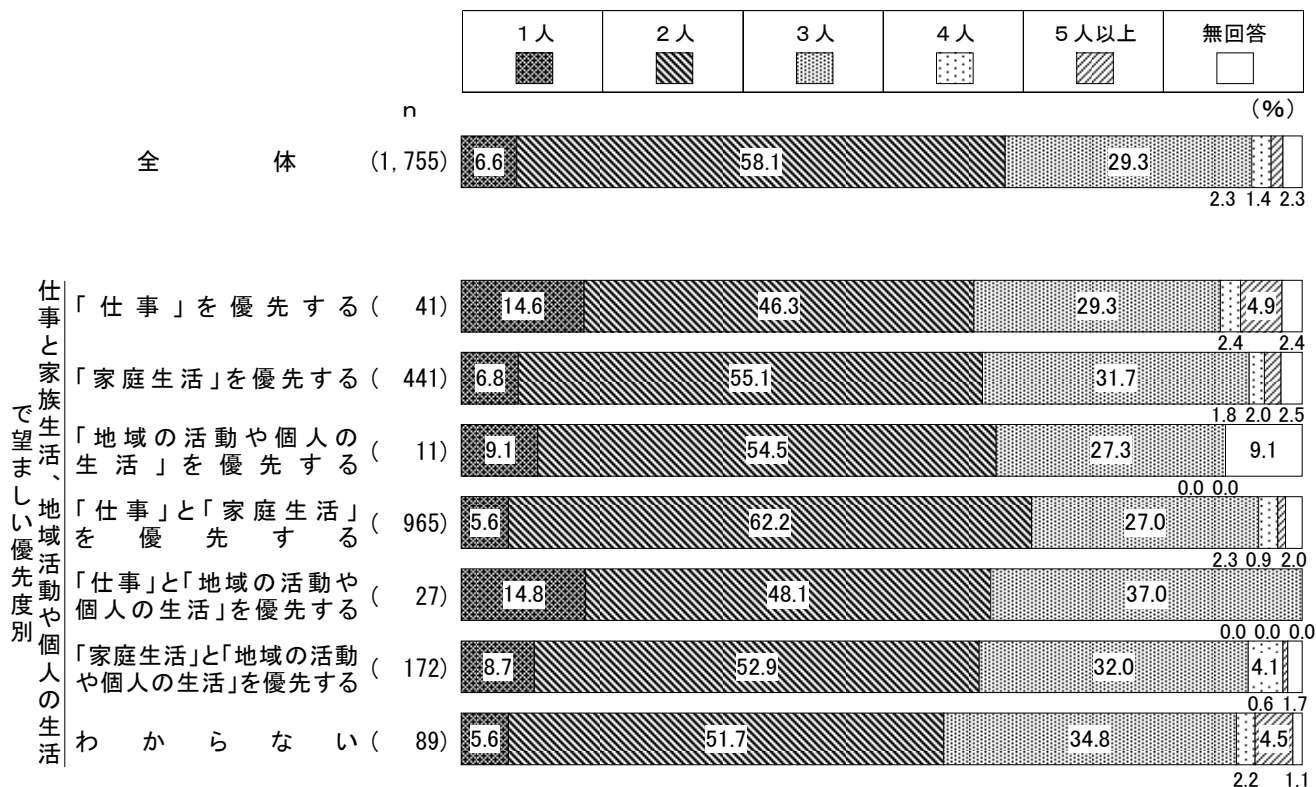
性・年齢別にみると、「2人」は女性の20～24歳と30～34歳（ともに69.2%）、男性30～34歳（64.9%）で6割台と高くなっている。（図2-18）

図2-18 理想とする子どもの人数（性・年齢別）



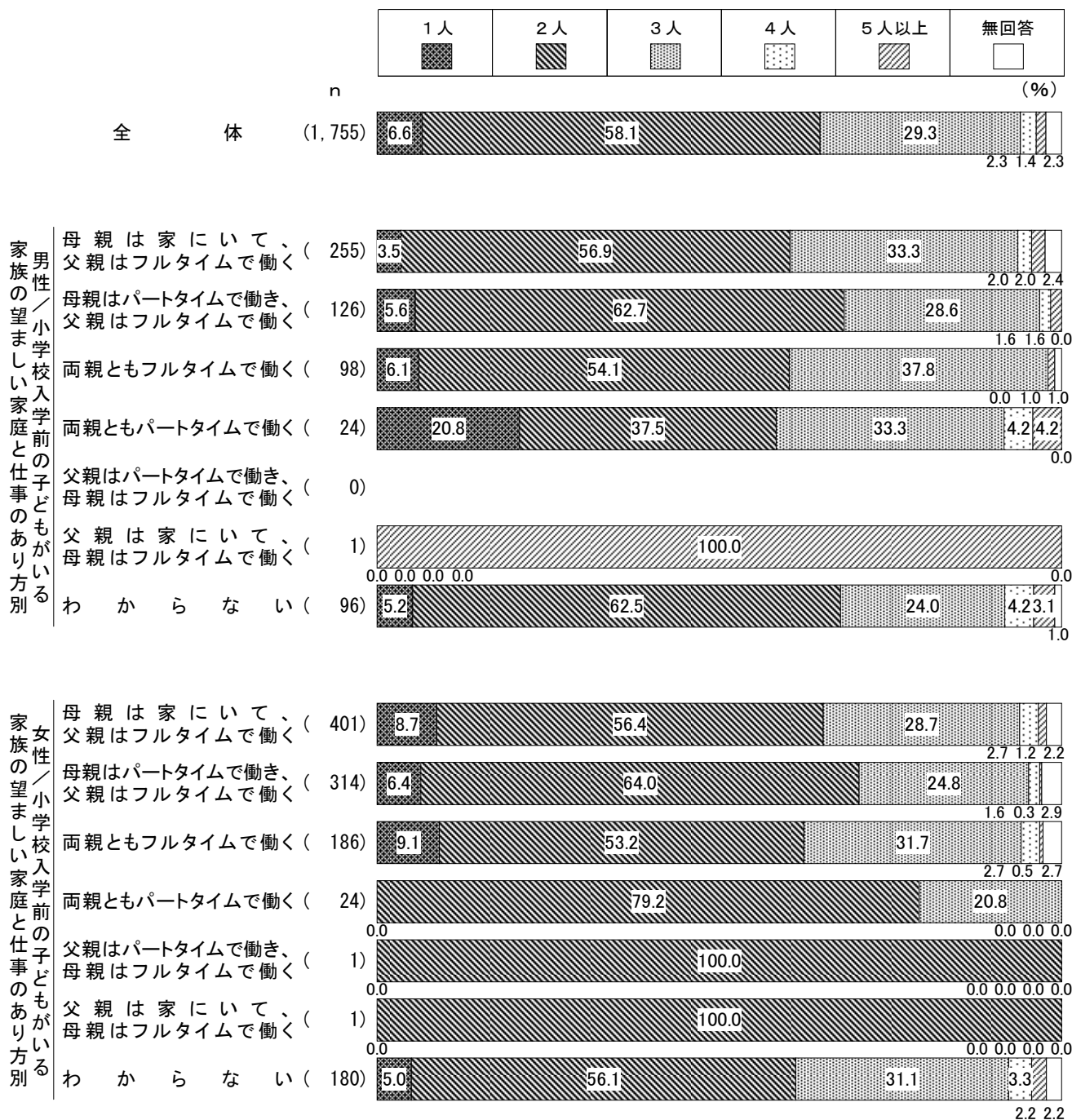
仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度別にみると、「2人」は“「仕事」と「家庭生活」を優先する”（62.2%）で6割を超え高く、「3人」は“「仕事」と「地域の活動や個人の生活」を優先する”（37.0%）で4割近くと高くなっている。（図2-19）

図2-19 理想とする子どもの人数（仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度別）



性・小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方別にみると、「2人」は女性の「両親ともパートタイムで働く」（79.2%）で約8割と高く、「3人」は男性の「両親ともフルタイムで働く」（37.8%）で4割近くと高くなっている。（図2-20）

図2-20 理想とする子どもの人数
 （性・小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方別）



(4-3) 実際に持つと思う子どもの人数

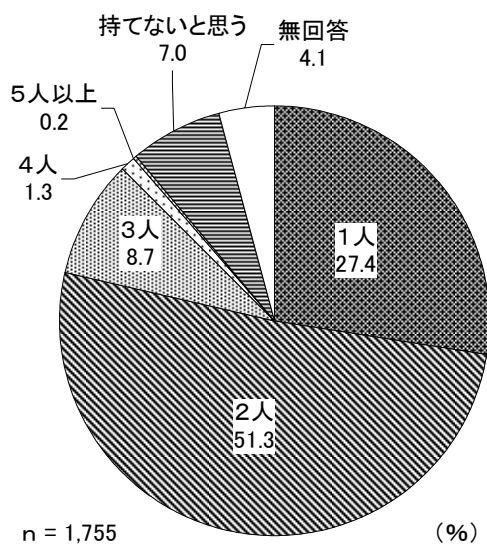
◇「2人」が5割を超える

(お子さんがいらっしゃる方)、または

(問6で、「ぜひ子どもを持ちたい」「できれば子どもを持ちたい」とお答えの方に)

問6-3 実際には何人の子どもを持つと思いますか。(○は1つ)

図2-21



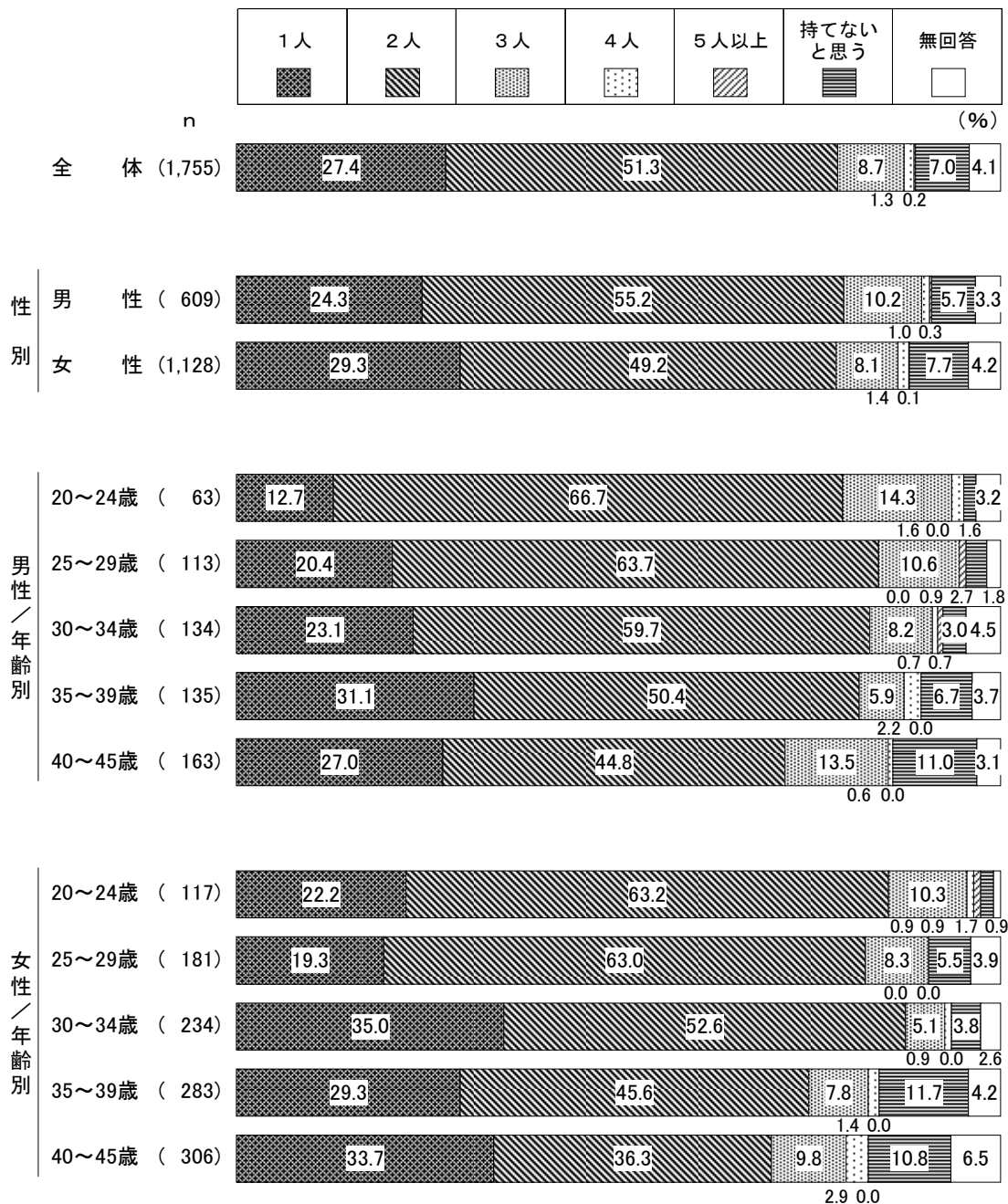
※現在子どもがいる方には、現在いる子どもを含めた人数を聞いた。

現在子どもがいる方と、子どもについて「ぜひ子どもを持ちたい」「できれば子どもを持ちたい」と答えた方(1,755人)に、実際には何人の子どもを持つと思うか聞いたところ、「2人」(51.3%)が5割を超え最も高く、次いで「1人」(27.4%)、「3人」(8.7%)の順となっている。(図2-21)

性別にみると、「2人」は男性（55.2%）が女性（49.2%）より 6.0 ポイント高くなっている。一方、「1人」は女性（29.3%）が男性（24.3%）より 5.0 ポイント高くなっている。

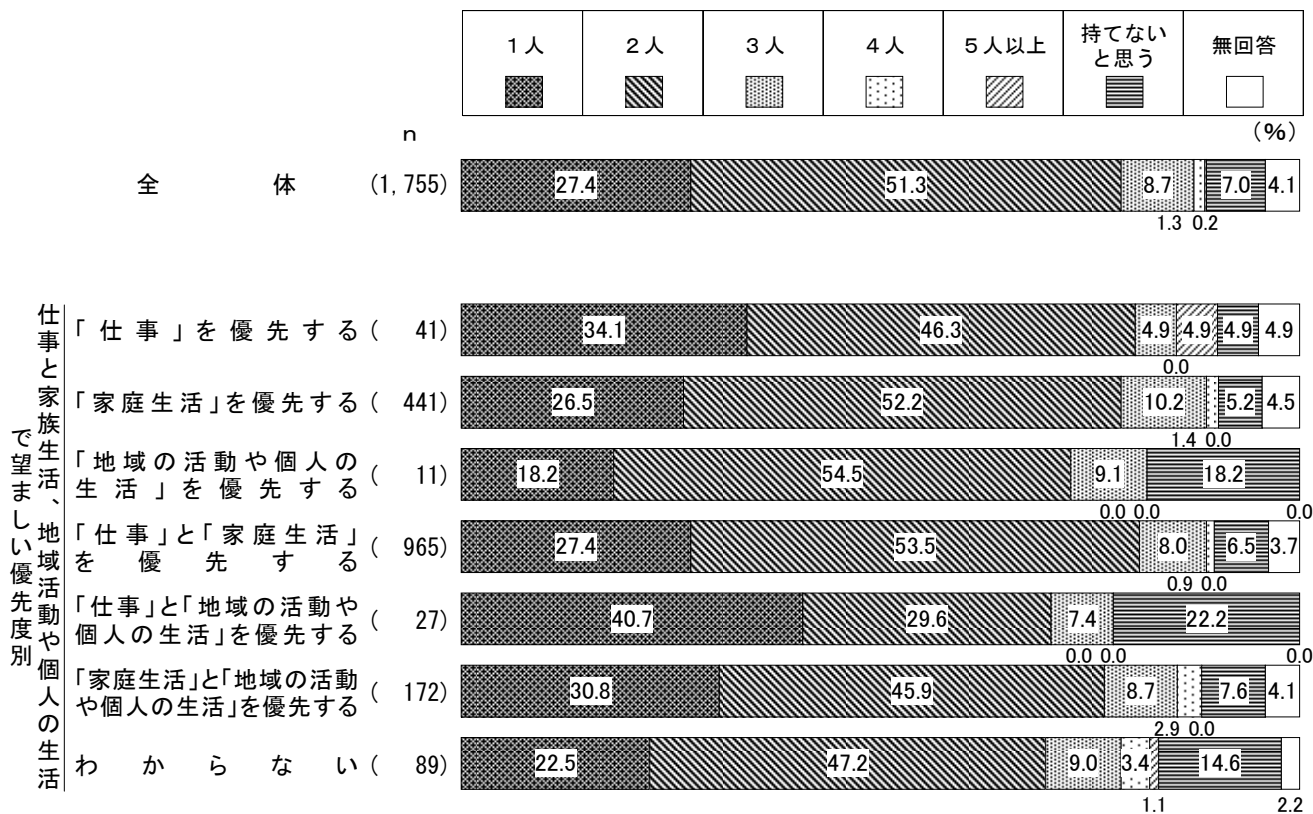
性・年齢別にみると、「2人」は男女ともに年齢が低くなるほど割合が高く、男女ともに 29 歳以下の年代で 6 割台となっている。（図 2-22）

図 2-22 実際に持つと思う子どもの人数（性・年齢別）



仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度別にみると、「1人」は“「仕事」と「地域の活動や個人の生活」を優先する”（40.7%）で約4割と高くなっている。（図2-23）

図2-23 実際に持つと思う子どもの人数
（仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度別）

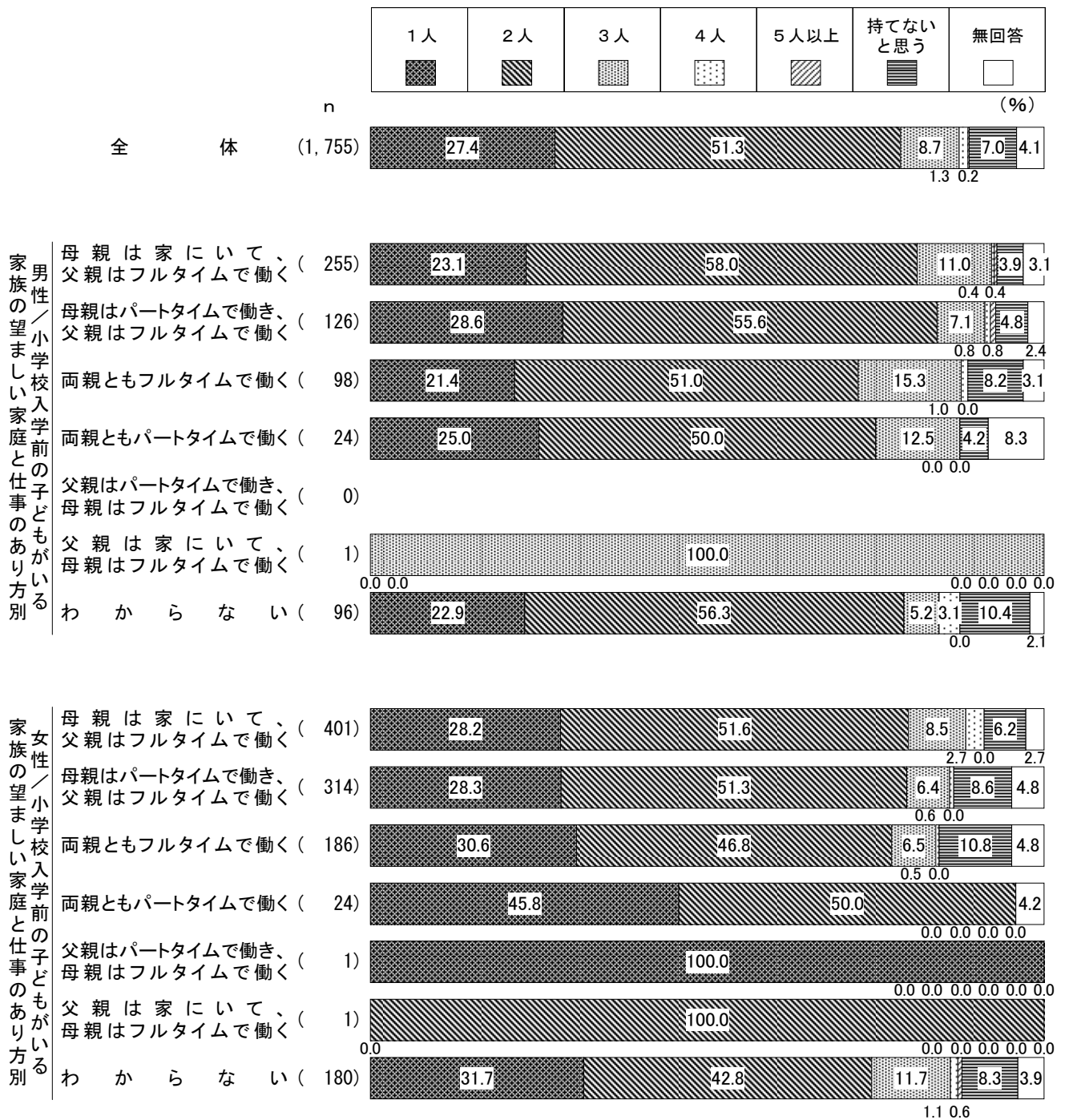


性・小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方別にみると、「2人」は男性の“母親は家にいて、父親はフルタイムで働く”（58.0%）で6割近くと高くなっている。

(図2-24)

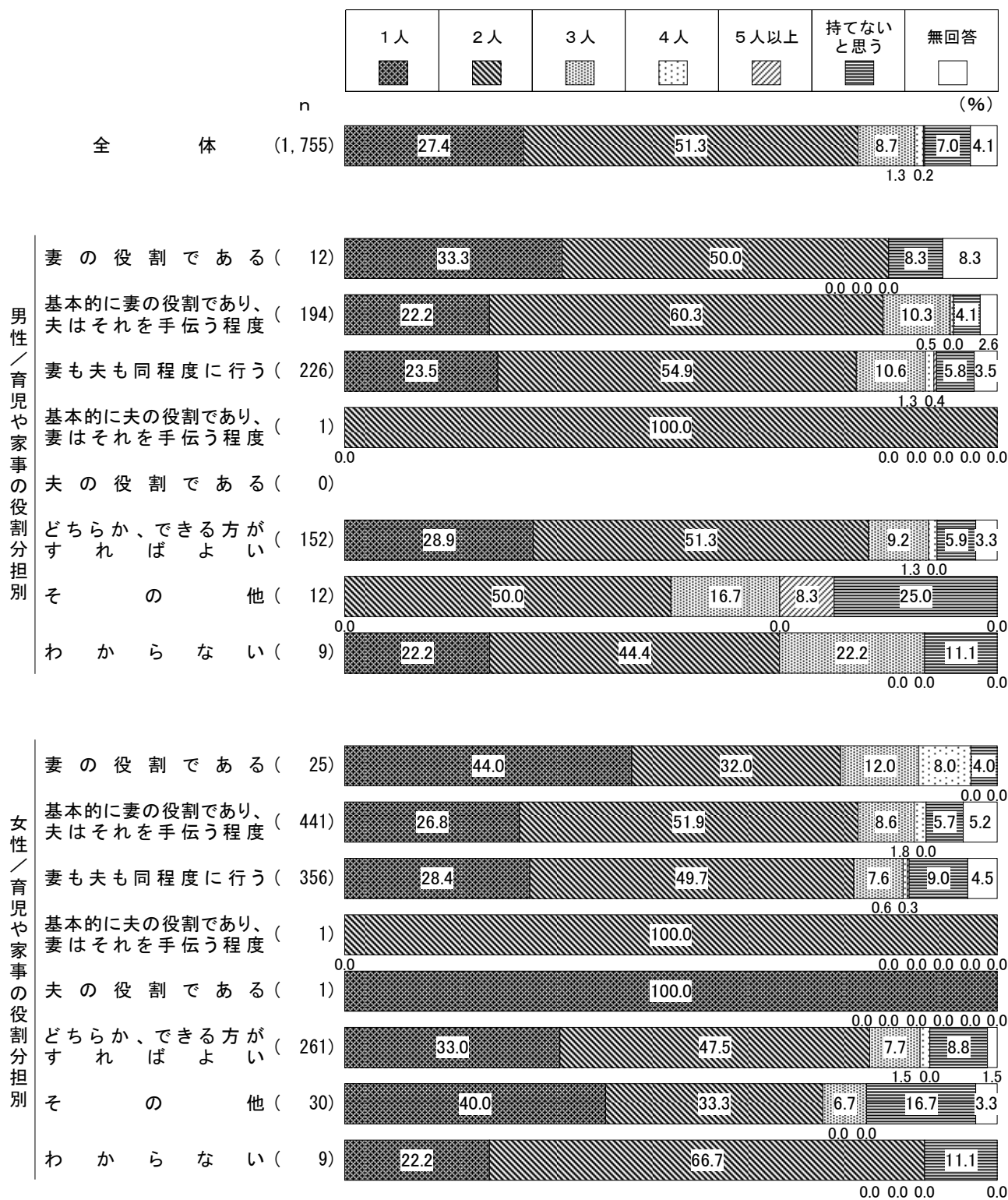
図2-24 実際に持つと思う子どもの人数

(性・小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方別)



性・育児や家事の役割分担別にみると、「2人」は男性の“基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度”（60.3%）で6割と高くなっている。（図2-25）

図2-25 実際に持つと思う子どもの人数（性・育児や家事の役割分担別）

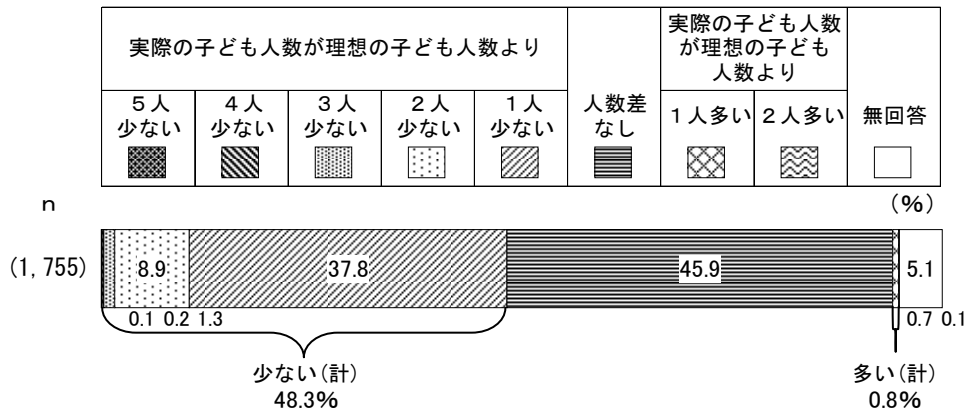


(4-4) 実際に持つと思う子どもの人数と理想とする子どもの人数の差

◇実際に持つと思う子どもの人数が理想とする子どもの人数より「1人少ない」「2人少ない」「3人少ない」「4人少ない」「5人少ない」を合わせた『少ない(計)』は5割近く

理想とする子どもの人数(問6-2)と実際に持つと思う子どもの人数(問6-3)の差を求めた。

図2-26

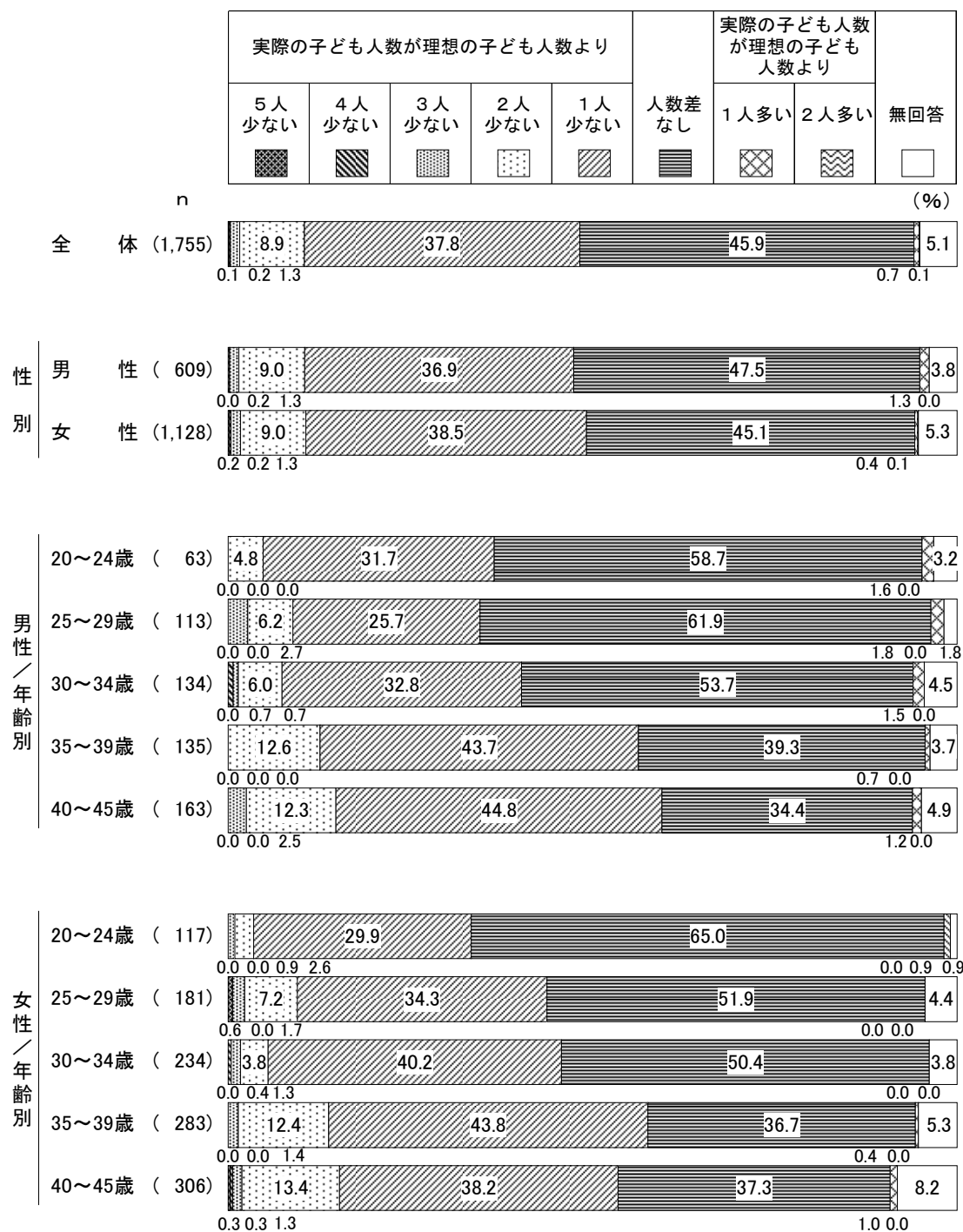


実際に持つと思う子どもの人数と理想とする子どもの人数の差を求めたところ、実際に持つと思う子どもの人数が理想とする子どもの人数より「1人少ない」(37.8%)が4割近くで高く、これに「2人少ない」(8.9%)、「3人少ない」(1.3%)、「4人少ない」(0.2%)、「5人少ない」(0.1%)を合わせた『少ない(計)』(48.3%)は5割近くとなっている。一方、実際に持つと思う子どもの人数が理想とする子どもの人数より「1人多い」(0.7%)と「2人多い」(0.1%)を合わせた『多い(計)』(0.8%)はわずかとなっている。また、「人数差なし」(45.9%)は4割半ばとなっている。(図2-26)

性別にみると、大きな違いはみられない。

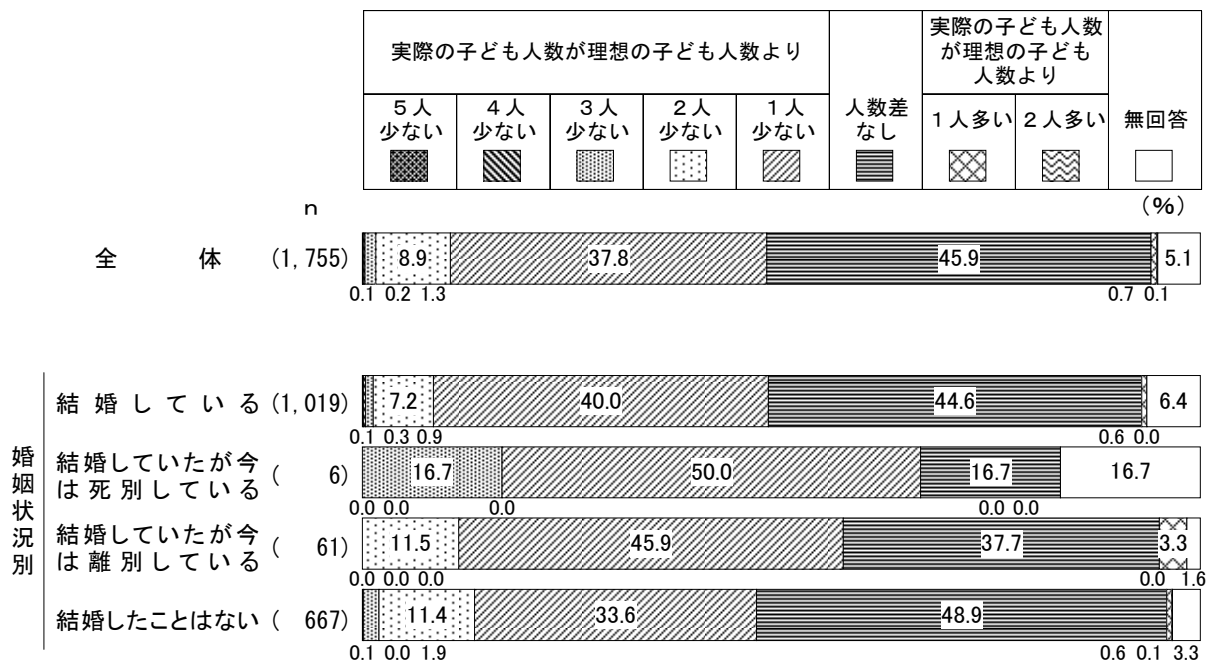
性・年齢別にみると、実際に持つと思う子どもの人数が理想とする子どもの人数より「1人少ない」は男女ともにおおむね年齢が高くなるほど割合が高くなっている。一方、「人数差なし」は男女ともにおおむね年齢が低くなるほど割合が高く、女性 20～24 歳（65.0%）と男性 25～29 歳（61.9%）で6割台となっている。（図2-27）

図2-27 実際に持つと思う子どもの人数と理想とする子どもの人数の差（性・年齢別）



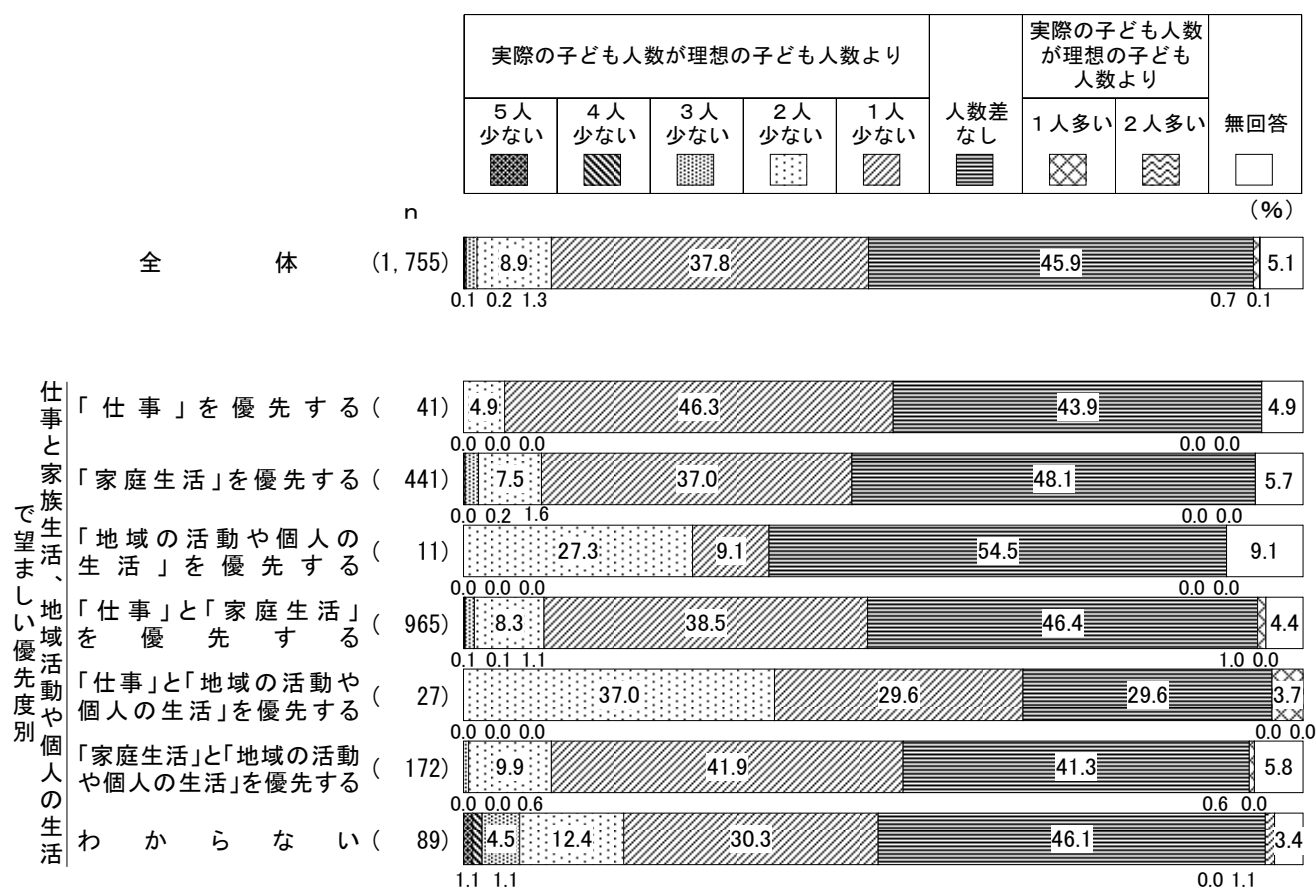
婚姻状況別にみると、「人数差なし」は“結婚したことはない”（48.9%）で5割近くと高く、実際に持つと思う子どもの人数が理想とする子どもの人数より「1人少ない」は“結婚していたが今は離別している”（45.9%）で4割半ばと高くなっている。（図2-28）

図2-28 実際に持つと思う子どもの人数と理想とする子どもの人数の差（婚姻状況別）



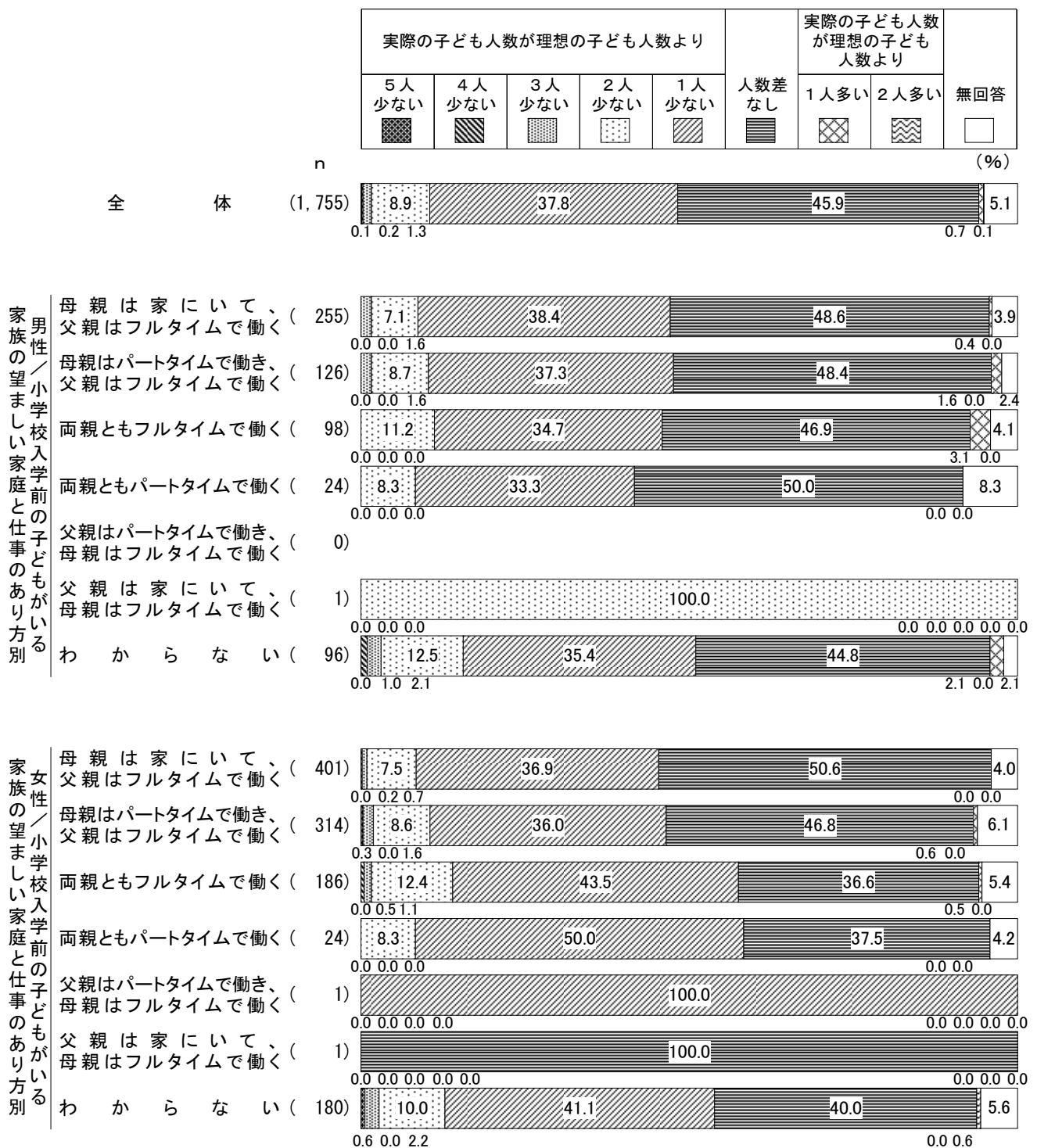
仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度別にみると、実際に持つと思う子どもの人数が理想とする子どもの人数より「1人少ない」は“「仕事」を優先する”（46.3%）で4割半ばと高くなっている。（図2-29）

図2-29 実際に持つと思う子どもの人数と理想とする子どもの人数の差
（仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度別）



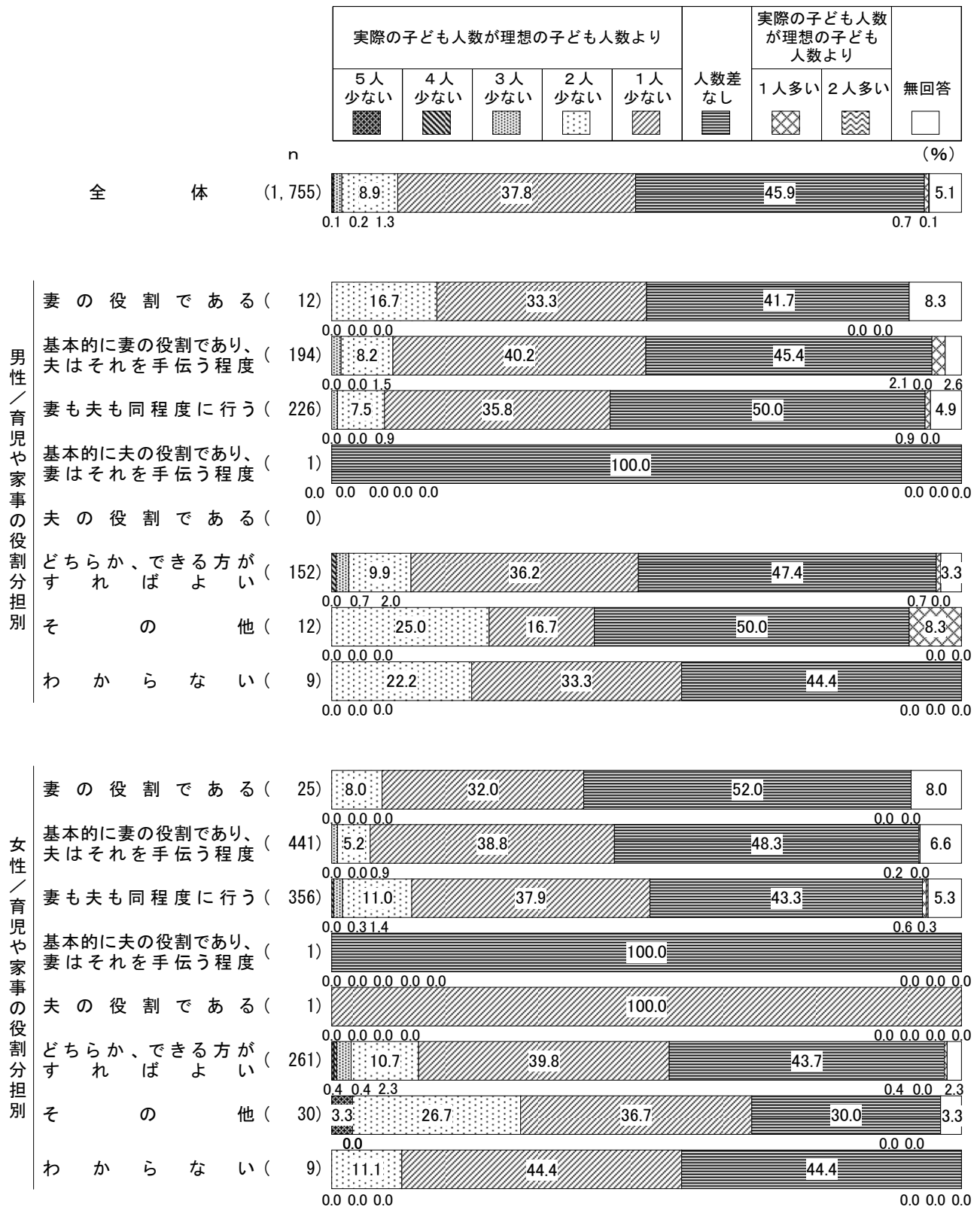
性・小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方別にみると、実際に持つと思う子どもの人数が理想とする子どもの人数より「1人少ない」は女性の“両親ともパートタイムで働く”(50.0%)で5割と高くなっている。また、「人数差なし」は女性の“母親は家において、父親はフルタイムで働く”(50.6%)と男性の“両親ともパートタイムで働く”(50.0%)で5割と高くなっている。(図2-30)

図2-30 実際に持つと思う子どもの人数と理想とする子どもの人数の差
(性・小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方別)



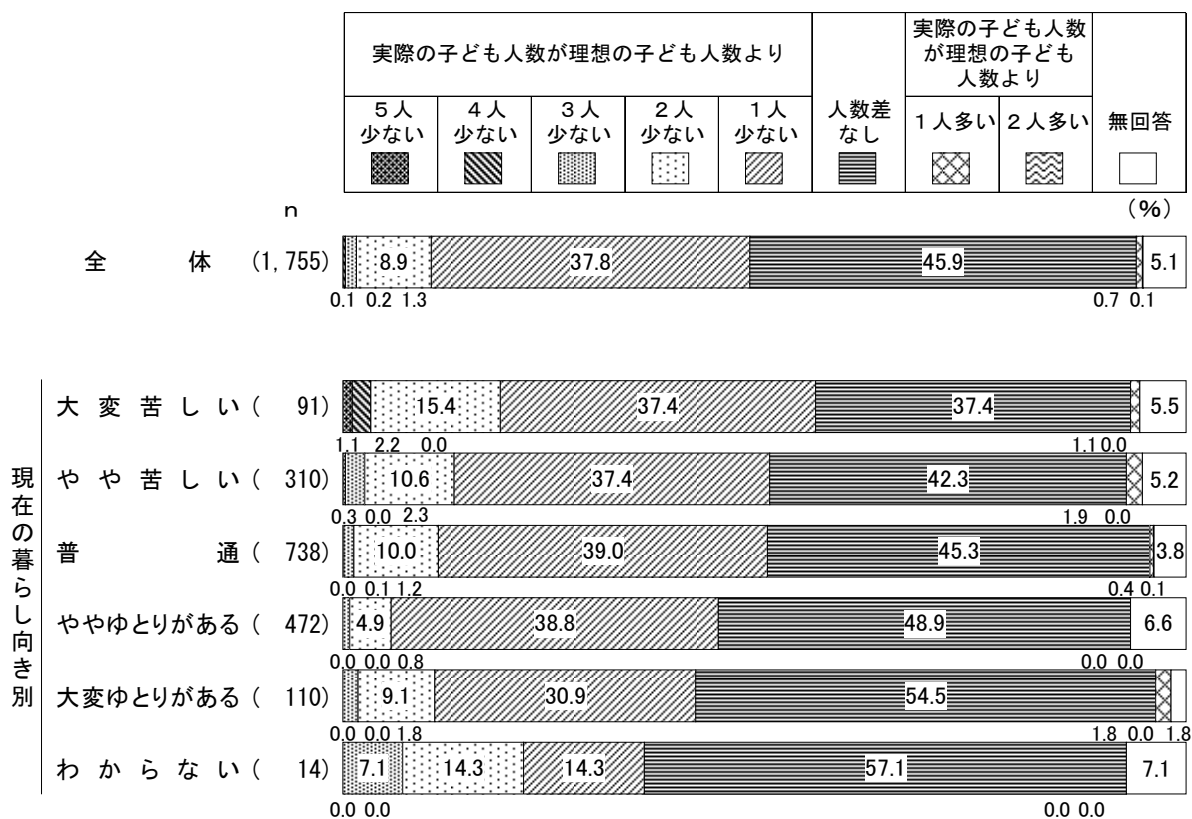
性・育児や家事の役割分担別にみると、「人数差なし」は女性の“妻の役割である”（52.0%）と男性の“妻も夫も同程度に行う”（50.0%）で5割台と高くなっている。（図2-31）

図2-31 実際に持つと思う子どもの人数と理想とする子どもの人数の差
（性・育児や家事の役割分担別）



現在の暮らし向き別にみると、「人数差なし」は現在の暮らし向きにゆとりがあるほど割合が高く、「大変ゆとりがある」(54.5%)で5割半ばとなっている。(図2-32)

図2-32 実際に持つと思う子どもの人数と理想とする子どもの人数の差(現在の暮らし向き別)



(4-5) 理想とする子どもの人数を持たないと思う理由

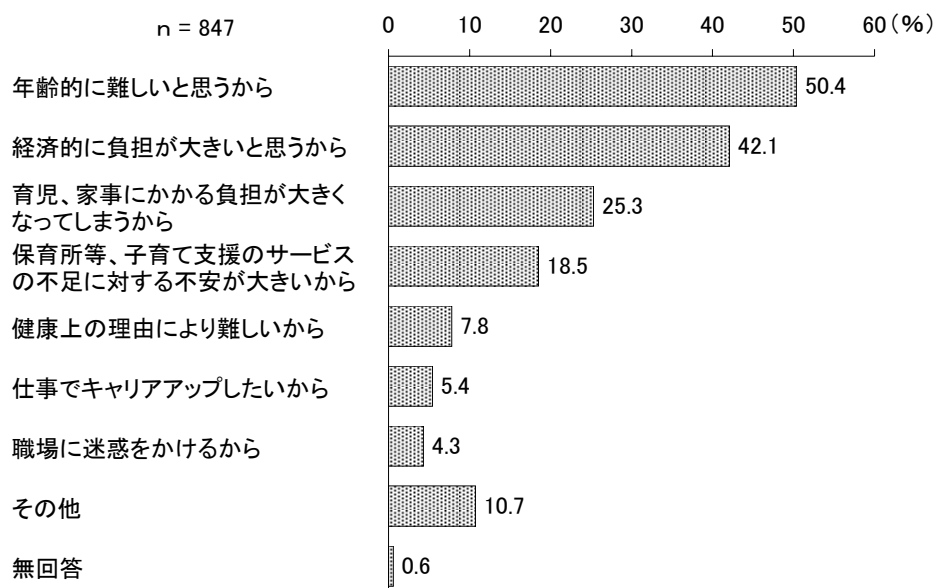
◇「年齢的に難しいと思うから」が5割

(問6-2でお答えいただいた理想の人数より、問6-3でお答えいただいた実際の人数が少ない方に)

問6-4 理想とする子どもの人数を持たないと思う理由を教えてください。

(○は2つまで)

図2-33

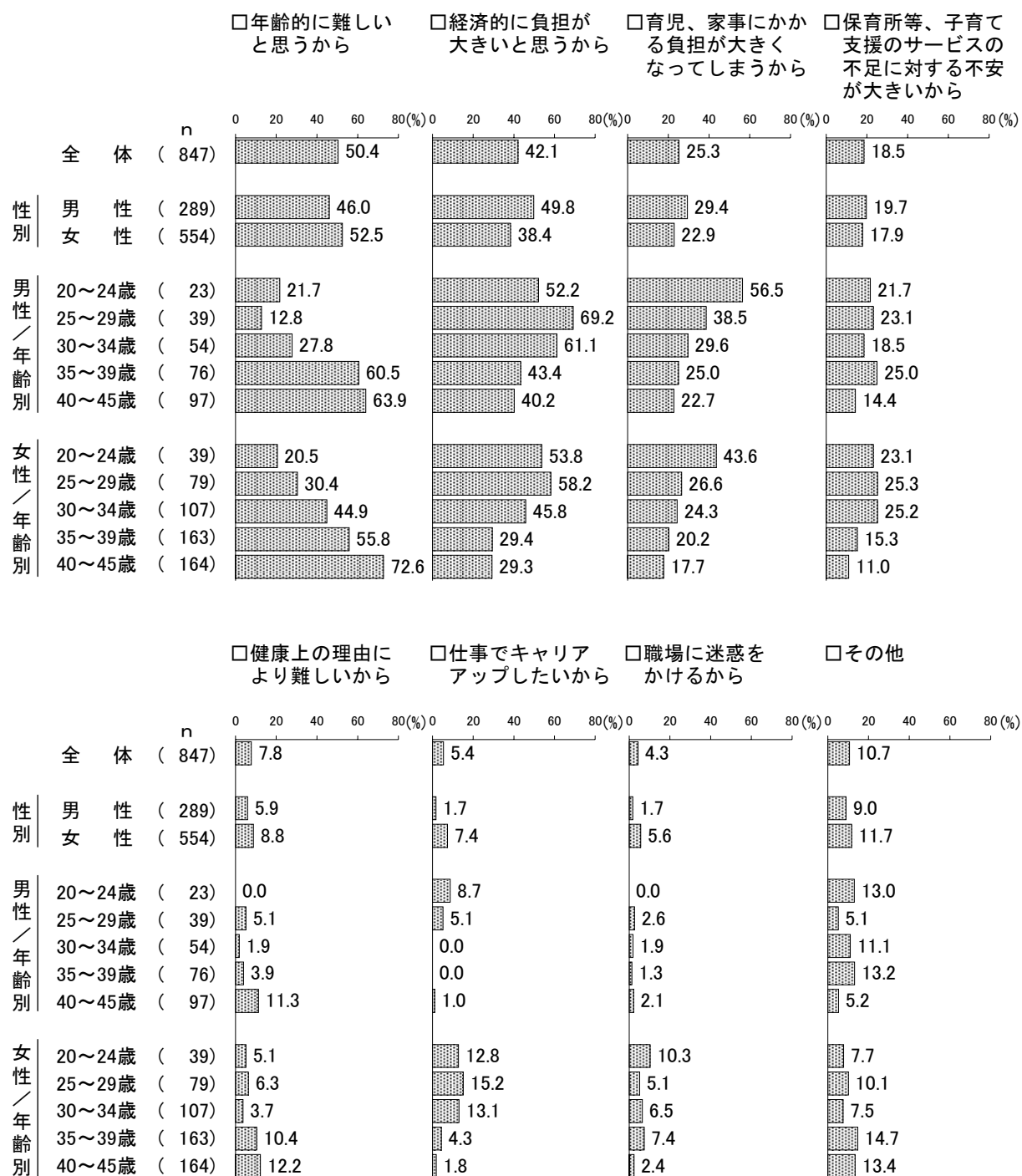


現在子どもがいる方と、子どもについて「ぜひ子どもを持ちたい」「できれば子どもを持ちたい」と答えた方(1,755人)のうち、理想の子ども的人数より、実際に持つと思う子ども的人数が少ない方(847人)に、理想とする子ども的人数を持たないと思う理由を聞いたところ、「年齢的に難しいと思うから」(50.4%)が5割で最も高く、次いで「経済的に負担が大きいと思うから」(42.1%)、「育児、家事にかかる負担が大きくなってしまふから」(25.3%)の順となっている。(図2-33)

性別にみると、「年長的に難しいと思うから」は女性（52.5%）が男性（46.0%）より6.5ポイント高くなっている。一方、「経済的に負担が大きいと思うから」は男性（49.8%）が女性（38.4%）より11.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「年長的に難しいと思うから」は男女ともにおおむね年齢が高くなるほど割合が高く、女性40～45歳（72.6%）で7割を超えている。また、「育児、家事にかかる負担が大きくなってしまふから」は男女とも年齢が低くなるほど割合が高く、男性20～24歳（56.5%）で6割近く、女性20～24歳（43.6%）で4割を超えている。（図2-34）

図2-34 理想とする子どもの人数を持たないと思う理由（性・年齢別）



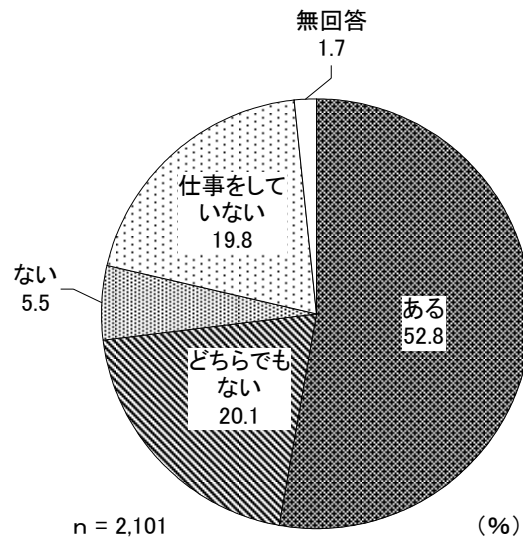
3. 仕事、家族についての希望や考え

(1) 仕事のやりがい

◇やりがいが「ある」は5割を超える

問7 現在の仕事に対してやりがいはありますか。(○は1つ)

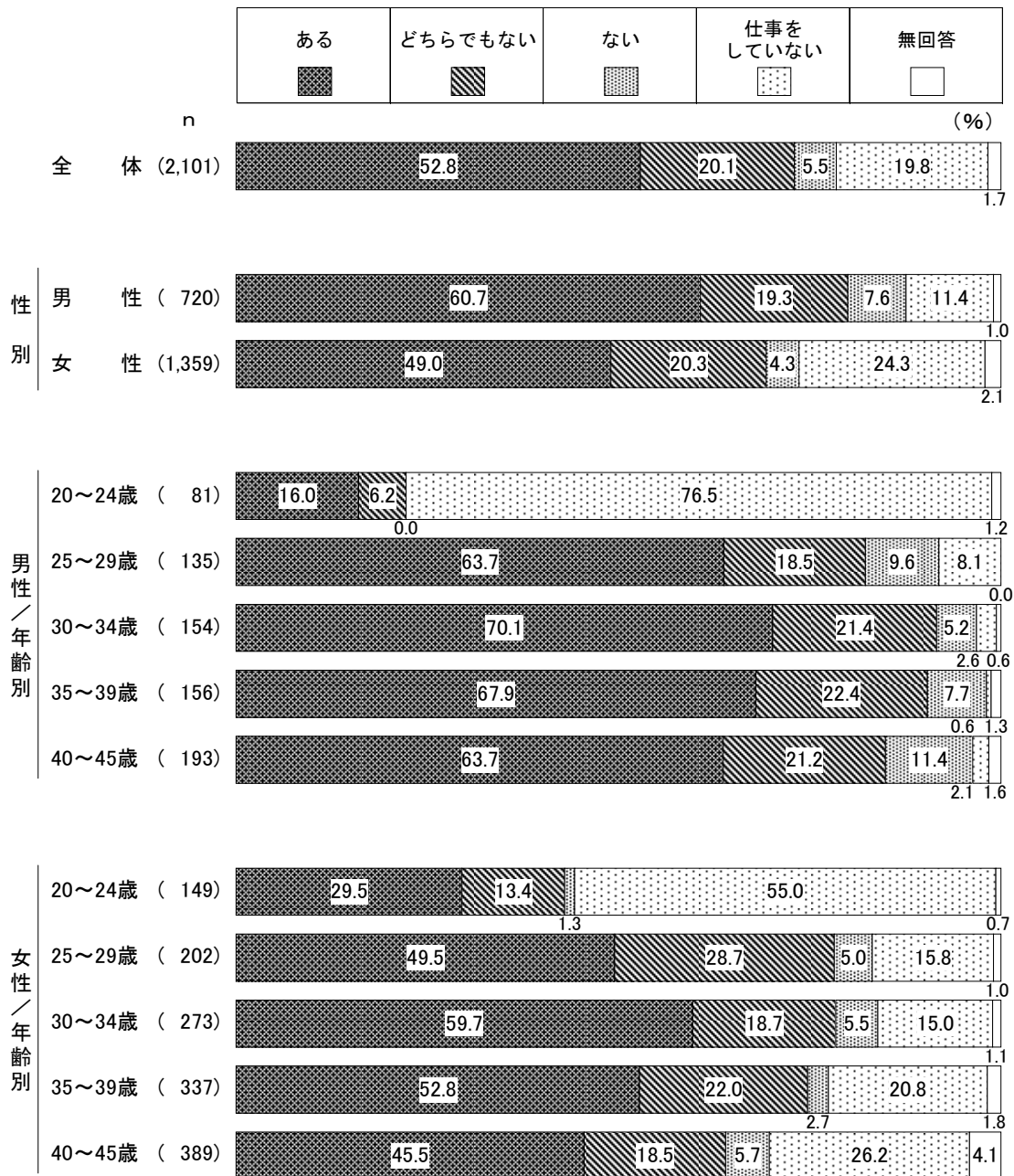
図3-1



現在の仕事に対してやりがいはあるか聞いたところ、「ある」(52.8%)が5割を超え、「ない」(5.5%)は1割未満となっている。また、「どちらでもない」(20.1%)と「仕事をしていない」(19.8%)はともに2割となっている。(図3-1)

性別にみると、「ある」は男性（60.7%）が女性（49.0%）より 11.7 ポイント高くなっている。
 性・年齢別にみると、「ある」は男性 30～34 歳（70.1%）で 7 割と高くなっている。また、「仕事を
 していない」は男性 20～24 歳（76.5%）で 8 割近くと高くなっている。（図 3-2）

図 3-2 仕事のやりがい（性・年齢別）



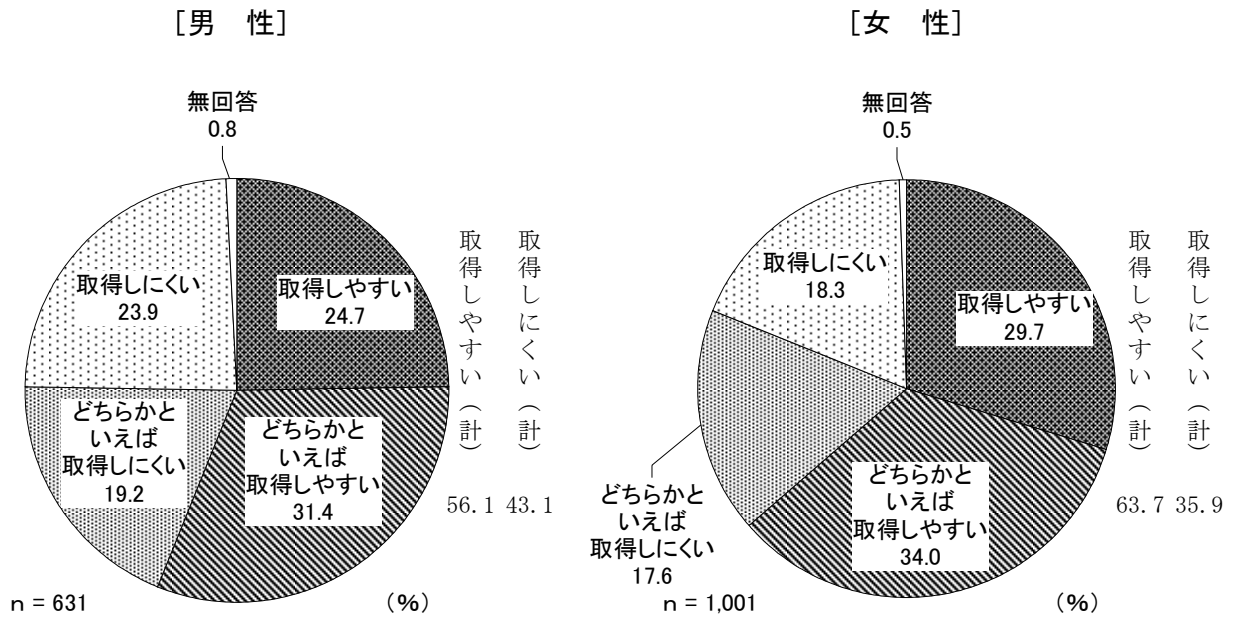
(1-1) 妊娠・出産に伴う休暇の取得のしやすさ

◇「取得しやすい」と「どちらかといえば取得しやすい」を合わせた『取得しやすい(計)』は女性が男性より7.6ポイント高い

(問7で、「ある」「どちらでもない」「ない」と答えた方に)

問7-1 現在の職場での、妊娠・出産に伴う休暇の取得のしやすさについて教えてください。(〇は1つ)

図3-3

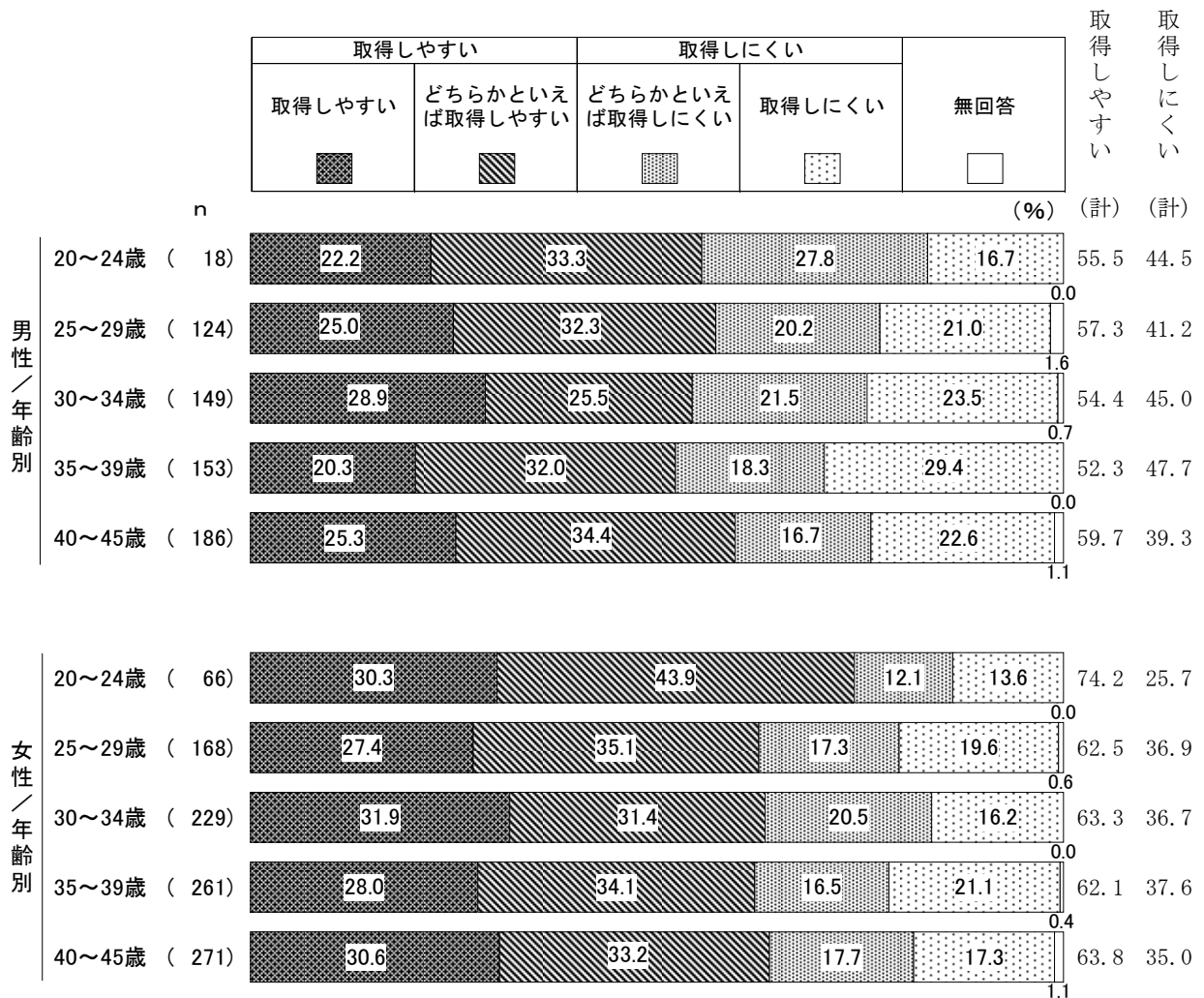


仕事のやりがいで、「ある」「どちらでもない」「ない」と答えた方(男性631人・女性1,001人)の、妊娠・出産に伴う休暇の取得のしやすさについて性別にみると、「取得しやすい」と「どちらかといえば取得しやすい」を合わせた『取得しやすい(計)』は女性(63.7%)が男性(56.1%)より7.6ポイント高くなっている。(図3-3)

性・年齢別にみると、『取得しやすい（計）』は女性 20～24 歳（74.2%）で7割半ばと高くなっている。一方、『取得しにくい（計）』は男性 35～39 歳（47.7%）で5割近くと高くなっている。

（図 3-4）

図 3-4 妊娠・出産に伴う休暇の取得のしやすさ（性・年齢別）

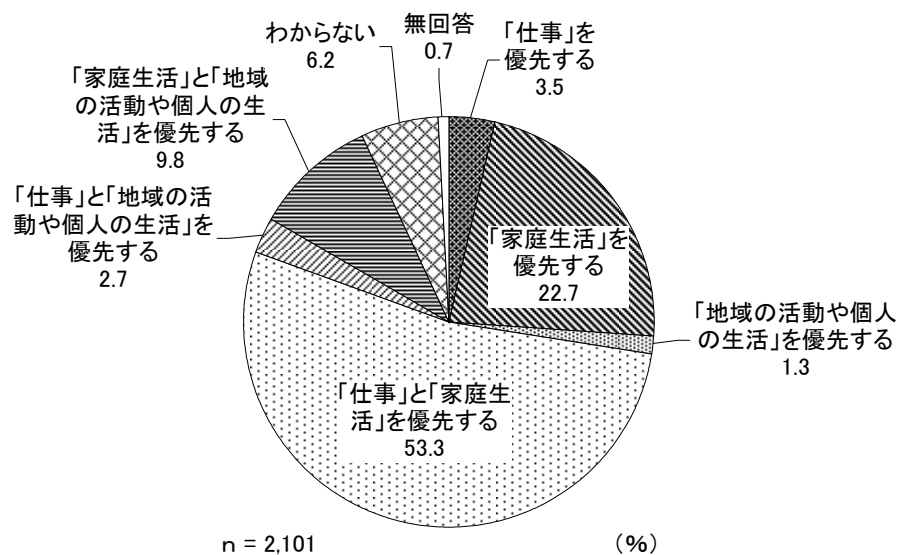


(2) 仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度

◇ 「『仕事』と『家庭生活』を優先する」が5割を超える

問8 仕事と家族生活、地域の活動や個人の生活について、あなたが望ましいと思うのは次のうちどれですか。(○は1つ)

図3-5

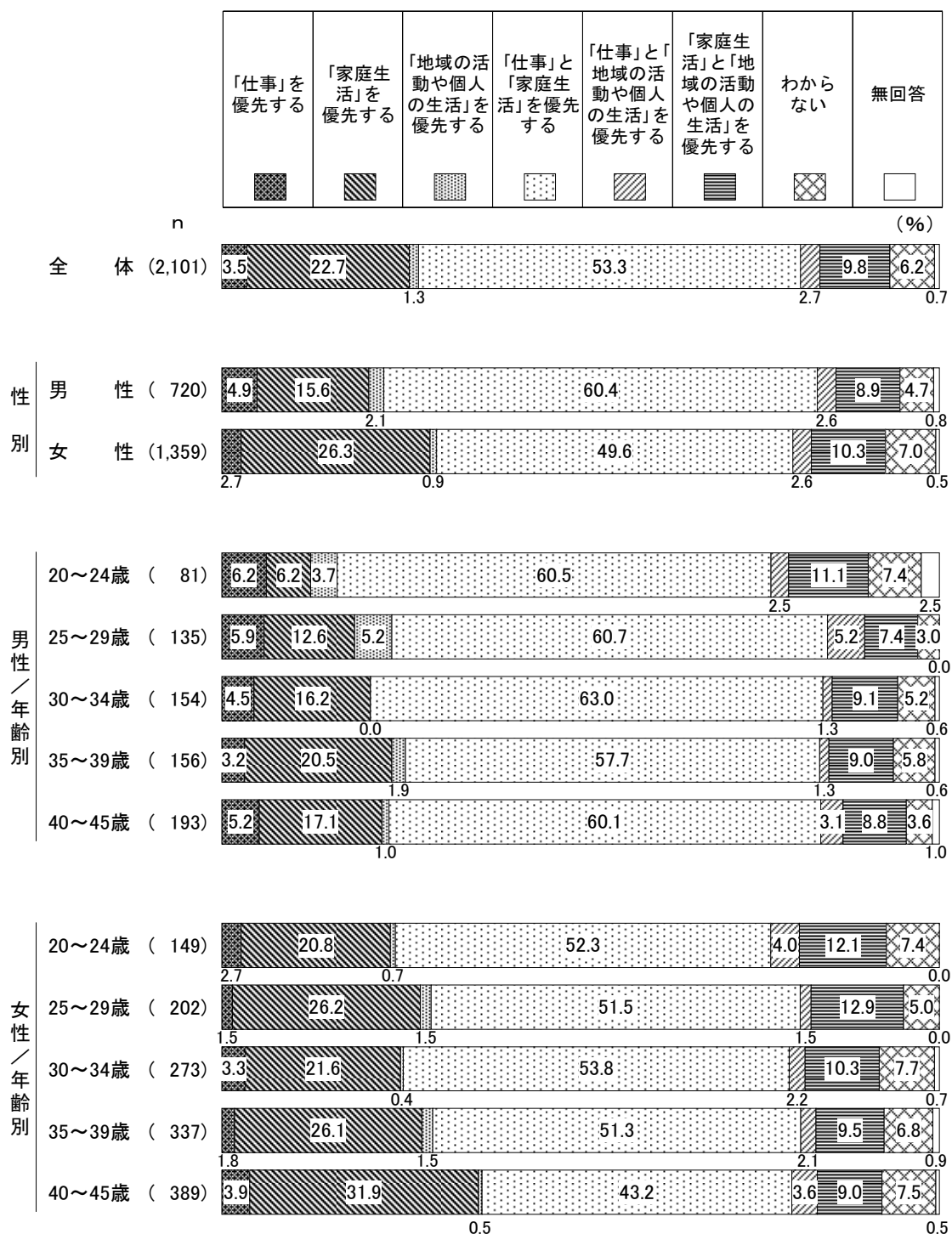


仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度を聞いたところ、「『仕事』と『家庭生活』を優先する」(53.3%)が5割を超え最も高く、次いで「『家庭生活』を優先する」(22.7%)、「『家庭生活』と『地域の活動や個人の生活』を優先する」(9.8%)の順となっている。(図3-5)

性別にみると、『家庭生活』を優先するは女性（26.3%）が男性（15.6%）より 10.7 ポイント高くなっている。一方、『仕事』と『家庭生活』を優先するは男性（60.4%）が女性（49.6%）より 10.8 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『家庭生活』を優先するは女性 40～45 歳（31.9%）で 3 割を超え高くなっている。（図 3-6）

図 3-6 仕事と家族生活、地域活動や個人の生活で望ましい優先度（性・年齢別）

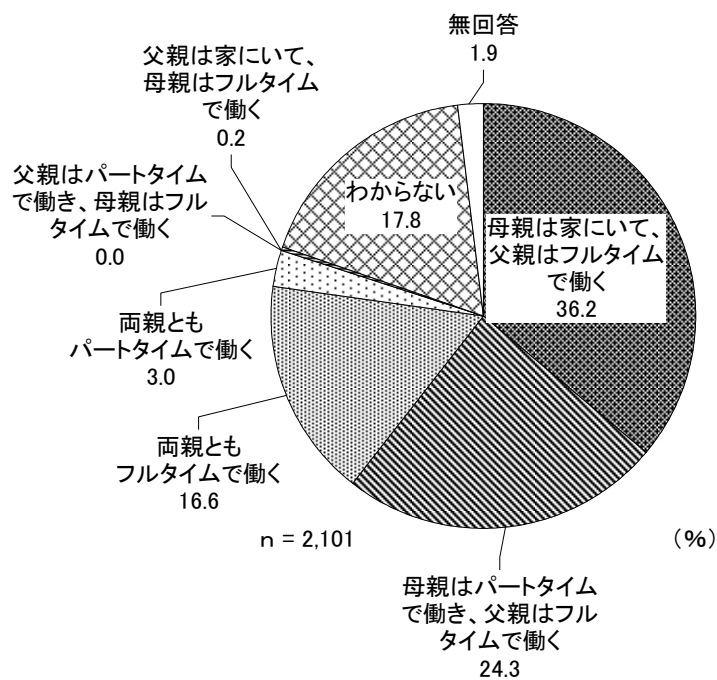


(3) 小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方

◇「母親は家にいて、父親はフルタイムで働く」が3割半ば

問9 小学校入学前の子どもがいる家族にとって、家庭と仕事のあり方として最も望ましいのはどれだと思いますか。(○は1つ)

図3-7

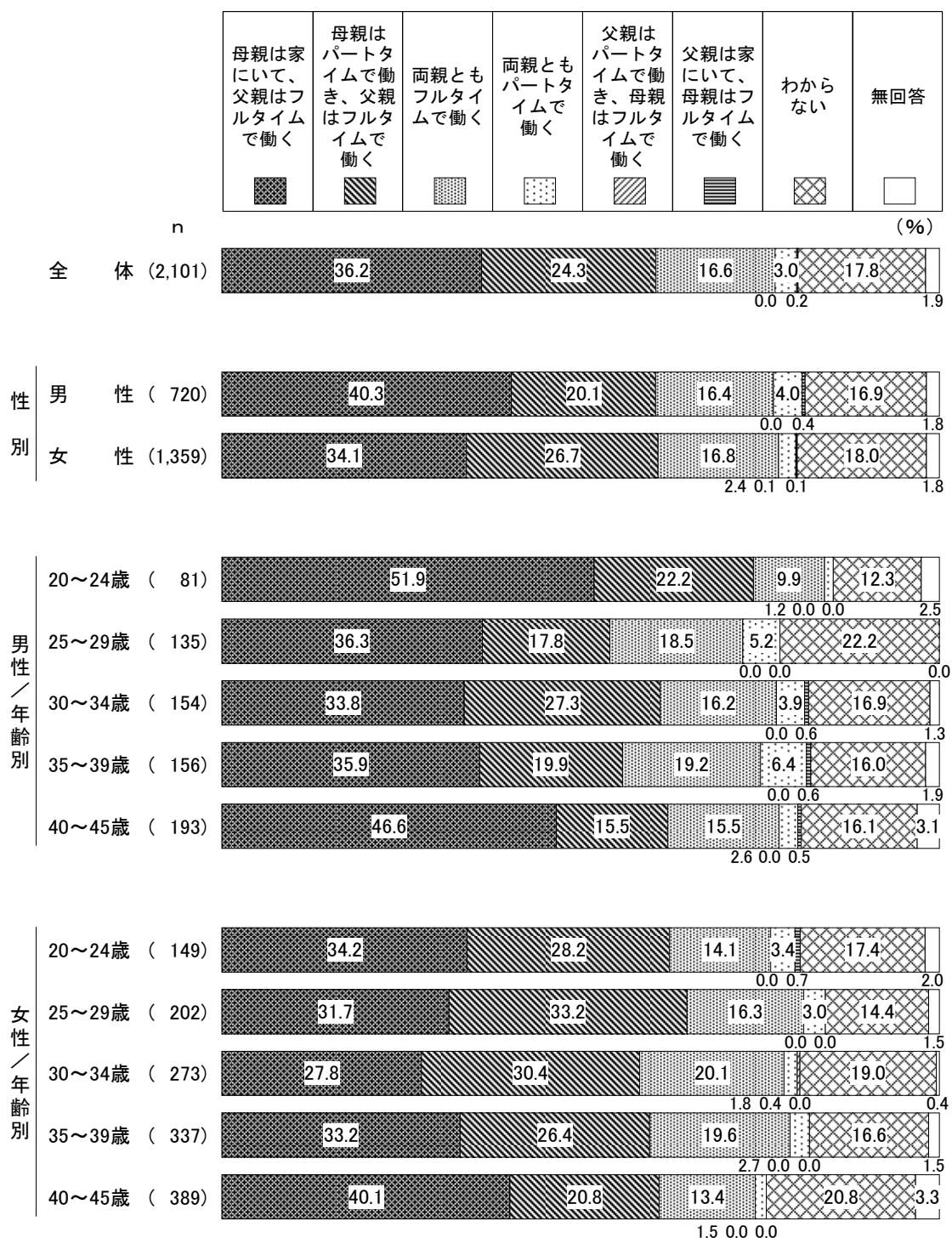


小学校入学前の子どもがいる家族にとって、望ましい家庭と仕事のあり方を聞いたところ、「母親は家にいて、父親はフルタイムで働く」(36.2%)が3割半ばで最も高く、次いで「母親はパートタイムで働き、父親はフルタイムで働く」(24.3%)、「両親ともフルタイムで働く」(16.6%)の順となっている。(図3-7)

性別にみると、「母親はパートタイムで働き、父親はフルタイムで働く」は女性（26.7%）が男性（20.1%）より 6.6 ポイント高くなっている。一方、「母親は家にいて、父親はフルタイムで働く」は男性（40.3%）が女性（34.1%）より 6.2 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「母親は家にいて、父親はフルタイムで働く」は男性 20～24 歳（51.9%）で 5 割を超え高く、「母親はパートタイムで働き、父親はフルタイムで働く」は女性の 25～29 歳（33.2%）と 30～34 歳（30.4%）で 3 割台と高くなっている。（図 3-8）

図 3-8 小学校入学前の子どもがいる家族の望ましい家庭と仕事のあり方（性・年齢別）

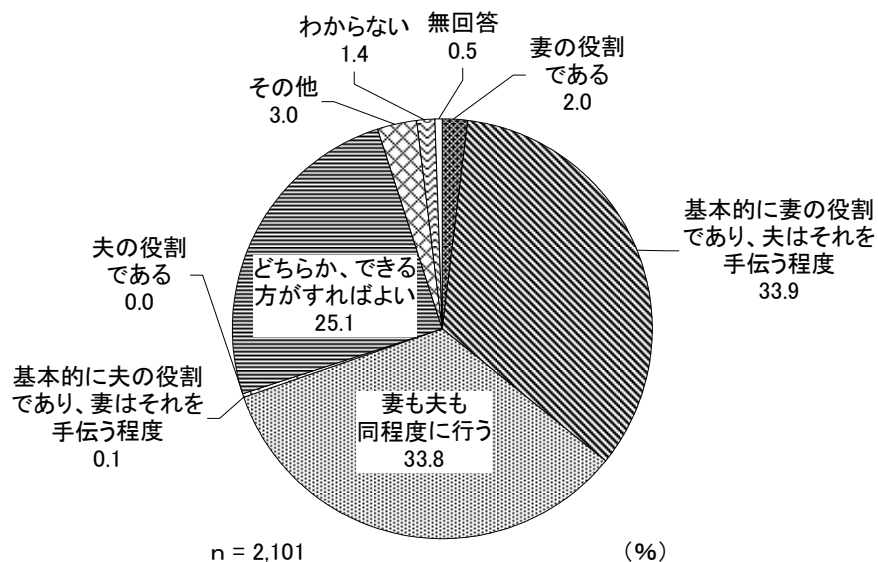


(4) 育児や家事の役割分担

◇「基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝える程度」と「妻も夫も同程度に行う」がともに3割を超える

問10 家庭での育児や家事は、だれの役割だと思いますか。(○は1つ)

図3-9

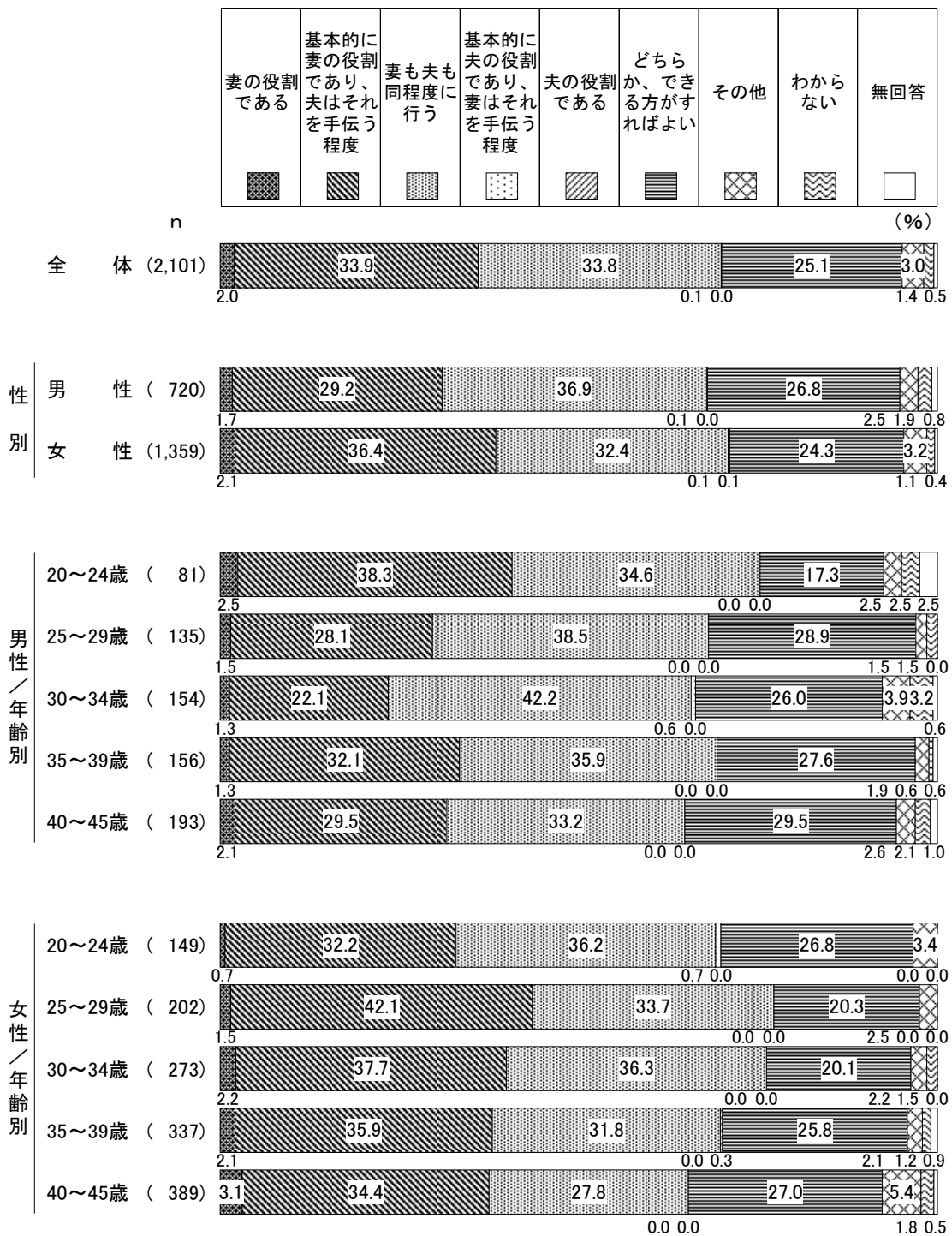


家庭での育児や家事は、だれの役割だと思うか聞いたところ、「基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝える程度」(33.9%)と「妻も夫も同程度に行う」(33.8%)がともに3割を超え高く、次いで「どちらか、できる方がすればよい」(25.1%)の順となっている。(図3-9)

性別にみると、「基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」は女性（36.4%）が男性（29.2%）より 7.2 ポイント高くなっている。一方、「妻も夫も同程度に行う」は男性（36.9%）が女性（32.4%）より 4.5 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「妻も夫も同程度に行う」は男性 30～34 歳（42.2%）で 4 割を超え高く、「基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」は女性 25～29 歳（42.1%）で 4 割を超え高くなっている。（図 3-10）

図 3-10 育児や家事の役割分担（性・年齢別）

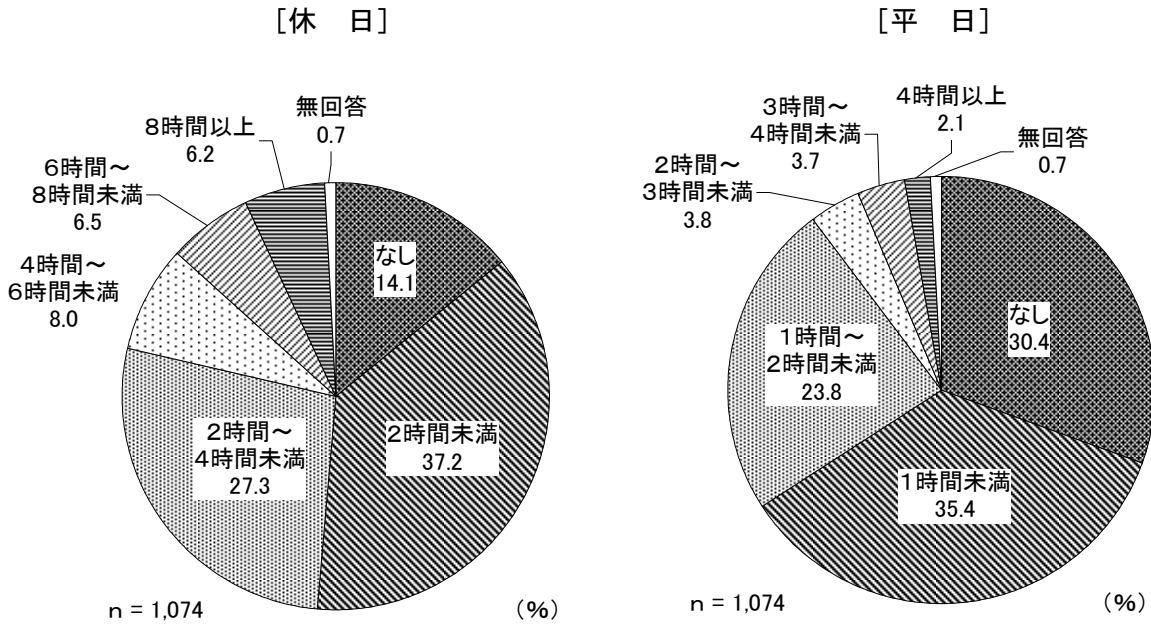


(5) 夫の家事・育児時間

◇休日では「2時間未満」が4割近く、平日では「1時間未満」が3割半ば

F10 ご夫婦の中で、夫が担っている家事・育児時間について教えてください。(○は1つ)

図3-11

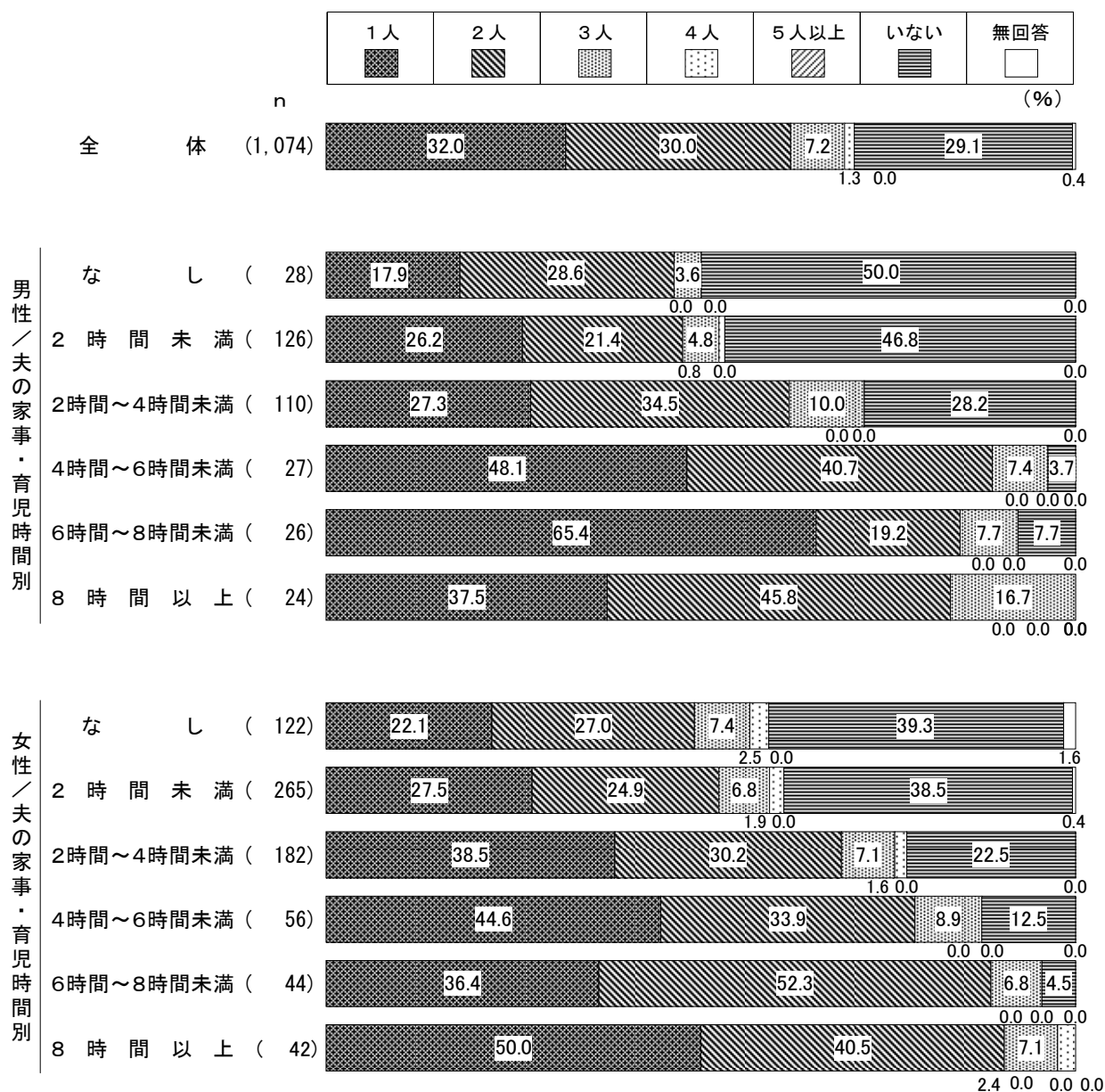


婚姻状況で「結婚している」と答えた方(1,074人)に、夫の家事・育児時間について聞いたところ、休日では、「2時間未満」(37.2%)が4割近くで最も高く、次いで「2時間～4時間未満」(27.3%)、「なし」(14.1%)の順となっている。平日では、「1時間未満」(35.4%)が3割半ばで最も高く、次いで「なし」(30.4%)、「1時間～2時間未満」(23.8%)の順となっている。

(図3-11)

子どもの人数を休日の性・夫の家事・育児時間別にみると、男女ともにおおむね夫の家事・育児時間が長くなるほど「1人」の割合が高く、男性の“6時間～8時間未満”（65.4%）で6割半ば、女性の“8時間以上”（50.0%）で5割となっている。一方、男女ともにおおむね夫の家事・育児時間が短くなるほど「いない」の割合が高くなっている。（図3-12）

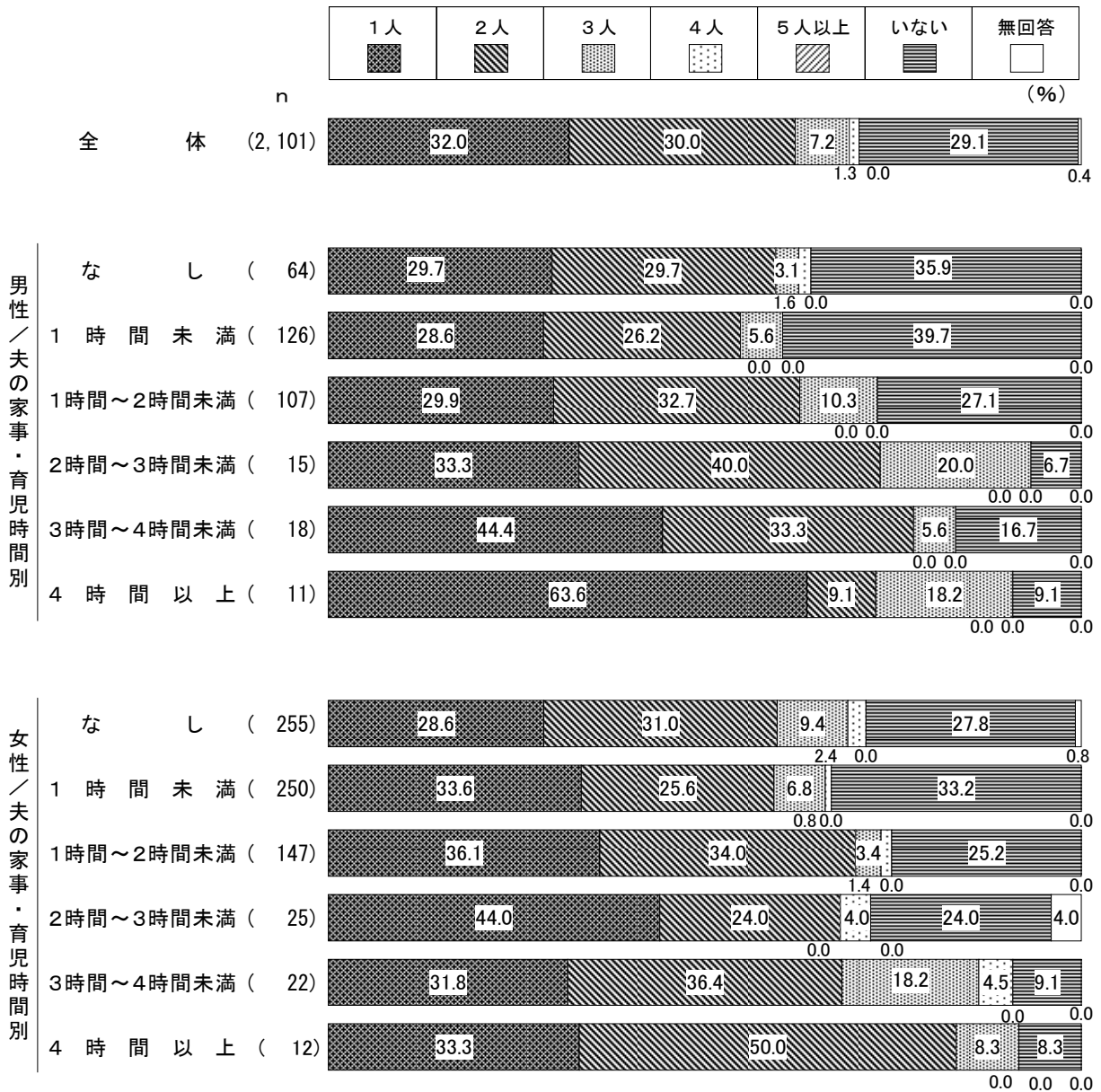
図3-12 子どもの人数（性・夫の家事・育児時間別〔休日〕）



子どもの人数を平日の性・夫の家事・育児時間別にみると、男性ではおおむね夫の家事・育児時間が長くなるほど「1人」の割合が高くなってきている。一方、男女ともにおおむね夫の家事・育児時間が短くなるほど「いない」の割合が高く、男性の“1時間未満”（39.7%）で4割となっている。

(図3-13)

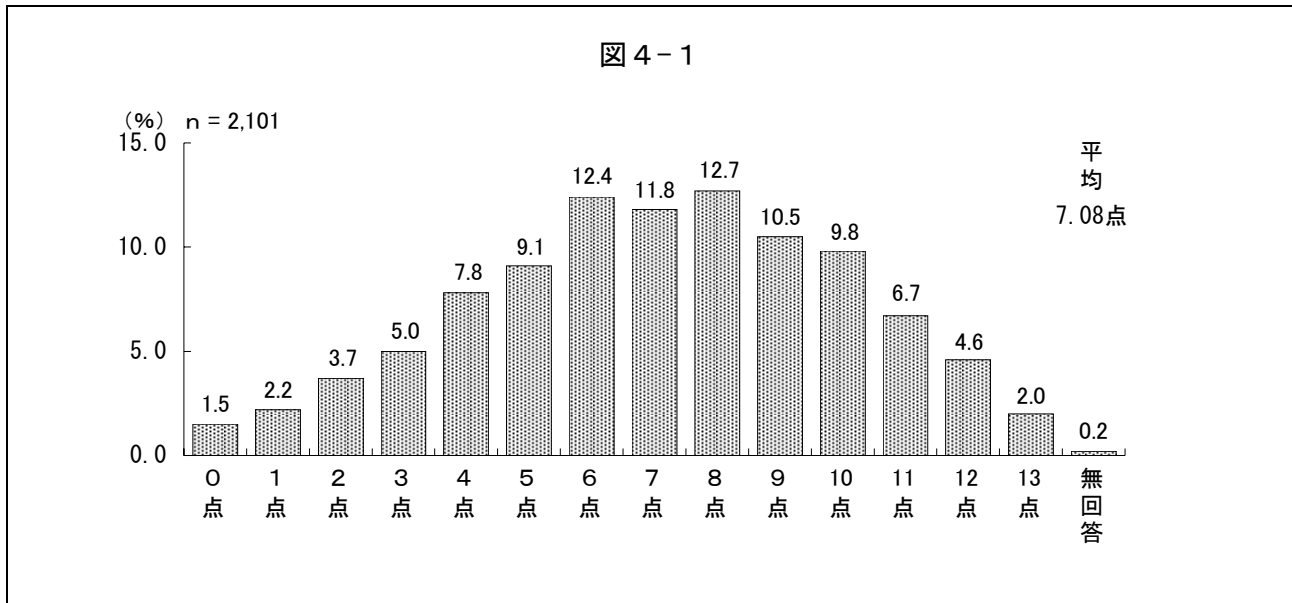
図3-13 子どもの人数（性・夫の家事・育児時間別 [平日]）



4. 妊娠・出産に関する知識について

(1) 妊孕性尺度

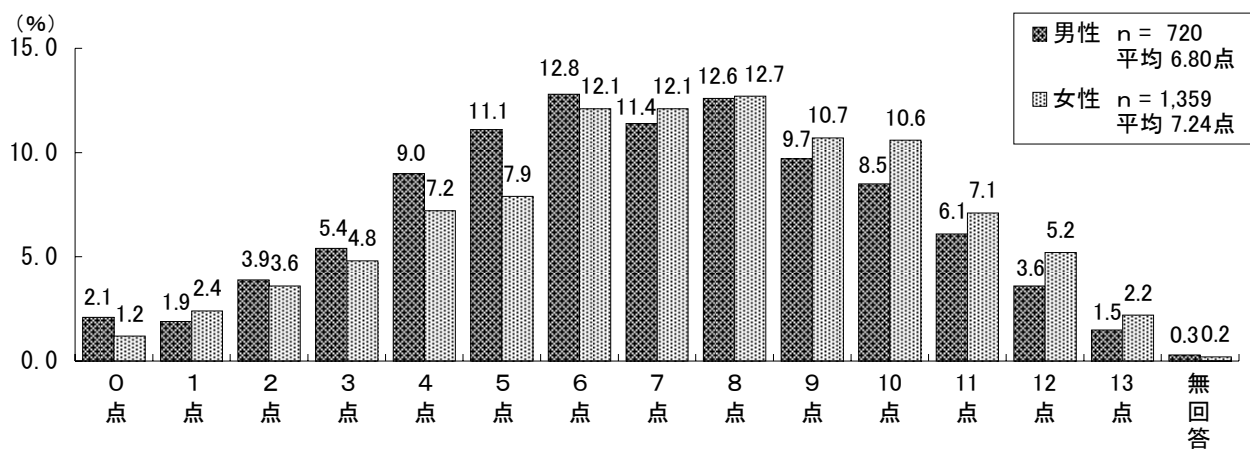
◇平均は 7.08 点



「子どもを授かる能力」に関する知識について、「知識あり」と回答する毎に1点加点し、13点満点で点数化したところ、「8点」(12.7%)が最も高く、次いで「6点」(12.4%)、「7点」(11.8%)、「9点」(10.5%)の順となっており、平均は7.08点となっている。(図4-1)

性別にみると、「7点」以上では女性が男性を上回っており、女性平均(7.24点)が男性平均(6.80点)より0.44点高くなっている。(図4-2)

図 4-2 妊孕性尺度 (性別)



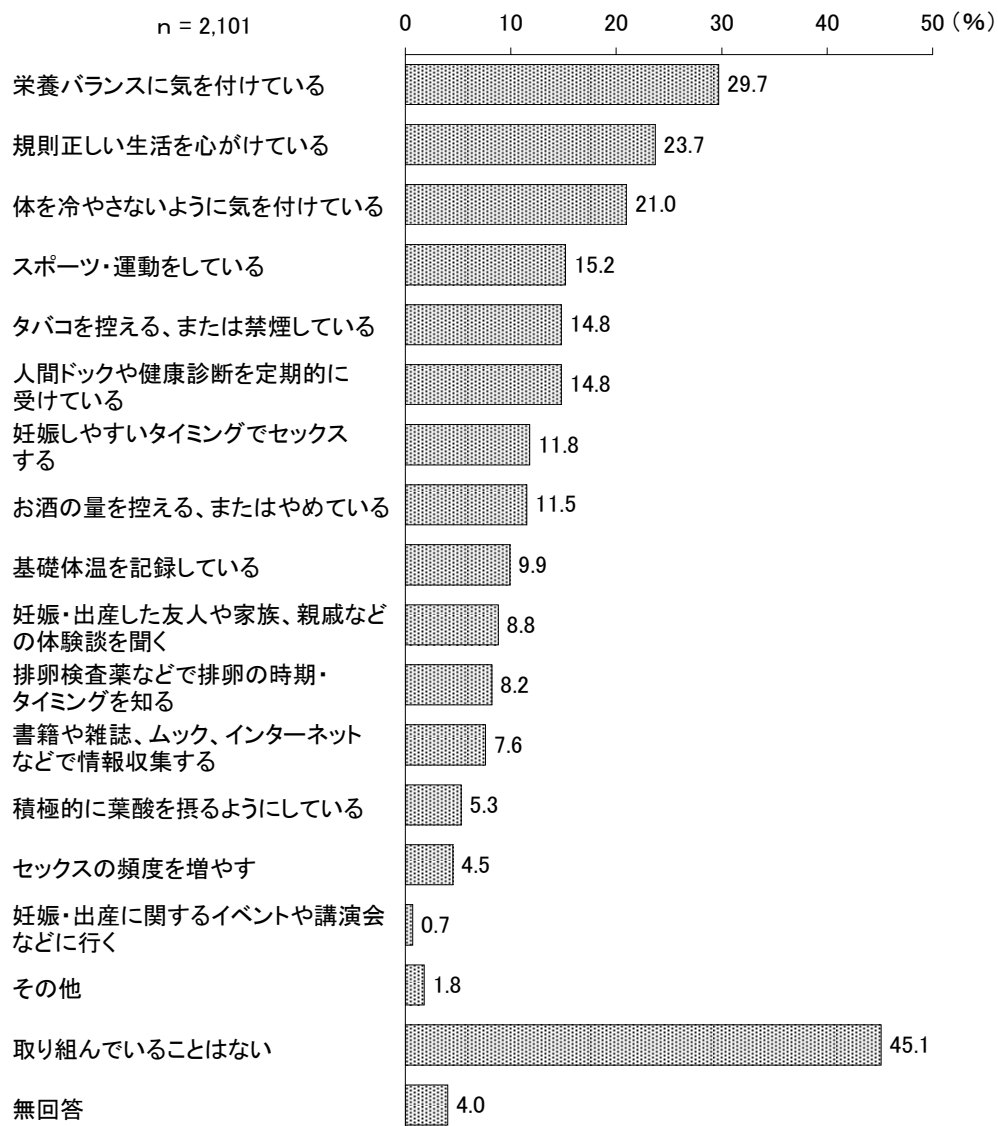
(2) 妊娠のための健康づくりに取り組んでいること

◇「栄養バランスに気を付けている」が3割、「取り組んでいることはない」は4割半ば

問12 今後の妊娠のための健康づくりに取り組んでいることがありますか。

(○はいくつでも)

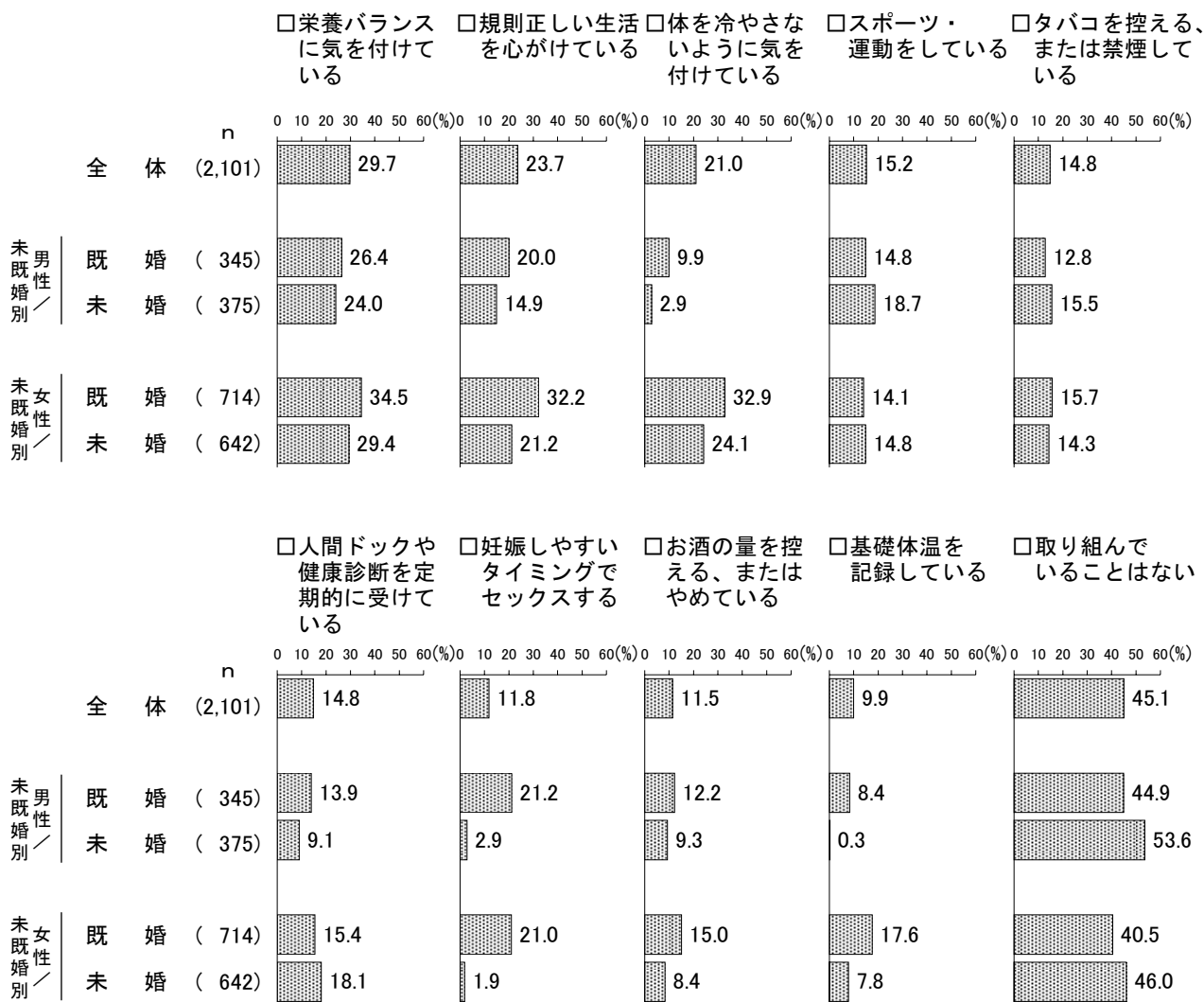
図4-3



今後の妊娠のための健康づくりに取り組んでいることを聞いたところ、取り組んでいることの中では「栄養バランスに気を付けている」(29.7%)が3割で最も高く、次いで「規則正しい生活を心がけている」(23.7%)、「体を冷やさないように気を付けている」(21.0%)の順となっている。一方、「取り組んでいることはない」(45.1%)は4割半ばとなっている。(図4-3)

性・未既婚別にみると、「栄養バランスに気を付けている」は女性既婚者（34.5%）で3割半ばと高く、「体を冷やさないように気を付けている」でも女性既婚者（32.9%）で3割を超え高くなっている。一方、「取り組んでいることはない」は男性未婚者（53.6%）で5割を超え高くなっている。（図4-4）

図4-4 妊娠のための健康づくりに取り組んでいること（性・未既婚別）
—上位9項目+「取り組んでいることはない」



5. 子育てに対する考え方、意識について

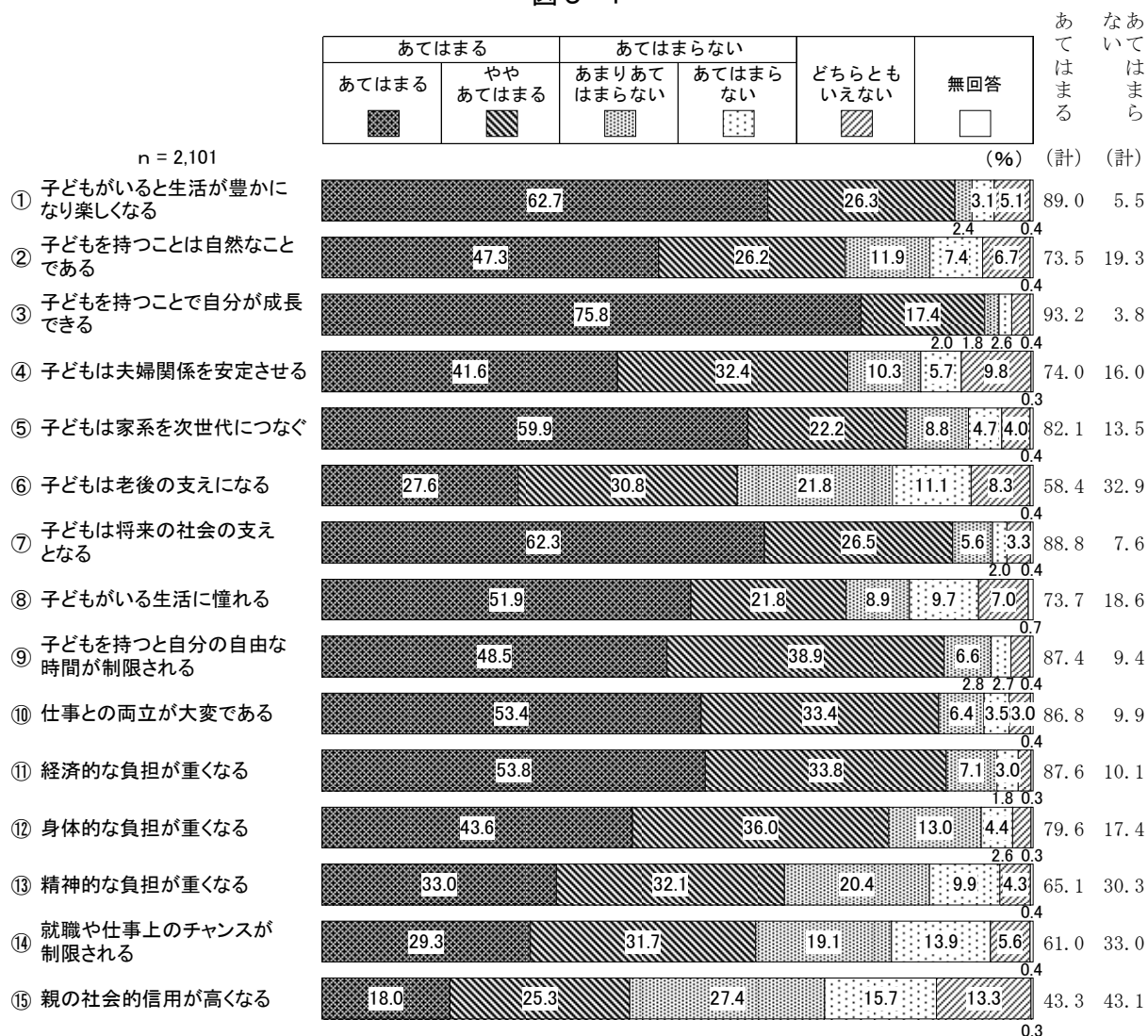
(1) 子どもを持つことに関する考え

◇「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた『あてはまる（計）』が最も高いのは“子どもを持つことで自分が成長できる”で9割を超える

◇「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない（計）』が最も高いのは“親の社会的信用が高くなる”で4割を超える

問13 子どもを持つことに関する以下のことについて、あなたの考えにあてはまるのはどれですか。（○はそれぞれ1つずつ）

図5-1

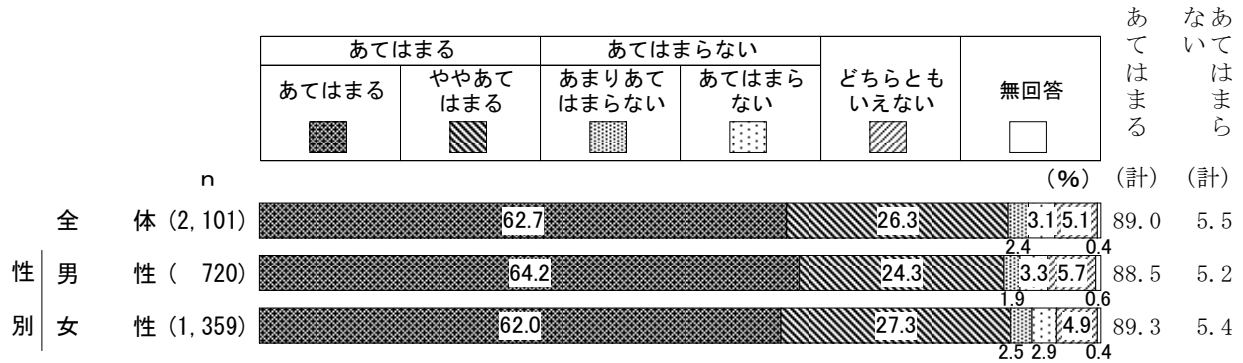


子どもを持つことに関する考えを聞いたところ、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた『あてはまる（計）』は、“子どもを持つことで自分が成長できる”（93.2%）で9割を超え最も高く、次いで“子どもがいると生活が豊かになり楽しくなる”（89.0%）、“子どもは将来の社会の支えとなる”（88.8%）の順となっている。一方、「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない（計）』は、“親の社会的信用が高くなる”（43.1%）で4割を超え最も高く、次いで“就職や仕事上のチャンスが制限される”（33.0%）、“子どもは老後の支えになる”（32.9%）の順となっている。（図5-1）

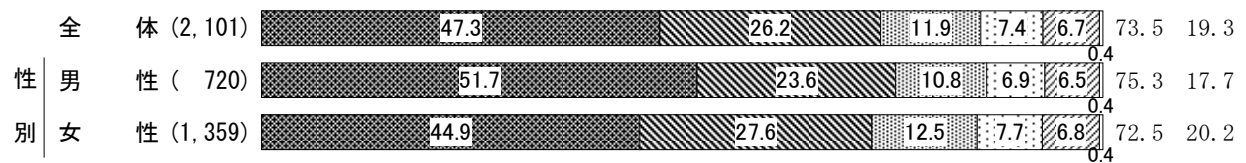
性別にみると、『あてはまる（計）』は“就職や仕事上のチャンスが制限される”で女性（77.8%）が男性（28.9%）より 48.9 ポイント、“身体的な負担が重くなる”で女性（85.6%）が男性（68.2%）より 17.4 ポイント、“精神的な負担が重くなる”で女性（70.0%）が男性（55.8%）より 14.2 ポイント、それぞれ高くなっている。（図 5-2）

図 5-2 子どもを持つことに関する考え（性別）

①子どもがいると生活が豊かになり楽しくなる



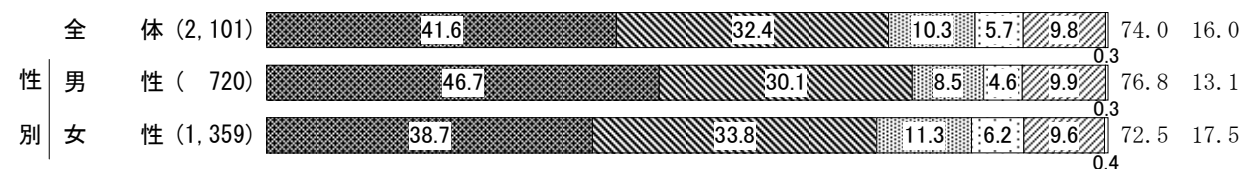
②子どもを持つことは自然なことである



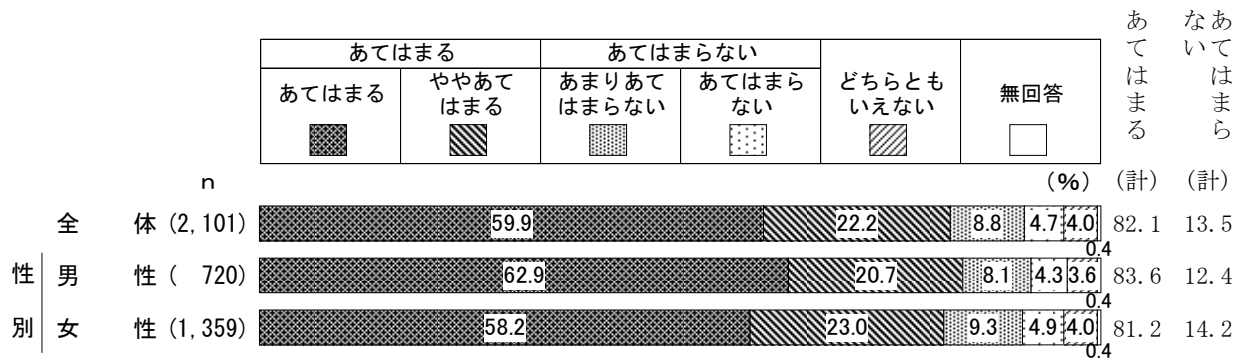
③子どもを持つことで自分が成長できる



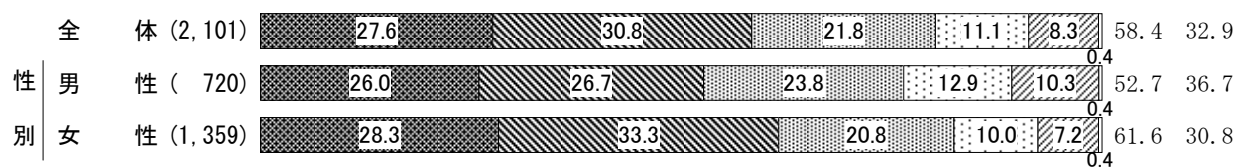
④子どもは夫婦関係を安定させる



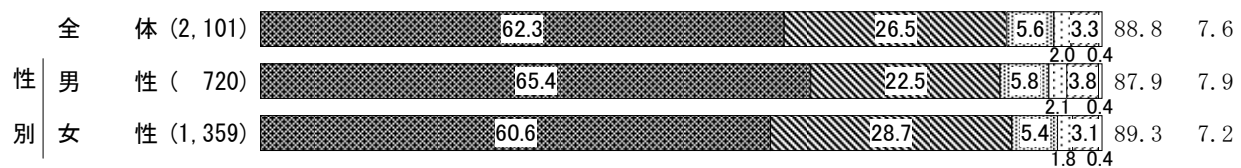
⑤子どもは家系を次世代につなぐ



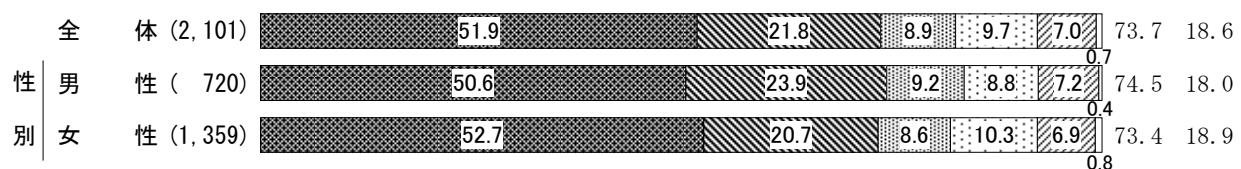
⑥子どもは老後の支えになる



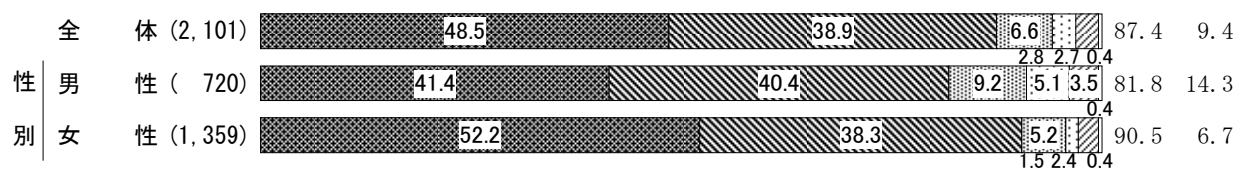
⑦子どもは将来の社会の支えとなる



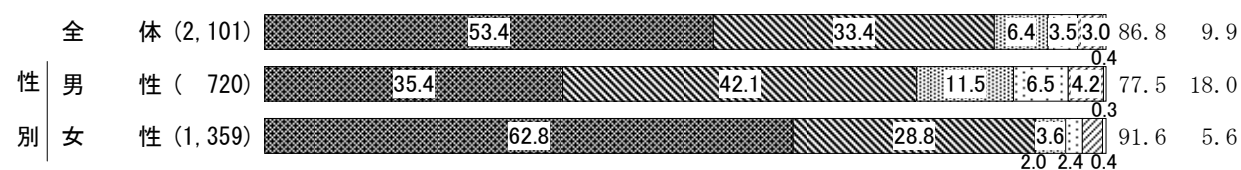
⑧子どもがいる生活に憧れる



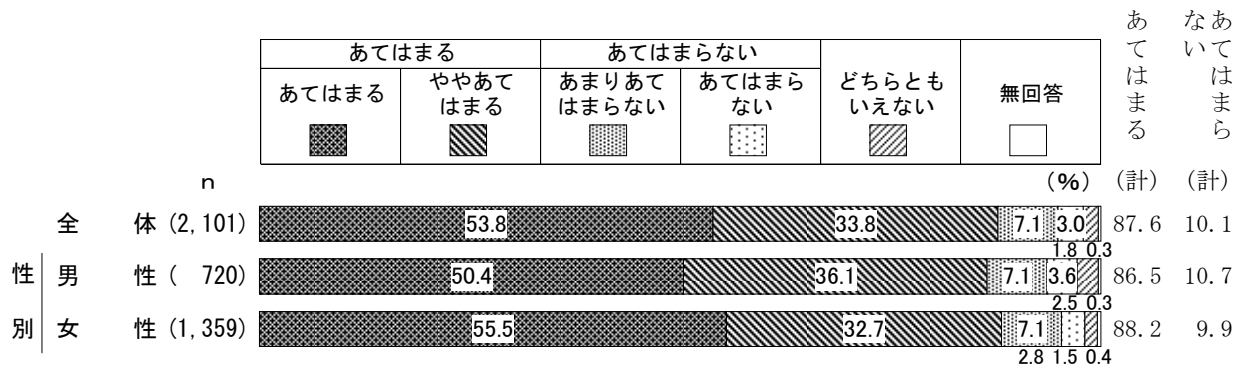
⑨子どもを持つと自分の自由な時間が制限される



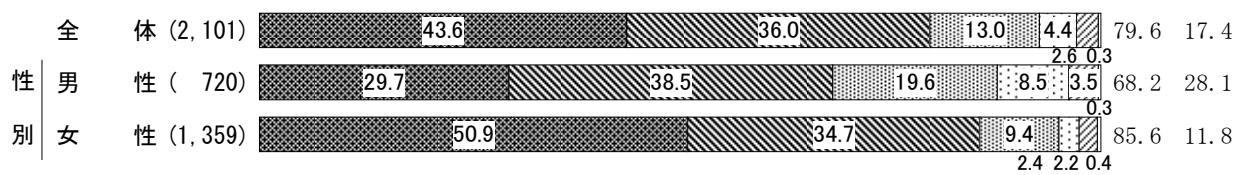
⑩仕事との両立が大変である



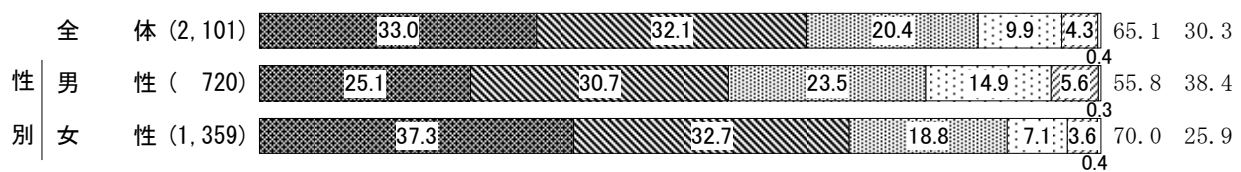
⑪経済的な負担が重くなる



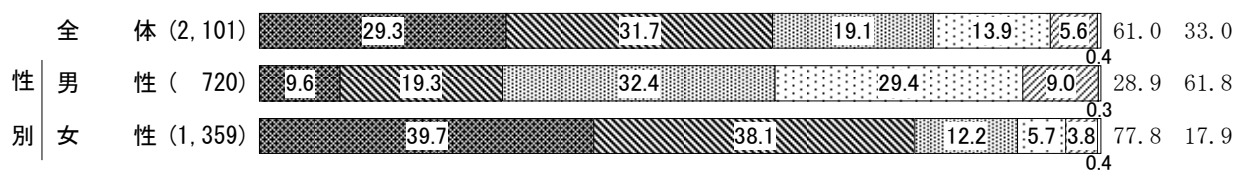
⑫身体的な負担が重くなる



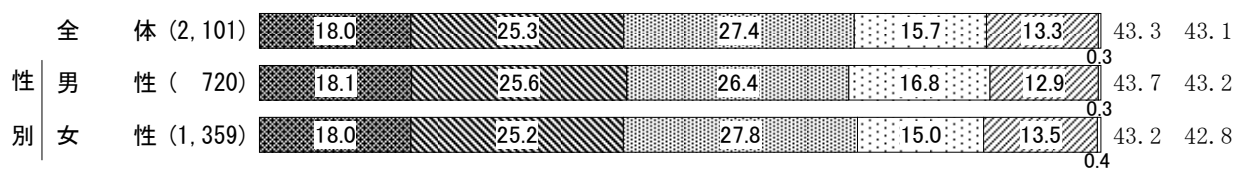
⑬精神的な負担が重くなる



⑭就職や仕事上のチャンスが制限される



⑮親の社会的信用が高くなる

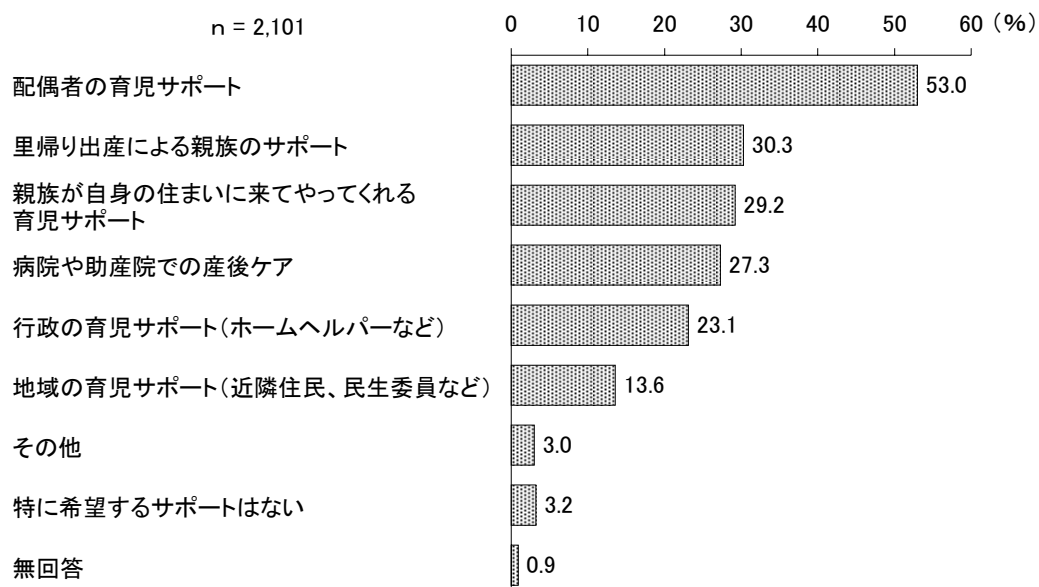


(2) 出産と子育て初期の際に希望するサポート

◇「配偶者の育児サポート」が5割を超える

問 14 出産と子育て初期の際にどのようなサポートを希望しますか。(○は2つまで)

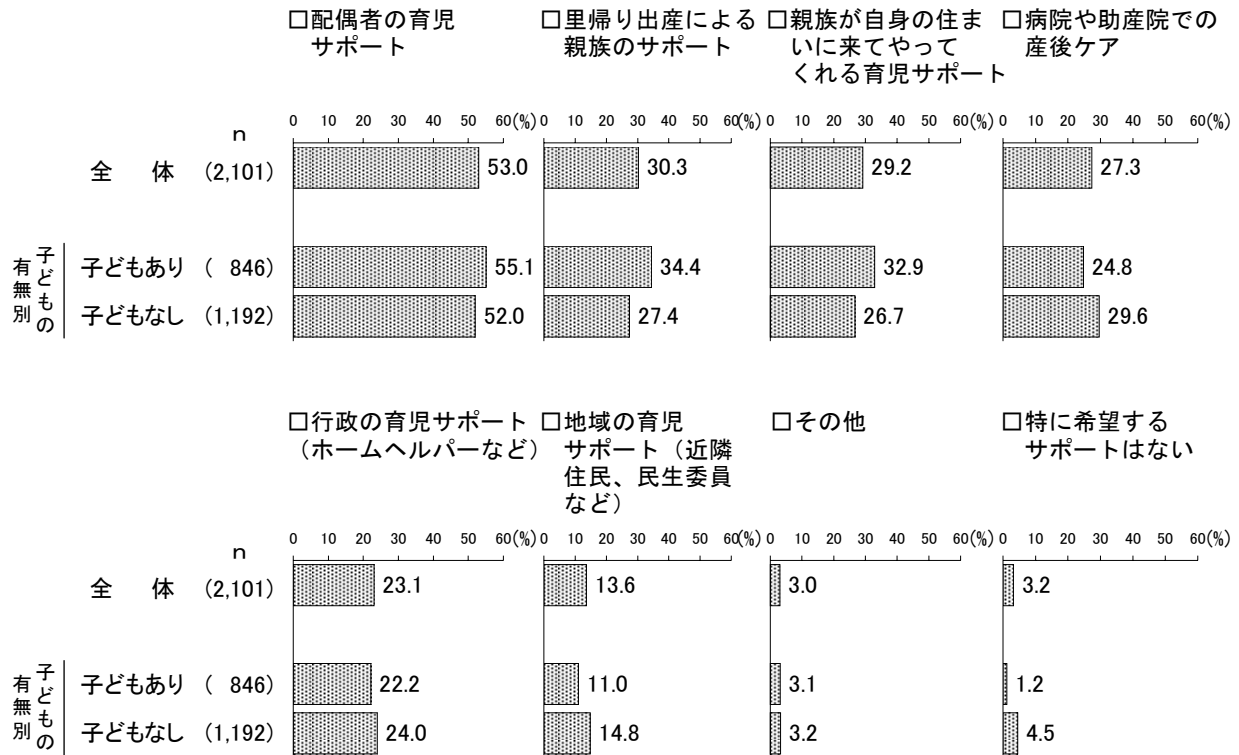
図 5-3



出産と子育て初期の際にどのようなサポートを希望するか聞いたところ、「配偶者の育児サポート」(53.0%)が5割を超え最も高く、次いで「里帰り出産による親族のサポート」(30.3%)、「親族が自身の住まいに来てやってくれる育児サポート」(29.2%)、「病院や助産院での産後ケア」(27.3%)の順となっている。(図5-3)

子どもの有無別にみると、「里帰り出産による親族のサポート」は“子どもあり”（34.4%）が“子どもなし”（27.4%）より7.0ポイント高くなっている。一方、「病院や助産院での産後ケア」は“子どもなし”（29.6%）が“子どもあり”（24.8%）より4.8ポイント高くなっている。（図5-4）

図5-4 出産と子育て初期の際に希望するサポート（子どもの有無別）

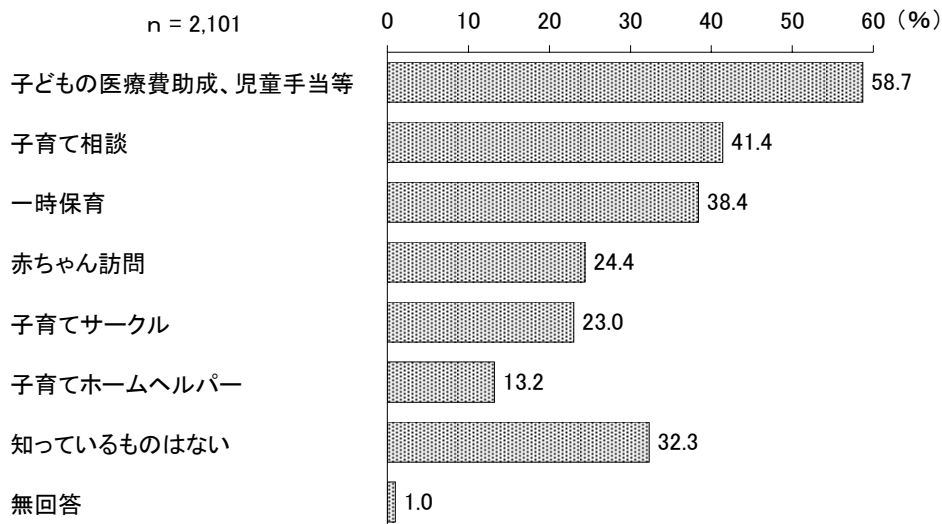


(3) 子どもを持つうえで利用できる区のサービスの認知状況

◇「子どもの医療費助成、児童手当等」が6割近く

問 15 子どもを持つうえで利用できる区のサービスで知っているものを教えてください。
(○はいくつでも)

図 5-5

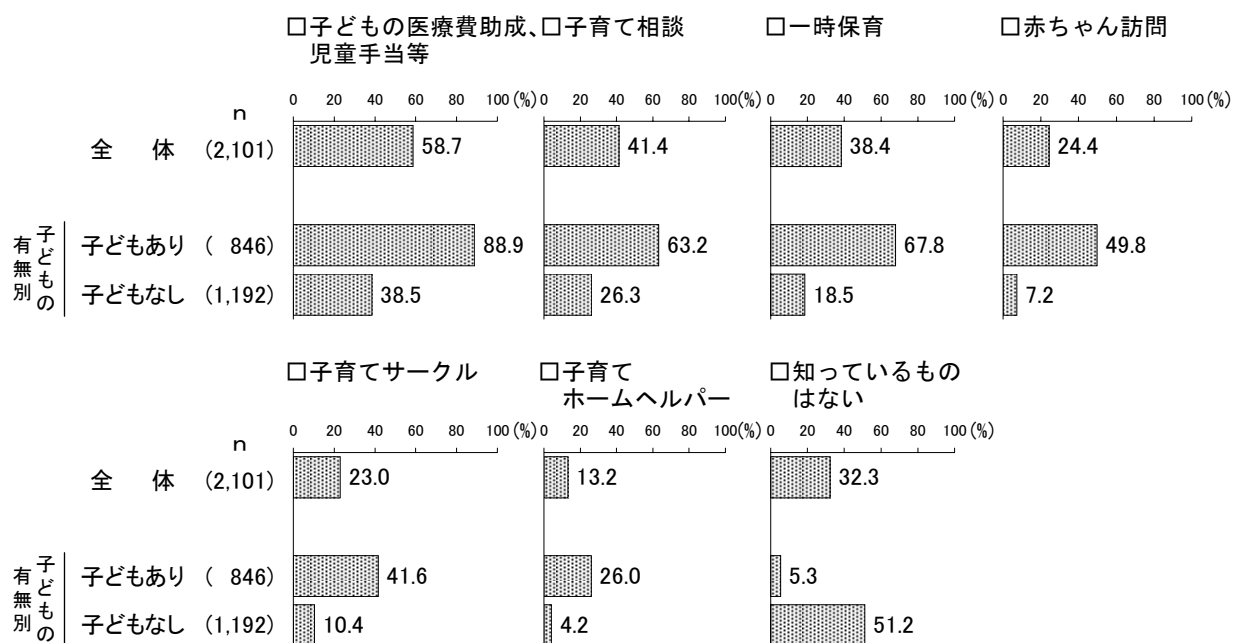


子どもを持つうえで利用できる区のサービスで知っているものを聞いたところ、「子どもの医療費助成、児童手当等」(58.7%)が6割近くで最も高く、次いで「子育て相談」(41.4%)、「一時保育」(38.4%)の順となっている。一方、「知っているものはない」(32.3%)は3割を超えている。

(図 5-5)

子どもの有無別にみると、全ての区のサービスで“子どもあり”が“子どもなし”より高くなっており、「子どもの医療費助成、児童手当等」は50.4ポイント、「一時保育」は49.3ポイント、それぞれ差が大きくなっている。一方、「知っているものはない」は“子どもなし”（51.2%）が“子どもあり”（5.3%）より45.9ポイント高くなっている。（図5-6）

図5-6 子どもを持つうえで利用できる区のサービスの認知状況（子どもの有無別）



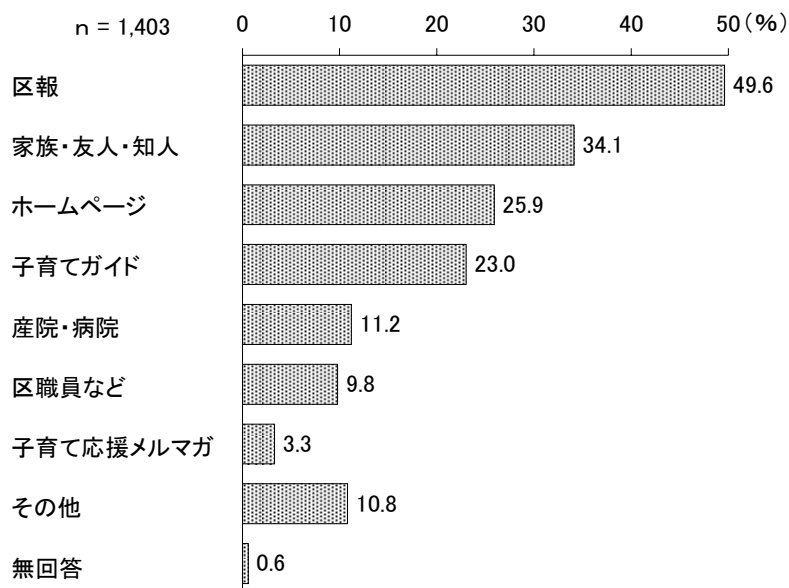
(3-1) 区のサービスを知った機会

◇「区報」が5割

(問15で、「子育て相談」「子育てサークル」「一時保育」「子どもの医療費助成、児童手当等」「子育てホームヘルパー」「赤ちゃん訪問」のいずれかをお選びの方に)

問15-1 区のサービスをどこで知りましたか。(〇はいくつでも)

図5-7



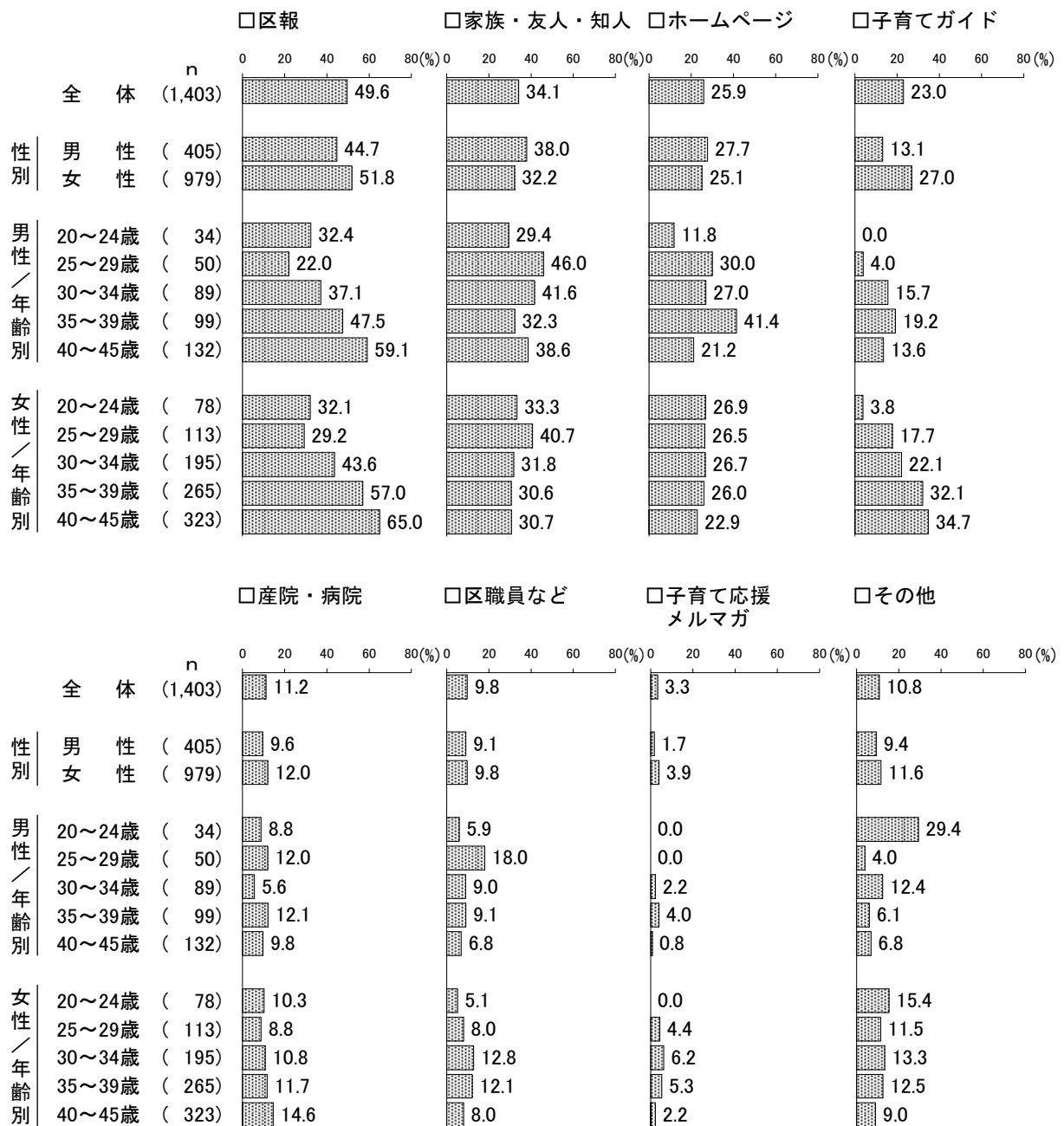
子どもを持つうえで利用できる区のサービスを1つでも「知っている」と答えた方(1,403人)に、区のサービスをどこで知ったか聞いたところ、「区報」(49.6%)が5割で最も高く、次いで「家族・友人・知人」(34.1%)、「ホームページ」(25.9%)、「子育てガイド」(23.0%)の順となっている。(図5-7)

性別にみると、「子育てガイド」は女性（27.0%）が男性（13.1%）より13.9ポイント高くなっている。一方、「家族・友人・知人」は男性（38.0%）が女性（32.2%）より5.8ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「区報」は男女ともにおおむね年齢が高くなるほど割合が高く、女性40～45歳（65.0%）で6割半ばとなっている。また、「家族・友人・知人」は男性25～29歳（46.0%）で4割半ばと高く、「ホームページ」は男性35～39歳（41.4%）で4割を超え高くなっている。

（図5-8）

図5-8 区のサービスを知った機会（性・年齢別）

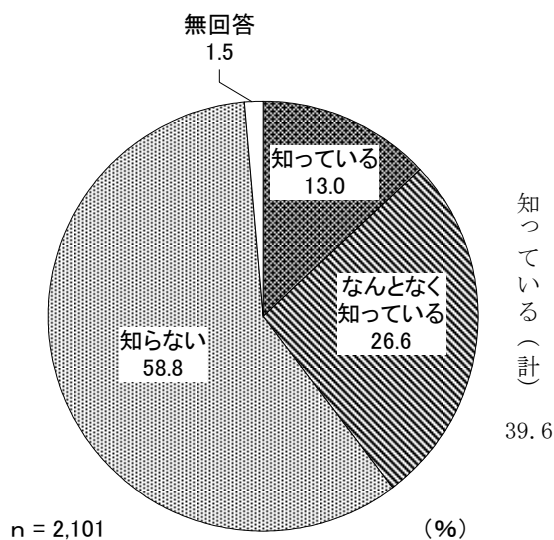


(4) 保健師などの継続的に相談できる人がいることの認知状況

◇「知っている」と「なんとなく知っている」を合わせた『知っている（計）』は4割

問 16 妊娠、出産、子育てに際し、お住まいの地域ごとに保健師などの継続的に相談できる人がいることを知っていますか。(○は1つ)

図 5-9

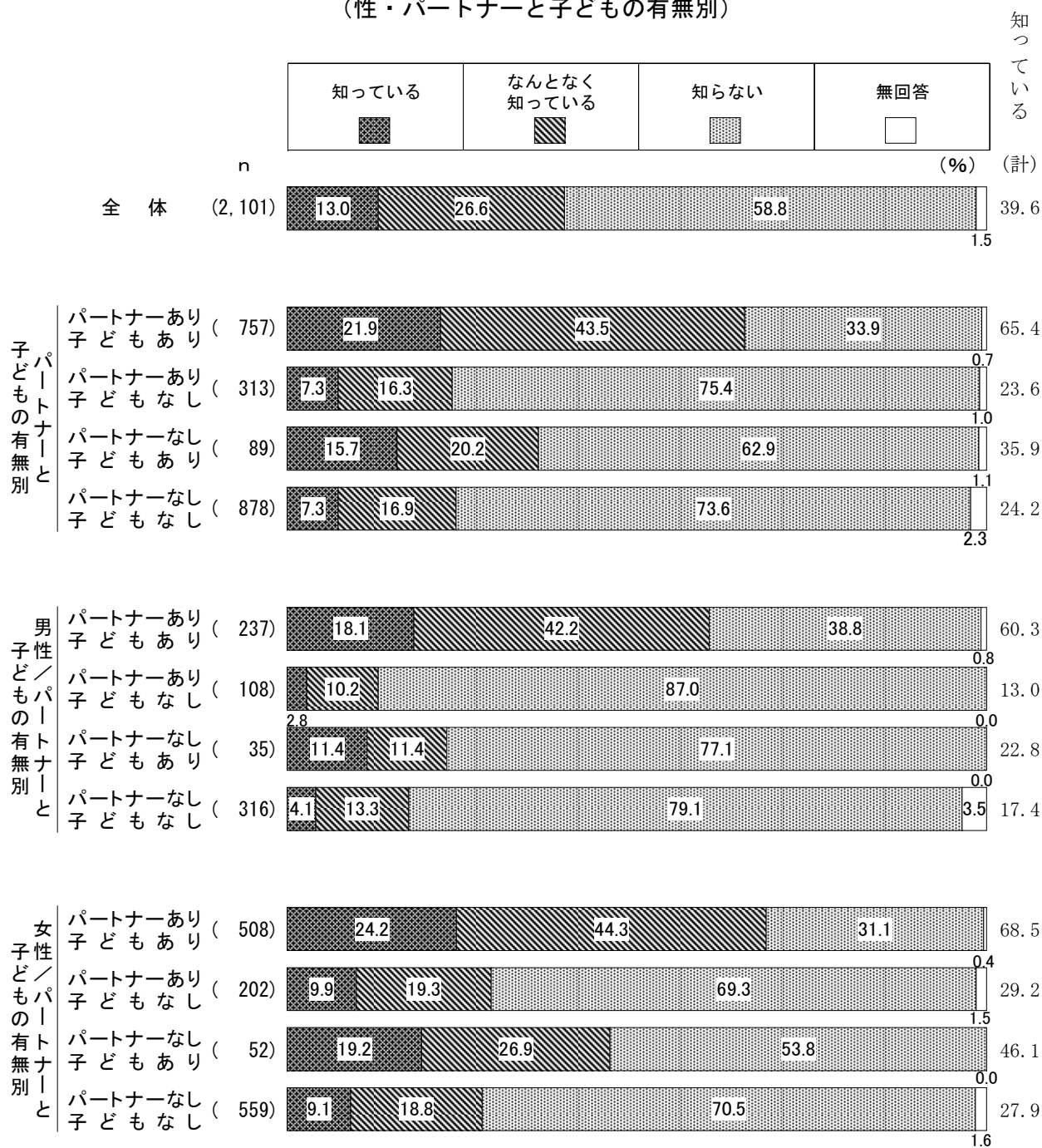


妊娠、出産、子育てに際し、住まいの地域ごとに保健師などの継続的に相談できる人がいることを知っているか聞いたところ、「知っている」(13.0%)と「なんとなく知っている」(26.6%)を合わせた『知っている(計)』(39.6%)は4割となっている。一方、「知らない」(58.8%)は6割近くとなっている。(図5-9)

パートナーと子どもの有無別にみると、『知っている（計）』は“パートナーあり・子どもあり”（65.4%）で6割半ばと高くなっている。

性・パートナーと子どもの有無別にみると、『知っている（計）』は男女ともに“パートナーあり・子どもあり”（男性60.3%・女性68.5%）で6割台、女性の“パートナーなし・子どもあり”（46.1%）で4割半ばと高くなっている。（図5-10）

図5-10 保健師などの継続的に相談できる人がいることの認知状況
（性・パートナーと子どもの有無別）



※ “パートナーあり”は婚姻状況（問1）で「結婚している」と答えた方。
“パートナーなし”は婚姻状況（問1）で「結婚していたが今は死別している」「結婚していたが今は離別している」「結婚したことはない」と答えた方。

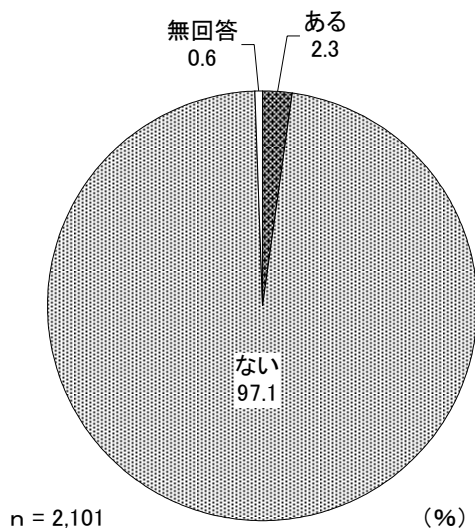
※ “子どもあり”は子どもの人数（問3）で「1人」「2人」「3人」「4人」「5人以上」と答えた方。
“子どもなし”は子どもの人数（問3）で「いない」と答えた方。

(5) ライフプランについて考えるセミナーへの参加状況

◇参加したことが「ない」は全数近く

問 17 文京区では早い時期から自らの将来について考え、健康で豊かな生活を送ることを目的とした研修といった、ライフプランについて考えるセミナーを実施していく予定です。そのようなライフプランについて考えるセミナーなどを受講したことがありますか。(○は1つ)

図 5-11



ライフプランについて考えるセミナーなどを受講したことがあるか聞いたところ、「ある」(2.3%)はわずかとなっており、「ない」(97.1%)が全数近くとなっている。(図 5-11)

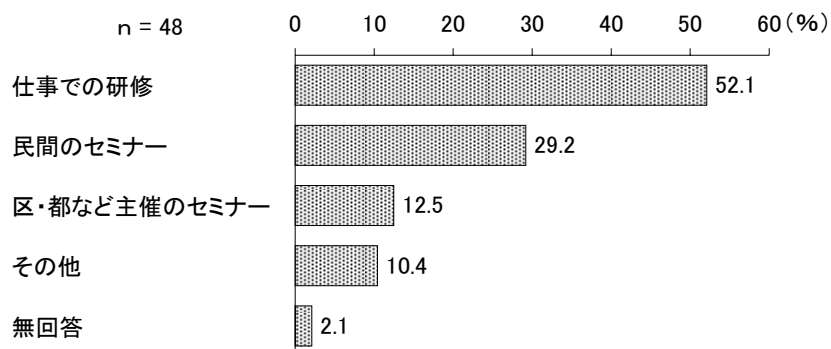
(5-1) ライフプランについて考えるセミナーへの参加機会

◇「仕事での研修」が5割を超える

(問17で、「ある」とお答えの方に)

問17-1 ライフプランについて考えるセミナーなどを受講したのはどのような機会でしたか。(〇はいくつでも)

図5-12



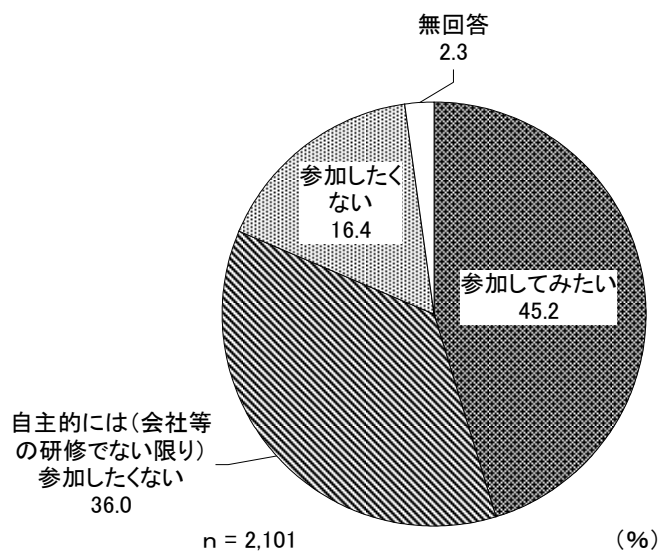
ライフプランについて考えるセミナーに参加したことが「ある」と答えた方(48人)に、セミナーへの参加機会を聞いたところ、「仕事での研修」(52.1%)が5割を超え最も高く、次いで「民間のセミナー」(29.2%)、「区・都など主催のセミナー」(12.5%)の順となっている。(図5-12)

(6) ライフプランについて考えるセミナーへの参加意向

◇「参加してみたい」が4割半ば

問 18 問 17 のような研修の機会があれば参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

図 5-13

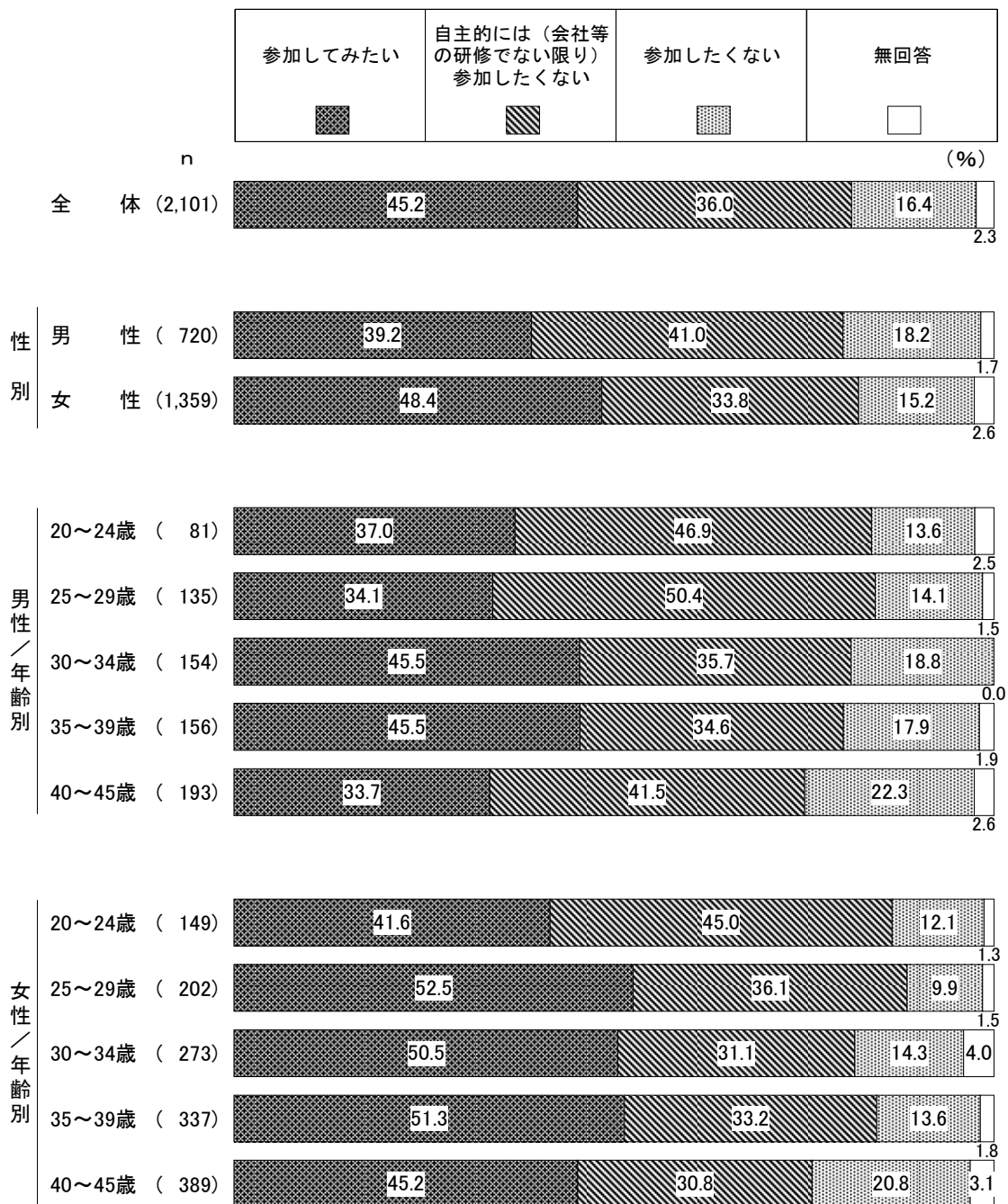


ライフプランについて考えるセミナーへの参加意向を聞いたところ、「参加してみたい」(45.2%)が4割半ばとなっている。一方、「自主的には(会社等の研修でない限り)参加したくない」(36.0%)と「参加したくない」(16.4%)を合わせた『参加したくない(計)』(52.4%)は5割を超えている。(図5-13)

性別にみると、「参加してみたい」は女性（48.4%）が男性（39.2%）より9.2ポイント高くなっている。一方、『参加したくない（計）』は男性（59.2%）が女性（49.0%）より10.2ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると「参加してみたい」は女性の25～29歳（52.5%）、30～34歳（50.5%）、35～39歳（51.3%）で5割台と高くなっている。一方、『参加したくない（計）』は男性の20～24歳（60.5%）、25～29歳（64.5%）、40～45歳（63.8%）で6割台と高くなっている。（図5-14）

図5-14 ライフプランについて考えるセミナーへの参加意向（性・年齢別）



6. 健康に関する状況・知識について

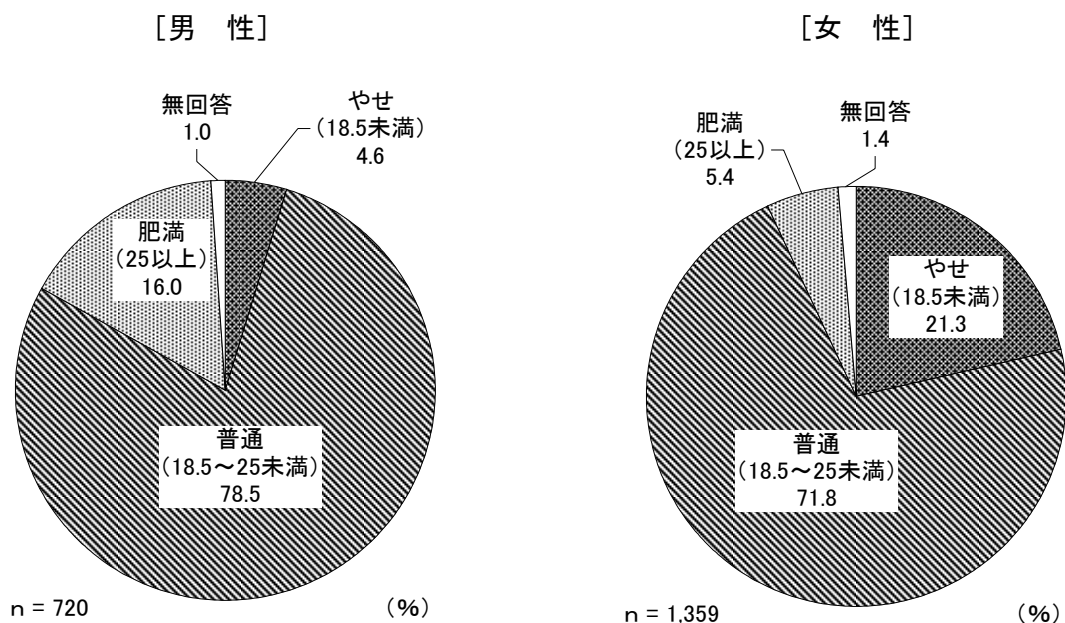
(1) BMI

◇「やせ」は女性が男性より 16.7 ポイント高い

身長と体重（問 19）の回答から、以下の式により BMI を計算し、BMI が 18.5 未満を「やせ」、18.5 以上 25 未満を「普通」、25 以上を「肥満」として区分した。

$$BMI(\text{Body Mass Index}) = \text{体重}(\text{kg}) \div \text{身長}(\text{m}) \div \text{身長}(\text{m})$$

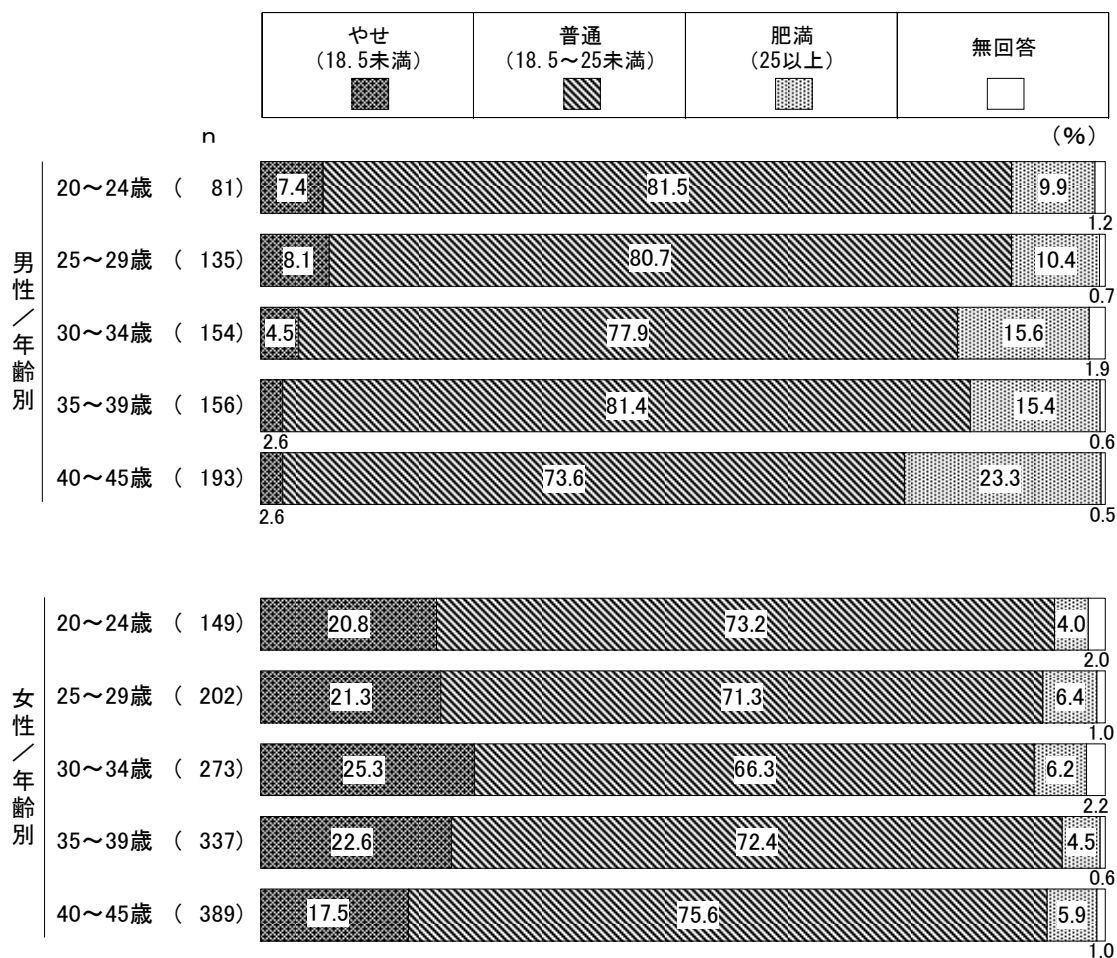
図 6-1



BMI を性別にみると、「やせ」は女性（21.3%）が男性（4.6%）より 16.7 ポイント高く、「肥満」は男性（16.0%）が女性（5.4%）より 10.6 ポイント高くなっている。（図 6-1）

性・年齢別にみると、「やせ」は女性 30～34 歳（25.3%）で 2 割半ば、「肥満」は男性 40～45 歳（23.3%）で 2 割を超えている。（図 6-2）

図 6-2 BMI（性・年齢別）

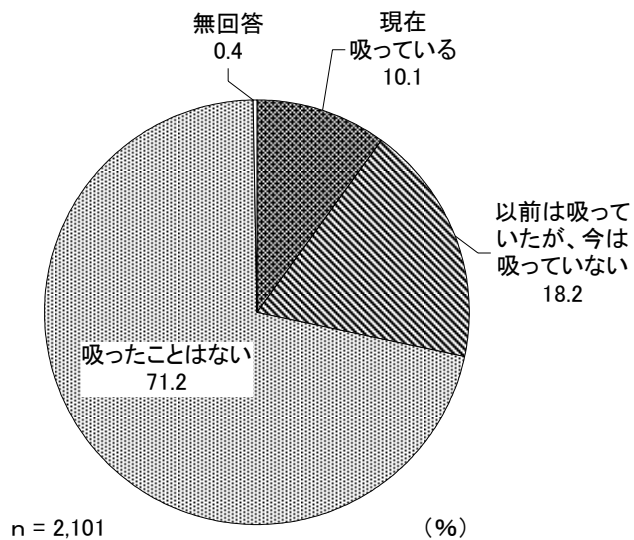


(2) 喫煙状況

◇「吸ったことはない」が7割を超える

問 20 あなたは、タバコを吸っていますか。あるいは吸ったことがありますか。(○は1つ)

図 6-3

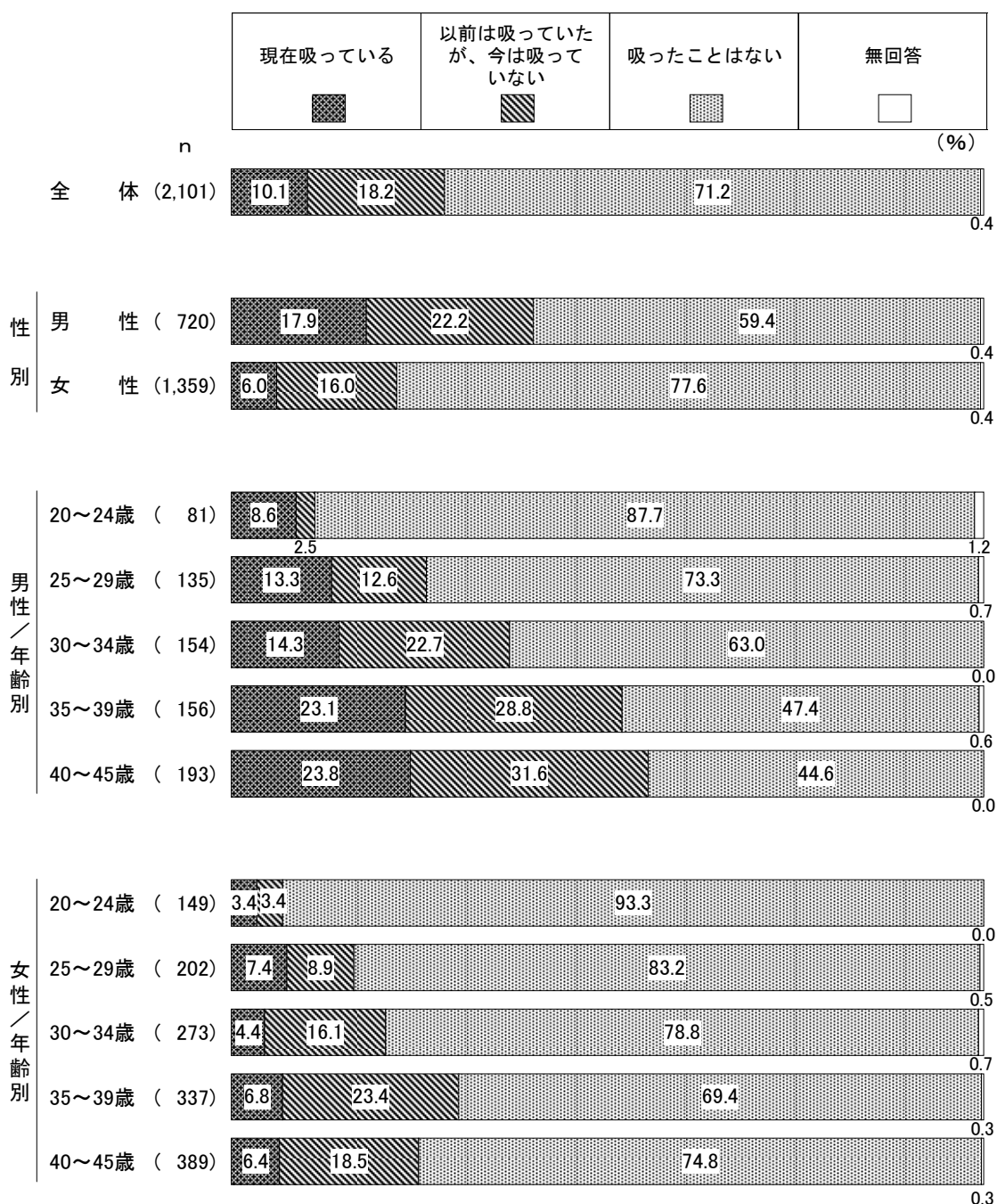


タバコを吸っているか聞いたところ、「現在吸っている」(10.1%)は1割、「以前は吸っていたが、今は吸っていない」(18.2%)は2割近く、「吸ったことはない」(71.2%)が7割を超えている。(図6-3)

性別にみると、「吸ったことはない」は女性（77.6%）が男性（59.4%）より18.2ポイント高くなっている。一方、「現在吸っている」は男性（17.9%）が女性（6.0%）より11.9ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「吸ったことはない」は男女ともにおおむね年齢が低くなるほど割合が高く、女性20～24歳（93.3%）で9割を超え、男性20～24歳（87.7%）で9割近くとなっている。一方、「現在吸っている」は男性の35～39歳（23.1%）と40～45歳（23.8%）で2割を超えている。（図6-4）

図6-4 喫煙状況（性・年齢別）

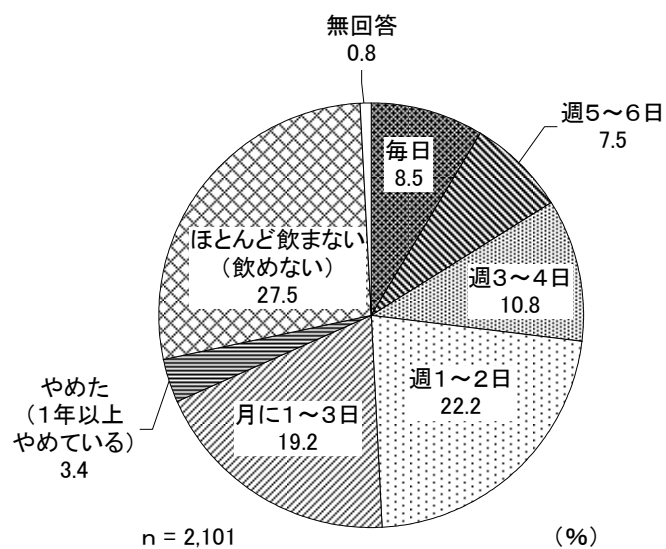


(3) 飲酒状況

◇「ほとんど飲まない（飲めない）」が3割近く、「週1～2日」が2割を超える

問21 あなたは、週に何日くらいお酒を飲みますか。(○は1つ)

図6-5

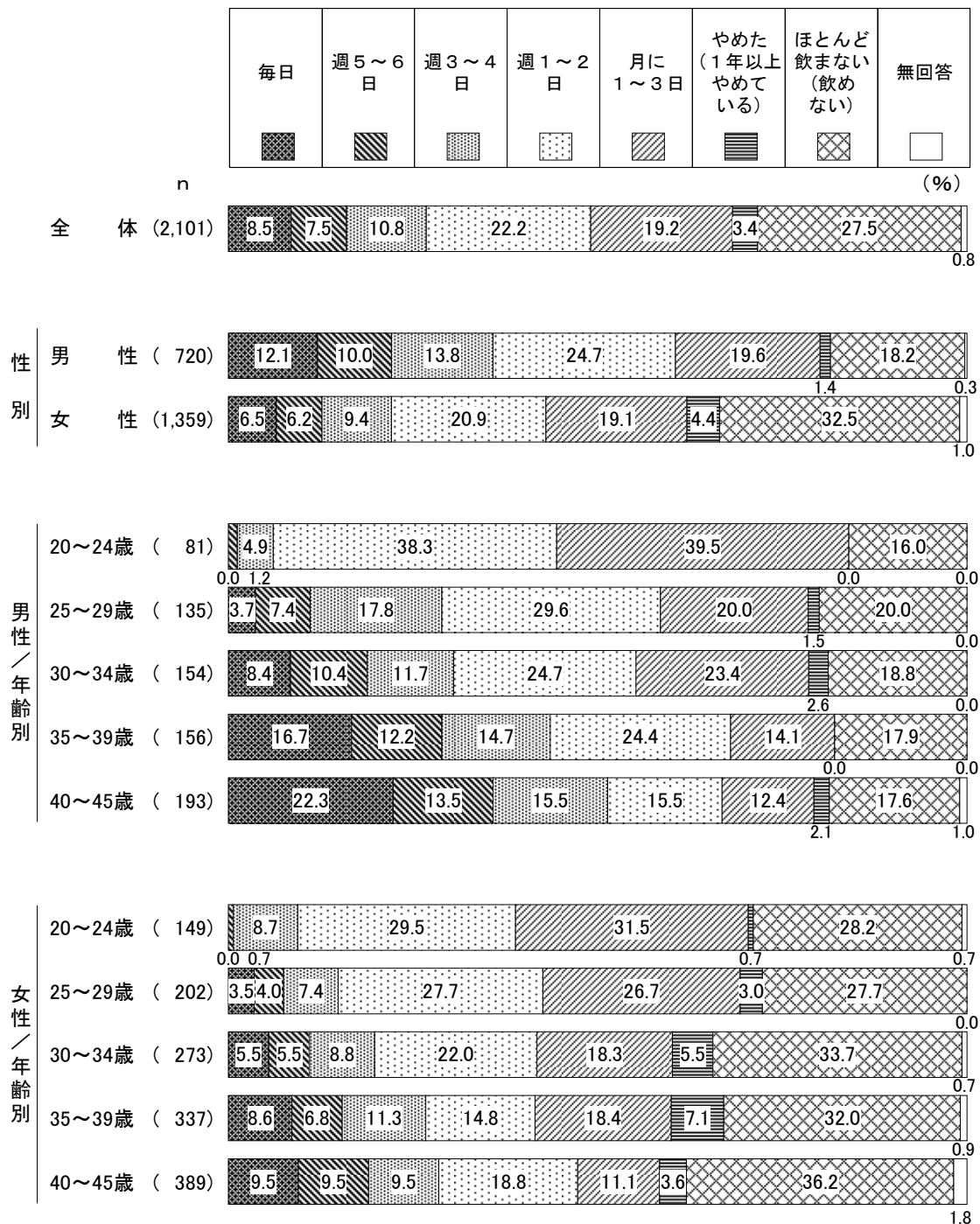


週に何日くらいお酒を飲むか聞いたところ、「ほとんど飲まない（飲めない）」（27.5%）が3割近くで最も高くなっている。次いで「週1～2日」（22.2%）、「月に1～3日」（19.2%）、「週3～4日」（10.8%）の順となっている。（図6-5）

性別にみると、「ほとんど飲まない（飲めない）」は女性（32.5%）が男性（18.2%）より 14.3 ポイント高くなっている。一方、「毎日」は男性（12.1%）が女性（6.5%）より 5.6 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「毎日」は男女ともに年齢が高くなるほど割合が高く、男性40～45歳（22.3%）で2割を超えている。また、「ほとんど飲まない（飲めない）」は女性40～45歳（36.2%）で3割半ばと高くなっている。（図6-6）

図6-6 飲酒状況（性・年齢別）



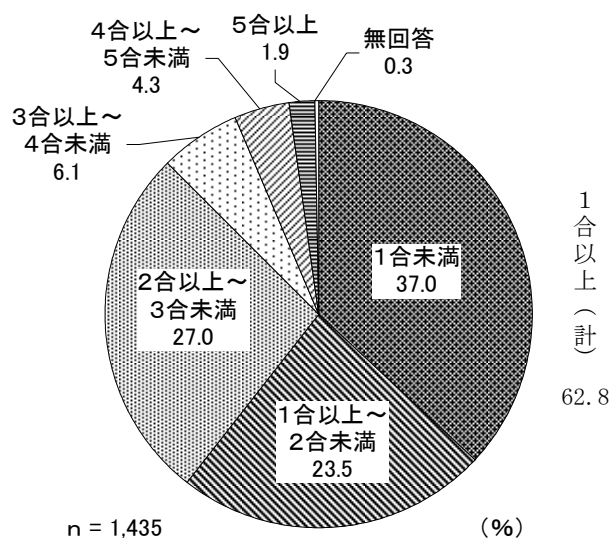
(3-1) 1日の飲酒量

◇「1合以上～2合未満」「2合以上～3合未満」「3合以上～4合未満」「4合以上～5合未満」「5合以上」を合わせた『1合以上(計)』が6割を超える

(問21で、「毎日」「週5～6日」「週3～4日」「週1～2日」「月に1～3日」とお答えの方に)

問21-1 お酒を飲む日は1日あたり、どれくらいの量を飲みますか。清酒に換算し、あてはまる番号を選んでください。(○は1つ)

図6-7



※清酒1合(180ml)は、次の量にほぼ相当する。

ビール・発泡酒中瓶(約500ml)、ワイン2杯(約240ml) 焼酎20度(135ml)、焼酎25度(110ml)、焼酎35度(80ml) チュウハイ7度(350ml)、ウイスキーダブル1杯(60ml)

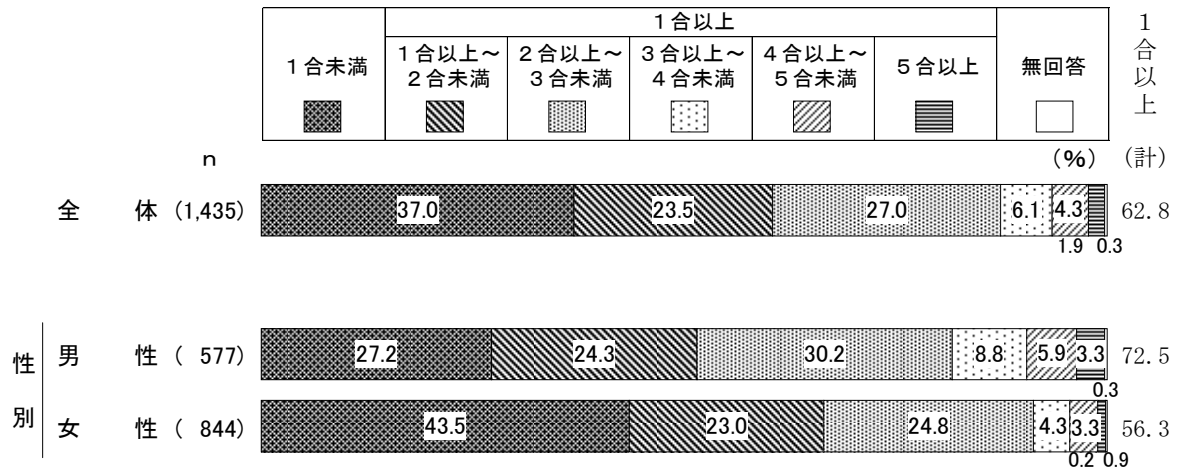
※「節度ある適度な飲酒」としては、1日平均純アルコールで約20g程度(1合=22g)である。

(厚生労働省ホームページより)

飲酒状況で、「月に1日以上飲酒する」と答えた方(1,435人)に、1日の飲酒量について聞いたところ、「1合以上～2合未満」(23.5%)、「2合以上～3合未満」(27.0%)、「3合以上～4合未満」(6.1%)、「4合以上～5合未満」(4.3%)、「5合以上」(1.9%)を合わせた『1合以上(計)』(62.8%)は6割を超えている。一方、「1合未満」(37.0%)は4割近くとなっている。(図6-7)

性別にみると、「1合未満」は女性（43.5%）が男性（27.2%）より16.3ポイント高くなっている。（図6-8）

図6-8 1日の飲酒量（性別）



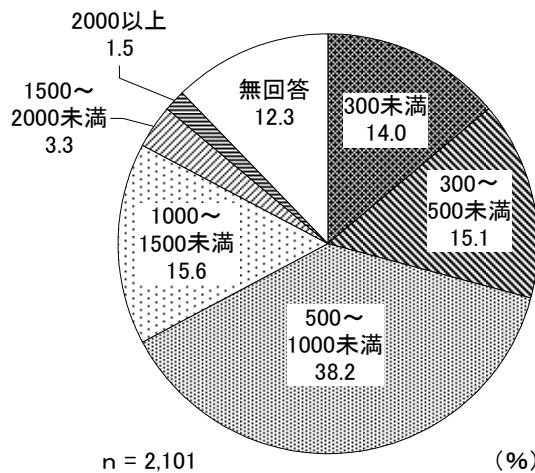
(4) 1日の消費エネルギー

◇「500～1000 未満」が4割近く

問 22～24 で得られた 1 週間の身体活動量より 1 日の消費エネルギーを求め、分類した。
1 日の消費エネルギーは以下の式により求められる。

$$1 \text{ 日の消費エネルギー} = \text{身体活動量}(\text{Mets} \cdot \text{min}) \times 3.5(\text{ml}/\text{kg}/\text{min}) \times 0.005(\text{kcal}/\text{ml}) \times \text{体重}(\text{kg})$$

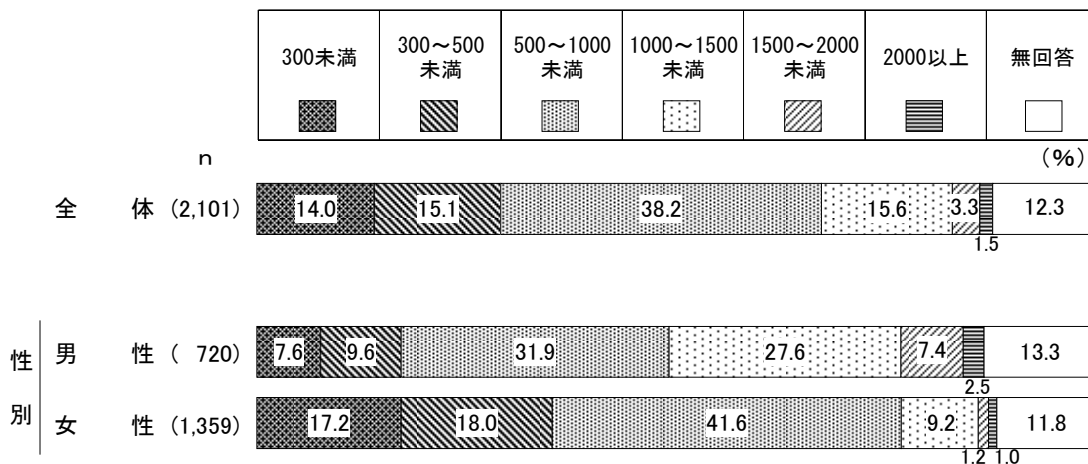
図 6-9



1 日の消費エネルギーを求めたところ、「500～1000 未満」(38.2%) が 4 割近くで最も高く、次いで「1000～1500 未満」(15.6%)、「300～500 未満」(15.1%)、「300 未満」(14.0%) の順となっている。(図 6-9)

性別にみると、「1000～1500 未満」は男性 (27.6%) が女性 (9.2%) より 18.4 ポイント高くなっている。一方、「500～1000 未満」は女性 (41.6%) が男性 (31.9%) より 9.7 ポイント高くなっている。(図 6-10)

図 6-10 1日の消費エネルギー (性別)

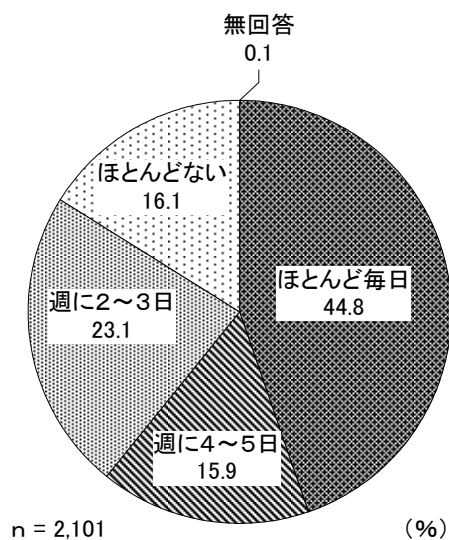


(5) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数

◇「ほとんど毎日」が4割半ば

問27 あなたは、主食・主菜・副菜を3つそろえて食べるのが、1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。(○は1つ)

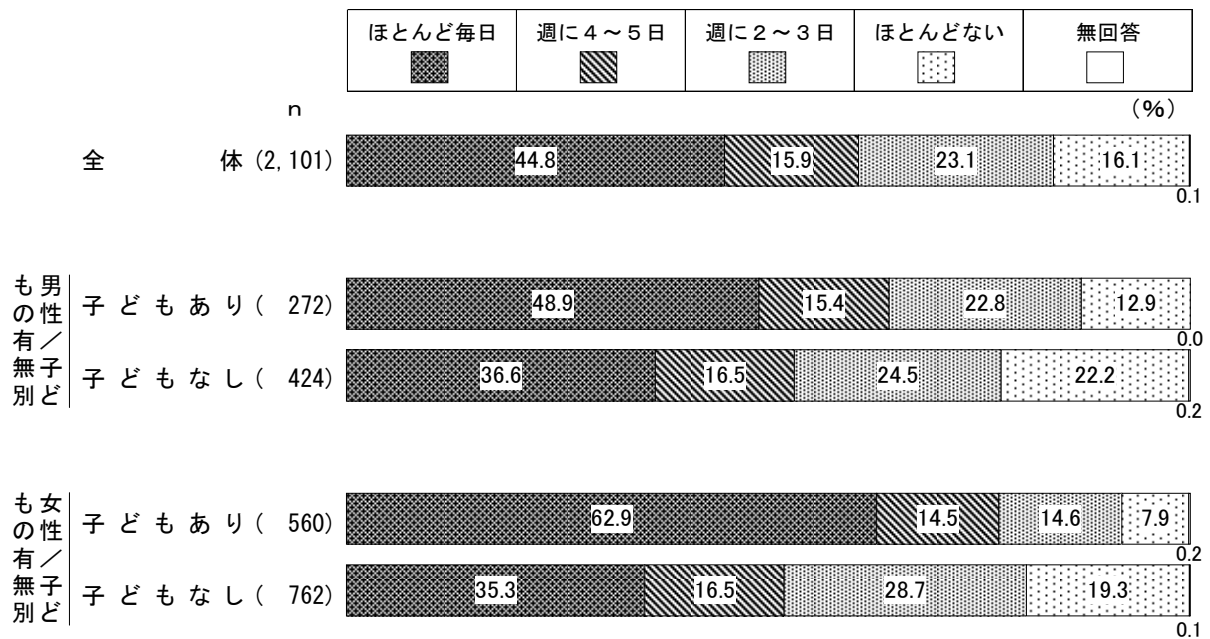
図6-11



主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる日数（1日に2回以上）を聞いたところ、「ほとんど毎日」（44.8%）が4割半ばで最も高く、次いで「週に2~3日」（23.1%）の順となっている。一方、「ほとんどない」（16.1%）は1割半ばとなっている。（図6-11）

性・子どもの有無別にみると、「ほとんど毎日」は男女ともに“子どもあり”が“子どもなし”より高くなっており、女性では“子どもあり”（62.9%）が“子どもなし”（35.3%）より 27.6 ポイント、男性では“子どもあり”（48.9%）が“子どもなし”（36.6%）より 12.3 ポイント、それぞれ高くなっている。（図 6-12）

図 6-12 主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数（性・子どもの有無別）

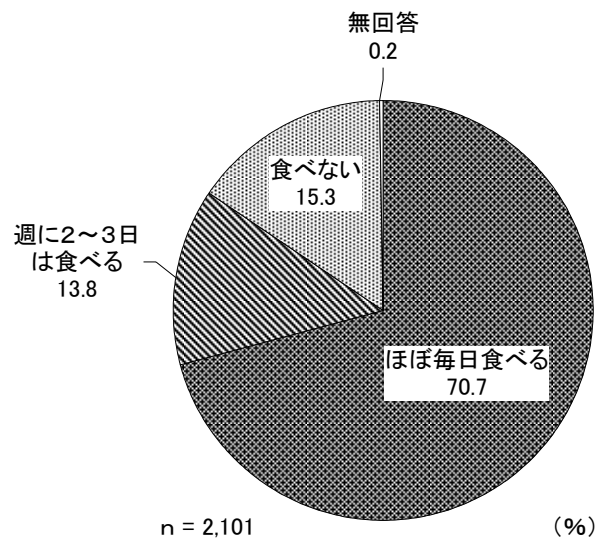


(6) 朝食摂取状況

◇「ほぼ毎日食べる」が約7割

問 28 あなたは朝食を食べていますか。(○は1つ)

図 6-13

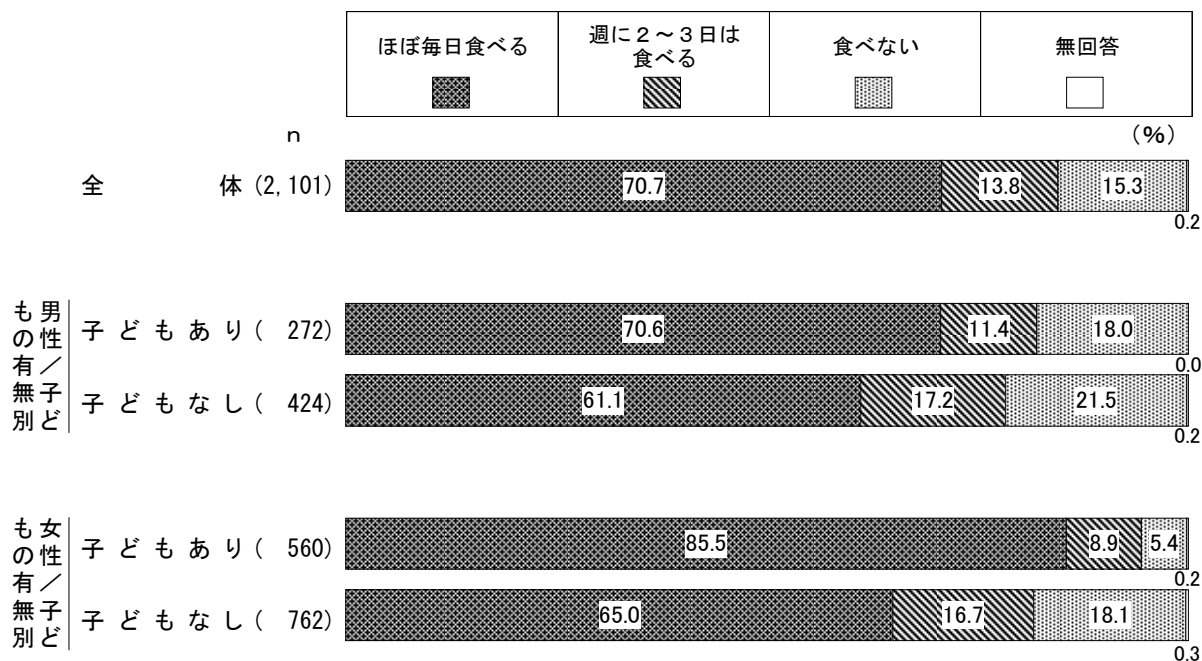


朝食摂取状況について聞いたところ、「ほぼ毎日食べる」(70.7%)が約7割、「週に2~3日は食べる」(13.8%)は1割を超えている。一方、「食べない」(15.3%)は1割半ばとなっている。

(図 6-13)

性・子どもの有無別にみると、「ほぼ毎日食べる」は男女ともに“子どもあり”が“子どもなし”より高くなっており、女性では“子どもあり”（85.5%）が“子どもなし”（65.0%）より 20.5 ポイント、男性では“子どもあり”（70.6%）が“子どもなし”（61.1%）より 9.5 ポイント、それぞれ高くなっている。（図 6-14）

図 6-14 朝食摂取状況（性・子どもの有無別）



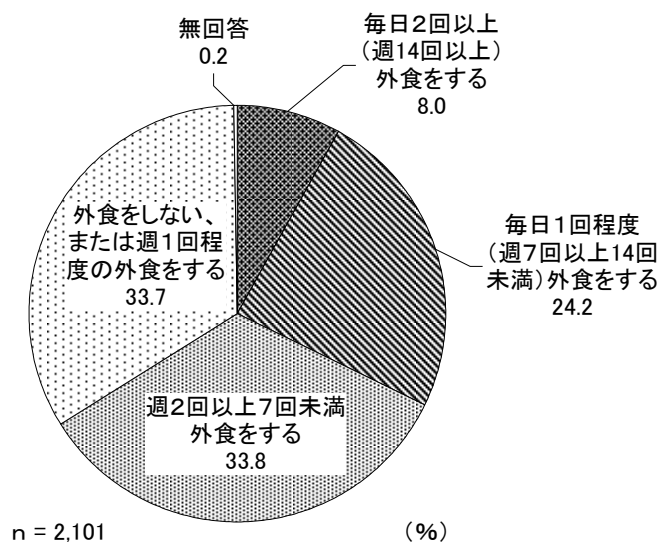
(7) 外食の有無

◇「週2回以上7回未満外食をする」と「外食をしない、または週1回程度の外食をする」がともに3割を超える

問 29 あなたは普段外食をすることがありますか。(○は1つ)

※外食とは、飲食店での食事など家庭外で食べる場合とします。

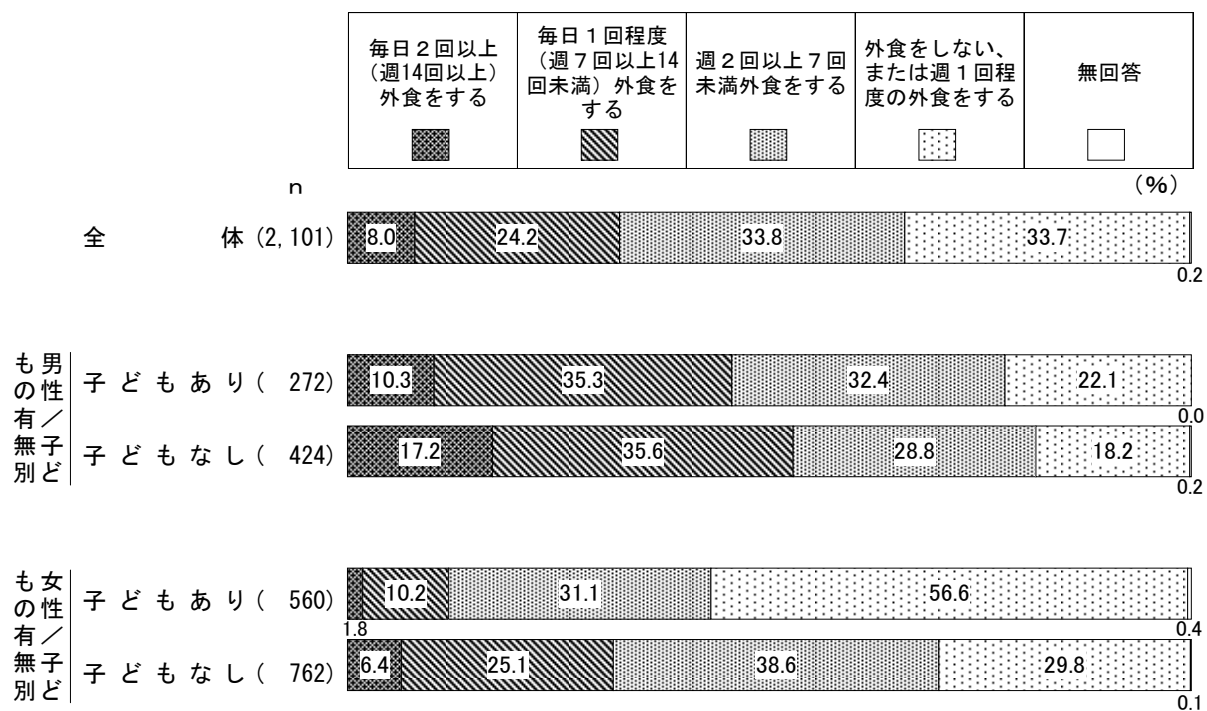
図 6-15



普段外食をすることがあるか聞いたところ、「週2回以上7回未満外食をする」(33.8%)と「外食をしない、または週1回程度の外食をする」(33.7%)がともに3割を超え高くなっている。次いで「毎日1回程度(週7回以上14回未満)外食をする」(24.2%)、「毎日2回以上(週14回以上)外食をする」(8.0%)の順となっている。(図6-15)

性・子どもの有無別にみると、「外食をしない、または週1回程度の外食をする」は女性の“子どもあり”（56.6%）で6割近くと高くなっている。（図6-16）

図6-16 外食の有無（性・子どもの有無別）



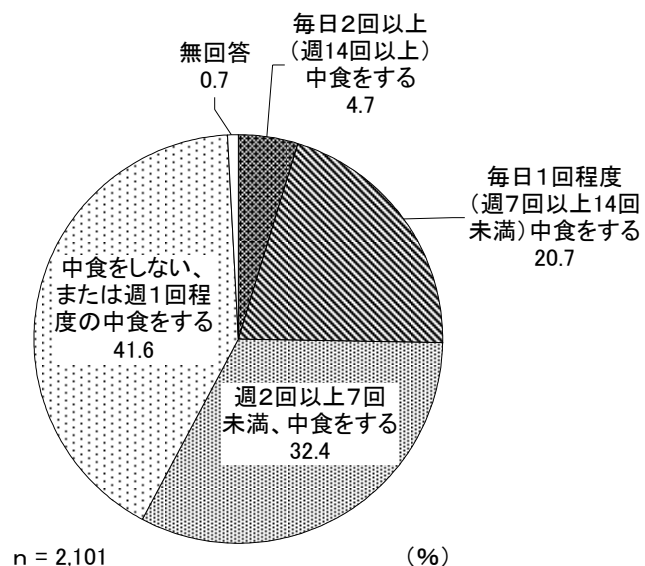
(8) 中食の有無

◇「中食をしない、または週1回程度の中食をする」が4割を超える

問 30 あなたは普段中食をすることがありますか。(○は1つ)

※中食とは家庭以外の場所での前をとったり、市販のお弁当を買って食べる場合とします。
例えば、職場で市販のお弁当を買って食べた場合は中食とします。

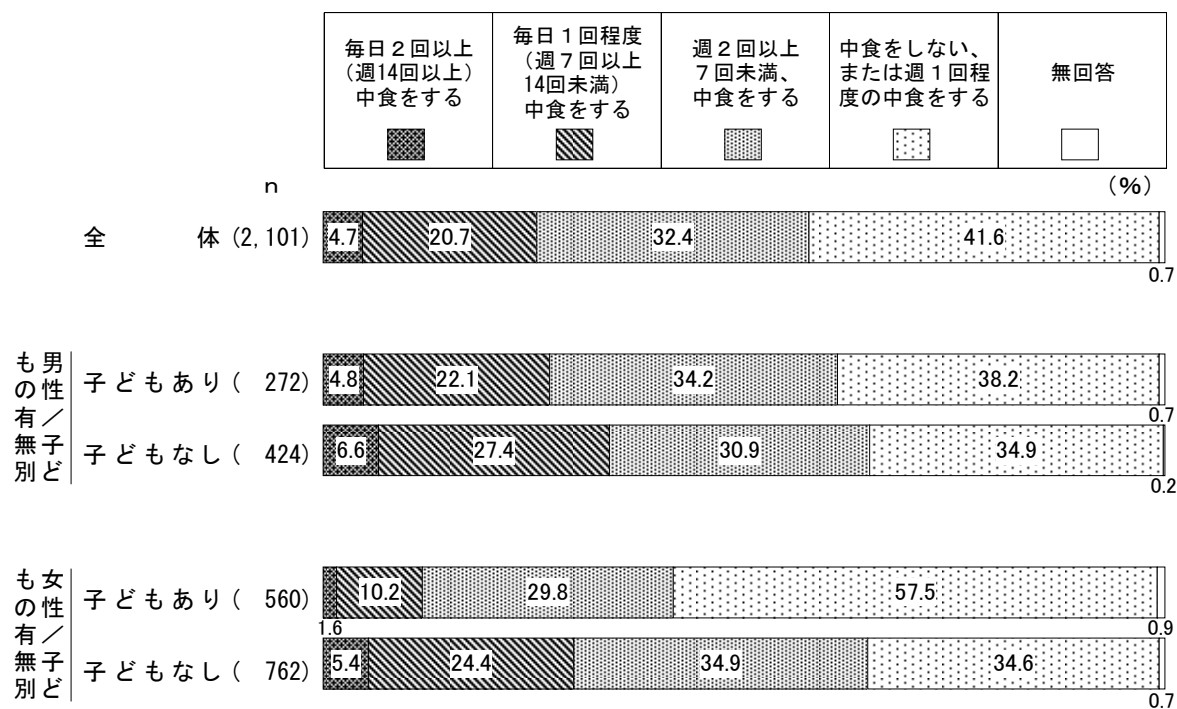
図 6-17



普段中食をすることがあるか聞いたところ、「中食をしない、または週1回程度の中食をする」(41.6%)が4割を超え最も高く、次いで「週2回以上7回未満、中食をする」(32.4%)、「毎日1回程度(週7回以上14回未満)中食をする」(20.7%)、「毎日2回以上(週14回以上)中食をする」(4.7%)の順となっている。(図6-17)

性・子どもの有無別にみると、「中食をしない、または週1回程度の中食をする」は女性の“子どもあり”（57.5%）で6割近くと高くなっている。（図6-18）

図6-18 中食の有無（性・子どもの有無別）



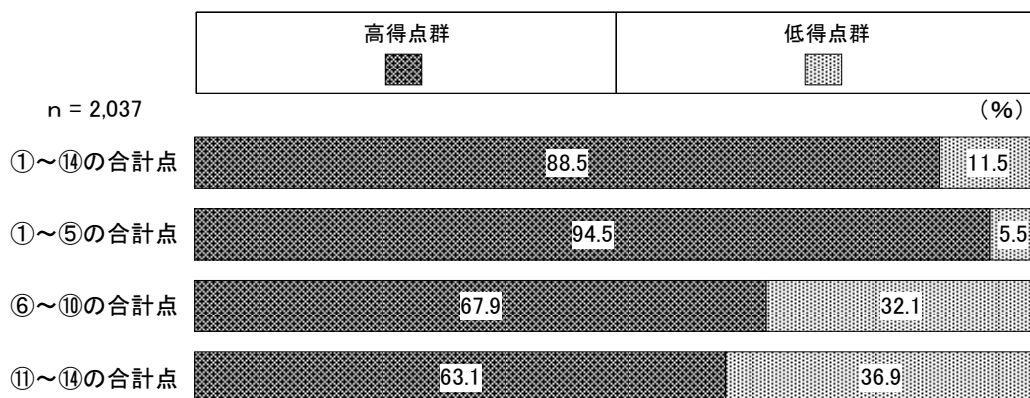
(9) ヘルスリテラシー

◇ “①～⑭の合計点” では「高得点群」が9割近く

問 31 以下のことがらについて、あてはまるものはどれですか。(○はそれぞれ1つずつ)
 ※以下の①～⑭のことがらについて、「あてはまる」「ややあてはまる」「あてはまらない」
 で回答してもらい、以下の基準により点数化し、高得点群、低得点群に分類した。

	点数			分類基準	
	あてはまる	ややあてはまる	あてはまらない	高得点群	低得点群
(1) 病院や薬局からもらう説明書やパンフレットを読む際に					
① 読めない漢字がある	各1点	各2点	各3点	11～15点	5～10点
② 字が細かくて読みにくいと感じる					
③ 内容が難しくて分かりにくいと感じる					
④ 読むのに時間がかかる					
⑤ 誰かに代わりに読んでもらうことがある					
(2) ある病気と診断された際、その病気やその治療法・健康法について					
⑥ いろいろなところから情報を集めた	各3点	各2点	各1点	11～15点	5～10点
⑦ たくさんある情報から自分が求めるものを選び出した					
⑧ 自分が見聞きした情報を理解できた					
⑨ 病気についての自分の意見や考えを医師や身近な人に伝えた					
⑩ 見聞きした情報をもとに実際に生活を変えてみた					
(3) ある病気と診断された際、その病気やその治療法・健康法に関して、自分が 見聞きした情報を					
⑪ 自分にも当てはまるかどうか考えた	各3点	各2点	各1点	9～12点	4～8点
⑫ 信頼性に疑問を持った					
⑬ 正しいかどうか聞いたり調べたりした					
⑭ 病院や治療法などを自分で決めるために調べた					
①～⑭の合計				29～42点	14～28点

図 6-19



上記の①～⑭のことがらについて、「あてはまる」「ややあてはまる」「あてはまらない」で回答してもらい、高得点群、低得点群に分類したところ、「高得点群」は“①～⑤の合計点”(94.5%)、“⑥～⑩の合計点”(67.9%)、“⑪～⑭の合計点”(63.1%)となっており、“①～⑭の合計点”(88.5%)では9割近くとなっている。(図 6-19)

7. 医療機関の利用状況について

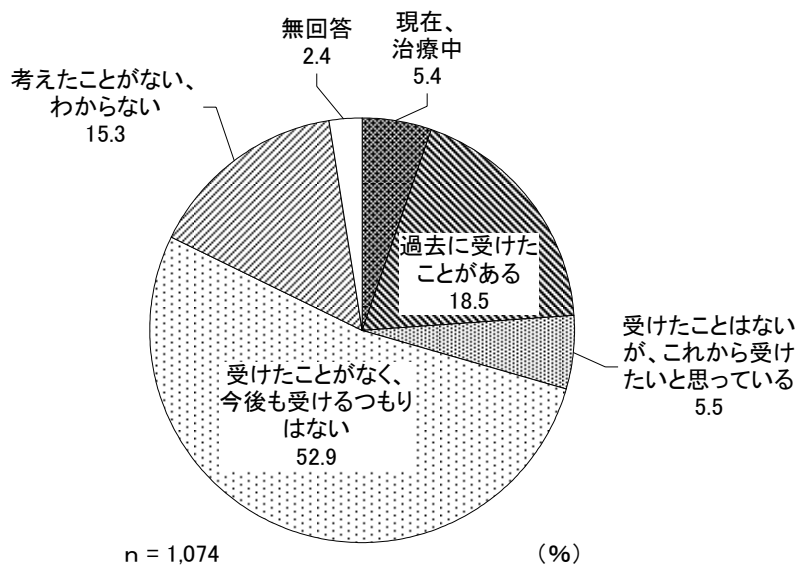
(1) 不妊治療の受診状況

◇「受けたことがなく、今後も受けるつもりはない」が5割を超える

結婚している（問1で「結婚している」と答えた）方にお伺いします。

問32 あなたか配偶者、あるいはお二人で不妊治療を受けたことはありますか。（○は1つ）

図7-1

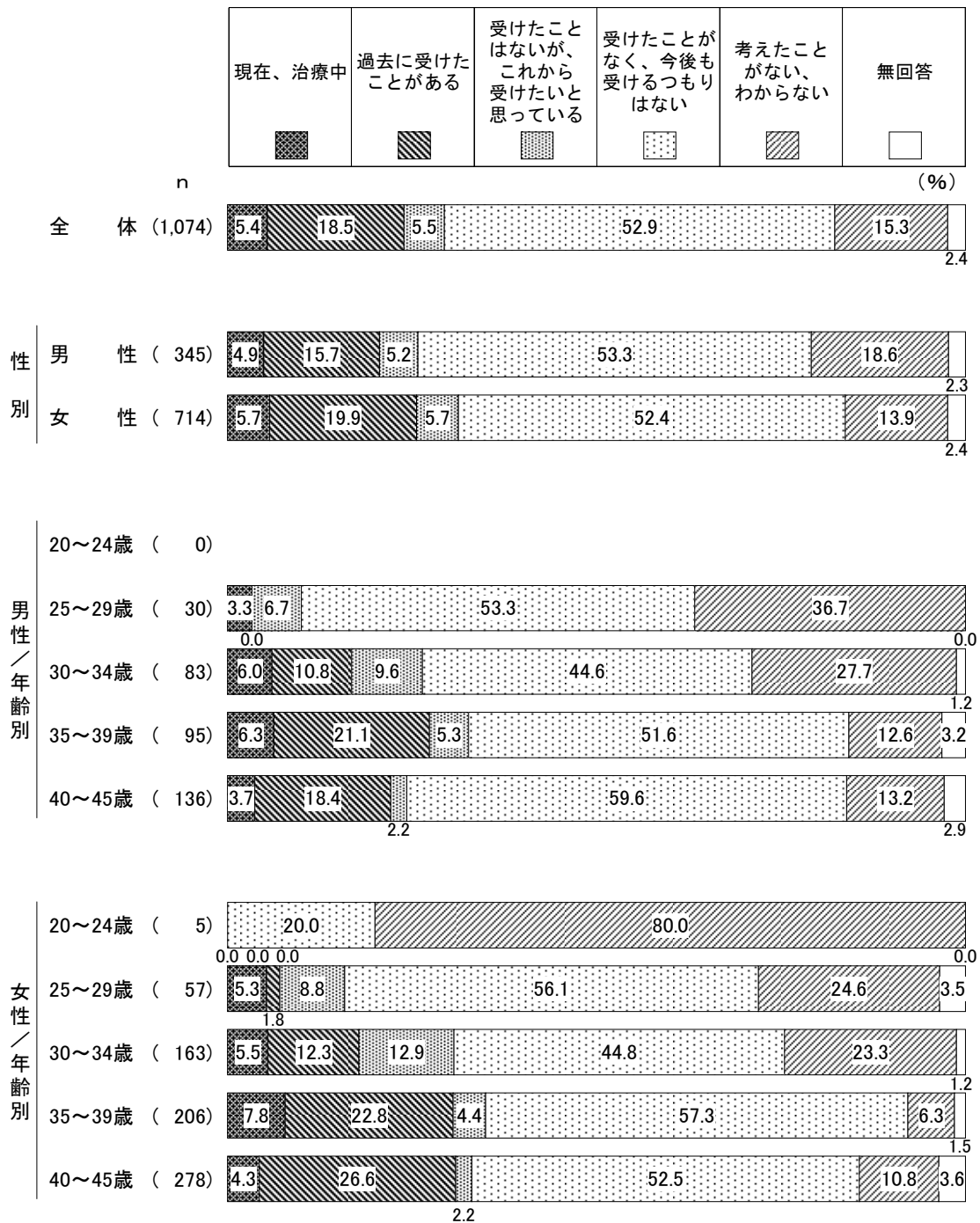


結婚している方（1,074人）に、自分か配偶者、あるいは二人で不妊治療を受けたことはあるか聞いたところ、「受けたことがなく、今後も受けるつもりはない」（52.9%）が5割を超え最も高く、次いで「過去に受けたことがある」（18.5%）、「考えたことがない、わからない」（15.3%）の順となっている。（図7-1）

性別にみると、「考えたことがない、わからない」は男性（18.6%）が女性（13.9%）より 4.7 ポイント高くなっている。一方、「過去に受けたことがある」は女性（19.9%）が男性（15.7%）より 4.2 ポイント高くなっている。

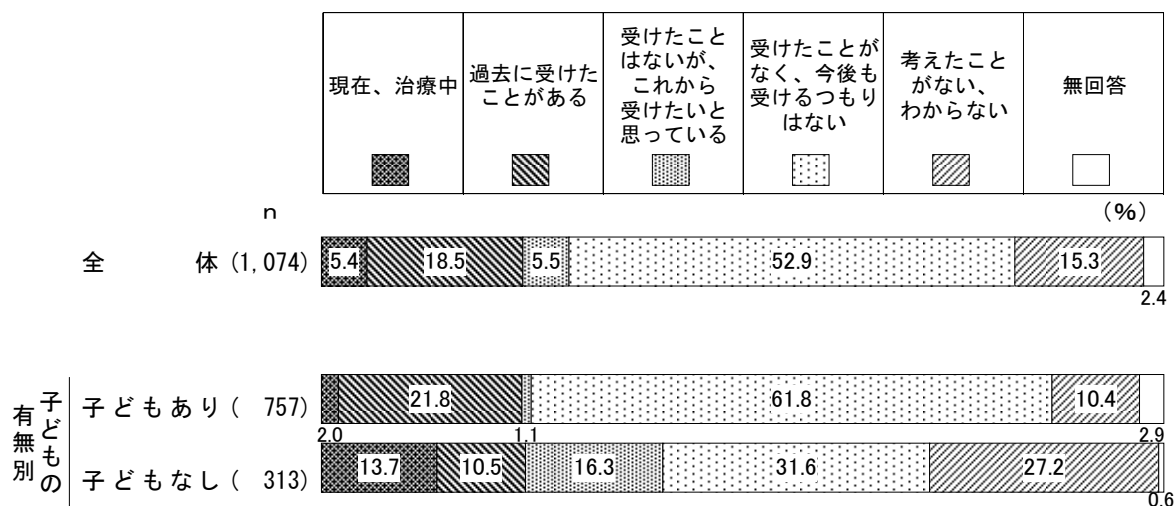
性・年齢別にみると、「過去に受けたことがある」は女性では年齢が高くなるほど割合が高く、40～45歳（26.6%）で3割近く、男性では35～39歳（21.1%）で2割を超えている。（図7-2）

図7-2 不妊治療の受診状況（性・年齢別）



子どもの有無別にみると、「受けたことがなく、今後も受けるつもりはない」は“子どもあり” (61.8%) が“子どもなし” (31.6%) より 30.2 ポイント高くなっている。一方、「考えたことがない、わからない」は“子どもなし” (27.2%) が“子どもあり” (10.4%) より 16.8 ポイント、「受けたことはないが、これから受けたいと思っている」は“子どもなし” (16.3%) が“子どもあり” (1.1%) より 15.2 ポイント、それぞれ高くなっている。(図 7-3)

図 7-3 不妊治療の受診状況 (子どもの有無別)

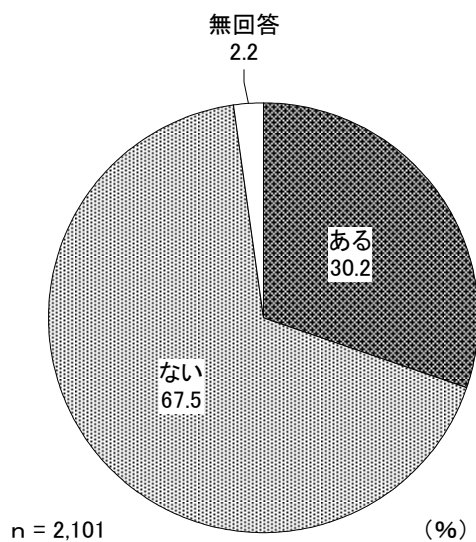


(2) 生理周期や生殖に関することなどを相談できるかかりつけ病院の有無

◇相談できるかかりつけの病院が「ある」は3割

問 33 生理周期や生殖に関することなどを相談できるかかりつけの病院（泌尿器科・産婦人科・婦人科など）はありますか。（○は1つ）

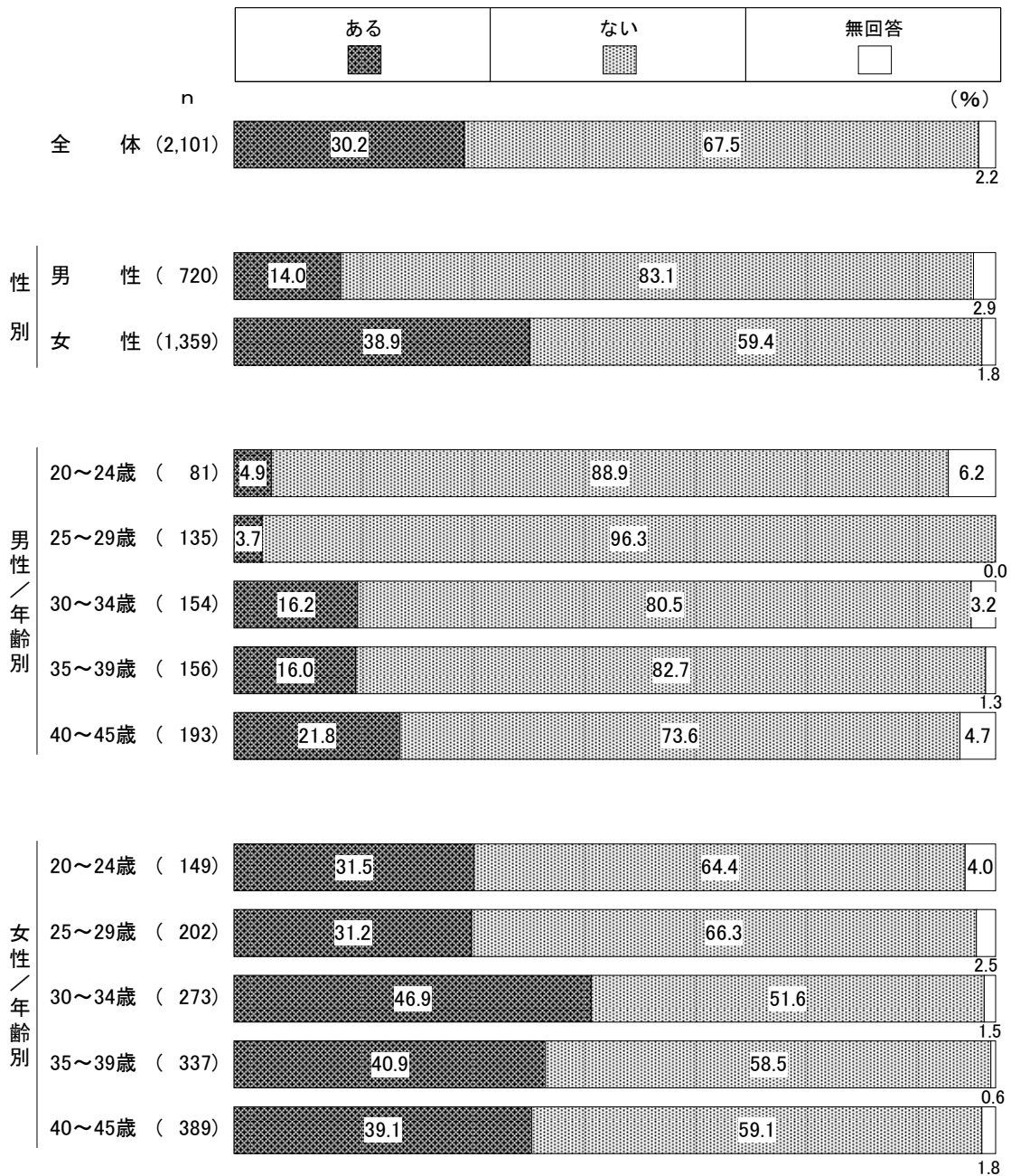
図 7-4



生理周期や生殖に関することなどを相談できるかかりつけの病院はあるか聞いたところ、「ある」(30.2%) は3割、「ない」(67.5%) が7割近くとなっている。(図 7-4)

性別にみると、「ある」は女性（38.9%）が男性（14.0%）より24.9ポイント高くなっている。性・年齢別にみると、「ある」は女性30～34歳（46.9%）で5割近くと高くなっている。一方、「ない」は男性25～29歳（96.3%）で9割半ばと高くなっている。（図7-5）

図7-5 生理周期や生殖に関することなどを相談できるかかりつけ病院の有無（性・年齢別）

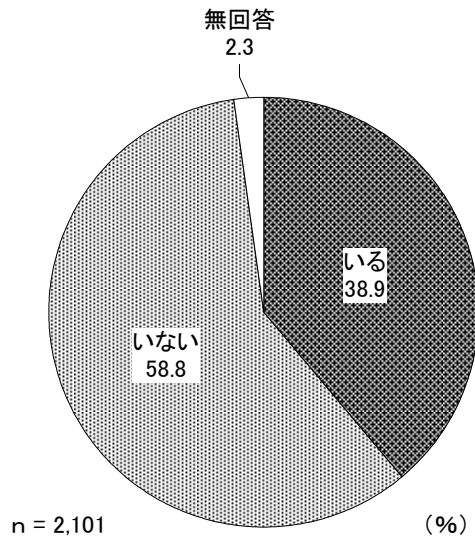


(3) 生理周期や生殖に関することなどを気軽に相談できる人の有無

◇気軽に相談できる人が「いる」は4割近く

問 34 生理周期や生殖に関することなどを気軽に相談できる人はいますか。(○は1つ)

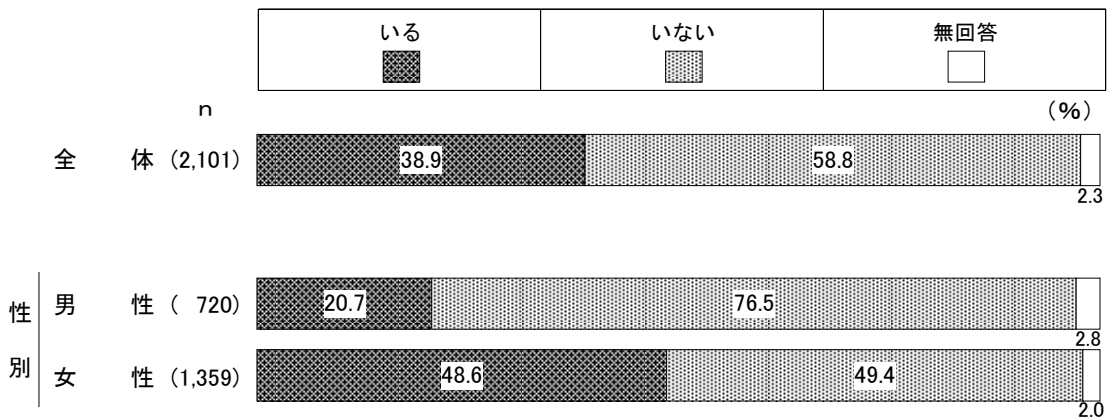
図 7-6



生理周期や生殖に関することなどを気軽に相談できる人はいるか聞いたところ、「いる」(38.9%)は4割近く、「いない」(58.8%)が6割近くとなっている。(図7-6)

性別にみると、「いる」は女性(48.6%)が男性(20.7%)より27.9ポイント高くなっている。(図7-7)

図 7-7 生理周期や生殖に関することなどを気軽に相談できる人の有無(性別)



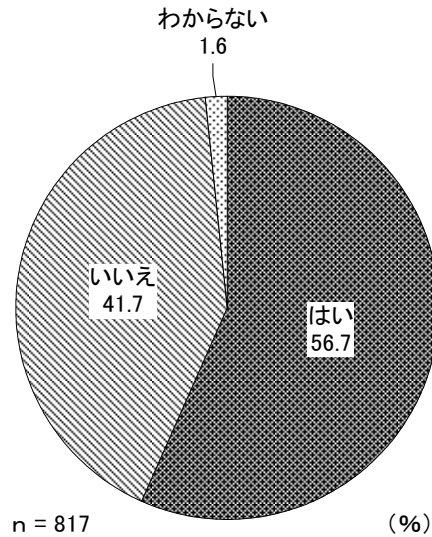
(3-1) 相談相手について

◇専門的な知識を有する人は6割近く

(問34で、「いる」とお答えの方に)

問34-1 その人は医師、看護師などの専門的な知識を有する人ですか。(○は1つ)

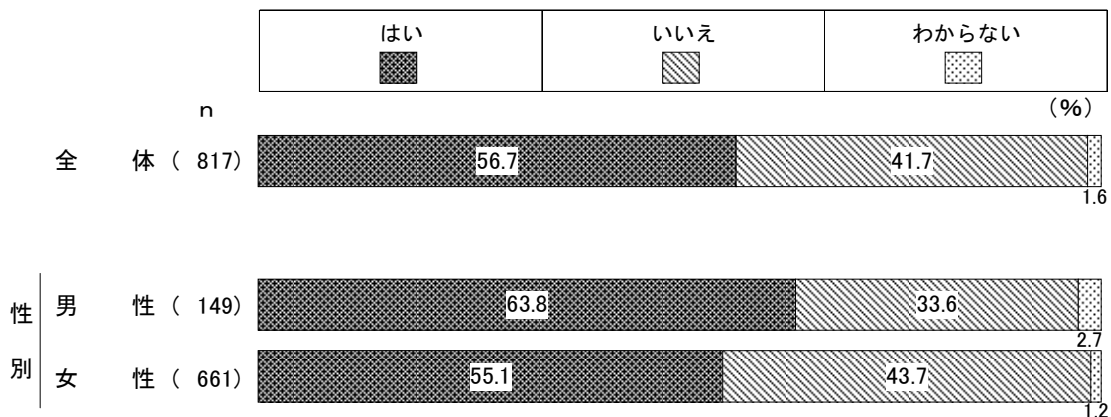
図7-8



生理周期や生殖に関することなどを気軽に相談できる人が「いる」と答えた方(817人)に、その人は医師、看護師などの専門的な知識を有する人か聞いたところ、「はい」(56.7%)が6割近く、「いいえ」(41.7%)は4割を超えている。(図7-8)

性別にみると、「いいえ」は女性(43.7%)が男性(33.6%)より10.1ポイント高くなっている。(図7-9)

図7-9 相談相手について(性別)



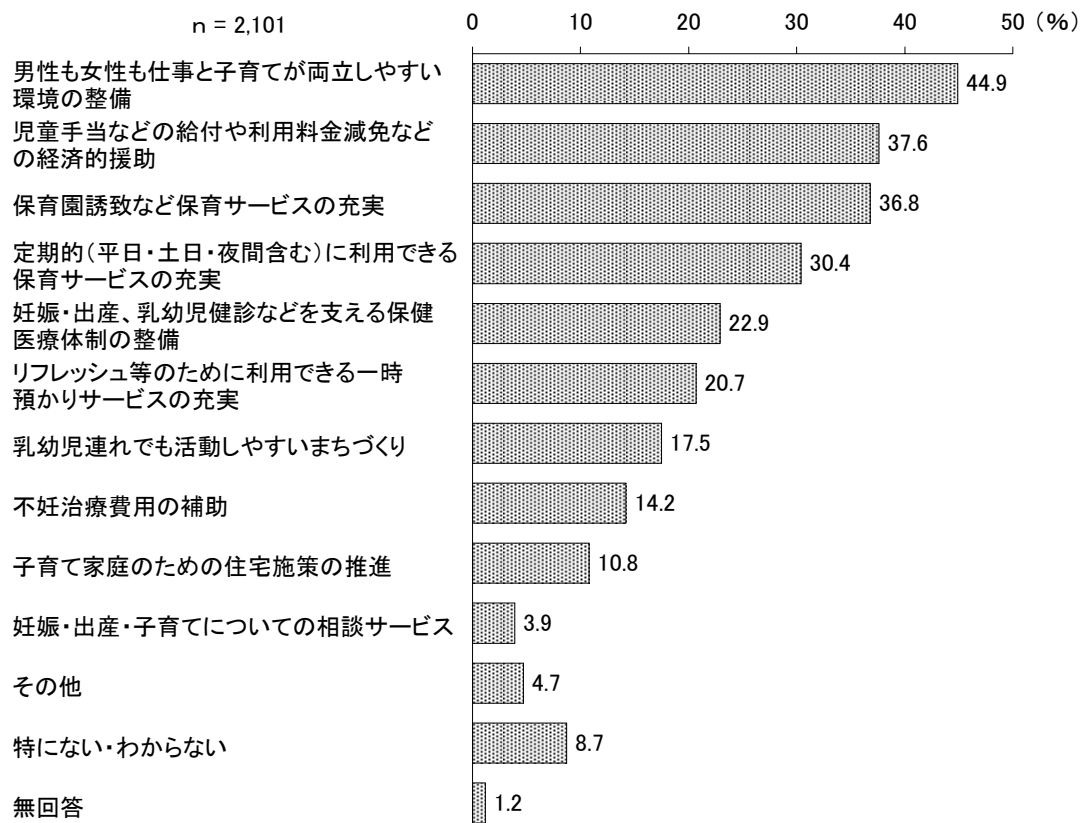
8. 行政による支援について

(1) 今後力を入れてほしい施策

◇「男性も女性も仕事と子育てが両立しやすい環境の整備」が4割半ば

問 35 今後力を入れてほしい施策として希望するものはどれですか。(〇は3つまで)

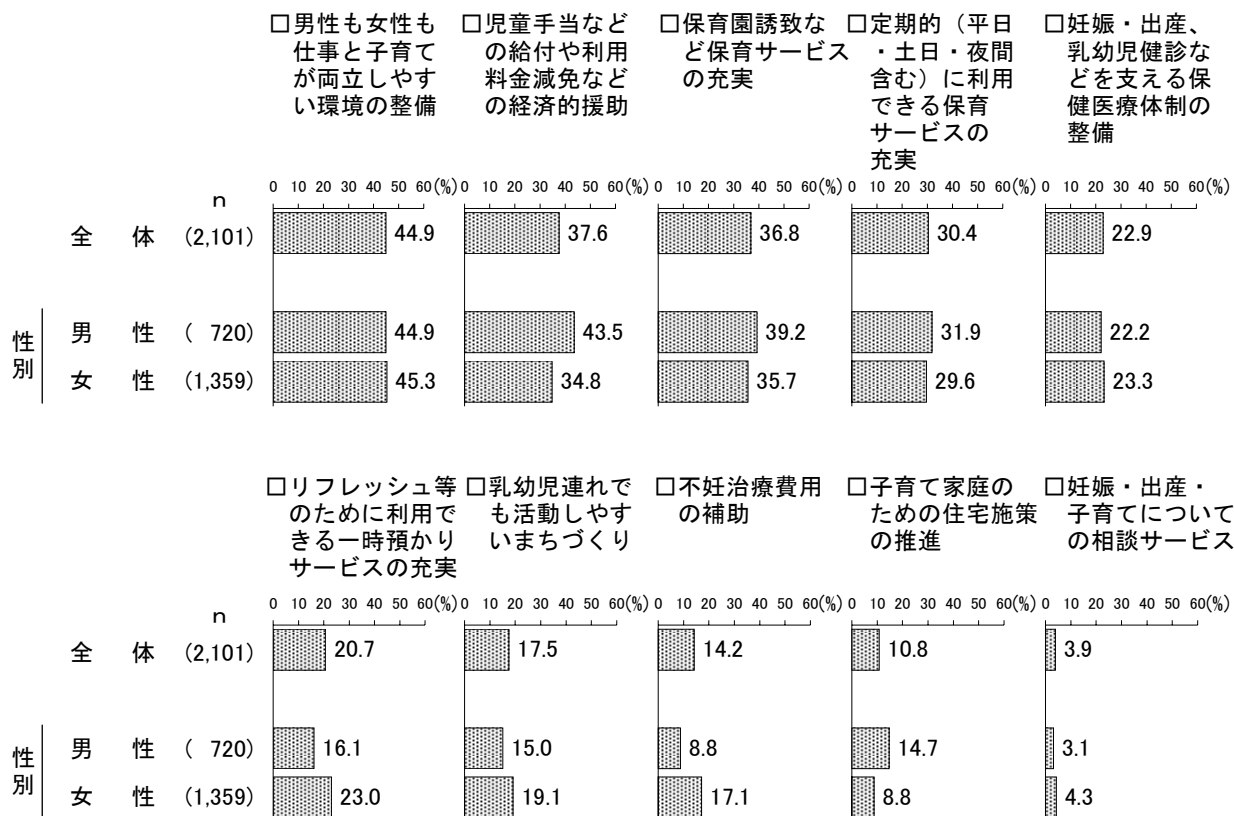
図 8-1



今後力を入れてほしい施策を聞いたところ、「男性も女性も仕事と子育てが両立しやすい環境の整備」(44.9%)が4割半ばで最も高く、次いで「児童手当などの給付や利用料金減免などの経済的援助」(37.6%)、「保育園誘致など保育サービスの充実」(36.8%)、「定期的(平日・土日・夜間含む)に利用できる保育サービスの充実」(30.4%)の順となっている。(図8-1)

性別にみると、「児童手当などの給付や利用料金減免などの経済的援助」は男性（43.5%）が女性（34.8%）より 8.7 ポイント高くなっている。一方、「不妊治療費用の補助」は女性（17.1%）が男性（8.8%）より 8.3 ポイント高くなっている。（図 8-2）

図 8-2 今後力を入れてほしい施策（性別）－上位 10 項目



(2) 自由意見

結婚・妊娠・出産・育児に関して気になること、ご意見、ご要望など自由に記入してください。

最後に区に対する意見・要望を自由に回答してもらったところ、567人から682件の回答を得ましたので、全て紹介します。

1. 育児における行政のサポートについて

101件

① 経済的な支援

47件

- ・ 今のご時世で子供を育てるお金が確保できるか心配。親が死んだら残るのは子だけなので、1人っ子にはしたくない。
- ・ 育児金があると皆、助かります。
- ・ 女性が子育てに経済的不安を感じていたり、子どもがいると働きにくいのが現状だと思う。行政が子育てのサポートを充実させて、周知も積極的に行うなどすれば家庭で子どもと一緒にいたい女性、出産しても働きたい女性、様々な生活を自由に選択でき、出生率増加につながるのでは。
- ・ 今の日本社会は子育ての経済的負担が大きすぎます。3人欲しいですが、産む決断ができません。
- ・ キッズルームなどの1次保育は定員いっぱいになりやすく（時期にもよりますが）入れない時もありました。その場合ベビーシッターをお願いしましたが、その費用など負担してもらえると助かります。給付金児童手当などは収入によってはもらえません。習い事などやはり育児にはお金がかかるので、負担してもらえると助かります。
- ・ 経済的な面で子育てができるか不安である。結婚はしたいが、1人でいた方が楽なのではないかと思うことが沢山ある。
- ・ 世帯主の収入に関係なく、子供のいる世帯には平等に児童手当などのサービスを行って欲しい。一生懸命働いて、収入を増やしているのにとっても損をした気分である。また、子供を産まない方が、良かったと思ってしまう。
- ・ 入学前の子がいる世帯は経済的支援をもっとしてあげて、親が育児に専念できるようにしてあげて欲しいです。そうでないと、子どもがかわいそうです。又は海外のようにきちんとしたサービスで子どもを預けたり、仕事を休めたり、できるような環境を整えて欲しいです。部分的でなくもっと大きな支援策を！子育てにお金がかかるので、もっと産みたくても産めない人が周囲にたくさんいます。不妊だけでなく産める人がもっとたくさん産めるような環境も良いと思うのですが…。4人目はタダ、とかもっと、1人目、2人目で差をつけないと、次の子を、とは考えにくいです。
- ・ 子どもを育てるにはお金がかかるのでもう少し援助してもらえればと思う。
- ・ 子供をたくさん産みたいが、経済的な事を考えると難しい為、子供がいる事での割引サービスを充実、経済的充実を希望します。
- ・ 3人目以降の子息に対するより大きな経済的援助があると良い。
- ・ 出生率を伸ばしたいのであれば、富裕層であるにかかわらず、子供の人数に応じた手当をするべき。
- ・ 晩婚化と少子化は地域にとっても損害が大きいことだと考えています。結婚・子育てをすることが当人たちにとってプラスであるようなマインドセットを生んだり、環境を作ることが課題です。私にとっては、経済的助成によるそれが一番です。しかし、他にも、地域の方々とつながれるような人的資本の助成も喜ばしく思います。
- ・ 現在2人の子供がいますが、幼稚園の通園助成金など所得制限のあるものは頂いたことがありません。

ん。家庭の所得は高くても、実家は遠く育児は厳しい局面が多いです。逆に所得が低くても裕福な親と同居又は近くに住むなど恵まれた家庭もあります。育児の助成金について所得のみで支給制限を設けるのは、不公平感もありますし、文京区（あるいは国・社会）に助けてもらったという意識も低下することにつながると思います。

- ・ 将来、子どもを持って、経済的にやっていけるのかどうか不安になります。
- ・ 出産時、育児初期の方が経済的に支援が多いけれど、実際お金がかかるのは小学3年くらいから。もっと上の年齢の子をもつ家庭に支援して欲しい。税金を安くするとか！
- ・ 私は、運良く20代で子供を2人授かることができたが、現在の20代夫婦が子供を持とうと考えられるように、経済的な援助が必要だと思います。（小学校くらいまで）
- ・ 私は2人目を考えているが、夫は経済的にも難しいと考えている様子で、夫婦でも意見が違い、生活環境や経済的支援などの負担が軽くなれば、夫の考えも変わるのでは？と少し期待をしています。
- ・ 文京区に住むには生活コストがどうしてもかかるので、出生率を上げたいのなら国や都が行っている以上の金銭的な支援も必要なのではないか。2年前に区内へ引越して来たが、「子供のことは後回しにしてるな」と感じる地域だと思った。
- ・ 収入によって幼稚園の補助金や子ども手当などに制限がありますが、高額な私立幼稚園に通わせており、負担は大きいので制限をなくして欲しい。
- ・ 医療費が無料であるのは大変助かりました。何かと子供にはお金がかかるので経済的支援があれば、3人目、4人目を考える余裕がでて、出生率も上がるのではないかと思います。
- ・ 児童手当は存在するが所得によって打ち切られる額が低い。
- ・ 少子化の原因として、子供が生まれると経済的負担が増えるという考えが要因として多いと思う。親族・地域・行政が、この不安を払拭できるサポートを提供できないといつまでも改善しない。特に出産や育児にかかる費用を行政で負担する制度を成人に至るくらいまで範囲を広げないと、子供の出生率は増えないのではないか。
- ・ 幼稚園等、保育料助成制度などがありますが、ほぼ所得制度があり対象にはなりません。子供手当も同様。子供が増えるに従いやはり出費はどんどん増えます。現在の制度が変わらない限りこれ以上の人数を育てるのは困難です。
- ・ 育児手当や幼稚園の補助金について、収入制限があるのはおかしいと思います。収入が多いけれども親族への補助や、職場の若い人の食事の世話など、出ていく分も多い家庭もあります。そういった行為を縮小していかざるを得なくなれば大きな目標を見た時、経済活動が委縮していくことにつながるのでは、と思います。
- ・ とにかく生活が苦しい。健康保険料、税金が高い。仕事をがんばったからと言って生活（養育費が負担になってる）が豊かにならないので、本当に困っている。子供を4人授かり、育てることには幸せを感じるが、成人までの学費など、不安は大きすぎる。住居がなくてどうしたらいいか・・・。
- ・ 子どもを預けるための保育料もできる限り、自治体で補助してもらえると有難いです。
- ・ 妊娠～育児も金銭がかかる時期ですが、子供が大きくなるにつけ、教育資金もかかります。それなのに反比例して児童手当や医療費無料がなくなったり、せめて高校生までは続けてほしいです。所得制限があるのも納得いきません。税金の納めている額も多いと、たとえ収入が多くても、生活に余裕がなくなります。環境の良い文京区に長く住むためにも、区民に住みやすい場所になるようお願い致します。
- ・ 子供の病気で生涯治療が必要となる時の支援を充実してほしい。持病の為保育園へ通えない子供の支援をもっと考えてほしい。（医療機関と連携した保育園等）入院時の食事代、補償が文京区にはな

いので導入してほしい。

- ・ 所得制限をなくしてほしい。給食費（学校）、PTA会費などは、子ども手当から引いて支給してほしい。（未納を防ぐため）
- ・ 子どもがいる家庭への支援は、もっともっとお願いしたい。年収によって支援額が違うなど、工夫して欲しい。
- ・ 今は共働きをしないと生活が苦しい（共働きでも苦しい）しかし、育児に関しては親の目が必要だが、当たり前のように、家に親がいない家庭が多いので、子供が犯罪に手を出したり、常にさみしさと不安を感じている子どもが多数いると思う。本当に、女性が働きやすい職場作りにより児童手当をもっとしっかり充実して、安心して生活できるようになりたい。
- ・ 離婚はしていないが別居している家庭に関しての子育ての援助を考えてもらいたい。現在、自分の扶養に入り、子育てを行っているが、離婚はしていない裁判をする予定がないという理由で、子どもに対する補助金等は、収入の多い夫の方に入ってしまう。子どもを養って育てている方に入るのが、当然と考えるのは、おかしいのでしょうか？
- ・ もう子どもが中学生なので、主な心配は学費、塾代などの経済的なことになってきている。医療費はとても助かっている。奨学金などを充実させてほしい。少子化に伴い、学歴ばかり高くなるのもいかなものか。所得による教育格差が大きくなるのは目に見えている。ただ出生率を上げるだけではだめ！
- ・ 高校、大学（義務教育以降）の一番お金がかかる時期の経済的支援が手薄すぎてこれでは子供を持ちたいとは思えません。お願いですからどうかして下さい。
- ・ 子供の数に応じた手当など経済的援助を手厚くしてほしい。特に多胎児がいる家庭に優遇策を講じてほしい。（例えばベビーカーを折り畳まなくても乗れる交通機関の充実、区立幼稚園に優先的に入園できる。上の子の長時間預かり。等）
- ・ 子供が大きくなったり、増えたり等で、広い家に住み変える（区内）時に助成金等があると助かります。（文京区内の家賃が高いので）
- ・ 3人子どもがいるが、4人、5人、6人と子どもが多いほうが豊かな生活が送れると思う。しかし子ども1人につき2,000万（成人までに）かかると言われる世の中では、これ以上子どもが持てない。少子高齢化と言われる現代、もう少し子育て世代の負担が減ってもよいのではと思う。乳児、幼児、小学生など低年齢の子どもに対する手当は少しあると思うが、実際に子育てでお金がかかるのは中、高、大学生だと思う。高収入の世帯がお金をかけて塾に入れ、高学歴になれるという格差の連鎖を少しでも解消し、全ての子どもに平等な教育の機会が与えられるような援助や政策を望みます。（私達30代前半の人たちは今でもフリーターや派遣が多く、私達夫婦のように2人とも正社員ということも恵まれていると思います。その恵まれていると思う私達でも4人以上の育児は厳しい現実ということをおわかって頂けると幸いです。）
- ・ シングルマザーに対する援助をもう少し多くすればもっと子供がふえると思う。
- ・ 育児手当が収入で制限を設けられているのはおかしいと思う。文京区に住んでいる以上、ローンや駐車場代、物価も高く、生活するのにお金がかかるので…。国で手当がないのなら、区独自で支給してほしいです。
- ・ 子供が、大きくなるにつれて、金銭的負担は増える一方なので、幼稚園費などより、学費負担が、少しでもあるとうれしい。20才あるいは18才、医療費も、無料だと思える。4月で無料が終わるけど、1～3月生まれは損だと思うので誕生日までにしてほしい。
- ・ 第一子と第二子の年齢が離れていると（例えば小3以上（これから食べざかりで、食費もかかりま

す。)、手当が軽減されてしまうので、年齢制限をなくしてほしいです。第三子以降の保育料免除等は第一子の年齢が関わってくると聞きましたが…。

- ・ 出産・育児では出費がとにかく多く、援助がなければやっていけないので、もう1人産みたくても、あきらめざるをえない人が結構います。又、子供を預けたくても預けられない事はあたり前（保育所が満員で）で、預けられる時でも値段が高くて無理なことも多い。お金の余裕のある家は4人以上産めて育てていけるけど、お金がないとそこであきらめるお母さんはたくさんいるので、少子化を考えるなら、そのところももっと考えてほしいです。
- ・ 育児に関して、助成金に収入制限があるため、ほとんどの助成がNGなので残念です。私立幼稚園の助成金は、全員に渡るようにしてほしいです。区立の幼稚園は5倍と高い倍率なので…。
- ・ 子供が多いので就学金助成や医療費助成、児童手当などとても助かります。
- ・ 多子の養育に係る費用の補助拡大 子供はとても可愛いので、もう少し広い家とお金があれば、何人でも欲しいです。ママの間でもその話題は良くできます。現在3人目以上、免除される費目もありますが、正直、諦めざるを得ない場合もある（多い）と思います。
- ・ 税制面での援助なく、30代の平均的年収で満足な子育てを行うのは困難かと思います。

② 相談窓口

9件

- ・ 区に対しては、待機児童が多いわりに、保育課窓口の方々の対応が、親身になってくれている印象がうすいので、もっと頑張してほしいと思います。
- ・ 発達障害の子供から、大人までの生活、娯楽、就職などトータルしてサポート、相談できる場所、環境を整えてほしい。（もっと増やしてほしい。）
- ・ 区の栄養士に離乳食の相談をしたが、漠然とした答えしか返ってこなくて、参考にならなかった。そのため、区以外のところに相談しなおし、アドバイスをもらいなおした。
- ・ 現在夫が単身赴任で一緒に暮らしていないので色々大変な面もありますが、幸い私の両親も近くに健康でおりますので今の所は不自由はないです。今子供は6才ですのでだいぶ楽ですが、2才の時夜泣きがひどくノイローゼになりかけました。本当にノイローゼになってしまう方もいらっしゃるかもしれないので対策法や悩み相談所の告知など文京区としていただけると良いかもしれません。
- ・ 8月に越してきたばかりで、子育てに関する事を誰に相談していいかわからない。
- ・ （児童館以外）ママがリフレッシュ出来る目的で、育児相談できる場所をもっと気軽にあれば良いと思います。
- ・ 家内より、子育て相談で区政に大変お世話になり感謝しておりますとの話を聞いており、私としても大変ありがたいと思っております。ありがとうございます。
- ・ 文京区など都心では、里帰りをせずに実家に頼れず出産・育児する方も多いと思います。（私もそうです。）ホームヘルパーや相談にのってもらえる人など、お母さんが孤立しないよう、区からのケアやまたそのアナウンスがさらに充実することを希望します。
- ・ 妊娠中は病院のスタッフさんたちがよくしてくれて、出産に対する不安は、かなり軽減されたが、実際育児をしていく中で、区の保健師さんは親身になってくれず、頼りにならない。地方出身なので里帰り先の保健師さんに、お世話になったがとても親身になってくれた。区の窓口含め、がっかりすることが多い。

③ 情報の周知

14件

- ・ ベビーマークにも知っている人が少ない、意味を理解している人が少ない等あるので、しっかり認

知度を上げてほしい。

- ・ 子連れに対する大人の冷たい目を少しでも減らせるよう、ポスターなどで啓蒙活動してほしい。子供はうるさい、迷惑なもの、としか考えず、将来の自分の年金生活を支えてくれるもの等、子供が社会にとって良い存在であることを全く思いつかない大人が多いと感じます。
- ・ 自分から調べようと思わないと情報が入ってこないから、子供ができた時は、分らない事だらけで不安だった。
- ・ 「子どもを持つうえで利用できる区のサービス」を「知っているものはない」と答えましたが、もし自分が妊娠したら、ネットや本でそういったサービスを調べ、利用すると思います。
- ・ 経済的支援が必要だと感じるがどの程度受けられるのか不明。
- ・ 子供を持つ上で利用できるサービスの拡充とその周知。やはり他の区との比較で出産・育児する地域を決めるので、他と比べてどこが優れているのか等をもっと広報してほしい。
- ・ 文京区で具体的にどこでどのようなサービス（育児等）が受けられるのかがまったく分らない。
- ・ 10年前に長女を出産してから、今まで文京区で子育てをしてきましたが、児童館、ぴよぴよ広場など、入園前からたくさん利用し、おかげで大切な友人とも出会え、文京区に嫁いで良かったなあ・・・と感じています。私のように積極的に外へ出て行くのが好きなタイプの方は大丈夫ですが、ひっこみがちなタイプの方には、様々な行政サービスがあることをもっと知らせてあげてください。例えば、検診時などに。とても子育てしやすい区だと思います。
- ・ 4月に文京区に引越して、以前住んでいた所より子育てに対する配慮に欠けていると思いました。予防接種の予診表、病院に行って、もらってなかった事に気づいたり。以前住んでいた所は役所に行って1回ですんだのに。引越した時、3回行った時に教えてくれればいいのと思いました。説明もしてくれなく。あと、前住んでいた所は一生懸命、心配してくれて、文京区は全く声かけ？ないと思いました。
- ・ 文京区は、子どもがしつけの良い子が多く、これから子どもを作るにあたって、育てやすそうで期待しています。制度や補助金、託児サービス等、まだ知らないことが多いので、区報で紹介してほしいです。
- ・ 育児サポートのメニューの存在を伝えることが一番大切かと思います。（既にいろいろそろえていらっしゃるかと）頑張ってください。
- ・ ダウン症のような長期的な見守りを有する児に恵まれた場合、私は両親に勤当されていて支援は期待できず、妻となる予定の女性の両親も遠方であり頼れない為、非常に不安である。社会的支援がどの程度あるかを知りたい。
- ・ 子育ては本当にわからないことばかりで不安。日中はとくに子供と2人きりなので、何かあったときにもものすごく心配。母乳のことなど気軽に問合せできるといい。
- ・ 赤ちゃん訪問は生後16日目に予約がとれて来て頂き、大変安心感があった。良いとくみだと思うのでもっと積極的にアピールして皆に利用してもらえば良いと思う。私も最初は不要かな？と思ったし、友人も活用していなかった。母親学級も1回しか参加していないが、早く行って情報を得ればよかった。初産の妊婦は孤独になりがちだと思うのでもっと回数を増やせばと思う。

④ その他

31件

- ・ 育児には、求めれば想像以上にお金がかかることもあり、それを多くの子供に平等にかけようと思うと、二人目の出産をあきらめる気にもなります。子供が、減り続ける中、集団的な教育でもいいのかと思うので行政でのアフタースクール的な受け入れ教育機関などが、充実するとありがたいと思

ます。将来を背負っていく人材なので…。

- ・ 現在小学生2人の母親です。区内で出産・子育てをして参りました。治安がよく、医療機関も充実しハード面では大変良いところだと思います。私自身は夫と隣県にすむ両親のサポートを全面的にうけてここまでこれたと感謝しています。これから出産・子育てを考えている方々にとってハード面・ソフト面ともに良い環境の文京区であるよう区民のひとりとして心から願っております。
- ・ 地元を離れて上京してきたので、例えば育児の際にサポートしてくれる親族が近くにいないのは不安がある。妊娠・育児中・休職することがあってもいつかは仕事に復帰するとなると、サポートしてくれる人がいてくれればとても心強いと思います。
- ・ 台東区のファミリーサポートを利用してます。荒川区や北区とも連携をしてほしいです。
- ・ 子供が幼稚園に入るまで、母親と子供は孤立感がある。親元を離れている人などに特に助産婦などともっとかかわる機会を作してほしい。
- ・ 他の区で実施されているような子育て支援（以前あったような電動自転車購入補助など）を行ってほしいです。
- ・ 妊娠可能な年齢からの教育をする→責任もって産み育てる力をつける。いいかげんに産んで行政に育てさせる若年や自立していない30~40代が多い。子育て中の人全て優先される制度ばかりはやめてほしい。それがあたり前だといった考えで押し進めてもらいたくない。子育て世代を支える同世代への配慮もしてほしい。ルールを守ってほしい。
- ・ 現在、子供が小学校に入学して、保育園のときのように延長保育がないために仕事を制限せざるを得ない状況です。出産前後の短期的な施策ではなく、成人するまでの長期的な責任のある施策を実施してほしいと思います。
- ・ 私が出産した10数年前よりイクメンが増え、又、保育サービス、なども増え、女性が出産しても仕事を続けやすい環境にあると思います。が一子だけにとどまるケースが多いので、二子以上出産の方に手厚い補助や、サービスが受けられるようなしくみを作っていただけるとよいのではないかと思います。また、文京区に家族向けの住宅を多く作ってもらおうとより住みやすい地域になると思います。
- ・ 歩きタバコ禁止なのに、結構吸っている人がいる。子供もいるのでタバコの火があぶなかつたり、健康被害が気になる。もっと規則を強化すべき。
- ・ 区内在住の小中学生や幼稚園生向けの体験講座やイベントをもっと増やして欲しい。
- ・ 結婚や育児をしたくても、雇用問題や経済的負担を考えると、できにくい社会になっていると思う。また、特に育児においては虐待防止のためにも、精神的サポートも必要だと思う。DV問題の対策も急務だと思う。
- ・ 共働きが増えてはいるにもかかわらず女性の負担（家庭）は減っていないように感じる。高齢者が増加する傾向にあると思うので有効に人生の経験者としてお手本になれる機会を設けるのもいいと思う。
- ・ 妊娠、出産に関し、育児サポートよりも、家事サポートの人の育成、補助の充実を望みます。
- ・ 産みやすく、育てやすい社会の実現の為には、教育段階からの啓発や、保育サービスの充実などが欠かせないと考えます。
- ・ 現在専業主婦ですが、ゆくゆくは就労することを考えています。そういった人達にも育児サービスが行き届くようなシステムを作っていただきたいです。
- ・ 働きながら、子育てするサポートをしてほしい。
- ・ 文京区は他の東京エリアと比較して、コミュニティも子育て世代に優しい印象。それでも子育ては

(経済面のみならず)肉体的にも大変なこと。高齢者の介護と同様に、経済的側面のみならず物理的なサポートもあると有難い。

- ・これから子育て、出産をする可能性のある若い世代が何に不安を感じているのか、どんなサービスを必要としているのかに耳を傾けるべき。現在子どもを持ちたいと思っていないとしても、その背後には子育てしにくい社会的要因がたくさんあるし、その要因をつぶしていかないと子は生まれな
ないと思う。
- ・仕事を辞め、子育て中心になると、話す相手がいなく、相当なストレスになる。気軽に誰かと話せる場所がほしい。
- ・子供1人を育てていますが、両親ともに近くにおらず、子供や妻が病気の時などのサポートが充実してほしい。
- ・親の就業形態や収入にかかわらず、全ての子供が受けられる支援が増えれば不公平感が減るのではないかと思います。自分の下の子の子育てが一段落すれば、小さい子供をもつ方々の力になりたいと考えているので、短時間でお手伝いに参加できる仕組みを整えてほしいと思います。
- ・妻が育児中。子供が病弱な為、パートに出られない。文京区は、所得の高い人が多いせいか、色々高いし、育児サービスも充実していないと思う。若い夫婦、若い子育て世帯に住み良い街にしてほしい。
- ・千代田区と同等の結婚妊娠出産育児政策をして下さい。例：保育園に入れなかったら区が最終的に責任をもって預ける施設を見つける、や都認証の認可園より安い利用料等、また、幼稚園の20時までの延長とか、中高一貫の公立校とか。
- ・親も遠方、夫も仕事で孤立化する中、仕事をしながら園へ子どもを預けています。病気(カゼ、発熱)など、少しの時間でも眠り体調回復したいのに、仕事・子育て・家事を1人で全てこなさなければならず、体調不良が続いてしまいます。私のような助けのない人でも子育てが可能な、子どもが欲しいと思えるような、サポート体制を希望します。病児、病後児保育も少ないので、とても困っています。
- ・両親共働きでないと、子どもを育てることが難しいので、行政サービスのさらなる充実・向上を希望します。第2～3子と考えるとき、保育園等預け先や、学童保育がネックになっているので、あまり現実的に考えることが出来ない。
- ・税負担とのバランスで過度な施策などを少なくすることがポイント。必要な人(本当に困っている人)に応分の負担と交換で公共サービスを受けられるようにしてほしい。独身や子どものいない方までにおしなべて負担を強いてまで子育て支援をするのは不公平感がある。
- ・産後ママのための体力作りなどのサービス。
- ・やはり、政治・行政主導で子育てしやすい環境作りが大事だと思います。そうすると出生率も上り、少子高齢化に歯止めがかかると思います。
- ・出産・育児と同時に、介護について、地域・行政のサービスを頼りにさせていただいています。一方で、財源や、人材等の面から、地域サービスの両立は簡単ではないことも承知しています。例えば、“働ける高齢者”と“働けない高齢者”を何かしらで区別をし、“働ける高齢者”が公共施設の地域行政の管理下で格安で子どもをあずかるサービスなど。両問題に効果のある施策をご検討頂きたいと考えています。(柏市などで取り組み済と聞きました。)
- ・新宿区は、「おもちゃ美術館」は、区民割引があるが・・・文京区でも、区内施設の割引サービスがあるとよい。

2. 妊娠・出産における行政のサポートについて

58 件

① 経済的な支援（不妊治療）

26 件

- ・ 不妊治療も保険適用になったらいいのになと思います。やはり子供が欲しくてもできない人にとって、不妊治療の費用は大きな負担になるので。国も少子化対策をするならそういったところにお金をかけるべきだと思う。
- ・ 婦人科や不妊治療を受ける時の助成金を増やしてほしい。8組に1組が不妊だ、と聞いた。都内で働いている友人達も皆生理不順等、婦人科系トラブルで悩んでいる人が多いため。
- ・ 不妊治療で補助ができるのは体外受精をした際だけです。もう少し幅を広げて欲しいです。タイミングや人工受精をする際も検査や処置でお金がかかります。子連れで行ける不妊治療専門病院が近くにないので、保育園等に預けなければならず、そこにもお金がかかります。子どもが欲しいので何とか工面していますが、行政の助けがもっと欲しいです。
- ・ 高齢出産への不安はありますが、具体的な対策もよくわかりません。育児をしている友人、不妊治療をしている友人などいますが、どちらも大変そうで…何か補助があればいいのになと思います。
- ・ 不妊治療補助を港区レベルまで拡大してほしい。
- ・ 不妊治療を行い、現在妊娠7ヶ月目です。所得制限があり助成金をいただくことができませんでした。もう少し制限をゆるやかにして欲しかったです。
- ・ 来年から不妊治療（体外受精）を希望しています。ほとんどの区がそうなのですが、文京区も東京都特定不妊治療助成を受けていないと、区の不妊治療助成金を受けることが出来ません。私達夫婦は幸か不幸かお互い正社員で就職し、フルで残業があるので、東京都の定める助成対象となる所得制限を超えてしまっています。ただお互い大学を卒業してすぐに、貯金も無い状態で結婚をしたので、1回40~50万かかる体外受精に挑むのは大変厳しい状況です。子供は2人以上欲しいと思っていますが、何回の不妊治療で子供を授かるか分かりませんので、1人出来れば良い方かなとも思っています。都の助成の有無に関わらず、上限30万円の不妊治療助成のある、港区に移住も考えています。私達夫婦は結婚と同時に文京区に引越して来ましたが、治安も良く、子供の教育環境も整っている文京区で、出来れば今後も生活していきたいと思っています。文京区の不妊治療費用の助成対象も緩和していただけないでしょうか？また、助成金を増やしていただければと思います。
- ・ 35歳以上の高齢で、器質的異常がないのに加齢によって妊娠できない女性は自己責任かと思います。社会が助成するのは理屈がおかしいのでは？啓発は必要だと思います。
- ・ 年齢的に今から妊娠・出産をするのは、リスクが高いので不安を感じる。立派なパンフレットはもっと若い世代に渡したほうがよい。今の生活では結婚できるとは、とても思えない。昔のような時代だったら、自分も会ったことない人とすぐに結婚と言われても、受け入れるのだろうかと考えてしまう。もう産むことはないだろうと考えると、女として失格の烙印を押されたような気にもなる。中絶する人たちをサポートし子どもを里親などで育てる方が、いいのでは？（不妊治療のサポートはお金がかかるので）本当にできない人はかわいそうだが、あえて作らずにきて高齢になって治療する人たちのサポートまではどうかと思う。
- ・ 不妊治療は、結婚した当初住んでいたアメリカでの治療費が日本でのものと比べ安価だったため行えたが、日本では受けることはできなかったと思う。無意味な長期の治療を助成するより、里親なども自然に選択肢と考えられる社会になればと思う。
- ・ 不妊治療助成はあるとありがたいです。
- ・ 不妊治療の助成金を増やしてほしい。
- ・ 妊娠、出産、育児に関する助成が充実するとよい。ただし、所得制限なし。

- ・ 経済的な理由で、不妊治療を断念する方々が多くいらっしゃると思います。こうした「子どもを望む」夫婦へのサポートを強化することが、出生率の向上へつながるのでは。
- ・ ずっと不妊治療していたが、人工授精でも補助があるといい。
- ・ 不妊治療の費用の補助に関しては、収入制限をなくして欲しい。
- ・ 港区のような区独自の不妊治療補助が欲しい。真剣に引越しを検討しています。
- ・ 不妊治療を続けていましたが、精神的にも辛い状況が続き、最近やめました。治療中、やはり治療費の出費がとてもしんどかったです。人工授精では保険が利かず、1回行うのに2万近く、その他の治療費もかかり・・・仕事にも就けなかったので（排卵周期によって、通院日が決まるので）日雇いのアルバイトで家計を助けてました。扶養控除内で働けば・・・と考えていましたが、それすら廃止になりそうになり・・・“普通に”産めない人は産むなって事かなあと少し自虐的に考えてしまいました。きっと沢山そういった方々がいるはずなので、不妊治療を100%保険負担が適応される日がくることを願っています。フランスみたいに（年齢制限してもいいので）
- ・ 不妊治療の助成金を拡大してほしい。
- ・ これだけ少子化と、その原因の1つともいえる晩婚化が問題になっているのに、どうして不妊治療にきく保険がなく、これだけ高額な治療費を払い続けなければいけないのか解らない。裕福な人がうらやましい。
- ・ 不妊治療等、子供を産むまでの費用負担を大幅に助成してほしい。
- ・ 区民の誰もが不妊治療助成を受けられるよう、制限をなくしてほしい。
- ・ 不妊治療の費用補助を充実させてほしい。
- ・ 不妊治療には高額な医療費がかかるが、夫婦共働きだと補助をうけられず、また説明がわかりにくい。区民税を納付しているので、お年寄りや子供だけでなく、働いて不妊治療を受けている人にも補助を手厚くしてほしいと心から思っています。納付しているだけで、区の施設等サービスを使うことがないので。
- ・ 排卵検査薬を始め、不妊治療に関することは費用がとてもしんどい。今はまだ検査薬だけですが、もしこれから自分が不妊治療を始めることになると経済面で不安です。
- ・ 不妊治療費の助成金の所得制限を緩和（上限額アップ）してほしいです。

② 経済的な支援（その他）

8件

- ・ 第2子を妊娠中ですが、年々出産費用が高くなっていると感じます。実情を反映した補助をお願いします。3人子どもを育てたいと思いつつも、5人で住む住宅は、文京区では、家賃が高いので、そのタイミングで転居するかも…等と考えることもあります。
- ・ 文京区転入前には住んでいた区では妊娠届を出すとタクシーチケットをもらえて妊婦健診新生児1ヶ月健診通院時に非常に役立ったので、文京区でもぜひ検討してほしい。
- ・ 出産までの金銭的負担が大きい。少子化というなら、検診から分娩まで無料にしてもいいはず。
- ・ 出産費用の無償化。
- ・ 出産費用が高い。
- ・ 出産について、助成金があっても費用が高い。
- ・ 出産適正年齢を基準にして出産手当等を変えたら早くに子供を産もうと思うきっかけにならないか。結婚も妊娠・出産もきっかけ作りが大切では。
- ・ 出産のための費用がかかりすぎる。

③ 情報の周知

12件

- ・ 妊娠や出産に関して、インターネットで簡単に調べられるが、情報元が信用できないので困る反面、わざわざ専門機関に行く勇気もないので、安心して相談できる人や場所がない。子供はとても欲しいが、今の経済状況では、とても育てられないと感じる。
- ・ 10月から文京区に引っ越してきたばかりです。幼稚園で働いていたこともあり、自分の子どもはすごく欲しい気持ちでいっぱいですが、近くの産婦人科の情報や、子どもが産まれてからの支援施設などの情報をどこで、どのようにもらえるのか調べ方もわからず漠然としていて、少し不安です。情報が欲しいです…
- ・ 先日も、ある婦人科で、子宮エコーを何度も受診してましたが、あせりと年齢も若くない為、妊娠しにくい旨を先生に何度か相談しましたが、「専門の病院を捜してみて」と言われるだけで、病院の紹介やその案内版のヒントになる助言はありませんでした。周囲の方やネット情報では、情報が多すぎ、専門の先生に具体的な話を伺いたかったのですが、もう少し助けになる窓口が明確だとすぐに行動できるのにと残念に感じました。
- ・ 妊娠する前にやった方がよいことを知りたい。
- ・ 婦人科医をしています最近30代前半の比較的若い人の不妊相談が多く、啓発の効果を感じます。
- ・ 男性も女性も妊娠・不妊に関して情報を知らない人が多いように感じます。正しい情報を、もっと身近に、気軽に調べられるホームページを作ってほしいと思います。
- ・ 知らないコトが多かった。情報がもっとほしい。妊娠できる環境を増やしてほしい。
- ・ 20歳以上で受けることのできる子宮けいがんの定期検診の際にパンフレットなどで妊活について知れると良いと思った。男性不妊に関してまだまだ理解がない部分が多いので、行政で不妊治療の助成だけでなく、結婚した人へブライダルチェックの助成などできれば良いと思った。
- ・ 妊娠、出産に関する情報をインターネットなどで調べることがあるが文京区が発信している情報があるのか分かりにくい。少ないと思う。
- ・ 出産後の社会復帰がネックになって出産をためらってしまうという人も多いと思うので、そのような情報を出産後の女性対象に提供してくれるような機会や部署があるといいと思いますし、それが可能になるための保育園等の充実も必要かなと思います。出産前だけではなく、その後のケアもして頂ける（又は相談できる）場所についても、もっと情報がほしいです。
- ・ 不妊治療経験者です。経済的負担よりも、精神的負担が大きい時間を過ごしました。2人の子供に恵まれましたが（第1子は結婚後7年目の子です。）もっと早く（若い頃）から採卵しておけばよかったと思っています。20代・30代前半は仕事に夢中になり、子作りは後回しになりますが、卵子の数には限りがあること、卵子の質も年齢と共に低下することを、もっと周知していただきたいと思います。（区がというわけではなく、国など協力していただきたい。）
- ・ 高齢出産に関する支援・情報提供などあれば、大変ありがたい。また、仕事と家庭を両立できるような環境整備など。UN Womenが文京区に来たことを活用し、シンポや勉強会など、発信してほしい。途上国の女性支援を日本の主婦に喚起するなどよい。

④ その他

12件

- ・ 出生届を提出できる時間が短い。会社を休まなくては出せないようではとても不便。
- ・ 帝王切開の人の母親学級プログラム。病院で治療を既に受けていないが障害を持つ母親が育児における様々な相談をできる、PTと連携された相談サポート機関の整備。
- ・ 産後院を作って欲しい。

- ・ 現在妊娠 10 ヶ月です。産後の手続きについて区のホームページで調べ、区役所に必要な書類を取りに行き、手続きの確認をしようとしたのですが、一連の手続きをすべて把握している人はいませんでした。窓口が異なるとしても、保健サービスセンターなどの妊婦が最初に関わる場所や母親学級のスタッフは、産後どのような手続き（対区役所）が必要なのかを把握しておくべきだと思います。せめて一覧にするなどしてはいかがでしょうか。
- ・ 不妊治療への支援があれば是非利用したい。
- ・ 世田谷区の「産後ケア事業」のような取り組みを文京区でもされてますでしょうか。もしされていないようであればぜひ行ってほしいです。
- ・ 現在 34 才になり、出産に対して不安があります。もう 1 年近くセックスレスで妻もセックスに消極的です。こういった相談をする人もおらず、自分でも対応に困っている状況です。行政でも、こういった性生活のなやみを気軽に相談できる場を設けてほしいです。
- ・ いかに早期に（若いうちに）子どもを作らせるかに力を置くべき。仕事に負荷をかけず子育て（特に 10 才未満）できる環境を整えることを考えて下さい。本当に出生率 up を考えるなら、きれい事は言わず、若い世代（できれば 20 代、だめでも 34 才以下）のための政策を施行して下さい。
- ・ 不育症へのサポートを充実させて頂きたいです。このようなアンケートにはいつも不妊ばかりで正直放置されているのではないかという不安な気持ちでいっぱいです。このような気持ちをかかえている夫婦は多いのではないのでしょうか。どうか不育症への理解をお願い致します。
- ・ 将来絶対に子どもを持ちたいのに、38 歳で未婚であることに焦りを感じています。高齢でも可能な限り妊娠・出産につながるような、不妊治療のサポートや相談窓口を行政として提供していただけたら非常にありがたいです。
- ・ 友人で不妊の方がいますが、排卵チェックするものが、名前を書かないといけなくなり、買いにくくなった（恥ずかしいと…）と言い、又、治療する事も自分に負い目があると思うらしく受けてません。かわいそうです。もっと国で取り組んでもらえたらと思います！！
- ・ 妊娠してからのサポートは充実していますが、独身や子供なしの女性へのサポートやセミナーなどは全くないように思います。

3. 結婚における行政のサポートについて

14 件

① 区が主催する婚活

10 件

- ・ 結婚に関しては、出会いの場をつくれるように、文京区で婚活パーティーなど行ってほしいです。
- ・ 晩婚化が進んでおり、結婚したくても難しいです。婚活サービスに入っていますがうまくいかず自分自身のどこをどう変わればいいのかわかりません。ヘルプを希望しています。
- ・ 結婚・出産はかなりプライベートな問題です。結婚できない人、病気などで子供を望めない人、色々います。希望しない人はできればそっとしておいてください。その代わりに、結婚や子供を希望すると手を挙げる人には充分協力してあげてほしいと思います。ついでにシビックセンターの展望階で合コンとか企画してみてください。
- ・ 結婚相手と出会う場を作ってほしい。お見合いパーティー・趣味・サークルなど。
- ・ お見合いパーティーなど無料（飲食代程度は良い）のものがあったら参加してみたいかも。
- ・ 結婚に対しても助成するようなサービスやイベントがあれば良い（仲人のような）。
- ・ 結婚相談所にしても保育サービスにしても金銭的負担が重いので、一定の収入がなければ結婚・妊娠について積極的に考えられないのではないかと。行政に対しては、負担が軽減されるような施策を期待する。

- ・ まず、パートナーがいない。出会いから支援してほしい。
- ・ 結婚したいのに出会いがなく、悩んでいる。将来が不安。区としても出会いの場を設けるような対策を考えてほしい。
- ・ 結婚できる見込みがない。区で街コンなどのように結婚したい男女が知り合うことのできる場を作って欲しい（その際は、文京区に住んでいる人限定にして欲しい。）それが実現しなければ、結婚～育児に関して具体的に考えることはできない。

② その他

4 件

- ・ 家賃が高いため、結婚した後、専業主婦になり、金銭的な不安を感じる。助成金などがあつたら良いな、と思う。
- ・ 生活の相談もしてもらいたいが、結婚したら、「〇〇」の手続きをします又はして下さいなどの説明をしてもらえると嬉しい。こういうサービスありますとかも説明してもらえると嬉しい。
- ・ 結婚について相談できる窓口があると良い。少しでもきっかけになる様な支援があれば活用してみたい。
- ・ 男性でいやな思いを思春期で経験した女性が、本当に安心して結婚や出産できるようにサポートをしてくれる相談窓口なり、テレフォンサービスみたいなのがあつてもよいかと・・・。

4. 保育サービス・教育環境について

149 件

① 認可・認証保育園、待機児童問題

97 件

- ・ 文京区で子育てをしてみて、とにかく安心して子供を預けられる場所（一時保育も、緊急一時も、保育園も、幼稚園も、あつても空きがない）が少なく、近くに実家のない母親方はみな、とても大変な子育て生活を送っています。近所の区立保育園や幼稚園も倍率が高く、とても安心して出産もできません。学業の為わざわざ引越されてくる方々もいますが、普通に子育てをしたいだけでもとても大変で、引越しを考えているママさんがたくさんいます。できれば保育園・幼稚園をふやし、近所に安心して預けられる場所を作っていただければ子育てしやすくなると思います。保育園の入園で、点数をつけて内定というものがありますが、倍率が高く、ほぼ両親フルタイムで働いていないと入園させられません。フルタイムで働いた上に家事をする母親の負担はとてつもないもので、とても現実的ではありません。パートでも、預けられる場所を作ってほしいです。
- ・ 二人目を妊娠して退職し、長女は区立の保育園を退園しました。ですがもう一度フルタイムで仕事に復帰したいと強く望んでいます。が、保育園に入れません。フルタイムでも認可の保育園に入るのには厳しいのに、求職となると可能性ゼロです。求職中でも認可保育園に入れるくらいの体制を整えて下さい。預け先が決まっていなくて、内定はもらえません！！
- ・ 保育園に入りやすい環境を整えて欲しい。大変困っています。これから、文京区は子どもも増えてくると思うので、何卒、よろしくお願いします。
- ・ 認定こども園など制度が変わっても何の情報もない。子どもが小さければインターネットなどで調べる時間も制限されるのに、希望する幼稚園に各自問い合わせは不親切。何号の認定を受けたらどうなるのかさっぱりわからない。
- ・ 働きたくても子どもを預けられない。子連れでは、就活もできず、再就職できないまま、どんどん年を重ねていく。くやしい。
- ・ こども園を増やしてほしい（教育熱心な保育園でも良い）。保育園は1才からではなく0才からに統一してほしい。

- ・ 医師と看護婦が常駐している保育園が増加し、値段が手頃にならない限り、いくら有能な女性であっても仕事を続けていくことは不可能だと思います。
- ・ 保育園に入れず、仕事に支障が出てきている。保育課に相談しても良い提案等をもらえない。他に相談する所がわからない。保健サービスセンターに子供の健診に行った時に、“お母さんが頑張ってください”とばかり言われ、精神的にまいってしまった。非常に子供を育てにくい場所だと思った。
- ・ 保育園を増やしてほしい。
- ・ 保育園をどうにかしてほしい。低所得者を優先するなどしてほしい。子供ほしいですが、これ以上作れません！
- ・ ニュースで待機児童ゼロを文京区が目指すとありました。ぜひ、実行できるよう、よろしくお願いします。
- ・ フルタイムで勤務しながら、二人の乳幼児の育児中です。第1子の時は認可保育園への入園で苦労しました。次に不安なのは、学童、についてです。文京区の育成室は18時までですが、保育園は18時15分まで、延長なら19時15分までと、タイムラグがあります。このズレをなくしていただくべきではないでしょうか。働く身としては、育児との両立を実現していくためにも、こうした時間的配慮を徹底してもらいたいと切に思います。
- ・ 保育園に入れるかが不安で育児に影響します。
- ・ 現在管理職のため、産休後の復帰を期待されていますが、保育園に無事に入園できるか今からとても不安です。（私が区の情報をうまくキャッチしていないのかもしれませんが。）
- ・ 待機児童等、育児に関する問題は自治体と企業で連携して対処してほしい。母親が専業主婦であるような時代はとっくに終わった。また社会のニーズを考えれば、高額所得者ほど重要な社会的役割を担っているの、所得が多い方が預けやすくなっている方が望ましい。
- ・ 保育所等育児サポートの手厚さをお願いします。
- ・ 保育園、本当に質が高く感謝しています。もっと定員にゆとりがあれば…ですが、リフレッシュでの利用も、ある程度認めてもらえると助かります。子どもを作るには、夫婦で仲良くすることが欠かせませんから…。
- ・ 保育園の待機児童数が少なくなるよう対策をお願いします。
- ・ 保育園が少ないので、小規模認可保育等導入検討してほしい。
- ・ 保育園の待機児童をなくしてほしい。
- ・ 保育園に年度の途中からでも入れるようにして頂きたい。常に定員満員の状態では来年5月に出産予定だが、復帰できないのではと心配です。2ヶ月で復帰希望ですが…。
- ・ 認可保育園をもっと増やして頂きたいです。（特に千駄木エリア）子どもが体調を崩しても仕事を休まず安心してあずかって頂ける環境を整えて頂けると嬉しいです。
- ・ 保育園のサービスに関して、私は生まれも育ちも、結婚後も文京区で暮しています。しかし出産をして、いざ子供を認可保育園に預けようとすると、非常勤で働いている為に、入れていただけません。先祖代々文京区民なのに、区民税は沢山お支払いしているはずなのに、新しく区に入っていたフルタイムのお母様方がすぐに区の認可保育園に入れる状況に納得がいきません。職場からはフルタイムのお話しもいただいています。保育園が確保できない以上、引き受けることができないでいます。ぜひ、文京区在住年数をもっと考慮していただきたいです。こんなに文京区が好きなのに、自分の生まれ育った区に誇りを持っているのに…子供にも家や土地等を引き継いでいかせたいのに…文京区の区民サービスには裏切られています。改善を望みます。
- ・ 待機児童0に。もしくは、給料upで母親が働かなくてもいい環境を望みます。

- ・ 現在、育児休業中で1歳児の育児をしています。児童館や街の環境など、区のサービスについては概ね満足していますが、来年度、保育園に入れるかどうか非常に不安です。保育施設の数も増えてきているようですが、全ての保育を必要とする家庭にサービスが行き届くよう、努力してほしいです。
- ・ まだ子供はいないが将来子供がほしいと思っているものの、保育園不足など今後育てていく際の環境に不安を覚える。
- ・ これだけ少子化がいられているのに保育園探しに苦労しています。また自宅で仕事をしている間自宅へヘルパーさんにきてもらって3才児をみてほしいがそのようなシステムがないといわれた。子育て支援は必要とされる内容に力を入れてほしい。
- ・ 保育所・幼稚園の待機児童について、周囲にはその様な子どもが居ない。皆、保育園幼稚園に通えていて、空いてなくて困っているというのを今まで聞いたことがないため、正直どの程度深刻なものなのか分らない。TVではよく見るがこれは全国的な問題なのか、又選ぶ預け場所によるものなのか。この問題に関しての改善策は具体的に人・場所を増やす以外に何かあるのか気になります。
- ・ まだ結婚も出産もしていませんが、今から保育園に入れるかという不安があります。仕事を続けながら子育てしたいと考えているので、待機児童の問題は私のようなこれから出産を迎える女性にとって不安要素です。(現に姉の子を保育園に入れるのにとっても苦労したのを知っているので本当に深刻に考えています。)
- ・ 待機児童対策。子供の預け先の拡大。
- ・ 最近はお親共働きが多いので、保育園を増やしていただけると良いと思います。
- ・ 第2子を産んだ後に、第1子と同じ保育園に入れるかどうか不安である。夫が単身赴任の為、ひとりで2ヶ所に送り迎えをするのは無理がある。
- ・ 住民税に見合った支援をしてほしい。保育園の増設をしすぎ、保育の質が落ちると不安である。保育園に入りやすい環境整備をしてほしい。
- ・ 保育園での夕食の提供、薬を飲ませてほしい。延長保育は9:00PM ごろまで延長してほしい。保育園バスの運行サービス等も認めるべき。
- ・ 結婚出産後も仕事を続けたいと思っていますが、十分な保育サービスを受けられるか不安を感じます。平日はもちろん、土日や夜間も対応してくれる保育所やベビーシッターの制度などを充実させてほしいです。また、その際に利用しやすい料金であってほしいです。
- ・ 認可保育園を増やしていますが認可はむかえが一律18:15(延長19:15)で0歳クラスは1才になっても延長利用不可なことが不便です。また、保育時間が勤務時間+通勤時間だけでは、日中の勤務時間が短いなどで朝の時間を使ってスキルアップをはかりたい場合に夫に保育を頼む他ありません。ここにも両立の壁を感じています。認可では対応不能だと思うので、保護者のニーズに応えられる認可外保育施設も認可と同様に増やして欲しいと感じます。
- ・ 保育園の利用についてですが、認可保育園は、現在週4日以上働く母親しか使えませんが、私のように週3日のみ働く人にも使えるようにしてほしいです。上の子は今度で3才で、区外の預かり保育(延長)をして下さる幼稚園に入りますが、(保育園は上記の理由でダメなので)、文京区内の幼稚園でも、預かり保育(延長保育)をして下さる幼稚園をもっと増やして頂きたいです。ぜひ、よろしくお願ひします。
- ・ 4月から認可保育園が増えるようだがどれも家から遠く、今の認可外保育所に預けざるをえない。
- ・ 私自身が両親共働きの中、祖母に育てられました。文京の家庭構成がどのような比率かは分かりませんが夫婦いずれかの両親と住んでいる二世帯家族は少ないと思われます。夫婦共働きが増えてい

くと思われますので親族にかわるような保育サービスを今後も増やして欲しいと思います。

- ・ 千石湯島エリアにも保育園や幼稚園（特に幼保一体型）のものをつくってほしい。
- ・ 現在妊娠中で出産後1年以内に復職したいと思っているが、4月じゃないと保育園に入れないと聞くし、また1才児になるとそれもまた保育園に入れないと聞くので非常に不安。仕事を休むことはキャリアの停滞となり昇進出来ないため、子供も産んだ後にしっかりケアする施設を充実してもらいたい。
- ・ 保育園が足りない。（認可）0歳でも延長保育をしてほしい。
- ・ 保育園の数が少なく職場復帰できないママが多い話を聞くので保育施設を増やしてほしい。
- ・ パートで仕事を始めたが、保育園に入る条件などを考えると、無理だろうな、入園できないだろうなと思ってあきらめてしまっています。2人目が欲しいが、サポートがうまく受けられるか不安。住宅費用も高いし、経済的にも心配。
- ・ 入れる保育園が少ないと聞いている。
- ・ 出産した知り合いが預け先（保育園？）に困っていた。見つからないと……。2人目を産むことになって、予定日が2月中旬で、2月中旬～3月末に生まれると保育園が見つからない可能性が高いから早く産みたいとかって言っていて、へえーと思った。でも、文京区は小学校の衛生基準とかとても厳しくて、子育てするにはとてもいい街って聞いた。
- ・ 保育の充実は、単に保育園を増やせばいいというものでなく、また単に待機児童を減らせばよいというものでもないと考えます。施設（園庭等）や人材が不十分な保育園を増やして待機児童をゼロにしても何の意味もないと思っています。保育の質を重視しつつ、保育サービスの充実を図って頂きたいと存じます。
- ・ 第2子を考えているが、妊娠中につわりや切迫流産で安静命令が出た時などに、上の子どもをみてくれるサービスが、まだまだ文京区は不十分。（産後のサービスはあっても、産前の割引サービスは少ない。）区立の保育園に電話すると、あまり対応が良くない。（保留音をおさずに待たされる。おりかえしの電話がない。伝言が伝わっていないなど、社会人としてのマナーが身につけていないように思えることが多い。）
- ・ 保育園に入園できるタイミングが限られている。（遅く生まれた（1月～3月とか）子供は不利）保育園の費用の累進性が高すぎる。
- ・ 保育園の場所、料金、サービス等まとまった情報がほしい。子育てに関して色々なサポートがあったらうれしい。（休日のイベント、相談所など）待機児童の状況、保育園の状況を知りたい。
- ・ 仕事を続けることを考えると、「いつ出産するべきか」タイミングがなく、なかなか踏みきれない。子どもを出産した後に、必要なだけ（24時間保育等）子どもを預けられる施設を準備して欲しいです。
- ・ 保育園の待機児童減少。
- ・ 区立保育園、区立育成室を増やしてほしい！区立保育園育成室では、①安定したベテラン先生から若手の先生まで人材が豊富で子供が心身ともに成長できる場として安心してあずけられる。②保育者同士の活動と連携が、仕事をしながらも、全力でなされている。ただ子供をあずける場所がほしい訳ではない。子供と親が苦しみあえぎながらも、時間がどれだけなくても努力をしつづけて、成長する場が必要。ここから、社会の安定の基礎がうまれると思う。
- ・ 認可保育園の数を増やし、女性も働く家庭の負担を減らして欲しい。また、認可保育園の選考結果が出る時期が遅すぎる。万が一、選考にもれた場合、そこから別の保育園をさがすには時間的に厳しいし、みつからなかった場合に、職場に事情を説明するのも復帰予定日の直前になってしまい迷

惑をかけるかと思うと大変不安だ。

- ・ 区立の保育園の競争率をどうにかしてほしい。子育て支援課の対応が、本当に悪く落胆しました。全く相談できませんし、信頼もできません。ライフプランのセミナーを行う前に、現状にある問題を早急に解決すべきだと思います。
- ・ 保育園に現在申し込む予定だが、かなり厳しい状況です。ぜひ増園をお願いします。場所が不便なところもあり、車のない家庭にとって負担です。
- ・ 保育園などの数を増やす等をより積極的に行ってくれば、子供を持つことへの不安（主に経済的不安）は減少し、出産をする女性は増えるのではないのでしょうか？
- ・ 仕事と育児を両立するために、確実に保育園に入れるのか。
- ・ 乳児の保育所を増やして欲しい。
- ・ 現在フルタイムで仕事に復帰していますが、文京区の保育園に預けることができませんでした。ただ最近単に預けるだけではなく、子供にどういう保育・教育を提供してもらえるのか、質の向上に力を入れていただきたいと思います。社会的に復帰が必要な職種の優先度を上げてほしいです。収入が高い方が不利なのも納得できません。
- ・ 妊娠・出産・育児を優先すると会社での出世が遅れるであろうことが一番子供を持ちたくない理由であることはやや悲しい。子供を持つことで得られる事が少ない社会という印象を持っている。保育園（深夜まで）サポートを100%にしてもらえるなら産んでみたいと思えるかもしれない。不安が多いです。
- ・ 現在2ヶ月の赤ちゃんがいます。そして出産と同時に文京区に引越してきました。2016年の4月に職場復帰を考えていますが、保育園が見つかるかどうか今から心配です。
- ・ 子供が0～3才のころ、仕事をしていないと預かってもらうことができないのは困った。今は区立幼稚園の預かりだが、仕事がない日は預かってもらえないとか、困っている。枠が足りないから不公平になる。もっと枠があればよいのに。
- ・ 区内の保育所の拡充に努めてほしい。
- ・ 今日、待機児童が多いとよく耳にしますが、もし自分が子供をもってなかなか幼稚園や保育園に通えなかったらと考えると不安なので小学校に行くまでの間、子どもに集団の中での教育をするところがあるのかと今から考えてしまう。
- ・ 小日向周辺に保育施設を増やして欲しい。（保育ママも来年度3月で終了。認証から認可になる保育園が多い。）待機児童をなくしてほしい。こんなに文京区が厳しいとは夢にも思っていなかった。そのためには各保育園の先生の数を増やさなくてはならないと思う。
- ・ 0歳児でないと保育園に入れないので、保育園の数は増やしていただいているが、公立園の受入れ人数を増やす等してほしい。
- ・ 保育園に入園できた人は次の出産も安心して育休をとって恵まれているが待機となり入園不可だった人は、次の子育ても仕事を続けることも大変である。育休中であるのに上の子を保育園へ預け、一年以上ものんびり生活しているのはおかしい。出産以外は保育園より一時的に退園させ、本当に必要としている人に利用できるようにさせるべきである。
- ・ 保育園が充実していない為、2人目の子供の出産を考える事が出来ない。
- ・ ニュースで保育所に入れないというのを聞くので改善されて欲しい。
- ・ 仕事を続けたいと思っているので、保育園や幼稚園の募集、また、病児保育の増設をお願いします。
- ・ 出産後すぐに預けられる施設を増やしてほしい。（夫婦共働きのため）
- ・ 待機児童0を目指してください。

- ・ 保育所が見つからず職場復帰できないというのはよく聞くので、保育所の充実をお願いしたいです。
- ・ 今、マンションに入っている保育園に入園できず、隣駅の保育園へ行かせています。マンションの管理費の中に共用棟の負担もあるのに入れないというのは納得がいきません。それなら認可でなく認証であるべきと思います。小学校へ上がる時の学童保育がきちんとあるのかということに対して不安があります。時間が早く終わりすぎたりしないか・・・とか。認可保育園の終了時間 19:15 は他の区に比べて早いと思います。遠い勤務地の場合、これだと早すぎるのでせめて 20:00 くらいまで保育してほしいです。
- ・ 行政に相談サービスなどは必要ない。必要なのは、実際の保育園（待機ゼロ）です。それが若い世代が「安心して子供を産める環境」整えることだと思いますよ。
- ・ 保育園に入れたので仕事を続けることができているが、もし入園できなかつたらなかなか困難だったと思う。（それでも、0才入園だったからだと思う。1才まで本当は育児休暇を取得したかったが、1才では入園できそうもない現状のためやむなく早めの復帰を選択した。）法が定めるとおりに運用できればいいと思うが、都市部では色々難しいのかなと思っている。あと、保育園に口コミでしか情報を得られず（とくに認可外）、ある意味情報戦だと実感している。
- ・ 兄弟で別々の保育園に通っているため、妻の負担が大きい。同じ保育園に通わせたい。
- ・ 出産しても保育園に入れなくて不安です。働く女性のサポートを充実させて欲しい。定員を増やして欲しい。私立の場合、費用負担が心配です。保育園の殆どが病児保育を扱うようになれば、働くことに支障がでにくくなると思う。土日祝など休日に夫婦で参加できる上記に関するイベントがあればよいと思う。
- ・ 夜、働いています。（自営です）文京区の夜間保育としてガイドにのっている事業所が、すごく狭いのに（6～8畳）金曜日は、かなりぎゅうぎゅう状態です。夜間の保育料も月で支払うとばかになりません。夫婦で働かないと、売上の的にやっていけません。今は、子供をお店においてやっている状態です。（8歳1歳）大変つらいです。きちんとした夜間保育所があるとうれしいです。
- ・ 気軽に利用できる保育所がほしい。パートに出る際に預けられるところがないため、仕事につくことができない。
- ・ 子供を預ってもらう環境が少なすぎ。保育園（入れない、少ない）育成室（入れない、育成のPTA的なものが大変）バランス良く仕事と家庭を両立できる環境なし。
- ・ とにかく保育園を充実させて、安心して子どもを産めるようにしてほしい。現在、育児休暇中だが、保育園がなくて、仕事に復帰できるか不安。
- ・ 文京区の保育施設は認可保育園が多く、非常勤やパートで仕事をしたい私のような立場の母親は利用できず、結局、区外の料金もある程度おさえられる認証保育所をお願いしている。多様な働き方があると思うので、対応できるようにしてほしい。
- ・ 保育園に入れられるかどうかが一番心配です。
- ・ 保育園に入るのが難しすぎる。我が家の第1子は、両親フルタイムでも入園できずでした。1年後運よく認証保育園に入れたのでよかったです…まずはここが改善されないと。
- ・ 土日祝を含めた保育サービス、保育所の充実 とにかく保育園が選べないどころか入れない学童プログラムの充実。
- ・ 兄弟の年の差が変わらないと区立保育園など優遇され、年の差があると入れない事が多い。どうせ申し込みしても入れないと思っているのでムダだと思っている。保育園が増えてもパートや派遣は入れないと分っているので現在私立保に通わせている。近所に親がいる人が保育園に入って高齢や遠方にしか親がいない人は優先されていない。区のお役所仕事にウンザリしてる。

- ・働きながら子育てができるように、保育園（特に認可保育園）安心してあずけられるところがないと住もうと思わない。
- ・保育園の入所が難しく3つの園を点々としました。職場に理解があったとしても、親として働く者として、とてもストレスがあり、また子供にもとても負担のあるものでした。無認可→認証→認可トータルでもいいので保育園の充実を図りまた入園できるまでを親まかせにしないで区の方々が一緒に考え、サポートしてくれるようなサービスを希望します。
- ・別の区の人のことだが、保育園の種類が変わるので、追い出されそうな人がいる。そのようなことはもちろん、待機児童をなくす。つくらない取り組みをしてほしい。女性の社会進出の流れに逆行していかぬように。
- ・自宅から近く、園庭も広い保育園に勤務時間に合わせて預けられる環境が欲しいです。
- ・今年（来年度）は認可保育園の数が増えて良いと思いますが、実際はまだ0～2歳児の受け入れ数は足りないと思います。まだまだ増やして欲しいです。
- ・保育園の充実を強く望みます。フリーランスで仕事をしていますが、預ける所がなく、結局仕事をあきらめざるを得ない状況です。
- ・待機児童問題。点数争いでの保育園入園決定。点数が現時点で低くても、働きたい母親はたくさんいます。正規雇用ではなかったとか、アルバイトしていた、とか。そういった人にも目を向けて欲しい。
- ・妊娠する前から保育園に入園できるかが心配です。妊活・保活と、仕事との両立以上に心配なことが多いです。
- ・文京区には0歳クラスのない保育園がまだ複数あることに驚きます。全ての園が0歳からの区もあります。

② 一時預かり保育

16件

- ・1人の子供を育てるのは大変ではないと思うのですが、子供が2人、3人と増えた時に、ベビーシッターのように家で少しの時間、留守番をして頂ける方を増やして欲しい。また文京区は気楽に使用できる託児所が少なく、不便さを感じることもある。
- ・いつでもおねがいできる託児施設のバリエーションがほしいです。上記シッター代がばかにならず…3人目からはタダにならないでしょうか。
- ・現在第2子妊娠中です。今回の妊娠で気付いたのですが、夫婦共に地方出身でこちらに親などのいない私たちにとって、こちらでの出産はとても難しいです。里帰りはせずに、こちらでの生活を続けながら第2子出産をと思っても、いざという時に、上の子を預ける先がないことを知り、がく然としました。キッズルーム（シビック、目白台）、子育て支援ホームヘルパーだけでなく、緊急一時保育でさえ、2日前までの予約だそうで…いざ陣痛が始まってしまった時、上の子をどうしようか。それが今回一番の大きな問題でした。（区役所やファミサポ等でいろいろ相談してみましたが、結局、どうにも当てにはできないということだけが分かりました。）
- ・子供のいる家族がより自然でにぎやかでいいと思います。友人をみていて、預けたい時に預けられるサービスの充実はいいと思いますが…たくさんの課題がある中で、文京区としてこの分野にどれくらい注力すべきかは全体のバランスを考えて決めて欲しいと思います。
- ・一時保育をしてくれる施設をもっと増やしてほしい。
- ・区立幼稚園の一時預かりの充実を希望します。
- ・小学校入学後の共働き家庭のサポートがさらに充実すると、母親の離職が減ると思う。育成室の19

時までの預かりが可能になるだけでも、大きな違いです。入学までは保育園、医療費など、大変助かりました。ありがとうございます。

- ・ 区で行なうセミナーには参加したいが、子どもをその間託児していただけるとありがたい。
- ・ 現在長男（3）を保育園に入れ4月から次男（0）を保育園に入れて仕事に復帰予定だが、土日は休みでなく平日休みの日は預かってもらえず、（日）は保育園がやっていないためほとんど預ける日がなくなり（日）預ける先にいつも困っている。平日休みの家庭もあるはずなのでこの現状を変えてほしい。せめて平日休みでも預けられるなど生活リズムを整え易くしてほしい。
- ・ 今現在、2歳の男の子の子育てをしています。私も夫の実家も遠方のため、何かあった時に子供をすぐに見てくれる人が周りにいないので、不安を感じています。一時保育などは最初に登録が必要なこともありすぐには利用できないデメリットがあるので、いざとなった時にどのようにしたらいいのか、どこに相談したらいいのか分らずにいます。
- ・ 保育園が空いているか心配です。夜間保育があると有難いです。出かける際に休日託児所があると利用すると思います。それほどに仕事がハードです（共働き）
- ・ 会社や職場に託児所が欲しい。
- ・ 夫婦共に会社員だったので、区立の保育所に0歳から入れ、待機児童の苦労はなく、よかったです。でも会社の育短は3歳から切れ、そこで仕事と家庭の両立に1度すごく悩みました。ファミリーサポートなど利用も考えましたが延長保育でなんとか年長までこれました。でも小学校は育成室が18時までは困ります。結局、小学校入るときにはパートに切替えます。もう少し保育園と同様19:15まで預かっていただけるとありがたいです。
- ・ 海外の先進国のように、ベビーシッター制度を充実させるべきです。保育園では不十分である。確かにベビーシッター絡みの犯罪もおこりうるが、そればかり気にして制限をかける一方では、社会は発展しないと思う。100%不備の無い社会を作ることなど不可能である。バランスを考えて、思い切った改善を行って頂きたい。
- ・ 出産時、保育園の一時保育を利用しました。予定日より遅れ、預けられない日があり大変困りました。また、出産前も入院し、一時保育を利用したのですが、近隣の園は枠がうまっていることが多く、他園の利用などもすすめられたが、非現実的で困りました。
- ・ 私は、自営業の実家の仕事を週2〜3回手伝っています。手伝わないと実家の生活が成り立たなくなるからでした。しかし保育サービスは、月極のところは入園申込さえできず（門前払い状態）、他区の民間の一時保育を利用したため、利用料の負担（半日で8000円位）が家計に重く生活を維持することが大変で親子ともストレスが多かったです。（途中から、目白台の一時保育所を利用できるようになりとても助かりました。）先生方も素晴らしく良かったです。もう少し利用料が安くなってほしいと思いました。

③ 幼稚園

12件

- ・ 区内の幼稚園に送迎バスがないので、通園が大変です。区立幼稚園の3年保育が兄弟枠でほぼ埋まっております、すごい倍率でした。もう少し改善していただけると良いと思います。
- ・ 幼稚園の園バスはあってもいいと思う。
- ・ 区立幼稚園、全園の3年保育を希望します。「補欠50番」とか不足の実績はあるのに。
- ・ 区立幼稚園の入園抽選を見直して欲しい。3年間通う子供優先でいいのではないかな？
- ・ 区立幼稚園の定員を増やしてほしい。
- ・ 区立の幼稚園の3年保育を増やしてほしい。

- ・ 区立幼稚園の整備を進めてほしい。3年保育希望で抽選にもれてしまった場合の子ども、家庭へのサポートを充実させてほしい。園児の定員、先生を増やす（スペース、予算の問題で難しいとは思いますが）
- ・ 幼稚園の送迎バスがないのは、区の私立幼稚園の協定があるからだとか耳にしましたが、他区からの送迎バスが区内を走っていて違和感を覚えます。区からの働きかけで、送迎バスの運行をお願い致します。（ただでさえ坂道が多く、雨や雪の日の自転車送迎は危険と負担が大きいです）
- ・ 区立幼稚園の2年保育に入れたくて、純粋に（私立の3年保育や保育園 e t c に入れずに）待っている、子育てをしている親子の優先枠があっても良いのではないのでしょうか？定員を超えたら抽選ですというのは、一見平等にも思えますが、どこにも頼らず、1年間子どもと向き合い、入園待ちをするのは、大変な重労働です。他から転園されてくる方と同じ土俵なのは、ちょっと残念な気がします。
- ・ 現在、上の子が幼稚園児ですが、幼稚園まで2km以上離れているのでバス又は自転車で通園しないといけない距離です。1歳の子もいるので一緒に送り迎えしていますが、3人目を妊娠・出産となると通園に無理があります。核家族なので下の子を誰かに通園の間みてもらうことはできません。車は維持費が高額になるので所持していません。年の差をあけての出産は、年齢的に妊娠が難しくなりそうです。そのような状況なので、園バスをもっとたくさんの幼稚園に導入して頂きたいです。
- ・ 区立幼稚園の特に3年保育の定員が少ない。私立との費用が違いすぎる。（私立への補助が少ない、又は区立の月謝等が低すぎる）。
- ・ 保育園には力を入れていても、区立の幼稚園を増やす予定はないのでしょうか？区立も、倍率UPしているため、入れるかどうか不安でなりません。

④ その他

24件

- ・ 1クラスしかない小学校を廃止し、最低でも2クラス以上としてほしい。学童保育の夏休みのお弁当を給食にしてほしい。
- ・ 育児というには大きくなりすぎていると思いますが、区立小、中学校の老朽化が目立ちます。地震が心配です。文教地区なので区立中学の教育の充実にも力を入れて欲しいです。中学受験しなくても安心して区立中に通えたら、ありがたいです。
- ・ 妊娠～出産～育児～就園くらいまでは、行政やその他のサービスもそれなりにあるような気がします。ただ、小学校入るとあまり頼る所がなく、心細い印象がありました。（何か、急にひとりでやってね、的な！）特に一人っ子の家ではそう感じると思います。文京区に越して来る前の自治体は、学校内に学童保育があったので安心して預けられました。また、私は子供ひとりですが、2人以上子供がいる家の上の子を見てあげられるような所があると、いいのになと思いました。（下の子の病気や急用の時など、預けられない状況もありますので…）うちは子供ひとりで成人しているので、思い返すところ感じました。親も遠方で周囲も働いていて頼れないという方もおられると思います。
- ・ 学童に入れないかもしれないそうです。安心して働き続けるために、学童に全員入れるようにして欲しい。（小学校で引き続き預る等）
- ・ 女性の正社員（総合職）として働いていると、夫婦2人の生活を保つだけでも負荷が重い。年齢のこともあるため近々子どもは欲しいが、今の生活が大幅に変わるということを考えるとどうしても出産は後回しになってしまう。せめて保育サービスが充実していれば、安心して仕事と家庭の両立を頑張ろうという気になる。少子高齢化は区だけでなく日本全体において深刻な問題であると考え

るので、短期的な目線ではなく、長期的な目線で施策を考え実現して行ってほしい。行政に期待しています。

- ・一人親へのサービスを充実させて欲しい。外国居住者が子どもの春休みなどを利用して一時帰国する際、より簡易に公立学校に体験入学できる仕組みを作り、地域・学校関係者にインクルーシブかつダイバーシティを持つことの利点を説明し、推進して欲しい。
- ・妊娠相談はあまり意味がなく、(TVで観た。)成果が出ないと思う。それより、区立の小学校を米飯給食にしたり、牛乳廃止など独自性を出して、文教のイメージを打ち出せば、良い教育を受けさせたい親が集まって来ると思います。砂糖まみれの給食を食べさせるのがすごく嫌です。
- ・区立小学校のハードの差がありすぎでは？中学校のように、自由選択制多ければ抽選で良いのでは？
- ・保育サービス充実を是非お願いしたいのですが、関心を集めがちな保育園の拡充以外にも、学童保育の充実の方も力を入れて頂きたいです。(小学校入園後は働く母親は急に大変になると聞くため←学童だと親が平日に参加する頻度が保育園より増す、小学校行事が平日に行われるetc)
- ・今後共働きが増えていくと考えているが、社会の仕組みがそれに対応している状態とは言えない。例えば、小学校は、平日昼間に行うイベント(面談、PTA会合など)が多く、また担任の先生に相談するとしても平日昼間の対応とならざるをえない。学童保育も小学校3年生までであり、それ以降は何もない。文京区が他と比べて住みやすい所とは言えないと考えております。年寄り向きの町です。
- ・保育サービスの充実をのぞみます。また、学童保育の充実も、必要と考えます。小学校4年生以降が見守り目的で塾へ通わせなければならない状況があります。(今の大人が小学校4年生のとき、皆さん、1人で過ごすことは少なかったと思いますが、何故今の小学生ならできると思うのか、不思議ですが、そういうことを仰る方が職場にも多く、「子ども」だったときのことを忘れてしまうものなのだなあと思います。)
- ・特に都内では、保育園、仕事、経済的要因(学費など)住宅事情すべての面で子供を複数もつことへのハードルが高くなっていると思います。保育サービスに関しては、数は増えていますが質に大きな差があると思います。(施設、保育内容など)子育てをしていて感じるのは、子育て期間は長く、未就学期だけのサポートが手厚くても、長期的には小学校低学年など、まだまだ親との時間が必要な時期に壁に当たってしまうということです。学童保育の内容の充実をおねがいしたいです。民間サービスも増えていますが、所得による選択肢の格差につながっているように思います。
- ・子供はすぐ熱を出すので病児保育などももっと充実すると共働きには助かる。
- ・急な病児保育を預かってもらえる施設を切望します。
- ・仕事をリタイアされた方々による託児システムを充実していただきたい。
- ・学童の運営時間の延長、小学校の休みの間の給食(保育園と併設されていることが多いので保育園の給食作成数を増すなどして)提供して欲しい。保育ママで預っている子どもも保育園で給食が食べられるようにするのはどうか。
- ・学校(特に公立小)の教室が足りるのか心配。
- ・現在、子供が二人いますが、共働きで子供が病気になった時にとってもこまっています。区の病児保育は二ヶ所しかなく遠方で、定員も少ないため特に冬場はなかなか預けることができません。区内には小児科がたくさんあるので協力して、もっと病児保育を増やして働きやすい環境に整えてほしいです。
- ・学童をもっと長時間にしてほしい。

- ・ 短い時間でも、気軽に、いつでも、安く子供をあずけることができるシステムが欲しい。またあずけられる場所が沢山あるとうれしい。
- ・ 公立の保育園、育成室に満足しています。安心して子供を預けることができ、子供が良質な環境で育ち成長しています。これらの施設の中に病児保育を充実させて下さい。発熱してもインフルエンザにかかっても預けられる場所が必要です。
- ・ 子どもが中学生以上になると、公立に通わせていても、非常にお金がかかり、大変だと思います。教育の機会が十分に行きわたればいいなあと思っています（うちは子どもが4人いるので…）
- ・ 保育施設が圧倒的に少なく、特に専業主婦の家庭は優先順位が低く全く何のサービスもないように感じる。同じ区民税を払っているのに不平等ではないか。何ヵ月、何週間も前から決まっている予定などあまりなく、数日後に頼みたい時にでも頼みたい施設がない。
- ・ 未就学児だけでなく就学後にも（特に小学校低・中学年）、保育サポートは非常に重要であり、手当（対応）をお願いしたい。（設備サービスの拡充）

5. 子育て施設の整備について

47 件

① 公園

21 件

- ・ 安全、安心な街、公園で子どもを遊ばせたいです。新宿区の白銀公園や戸山公園のような公園が文京区にも欲しい。放射能汚染対策、子どもへの身体の影響も心配です。
- ・ 道路・整備・公園が狭い気がする。
- ・ 文京区は公園がたくさんあるのでとてもありがたいですが、すべり台など遊具をもう少しおもしろみがあっていいのではと思う。子供がマンネリ化するうえ、親も公園離れが進んでいる。例えば、ららぽーと南船橋にある海賊船のような船のすべり台、飛鳥山公園のようなすべり台やうんてい、子供の身体能力をあげる遊具の充実をお願いしたいです。
- ・ 芝生の公園をつくってほしいです。
- ・ 保育園児の子ども達が公園で遊んでいるとうるさいと近所の人に怒られるのは、残念に思います。礪川公園は上の部分が使えなくなりましたが、下の公園を通りぬけ禁止にしてもらえたのはよかったです。子どもが気兼ねなく遊べる場所が増えることを望みます。
- ・ 公園の遊具の充実をお願いします。
- ・ 子供が安心して遊べる場所を増やしてほしい。自転車の練習や3～5才くらいのレベルの球技（キャッチボールやサッカー e t c）ができる場所。小学生や中学生が激しく遊んでいると、危くて遊ばせることができず、また、交通量や坂が多く、3～5才の自転車の練習がしにくいです。
- ・ 文京区は子供の数が少ないため仕方ない部分もあると思うが、未就学児、未就園児が遊びやすい（遊ばせやすい）公園が少ない。遊具が古かったり、砂場があまりキレイに感じない。
- ・ 家やマンションばかりできており、子供達が遊べる広場や公園があまりにも少なすぎる。そのような施設が用意できないのであれば、学校の校庭を休日でも解放してほしい。道路以外でキャッチボールやサッカー等、楽しめる場所がほしい。
- ・ 区内はまだまだ子どもを歩かせるのには危険な場所も多いため、整備してもらいたい。（公園の砂場の整備も希望）
- ・ 文京区の公園を増やして整備してほしい。小さくて見通しが悪い公園が多い。
- ・ 乳幼児を連れて安心して遊べる公園が少ない。遊具が数ない。砂場の柵がない。トイレも暗く利用しづらい。他の区を見習って改善して欲しい。
- ・ 大きくて明るい公園が少ない。

- ・ 公園の遊具を増やしてほしい。鉄棒がない。
- ・ おもいきり子供が外であそべる広い公園が少なすぎる。園庭付きの保育園が少ない。文京区でいえば気軽に遊べる自然がほしい。
- ・ 子供が安心して、思いっきり遊べる公園などの場所を確保してほしい。公園なのに「うるさい」と言われて家に帰って来る様な事があるのはどうかと思う。
- ・ 文京区内は比較的保育園の園庭がせまいもしくはない等近所の公園が小さいなど子供が体を動かして思いっきり遊ぶ場所が少なく残念に思います。いつも区外の公園まで出向いて遊びに行っています。
- ・ 公園に子供をじっと見たりする不審者がいることがあるが、他の母親（もちろん父親も）たちが、そのまま遊ばせていてこわい。公園の遊具が整備されていない。鉄棒の落下事故が多いので、下にゴムチップなど敷いてほしい。子供だけで公園で遊んでいる。夜間に見ることも多く、小学生？びっくりしています。公園に子供と行くと、他の親がいないので、他の子まで私の責任になるのがイヤで公園に行きたくない。子供が公園のトイレや物置の屋根に乗っていて危ない。親はいない。※公園は禁煙なのに、タバコを吸っている人がいるので区役所に電話したら、「今から行ってもきつともう吸い終わっているだろうから行かない」と言われ、途方に暮れた。
- ・ 子どもたちが走り回ったり、木登りしたり、ボール遊び等ができるような場所が少なく（ほとんどなく）、遊びが非常に制限されています。自宅前の道路でボール遊びをしていて苦情を言われたり、剣道の竹刀を振って素振りをしていると、危険だと叱られたり。子どもの体力の低下もいたしかたないと思います。ある程度の広さの「空地」が子どもたちの近くにあればなあ…とつくづく思います。（文京区の）子どもたちの“生命力”を阻害しないように、たくましく育てていきたいね…とママ友とも話をしています。
- ・ 保育サービスに関しては、共働きで不規則な就労時間のため、夜間、休日の即時対応の保育サービスや、病児保育サービスの拡充を望みます。
- ・ 子供が十分に身体を動かせる公園（大人がくつろぐ庭園ではなく）も重要視されていると感じられません。働きながら子育てをする上で、積極的に文京区に住もうと思えません。

② 公共の子育て施設

14件

- ・ 子供が現在3人おりますが、1人はまだ乳児です。子供をもっと気軽にあずけられる施設や、雨でも室内などで、遊ばせられる施設が駅前などに（茗荷谷）あればいいなど。白金台の児童館へ行き、都内でもこんなに充実して異年齢の子供があそべる場所があり、とてもいいと思いました。雨がふると茗荷谷駅のあたりには遊ぶ所がなく、困りました。
- ・ 文京区は、塾など、学業に関する事には熱心だが、体を動かす施設等が少なすぎる。運動系の習い事は、みんな、電車に乗って遠くまで行っている。文京区の子供達の体力テストの結果は、とても悪い。
- ・ 前項でも記入しましたが子供たちが遊ぶ環境が少ない。遊びの中で学ぶことの多さ、経験して学ぶこと、機会が少ない。学校の校庭解放、育成室の充実（学校に併設できれば理想）
- ・ キッズルームシビックの利用時間を8時頃～にして欲しいです。（9時～だと、上の子の幼稚園の送迎に間に合わない）。
- ・ 児童館の再整備を希望。港区の児童館は充実している。（うさちゃんクラブのようなものもやって欲しい）→階段しかない児童館など不便。認可保育所の誘致により、認証が少なくなってしまう、逆に、入りにくくなっている。

- ・ 子供達、親にもっと気軽に立ち寄ることができる施設を作ってほしい。子育てママは孤独に感じている人が多いと思います。
- ・ 家庭以外の公民館などの施設（平日の昼間に外出できるような）の充実、無料の休憩所、避難所を増やしてもらいたい。（地域の高齢者などとも共用できる）
- ・ 児童館のおもちゃの中には、乳幼児が飲みこんでしまうオモチャが、ゴチャゴチャとまざっていたり、定期的に洗ったりしていない。あきらかにきたないものが多くこまる。そのため、隣接区の児童館まで、子どもを遊びに行かせている。
- ・ 文京区役所内に0才～2才まで利用できる、ぴよぴよサービスがあるように、3才～6才までが利用できる区内の利用施設がもっと身近にあると良いと思います。
- ・ 根津地区は保健センターも遠く、近くの公園もあまりない。子供が遊べる場所がほしい。専業主婦でも働きに出られない人にも優遇してほしい。
- ・ 子供が安全に遊べる場所が少ない。雨天時、真夏、真冬等でもゆったり遊べる無料（低料金）空間。
- ・ 遊び場などの乳幼児（特に乳児）向けサービス。
- ・ 出産・育児に関しては、安く利用でき、安心して子育てできるような施設などを作ってほしいです。
- ・ 親が遠くに住んでいて、来て貰いづらかったり、親も年で育児を頼めない方々の為にも預って貰える施設。

③ その他

12件

- ・ ベビーカーでバスに乗ることが難しい。
- ・ 子連れでも行きやすい施設、お店が増えると嬉しい。多目的トイレを探すのに時間がかかる。子連れに優しい社会になるといいな、と思う。
- ・ 子連れ（特にベビーカー）でのバスや電車での移動がもう少し便利になると良い。
- ・ 校庭→土のグラウンド化。園庭→木登り、土の山、水遊び 自然とのふれあいの中で、子育てできればと思います。
- ・ 自転車の練習ができる場所が少なく、土、日だけでも練習のできる場所を作って欲しいです。小学校（公立）中学校（公立）の情報が口コミでしかなく、もっとオープンにして現状を教えて欲しいです。
- ・ ボール遊びのできる公園が少ない、学校校庭を学年問わず開放してほしい。
- ・ とにかく公共施設のエレベーター、エスカレーターを設置を充実して頂きたい。
- ・ 高齢者だけでなく母親、ベビーカー等移動のためのバリアフリー推進も望みます。
- ・ ベビーカーを使用していて、エレベーターのない又は使いづらい駅があって困る。
- ・ 公共施設では授乳を行うスペースの拡充や、男性トイレ、または男女共同のスペースでのおむつ替えの出来る空間を希望します。
- ・ 子育て世帯への給付金支給よりも、公共施設（保育所・学校・駐輪場・公園・給食費・修学旅行費・学校授業に必要な個人購入するもの等）への、子供に直接必要なものへの対応とした方が良いと思う。
- ・ 文京区は子供連れやベビーカーをひいて歩くのが困難な歩道や、スーパーが多いです。公園も小さく、暗いと思います。ただ、小学校の校庭を休日開放しているのはよいと思います。

6. 仕事と妊娠・出産・育児の両立について

69 件

① 企業の理解・サポート

27 件

- ・ 私は大学生です。大学生になり、本格的にアルバイトを始めました。それまでの教育機会の中で上記のタイトルに関する講義等で、男女の雇用均等の、ライフワークバランスなど、「暗いこともあったけども、今では改善されているよ。」と言うような、教えや数値を見てきました。しかしながらバイト先で、3児の母の社員さんが精神的なイヤガラセをまわりの方からされていて「机上の空論」だったのかなと考えてしまいました。(短時間労働が原因であった)
- ・ 医療・病院の勤務時間の適正化がなければ妊娠・出産・育児は不可能です。行政指導を行っていたきたい。
- ・ 毎日とても忙しいです。仕事です。正直、いつか結婚もしたいし子供も欲しいですが、そんな未来を30にもなって想像できません。得たスキルを、死ぬまで活かしていきたいですが、出産で間が空くと、元に戻れないのではと不安になります。転職する際、結婚している人、予定のある人は敬遠されます。妊娠の可能性があるからです。妊娠が他人に負担をかけるというイメージは拭えません。
- ・ 仕事と子育ての両立が難しい。ライフワークバランスという言葉が民間企業へ浸透しておらず、利益重視の傾向が未だに続いていることは、問題と考える。
- ・ 共働きで子供を育てる家庭が多くなっている様に思います。私の職場では、たいてい母親が育休を取り、父親は何もない。1年くらい育休を取った母親は現場へ戻りにくくなっている。結果、母親は職場を辞め、パートを探している。改善策として、半分にすれば良いのでは？母親が6ヶ月なら父親も6ヶ月。それくらいしていかないと、男女平等ではない。子育ては男性もやるべきであり、女性は社会でもっとキャリアアップ出来るのでは？と思います。
- ・ 結婚の予定があり、相手が望んでいるので子供も欲しいです。但し、仕事も今、2～3年が大事な時期で替えもききませんし、必ず続けたいと考えています。社内では休暇は非常にとりにくく、両立させる為に、是非保育サービスをより充実、強化して頂きたいと願っています。
- ・ 女性が出産した後、社会に戻りやすい法整備や環境づくりをして欲しいです。現状だと、育児のために一度退職すると、正社員に戻るのは大変難しく育児に時間を取りたくてもやむをえず働いている女性が多いと思います。男性と同じように働くのではなく、女性は女性らしく→旧来型の女性像という意味ではなく。(その個性や、能力を生かす)働ける社会づくりをして下さい。
- ・ 自分：現在専業主婦、夫：会社員（正社員）夫は年中過重労働の状態、休日出勤も日常茶飯事です。以前は私もフルタイムで働いていたのですが、家事全てを担い、両立が難しい状態でした。子どもはとても欲しいのですが、経済面から現在私は求職中であり、実際にはまだ先になってしまいそうです。厳しいです。
- ・ 男性の働き方、会社や管理職の考えを変革させなければ女性はいずれにしても子どもを持つことに、二の足を踏むだろう。
- ・ 妊娠出産しても仕事が継続できればよいと思いますが職場での体制が整っていないときに区で支援を下されば、安心できます。
- ・ 職場にも、結婚・出産をしていない女性がたくさんいる。産休・育休をとる社員もいるが、その欠員をうめる体制が整っておらず、まわりに迷惑をかけるから、とてもやるせない。男性（上司・年輩）の理解も足りないと思う。出産できなかった女性が若い子の育休などに難色を示す。みんな、若いうちに子作り始めないと！妊娠の可能性が減っていくリスク等を、若いうちから広めて！
- ・ 幼児がいるとフルタイムでは働けず、パートで働いていても病気などで急に休んだりする必要があるが、それを理解してくれる会社・同僚に恵まれないと働けない。

- ・ 不妊治療を3年、大変でした。公務員ですが、まず治療のために休むことがなにより大変だった。まわりに大っぴらに言うこともできず、何度も人に迷惑をかけなければならなかった。子供をもって、驚いたのは「妊娠・出産・育児」は、まわりに支えられながら休むことができる！！ということでした。不妊治療のために、もっと楽に休みをとれるようになると思います。
- ・ 職場でも妊娠したとたんに仕事内容や態度が悪い方向に変わることも少なくない。
- ・ 結婚し家庭を持ちたい気持ちはあるが、子育てしていく環境（給与・産休のとりやすさ・保育園・職場の理解）が良くないので不安。子育てに対して女性への負担が多いイメージがある。
- ・ 私は新卒で就職して以来、平日は自宅と会社との往復で帰りも深夜であり、休日は仕事かもしくは疲労のため睡眠という生活をおくっているため、子どもを持つどころか結婚もままなりません。そのため、このようなアンケートの内容だとリアリティがありませんでした。私のような方のために、妊娠・出産・育児以前の社会環境の整備にももっと力を入れて頂きたいと思います。
- ・ 職場の子育て中のフルタイム職員が（女性）当然のように子どもの病欠、プラスPTA役員のための休みをとる。自分も（パート）子どもがいるが当然同じように休めず、カバーをしなければならなくなる。結局まわりにしわ寄せが来るのでまわりの配慮が必要。
- ・ 出産、育児に際して自分のキャリアを断念しないといけないのでは・・・？と感じる。今の会社では、産前、産後・育児休暇は就労規則に明記されているものの実際に取得した実例（ロールモデル）が身近にいないため不安がある。
- ・ 仕事をしながら子供ももちたいが、いくら“育児支援”といっている、実際のスタッフへの理解は乏しい。とくに上司は独身、子なしがほとんどであり、理解に差があると思う。そういった差がなくなれば、このような問題の解決は難しいのではないか。
- ・ 職場の子どもがいる人を見ていて、子どもが小さいので夜勤の免除を申し出ても、上司から、人が足りないから無理と言われたり、子どもが病気になっても休めず高い民間ベビーシッターを頼んでいたりするのを見ると、大変そうだと感じる。また、自分自身が以前の過労からくる循環器疾患で内服が欠かせない状態のため、自分の生活を維持することで精一杯で余裕などありません。
- ・ 仕事中心で考えると結婚などは後まわしになってしまう。子どもを持ちたいのでタイムリミットがあるのは理解できるが、やりたい仕事がキャリアアップを考えると結婚、出産に積極的になりにくいと思う。趣味での出会いにも限界があるし、仕事の理解を得るのが難しい。
- ・ どんなに制度があっても、会社に希望など伝えると立場があやうくなったり、退職とすすめられるような環境があり、権利を行使できないことが多い。
- ・ 仕事上、夫と離れてくらしています。男女ともキャリアを捨てずに一緒にくらせるまたは同じ地域で職を得ることができる社会になってほしい。男性に残業を多く課さず家族とともにいる時間ももっと多く欲しい。
- ・ 産休、育休をとりやすい職場で、そのままのポジションにもどることができる。しかし、休んでいる間はその人の抜けた人数で行なわなければならないため、残りのメンバーの負担が大きく、職場の雰囲気が悪くなる。
- ・ 結婚しておらず、子供もいませんが、行政の支援よりも、正社員だった頃、今働いている環境や、給与のまま結婚、出産ができるのかの方が気がかりでした。業務内容が増え、拘束時間が長くなり、それでも給与が増えないままで、結婚や出産なんて自分にできるのかと非現実的なものとして印象づいています。
- ・ 仕事を継続し、キャリアアップを目指したいですが、職場の理解と協力を得られないことが理解しており、息苦しさを感じています。転職してでも仕事・家庭・自分のやりたいことを全て出来るよ

うなライフプランの形成をしたいので、それを手助けしてくれるようなサービスを求めます。

- ・ 従業員が出産した時に雇用主が得となるシステムでないと子供を産みことは困難である。現状は産休代員や出産の書類手続きなど、雇用主の負担が大きいので、正社員でも暗黙の了解で退職させられている。

② その他

42 件

- ・ 子どもはそのうち欲しいと思うが、仕事が忙しいので、今は要らない。そういう方は他にも多いと思います。
- ・ 親の働き方で子育てするところ、保育園など選ぶのではなく（これだと親が主体である）子供がどうしたら良くなるか、子供にとってはどうしてあげたいのか、を考えて選び、選べる世の中にしてほしい！
- ・ 仕事は、プレッシャーや厳しい言葉などによって大きな心理的ストレスがかかるため子育てや妊娠自体、胎内環境に影響を与えるのではないかと思うこともあり、自分の仕事をする事への適性を考えることがあります。
- ・ 働き方を変えることが、結婚・妊娠・出産・育児を個人で選択できるようになる近道だと考えている。行政・国の結婚～育児のサポートは重要であるけれど、どんなにサポートしても1日の生活の大半を占有している「仕事・働き方」を変えないことには、(賃金、労働時間、正社員か派遣かなど)結婚～育児までにたどり着けないし、維持することも難しい。結婚～育児だけを捉えるのではなくトータルで考えることだと考えている。
- ・ 妊娠・出産を機に子育てに専念したい女性もいれば、仕事との両立を目指す女性もいます。かつて保育士(公務員)として働いていましたが、両立の困難からお仕事を辞める母親、そして同僚をたくさん見てきました。子育ては仕事と違い、合理化、簡略化するものではなく、時間、体力、etc、当然に注がれるべきものだと思います。意見を言えない子どもの立場にたって言わせていただくと、例えば病後児保育や長時間預かれる施設の充実よりも、必要な時に母親(家族)がいてくれる制度(つまり仕事を気がねせずに休める制度)を充実させていくことが絶対に先だと感じます。
- ・ 共働き・育児・仕事の両立できる社会になってほしいです。
- ・ 20代後半から30代前半は、仕事のキャリアを積み上げる上で重要な時期である由に、結婚に対しておざなりになってしまう。キャリアパス構築STEPにそもそも問題があるのかも？そしてキャリアを考える上で、乳児や幼児の預け場所の確保は必須。仕事とライフイベントの両立は難しい。
- ・ 育児に関して、ワークライフバランスを取るのがかなり難しい。急に一時保育サービスが必要になった時に、空気が無く大変な思いをした。
- ・ 夫婦共働きで、子供がいますが、いまだに「小さいうちから保育園に預けてかわいそう」という風潮にびっくりします。女性活躍推進などいってるのは一部で、世間はまだまだその感覚になってません。
- ・ 育児中の知り合いが皆とても大変そうで、仕事も結局フルタイムに復帰している人は少なく、気おくれしてしまいます。夫はとても子供を欲しがっていますが、大変なことばかり思い浮かんで、いまひとつ積極的になれません。
- ・ もうすぐ結婚予定ですが、仕事がいそがしすぎて、安心して子どもを産めるとは思えません。
- ・ 仕事しながらの不妊治療はとても大変です(金銭・精神的にも)。子供を持つことをあきらめてしまいたくなります。産めたとしても保育所がなく不安です。
- ・ 保育園の入園が厳しくなっているので、復職できるか不安である。せっかく正社員で育児をしながら

ら働ける制度が整っているのに、辞めなければいけないのは悲しい。

- 平均賃金が年々下がる中、子供をもち、人並みに生活したり、良い教育を受けさせたいと考えたら、共働きでないと難しいと思う。しかし、世間では保育園が足らず、働けない人（女性）も多い。欧米のように、もっと家庭や仕事のバランスがとれた世の中になれば、結婚・出産をもっと前向きに考えられるのに、と個人的に思う（シングルマザーの場合も含む）。
- 仕事でのキャリアアップと家庭との両立ができるように、区全体でバックアップしていただけるような体制づくり、支援制度を充実させてほしい。
- 未だ出産、育児に際して年次休暇がとりにくいとを感じる。主夫になることは経済的不確かさから難しいと感じる。子どもは社会の宝であるのに、子どもを授かることに否定的な言動をとる人がいたり、両親の状況によっては妊娠が不幸なこととなるのは残念だと感じる。
- 女性の活躍推進ということが声高に言われていますが、実際にその対象となる女性は限定されている。「子供がいて働いている女性」の活躍推進なら言葉を正確に使ってほしい。
- 就職する 20 代前半の女性に向けた妊娠・出産・育児のレクチャー。ライフプランを考える上で大切、新卒 22～32 才で仕事が充実し、いざ結婚、出産しようとして、不妊という場合もあり、仕事と自分のプライベートについて 20 代前半でプランニングする必要があると思う。
- 共働きでフルタイムで働き続けるつもりだが、本当に頑張りつづけられるか（出産、育休後）向上心を持って働きつづけられるか不安。
- 私自身フルタイムで働いておりましたが、妊娠を機に退職し、専業主婦として育児、家事等全て一人の手で家の中の事を行っております。他人の手助けの必要もなく子育てが出来るのはとても気が楽です。主人は朝から深夜、土日曜も働いており、家の事は一切出来ませんが、朝の子供との通勤は楽しそうです。女性の社会進出が推奨されておりますが、私はしっかりと育児を行い子供を社会貢献が出来る人間に育てていきたいと考えております。家事と仕事を両立する必要があるのか、保育園が必要なのか、疑問に感じます。
- 結婚は、相手がいれば、すぐにでもしたいです。しかし、仕事も充実してる為に、すぐ辞めるか考えてしまいます。子どもが出来たら、就学するまでは、子どもとの時間を大切にしていきたいと考えます。
- 共働きで子育てできる環境（保育所増設、一時あずかり e t c .）を充実させて、税収あげて、子供を増やすこと労働人口を増やすことに使っていい循環を作ってください。配偶者控除は撤廃して、女性労働意欲をあげさせる仕組みを作ってください。専業主婦には税金・年金に関する、いわばインセンティブがあるのはおかしい。共働きの方が得する仕組みに変えて下さい。
- 制度や施設などを通じて、子育てを支援することは不可欠だが、子育て世帯への直接的な支援（〇〇手当など）は、不公平感が大きく、又、必要でもない。夫婦（あるいはひとり親）がしっかりと働けば自分の子供の面倒は自分でみられるような就労環境、経済環境を作ることこそ重要。
- 働く女性が年齢にしばられることなく、妊娠・出産・キャリア形成を考えられる手助けを行政がして下さると大変有難いです。
- 私個人としては、帰宅が遅く、土曜日勤務がある状況で、子供とふれ合う時間が取れないことに不満はあります。
- これから本当に妊娠できるか不安です。めでたく妊娠できても、その後、仕事との両立がうまくできるか心配です。経済的、自分の為にも、子供も仕事もあきらめずにできればと思います。
- 仕事と家庭を両立しやすい社会になって欲しい。
- 保育サービスが不十分であったり、経済的な不安があるため、若者が結婚、出産したいと思ってい

でも躊躇してしまう。若者が仕事をしながらでも結婚、出産できる世の中にならない限り、少子化は止まらないと思う。

- ・ 仕事と育児と両立できるか不安はある。保育園は大体 18 時くらいまでしか預けられないので、仕事が制限されてしまう。
- ・ 仕事と育児を両立する上で、長時間労働の文化が一番の弊害と感じます。そして、それを支える（可能にしている）のは専業主婦の存在かと思います。育児に限らず、男性がもっと仕事以外の社会活動に参加したり、女性（専業主婦）も、自分の子供と関係のない社会へ参通していく事がすめばよいと思います。
- ・ 結婚・出産をしていたら、今の年収は絶対得ることができなかったと思うと、今の日本で結婚・出産することに希望が持てない。しかし結婚も子どももない人生を送る事に、100%正しいとも思えず、もっと仕事と子育てが両立できる社会に変わっていくべきだと思う。
- ・ 「マタハラ」という言葉が出てきているが、そのようなことがないような社会になって欲しい。職場でも理解をして、妊婦さんに協力するような風土になってほしい。そもそも、マタハラをする側の人だって、自分の母親が妊娠しなかったら、その人の命すらこの世に生まれてない、存在すらしないんだから。結婚、妊娠、出産、育児に対してもっと社会全体が理解し、結婚、妊娠、出産、育児をしやすく、女性が働きやすい社会になるように区、市町村だけでなく国全体が変化して欲しい。小さいときから性教育をちゃんとしないと「マタハラ」をするような大人が生まれると思う。
- ・ 妊娠・出産によって正社員としての仕事を失うリスクに不安を覚えます。
- ・ 仕事をしている中での妊娠・出産・育児などを支える制度・奨励があっても、実際には利用しにくい現状がある。（看護休暇・時短制度など）周りの方への負担や迷惑になるという精神的負担が少なく、堂々と利用できるようなサポート（本人・周囲の方双方への）があるとよいと感じる。
- ・ 子どもの頃から社会で活躍したいと思い、医師や国際的に働くビジネスパーソンに憧れてきたが、就職を意識し始めた頃からその実現には子育てが障害となると強く認識した。何十年も前から少子化が問題化されているのに、未だに両性が仕事と育児を当然に両立できる環境が整っていないことが不思議。行政は本気で少子化を解決する気はなかったのではないかとすら思う。
- ・ フルタイム、パートタイム等、多様な働き方に合った保育体制が必要だと思います。私は 3 才の子供を認可保育園に預け、時短で働き、保育園も楽しく、仕事も充実、あまり残業なく、とても恵まれた環境ですが、本当にこれで良いのか、真剣に悩んでいます。やはり子どもが小さい間は、親を必要としていると感じ、そばに居たいです。（問 8、問 9 は答えが出せませんでした）退職も検討していますが、幼稚園に通わせて、その間に働くとしても、夏休みは子供を預ける必要があり、現状、保育料の方が高い場合が多く働く意味がありません。働く or 専業主婦の 2 択なののでしょうか。
- ・ 留学先のスウェーデンで施行されている、parent al allowance（給与保償・地位職業保償）及び、育児休暇の義務化（個人・雇用者への法的義務化）が望ましいと思います。
- ・ 仕事と育児の両立。私自身はこれからの社会に子供を残したいとは思いませんが、産む選択をした女性が男性と等しく仕事で活躍した上に母としての育児タスクを全面的に負担、期待されるようではいつまで経っても出生率は伸び悩むままだと思います。
- ・ 保育園に入る時も、とても大変で、入ったのは良いが、親など手助けしてくれる人がいないと仕事と両立するのは、大変なので、子供 1 人で手いっぱいである。
- ・ 自分のキャリアを考えた際に、子供を産むべきタイミングが見当たらない。また、育児休暇からの復帰や仕事中のベビーシッター等保育施設に関しても心配事は多いです。子供を欲しいと思う反面、

子供が出来ることが非現実的な気さえしてしまうのが今一番心配している点です。

- ・ 職種に関わらず、仕事と育児の両立を望む人が望む通りの働き方ができる社会になってほしい。
- ・ 「女性の活用」と言うけれど、育児でヘトヘトで、24h365dの仕事をすでにしているのに、これ以上なにを働けと言われてしているのか。しかも安時給で。子育てに給料払ってもらった方がよい。子供のいない女性にバカにされるのでうんざり。

7. 男性の家事・育児参加について

22件

- ・ 女性の自立・就業支援に向けている施策・予算を全て男性の育児支援に向ければ、少子化問題と女性の活躍推進の課題が同時に解決できます。
- ・ 家事、育児を夫がやる気になるような仕組みを作してほしい。
- ・ 男性はいまだに「子どもがほしい」と言う割には育児と家事は女の仕事と思っている人が多いので意識改革希望。
- ・ この調査票の質問項目の端々に、「家事・育児を妻が行い、夫は外で働く」という固定観念を感じ(例：問10の選択肢配列、問14の選択肢3、次のF10の質問形式等)、そこに違和感、さらにいえば不快感を抱いた。「妊娠・出産」という側面において、生物学上、男女の役割が異なることは致し方ないが、その他の局面では、可能な限りのジェンダーフリーを目指すべきと思われる。(意識面も)
- ・ 女性の社会進出よりも、まず、主となっている男性の働く環境の向上、しいては収入の向上が出産率UPにつながると思います。
- ・ 最近、大学の授業で文京区の家庭支援(育児)に関するサービスについて調べ、様々な私の知らないサービスがたくさんあることを知りましたが、特に男性の方が育児の手伝いをするのが容易になるようなまちづくりが必要かと思いました。
- ・ 女性の社会進出が求められている今、夫は仕事、妻は育児・仕事・介護・・・というのが当たり前にならなければいいな、と思います。女性が外で働くなら、男性も女性と同程度、家事や育児をしなければ女性はずきと思う。むずかしいかもしれませんが、男性も意識を変えればいいという考えがあるかと思いますが、それだけではダメだと思う。「女性手帳」を配布すれば済む問題ではないと思います。女性の意識を変えるだけでなく、男性側も変わってほしい。妊娠・結婚は女性一人ではできないので。
- ・ 父子手帳も配布してほしいです。育児に協力的であっても、子どもの体調や体重管理、ミルクの量など、どうしても母親が指示する形になります。父親にも、もっと主体的に取り組んでほしいので、子どもの状況を自分でも管理できるよう、手帳を原則持つようになってもらいたいです。
- ・ 出産後も医師としてずっと仕事を続けてきました。結婚していたころは、「お手伝い」はするけど、同等には家庭や育児の役割を担おうとはしない夫が精神的な負担でした。離婚して、今は一人で育児も家事もしていますが、かえって楽です。元夫との生活では、妻側の負担が(育児・家事と仕事の両立)あまりに大きく、とても2人目が欲しいとは思えませんでした。男女の役割についての意識が、平等なものへと変わらないと、出生率は上がっていかないと思います。
- ・ 46才の夫は元々家事・育児を全くしない人でしたが、最近のイクメンブーム？を肌で感じとる事で少しは協力してくれるようになりました。行政からも男性が家事・育児することがあたりまえであることのメッセージを発信しつづけて欲しいです。
- ・ 育児に関しては、妻だから、夫だから・・・ではなく、親として、夫婦で力を合わせてするべきだと思っています。我が家の場合、主人が働き、私は家にいるので基本的には私がしています。ただし、色々な形の家族がいると思うので、コレ！といった型にあてはめようとせず、柔軟に対応する

ことが必要だと思っています。

- ・ 主人は主婦の仕事を認めてくれていて外での仕事と同じように考えてくれていて、休日には私を休ませてくれます。
- ・ このアンケート自体が女性にとって若干失礼だと感じます（特に問9-10）グローバル化が進む中で、もっと男性女性関係なく家庭生活に取り組む事が当たり前前のだと感じられる様な育児・出産・促進活動を行政で行って頂ければと思います。
- ・ 夫の転勤の為に慣れない土地で子育てすることになった場合、悩みを相談したくても夫は毎日21～22時頃まで働いており、一人で抱え込んで孤立したり、ストレスから虐待などしてしまわないか心配です。是非、男性も女性も子どもを産み育てやすい社会にしてください。現状、行政は女性にばかり「産め」と言ったり「働け」と言ったりするばかりで、男性の労働環境&育児については殆ど改善されていないと感じます。宜しく願います。結局、子どもが欲しくても一人目の育児で躓いてしまうと、二人目、三人目を産もうとは思えなくなってしまうと思うので…。配偶者（夫）の協力は、核家族化が進む現状だからこそ、いっそう重要になってきていると感じます。どうか行政の力で後押しをお願いします。
- ・ 産後の父親の育児の関わり方などの講習などがあるとよい。母親に対する出産前、出産後のサポートは色々あるが、大変なのは、産まれてからの、夫の無理解による心身の負担が一番大きかったの、学校教育から見直さないといけないと思う。
- ・ 社会全体にまだ育児や家事が女性の役割であり、男性は夜遅くまで働いていることが名誉である、といった考え方が改善されていない。意識改革が何より大切と考えます。
- ・ 母だけが、なぜこんな不公平に育児をするのか。我慢をするしかないのかと考えます。家事をおろそかにすると文句を言われ、ちゃんとやろうとすると身体がきつい。とても今つらいです。今の子供に、将来子供を持つようになったら…とか結婚してお互いに働くようになったらどうするか考えさせる場を多くするべきです。
- ・ “男性”の“意識改変”が必要だと思っています。女性手帳など、“女性のみをターゲットとする”のは、それ自体、的外れであり意識改変が必要です。
- ・ 育児は母親でやり、家事は父親がやるのがよいかと…！
- ・ 男性が育児や家庭生活に参加できる環境整備のことを考える率がもっと上がらないといけないと思っています。自分が子どもを持つ選択をしなかった最大の理由は、夫の参加を期待できる状況にならなかったからです。自分に子どもはいませんが、これから子どもを持つ人を支えられる施策には大いに賛成です。
- ・ 出産時にサポートしてくれる両親がいなかったりすることもあるので出産時に夫も退院後～1、2週間休みやすい環境があるといいと思う。（上の子の送迎など）そうすることで第2子目以降が産み易い。
- ・ 私は出産どころが、付きあっている相手もいないのですが、家庭の問題を女性に全て押しつけ、授乳（母乳）は体の中で血と同じく作られているので常に血が足りない状態で家事をしるという男性は、女性の事も子供の事も考えていない、成長していない子供だと思っています。

8. 親・子どもの保健医療体制の充実

21件

- ・ 妊娠は病気ではないとのことで、妊娠中の通院費用の負担が大きいのは、健康な子作りを妨げてはいないか？若い夫婦が気軽に通院しにくいと思う。
- ・ かかりつけにできるような小児科の数が少なすぎます。平日仕事をしてる家庭をもっとフォローし

てほしいです。

- ・ 予防接種が高い。
- ・ 少子化対策が問題となっているにも関わらず、とにかく産院が少ない。仮に産院が近所にあったとしても、その産院で分娩しないとなると「妊娠3ヶ月位までしか診察できない、以降は（里帰り先など）、別の産院で診てもらってくれ。」と言われる。健診のために数時間かけて行くことは非常につらい。また、分娩産院の予約も、妊娠初期の段階で取らないと、予約がむずかしい状況。育児支援は充実していても妊娠の時の方がかなりつらかった。
- ・ もうすぐ第1子が産まれます。里帰り出産ですが、出産後の手続きが多岐に渡ること、区役所、職場にかけあうこと、健診のために生後間もない子供をつれて帰る（文京区）ことが不便・不安です。里帰り先からも手続・健診等うけられたらよい。
- ・ 大学病院でないと分娩まで行う産婦人科がほとんどありません。また出産による補助金は42万円ですが、実際には80万近く大学病院ですとかかります。少子化対策と話されますが、現実的+経済的に厳しい現実があります。
- ・ 乳がん検診について、もう少し年齢を引き下げて助成してほしい。
- ・ 区で年一回ドック（補助でもOK）をして頂きたい。職場だとドック程の細やかな事はない為。
- ・ 最近不妊の特集などメディアでも多く取り上げられ、周りの友人もそのような人がいるので自分自身本当に妊娠が出来るのか不安がある。かかりつけの婦人科を持っていたい、色々病院が多くどこを選べばいいのか分からない。
- ・ 産科が少なく分娩予約から大変でした。大学病院で出産しましたが毎回予約を取っても1時間以上待たされ仕事との両立に差しかえました。出産後は夫が1週間の有給を取ってくれました。その後は保育園に入れるため泣く泣く育休を切り上げ0歳から預けました。本当に子どもを産み育てる事が大変な世の中です。
- ・ 仕事をしながらでも安心して子どもを産みたい。年が40才を超えていても、安心して産める病院や相談所があると良い。
- ・ 行政のサポート情報が区報にあると、とても心強い。定期検診や経済的援助（母子）（父親は会社の検診があるので）
- ・ 産後1ヶ月の保健師訪問はあってもその後はなく・・・希望者だけでも、訪問してもらえるとありがたい。
- ・ 出産施設が非常に少ない。
- ・ 文京区は助成金が少ないです。健康診断や予防接種等他の区では無料で行なっている事が、文京区ではお金がかかります。
- ・ 区で行なわれる予防接種や検診などがすべて平日の日中に行われています。共働き夫婦はどちらかが会社を休まなければならない、土日でも行っていただけるよう改善を希望します。
- ・ 土曜日に通院できる婦人科が少ないことが不安。
- ・ 入院施設付きの産院を増やしてほしい。→（大学病院に移されることが多い。妊娠初期から産むまで1つの産院で済むと心強い）
- ・ フルタイムで仕事をしていても夜間や土日祝日に利用できる不妊治療専門の医療機関があれば、と思う。自由診療で高額な費用がかかる上に、仕事を休むかもしくは辞めなければ通えない病院がほとんどで、治療を受けたくても受けられない人が非常に多いのではないかと。
- ・ 妊娠する前から定期的に婦人科へ通う区サービスや健診などがあれば良いと思う。生理周期やホルモンバランスを知る機会が必要。

- ・ 小児科が混みすぎ。往診してほしい。小児科で病気がうつる。りんご病で流産することを周知してほしい。

9. 結婚全般について

28 件

- ・ 結婚は“生活の安定”“より豊かな生活”というイメージを持っているため、なかなかいい人と出会えないとも思っている。
- ・ 結婚・妊娠・出産・育児にかかる費用がどの程度か分からないので、自分がそれらをしていくことができるのかわからない。また、具体的にどの程度補助が出るのかも分らず漠然と不安がある。
- ・ 持病がある事から、実家を出て結婚・出産するという事は体力的にも経済的にも難しい。様々なリスクを負って実家を出る気持ちになれず、配偶者にも苦勞をかけてしまう心配の方が強いのが現実になっている。
- ・ 将来の見通しをたてる機会及び情報が不足していることにより、より確実に安心した生活を送るための基盤が構築された上でしか結婚できないと感じる。結婚や子育てについてより身近に感じる機会が増えれば良いと感じます。
- ・ 子供を産み育て、人生をさらに豊かにしたいが、相手がみつかりません。20代は仕事に一杯で、具体的に結婚したいとイメージを持てなかったからかもしれません。又、今までのキャリアを捨てなければいけないような方との結婚は考えられなかったことが、結婚へのさまたげになっているかなと思います。男性の意識がもっと向上することを祈っています。
- ・ 若い世代の税の負担が非常に大きい。働く世代の負担を減らさない限り、結婚、出産数は増えないと思う。保育所の増設など、環境作りももちろん大事だが、まずは、もっと根っこの部分を考え直すべき。
- ・ 結婚という形式をとっていないが、長年のパートナーはいる。遠くない未来には結婚していくと思うが、夫婦別性として。子供に関しては若い頃から子供を産みたいと思った事がないので、少子化が問題となっているが、自身がその一端である。
- ・ 晩婚化が進んでいる要因をより深く理解したい。そのための統計を取ってもらえると嬉しい。
- ・ 結婚したいのにできていない同世代（特に女性）の結婚が増えると社会にとって大きなプラスになると思う。
- ・ あれもこれも（結婚、子ども、仕事、時間、お金など・・・）手に入れようとするから、結局どれも手に入らないのではないのでしょうか。まずは、現実を受け入れ、あきらめる事から始めた方が良いかと思います。
- ・ 結婚はしたいと考えているが、特定の相手がいるわけではない。同年代の友人はだんだん結婚しはじめているので、すぐ結婚、というわけではなくても相手は見つけない、と思っています。
- ・ 結婚が人生のすべてではないと20代の時完治できない病となり色々考えました。出産も遺伝すると医師に言われ傷つきました。これからの残りの人生は、人のためになれるサポートができればと思っています。
- ・ すこし視点がずれた回答になるかもしれませんが、DVについて色々な面でもりあげてほしいと思います。少子化を問題にする前に、まず夫婦のあり方や、子供を大切に育てるというあたりまえの事に目を向けるべきだと思います。結婚をして幸せだと思える人が何割いるのでしょうか。全てのはじまりはあたたかい家庭と、たくさんの愛情だと思います。
- ・ 仕事は忙しいがやりがいがあり、今の生活に満足していて、楽しんでいる。ただこうやって将来を考えると不安であり、親を安心させなくてはとも思う。自分から動かないといけないことは分かっ

ているが、そうやってそのまま、何年も月日が経っている。

- ・日本のどこの自治区より先立って、文京区に同性婚及び同姓カップルの子育てを受け入れる環境を整備してはいかがでしょうか？それを文京区の活性化の1つの戦略として、打ち出して、日本全国から子供を持ちたい同姓カップルが移住（引っ越し）してくるような地域を目指すの良いと思います。
- ・結婚はしたいと思うが、実際結婚できるか、長時間パートナーと一緒に人生を歩んでいくことができるかどうか不安に思うことがあります。
- ・今回の調査では、「結婚したことがある」に○をつけましたが、私の場合に法律的な結婚ではなく、事実婚です。ですので、法律的な結婚と事実婚で、制度的にも違いがあることに対して、非常に疑問に感じています。
- ・20代のうちに結婚して子どもが欲しいが、そのために今すべきこと、仕事をしながらできることがわからない。結婚相談所へ説明を聞きに行ったこともあるが、入会には至らなかった。
- ・このまま、独身でいつづけた場合のことが不安です。特に病気や老いに係る様々な問題に直面した際地域コミュニティなど身近によりそえる場があるといいと感じます。また、自分が子どもを産まない場合何らかの形で社会貢献したいと思います。
- ・結婚は、男性が奥さんを働かせなくても大丈夫な経済力をつけてからするものだと考えている。
- ・経済的に苦しいので結婚できない現実があります。
- ・特に年配の世代の「女性は結婚、育児をしなければ一人前ではない」という考え方で苦しめられることが多く、多様な生き方を認められる社会であってほしいと思っています。
- ・現在小さな会社の正社員で、仕事そのものにはやりがいはあるのですが、まともな収入が得られる状況になく、たまりかねて日雇いの仕事を始めましたが、それでも独り身の生活すらままならない状態です。したがって家庭をもつなど、考えることすらできない、というのが現実です。
- ・「男は働くもの、家に帰ればヨメさんが料理とフロを用意している」と言っている50代以上の男性の考え方を何とかして下さい。「新規でとる女性社員は、今いる男性社員のヨメ候補」という話を聞き、かなしくなりました。（2年前の冬、山の手線にて）
- ・パートナーがいなければ、結婚も妊娠も出産もない。信頼性の高い出会いの場がほしい。出会い系はあぶない。収入が少ないので、遊ぶ余裕がない。出会いがない。自宅と職場の往復ばかり。悪循環。
- ・結婚するメリットが、一人でいるメリットよりもあると思えない。また出産・育児に対して、何となく入ってくる情報からはまだあまり充実した支援があるとは思えない。以上の理由から、結婚・妊娠・出産・育児に関してはあまり明るい展望は持っていないです。
- ・自分の年齢は23だが、「結婚生活は大変」というイメージがある。このイメージは正しいのか、正しくないのか、経済的な面でどれくらいの負担になるのか正しい情報を知りたい。
- ・出会いがない。

10. 妊娠・出産全般について

45件

① 妊娠・出産についての教育

8件

- ・10代男女に、妊娠適齢期（=不妊）について教育して、早くから人生設計に出産を計画するムーブメントを起こしてほしい。
- ・妊娠に関する正しい知識取得の為の教育。
- ・加齢と共に妊娠しにくくなることを、小学校の授業などから教育するべき。社会的なサポートがな

い状況での女性の社会進出は、出産時期の高齢化をもたらし、結果的に出産数を減らすことの原因となっていると考えています。

- ・ 我が家は夫婦共に医療に携わっているので、多少知識が多いと思いますが、妊娠に関して、正しい情報を知らない人が多いように思います。
- ・ 出産や妊娠など、とても不安。具体的にここが不安、ということはないが、漠然とした不安。あまりまだ自分に自覚がないからか、自らネットなどで調べることもないが・・・小・中・高の学校でセミナーをたくさんやってもらえると、子どもの頃から自然と知識を身につけられるかもしれないと思った。
- ・ 高齢出産のリスクについて、あまり意識したことがなかった。リスクだけを強調して伝えることは問題かと思うが、現実の問題として、上手に伝えていく必要があると思う。
- ・ 公立、私立、企業の大小関係なしで、特に男性に対して、妊娠や出産について知る機会を増やすべきだと思います。
- ・ 気づいたら40を超え、医師に相談（子が欲しい）ということをしたところ、遅すぎると言われ、あきらめてすごしている。女子学生に、ライフプランを教育してあげてほしい。

② 地域の理解

2件

- ・ 結婚＝妊娠・出産と考える人が多いのにもかかわらず、乳幼児をつれた外出には非協力的な人が多い。妊婦や子連れが肩身が狭くなく生活していける環境が必要だと思う。
- ・ 妊娠・出産は、本人たちの意思も大切だけど周囲の理解や協力も大切だと思う。「もちつもたれつ」が大切だと思う。

③ 妊娠・出産に関する個人的な悩み

9件

- ・ 妊娠適齢期がある、妊娠しやすい年齢があることは知っているけれど、今の自分の状況がそのような予定があるわけでないので、ただただプレッシャーに感じる事が最近増えた。
- ・ 結婚当初から義母と同居しています。私たち夫婦は早く子供を授かりたいと思っていますが、義母のことがひっかかり今後子供ができた後の生活にかなりの不安があります。
- ・ 30才までに子供を授かりたいが仕事や両親との自宅の距離等考えることが多い。
- ・ 私は薬学部の学生で6年制で働き始めるのが25歳になります。そこから結婚、妊娠、出産となると30歳を超えと思うので不妊治療とかすることになるのか心配です。また、相手も見つかるかわからないので子供をちゃんと産めるのかなあと今からとても心配です。
- ・ 結婚、妊娠を希望しているが、自身の年齢を考えると妊娠が可能か、また健康な子が生まれるか不安に思うことがあります。
- ・ 以前結婚していた時（32～34歳）不妊治療を行いました。結果には至らず、現在41歳なので妊娠の可能性は低いと思っていますが、万一そうなることがあれば、それも縁だと思い受止めることと思います。特に無理して子供を持つということは今はこだわっていません。
- ・ 24歳になり、大学時代の友人が続々と結婚、出産ラッシュとなっており、少し焦りを感じている。特に妊娠については、子どもが欲しいと思っているので、知識を増やし、必ず産みたいと思っている。
- ・ できれば3人産みたいが、妊娠中の金銭面や子供の世話など不安がある。
- ・ 子どもがもう一人ほしいところだが、年齢的に40代の出産は、障害児になる確率が高くなるので、こわいという事と、経済的に共働きだとやっていけるが、子ども3人となると母親が仕事をやめな

いといけなくなるだろうから、むずかしいかなと一歩踏み出せない。

④ その他

26件

- ・ 子供のいない納税者に対する配慮が無い。
- ・ 子どもは出来れば嬉しいけれど、不妊治療を受けて精神的につらい思いをしてまでつくりたいとは考えていません。人口が少なくなるのは問題ですが、私自身が今いる家族と充実した生活を送ることの方が重要だと考えています。
- ・ 結婚して子供や孫が出来、平穩無事に暮らして人生を全う出来たらそれが一番良いと思います。出生率の低下は世の中の雰囲気（景気とか）が全体的に悪くなっているからだだと思います。ただ出生率の増減は自然界の摂理でもあるので、基本的に放っておいてよいと思います。社会保障費の問題は高齢者がより長く働ける様にすることが解決出来ると思います。
- ・ 特に結婚したいとも思わないですし、子供も手がかかって大変だと思うので、特に必要はないです。子供がいることが偉いなどという風潮はおかしいと思っています。育休・産休を取得する人よりも支えている女性たちの苦勞も分かって欲しいと思っています。
- ・ 出産にはお金がかかるイメージがあります。もっと子供を「産みたい」という具体的な思いを抱く女性が増えればよいと考えます。
- ・ 妊娠、出産から育児まで、お金がどれくらいかかるのか見当がつかない。また、産まれてきた子供に障害があったらどうすれば良いのかと不安に思う。
- ・ なぜ少子化なのか、結婚、子どもを持たないのか。そこから調査した方が少子化は少なくなるのでは？独身でも子どもは持ちたいという女性は多いように思う。フランスのように子どもを持つことで、色々なメリットが受けられる社会を作れば少子化の解消につながるのではないのでしょうか。有職者、研究者の意見など、まったく的を得てないから少子化は解消されない。
- ・ 現在、妊娠中ですが、最近気になることは、子供を乗せて自転車に乗るお母さん達です。私も出産後、子供を乗せて自転車に乗るかもしれませんが、スピードが出ていて、怖く感じます。車道を走ってくれる方もいますが、歩道で勢いよく自転車が来られると、妊婦でなくても怖いんです。こういった環境が良くなるといいなと思っています。
- ・ 文京区の合計特殊出生率が「1.09」との事。周辺では子供さんを見かけるので、文京区は育児しやすいだけなのでしょうか？
- ・ 文京区は出産・育児にお金がかかりすぎます。かかりつけの産婦人科では出産ができずに（入院設備がないため）大学病院を紹介してもらおうのですが、70万～100万円程度かかると聞いて東京での出産をあきらめました。住宅も土地もかなり高額になるので、文京区に住み続けるのは困難だと思います。教育環境はとてもいいと思うので、お金持ちしかその恩恵を受けられないのが残念です。
- ・ 来年結婚決まっているが、年齢が高い為、全てが不安。特に妊娠については、不明。私の職場では同年齢独身女性が多いが、理解されているのか？
- ・ 数値目標を掲げて、生殖分野に国や自治体がとかく口を出すことに違和感を覚えている。人口減は社会や経済が成熟しているとの意味合いもあるので、縮小均衡に合わせた施策をしてほしい。（基礎自治体では難しいことも多いでしょうが・・・）加えて、今の日本は「教育」と「住宅」にお金がかかりすぎると思う。こちらの是正こそ、ぜひ取り組んでほしい。
- ・ 代理母出産、養子縁組等、同性愛カップルでも子供を持ちたい自然な欲求（本能）があります。少子化対策に本気で取り組むのであれば、標準的なケースだけでなく、様々なケースを想定した対策が有効だと思います。

- ・ 35才までに出産したほうがよいのかどうかがとても気になります。役所の見解を示してほしいです。インターネットでは色々な考え方があるので、どれが正しいかわかりません。
- ・ 人口減は価値観と利益分配の問題にすぎないと思います。結婚や出産が価値を失っている現実に向き合うことから手を付けるべきかと考えます。こんなにハイスペックで高価な子育てを誰が望んでいるのでしょうか？
- ・ アンケートは自分の未来そのものと言う感じで未だ学生の私には、回答に多々戸惑いましたが、将来、結婚・出産となった際には自身が生まれ育った環境が望ましいのではと思いました。(身内や病院、行政やその他施設の利便性など安心と思った。)
- ・ 妊娠、出産は、奥さんのしたいようにさせてあげるべきと考える。
- ・ 結婚したら、妊娠して当たり前、妊娠したら無事に出産して当たり前という固定観念を持たない考えをどうにか広めたい。子育て支援をする前に、欲しくても出来ない家庭の気持ちを察して欲しい。子育てをするより子供が出来ない方が、経済的に(不妊治療) 苦しいということをもっとわかって欲しい。
- ・ もう妊娠、出産、育児が難しい年齢なので、結婚したい相手がいても、結婚にはいたらないと思う。子どもが欲しくて結婚する。または結婚するならば是非子どもが欲しいと考える人が多いと思うから。
- ・ 妊娠する能力が年齢とともに下がってしまうので、なるべく早めに妊娠したいと思うが、就職してすぐ子供を授かったら、仕事も覚えられないし、職場の方にどう思われるだろう？と不安に思う。だからと言って妊娠する時期(年齢)を遅らせて、後から自分が妊娠しにくい体質ということになっても、元も子もないし・・・と悩みます。
- ・ 妊娠・出産は、家族だけのイベントという意識が強く、社会を担う子という意識を国民全体がもてるような社会になってほしい。
- ・ 出生率が低いことが“問題”なのであれば、それを解決できる動きを具体的にやってほしい。子育て=家計の圧迫にしか感じない。愛情だけでは幸せになれない。
- ・ 月経のこと(自分は妊娠できるのか?)、出産・育児の際の仕事と家庭の両立ができるのか、今ですら食事や生活が乱れているのに。
- ・ 2人目が欲しくてもなかなかできなくて、あきらめた人が本当に多いです。私のまわりには1人は子供を産んだ人が多いので1人目からなかなかできない人も多いのかもしれない。子供のできない理由は、行政などの理由ではないので、もっと違う分野(医学?)が原因なのでしょう。産みたい人はいるのに残念だと思います。
- ・ 女性が安心して出産できる環境を整えてほしい。出生率が低いと言われて何年もたつが、実際、この経済環境では、共働きでなければ、子育ては難しいと感じる。現実、保育園が見つからず、仕事復帰できない女性が多いし、流産を経験したり、不妊に悩んでいる人は、子供がほしい気持ちを継続することは難しいと思う社会である。社会全体で子供を産んだほうがお得と感じるくらいの施策を打ち出してほしい。
- ・ こどもを沢山産んで欲しいなら、やはり第一子出産年齢をさげさせること、これは絶対条件だと思います。自分で産み感じたことは、第一子を20代に産み、最終分娩を35までに終えることです。本当に妊娠しにくくなります。

11. 育児全般について

57件

① 地域の理解

12件

- ・ 高齢者の方が、昔を忘れたのか子供を育て働かないと老後安心できない私達に対して冷たく感じま

す。子供たちだって昔に比べてあそべる範囲も少なくなり、ストレスがいっぱいです！日本を担う子供にあたたかい目で見守って下さる方が増えない限り子供を育てようなんて思わない。働いているうちに子供ができなくなったりすることもあります。

- ・ 保育園の周辺に住む方が子供の声や活動を“うるさい”“迷惑”ととらえることは、とても残念なことだと感じます。子どもを国の財産だととらえないことの方がおかしいかと思いますが、どちらかと言うと迷惑をかけないようにと保育園や子どもと親が気を遣わせられてしまう状況です。社会の仕組みと価値観を変えないと日本で子育てしたいとは思えません。
- ・ 最近、保育園の園児の声を騒音ととらえ、保育園建設を反対する住民が多い、というニュースをみました。子育て世代ではない地域住民の方々の理解や協力を得られないと、コミュニティの中で子供を産んで育てようという気になる子育て世代がどんどん減ってってしまうと思います。
- ・ 子供を育てるのは親だけでなく、保育士であったり、教師であったり、友達のお母さんであったり、隣人であったりと思うのですが、そのような感覚をもって人様のお子さんと接している大人が本当に少なくなったと感じます。それが子育てをする親の「育児しづらさ」につながっていると思います。色々な人の支え、助けがあつて子供は大きくなるもの、それがあたり前のことと思ひ、みながお互いに助け合う姿がまた戻ってくれば、現代においても子育てはやはり子供のいる人にもいない人にも楽しみになると思ひます。まずは自分のことしか考えない大人を減らすことから取り組むべきではないでしょうか。保育園の子供の声がうるさいから、保育園が作れないなどという話は言語道断です。
- ・ 育児中のお母さんの様子をみるとまわりに気にしながら外出しているように感じます。たとえば、マンション等で子どもたちの足音がうるさいとトラブルになっているところもあるようです。建築会社等とも協力して、子供の育てやすい住環境の整備も視野にいれてもよいのでは。
- ・ 文京区は裕福な家庭が多いし、子供の姿も周辺でよく見かけるので、少子化という感覚がない。思いきり体を動かして遊ぶ場所が少ない事以外は恵まれている方だと思う。子育てに協力的な方なら良いが、そうでない方が多いかもしれない。
- ・ 文京区は地価が高く、若い子育て世代が少ないのは仕方がないと思います。その分、ゆとりのある家庭が多く、高齢の方は小さな子供に温かいので安心です。
- ・ また、昨今の子どもの声を騒音ととらえたり、公園でのボール遊びを禁止したりという風潮に子どもを植物が何かとまちがえているのでは？と思ってしまう。
- ・ 子育ては、もっと行政がかかわって子供を産みやすい環境を整えてほしいと思います。地域の助け合いも、就学前の小さな子供の時点から、もっと関わりが欲しいと思います。
- ・ 育児は夫婦二人で考え、両親などにアドバイスをもらいながら楽しく大らかにするものとする。
- ・ 子供が第一の社会であってほしいです。公園や広場など、子供が球技を出来なかつたりするのは問題です。のびのびと遊べる空間であってほしいです。
- ・ ベビーカーを使用していた時、バスに乗ると年配の方がとても嫌な感じがしました。

② 育児に関する個人的な悩み

2件

- ・ 結婚もしたいし、妊娠・出産・育児もしたいと思っていますが、育児周りの雰囲気が怖い（いやがらせをされるのでは？）などと考えてしまいます。
- ・ 例えば、結婚して妻が妊娠したとして、彼女は大きな痛み（身体的なもの）を経験し、その上でお互いが協力して子を養育したとしても精神的に大きな負担が彼女に掛かる。その重荷を背負った妻を自分が横でしっかり支えられるかどうか自信がない点が不安です。

- ・ 子供は欲しいが将来的な不安はある。選択肢のすべてが必要である。ダブルインカムでないと東京でやっていけないため。
- ・ 家の仕事を姉と一緒にやっているの、同時期に産休・育休を取ることが難しい。甥がいるので充分ママ気分を味わってます（笑）会わない日はないので。
- ・ 教育の充実、特に性教育とネットリテラシー教育は必須と考えます。
- ・ 3人目妊娠中です。両親等頼れる人は遠方のため、いつも苦勞しています。全員入れる保育園、全員入れる学童保育、職場の理解の促進、男性の勤務時間の短縮（長時間労働の改善）不妊への知識と理解の普及。やるべきことはたくさんあります。予算はしぼりにしぼられず、もっとガツンとパンチの効いた取り組みをして下さい。
- ・ こどもが大きくなったら働きに出ないと経済的に苦しいと考えていましたが実際、小学生になっても母親がそばに居てやる必要が教育上多々ありました。10才までは家にいなくてはいけないのではないかと今は思います。幼児期に生活に必要な事は教えられますが、人として社会に出ていく為に必要なことは、理解力のついた小学生以降の仕事です。もちろん働いても教えられますが気力・体力がないと叱り、教えることはできません。私の場合は、年齢的にも仕事と育児両方にかけるだけの力がなく、こどもをとり、経済的苦しさに甘んじています。はっきりいって、こどもを3人もつことは夢のまた夢です。産みたくても将来を考えると産めません。
- ・ 子育てがしやすい社会になることを望みます。
- ・ 仕事や社会通念、体裁にとらわれず、親として子どもと向き合い、子育てを行うことができる社会環境が整うことを期待します。子育てを行うにあたっての親のあり方、親がどういう形態で収入を得て家庭内での役割を担うかというあり方は各家庭で異なると思います。願わくばそれぞれを尊重できるような社会になって欲しいです。
- ・ 自分自身は、家のことは妻である自分が行い、夫は主な収入を得るために働いてもらうような生活をしていますが、自分の子ども達が大人になる頃は、そのような生活はすたれていくと考えています。娘も息子も育てる中で、現在の私が子どもに見せている生活が、子どもの将来に則していないという矛盾をどう理解してもらえばいいのか考えているところです。
- ・ 少子化の昨今、子育ての行政としての取り組みは有難いと思っています。一方で、共働き世帯にとっては、子育ての環境はより改善の余地があると考えています。今後の日本の社会のために、引き続き取り組みに期待しております。
- ・ 赤ちゃんを育てられるか不安はあります。
- ・ 我が子が母親を頼ってくれる期間は短いのに、その時間をなくしてまで（保育園に預けてまで）仕事に出る母親の気持ち理解できません。夫の収入、子育て補助金 e t c で生活できないものでしょうか？母親のエゴ（社会的に認められたい。裕福な生活がしたい。オムツはずし等面倒な育児はしたくない）のように感じます。せめて、我が子が小学校入学するまでは、「いってらっしゃい！」「おかえり！」を家で言ってあげられるといいのに…。子どもと同じものを見て感動し、子どもの成長を肌身で感じ、共に喜怒哀楽を感じられると良いのに…と思います。中学生になったら、子どもは自然に離れていくのだし…。
- ・ 子育てには経済的な負担に加え、幼稚園・学校等のPTA活動が大きな負担になる。PTA活動を否定するつもりはないが、親の負担を軽減するようにして欲しい。（PTA活動を廃止した地域もあるので、できれば全面的な廃止を検討して頂けると有難い。）
- ・ 直接行政に活かせるものではないのですが、若いカップルやご夫婦が子どもをもつことが非効率で

ハイリスクと感じているのでは？と個人的に思うことがあります。私は2人の子どもがいますが若い人と話すときは「子どもっておもしろいよー」とあえて言うようにしています。(大変なこともありますけど) 年々、子育て支援は充実してきているのに少子化が止まらないのは、やはり雇用や景気に不安があるからなのかな・・・と思います。私の祖母世代は子育て支援なしで4~5人産んでたんですけど・・・。

- ・ 育児中の若い母親のマナーが悪い。目に付く所にマナー向上の看板でも立てて欲しいし、ベビーカーで2列3列横並び走行も通路のじゃまになるので禁止して欲しい。
- ・ 文京区は老若男女がたくさんいると思いますが、ここ数年は少々おかしいと感じる高齢者が増えていたため育児に関しての不安がある。子供を外で遊ばせたりするのが難しいと思うときがあります。
- ・ 大人のメンタルサポートをしないと子供に影響あると思います。通常のルールを外れた人にとっては一緒にされても対応できる場所がありません。女性が弱者なのではなくて、男性のサポートも必要だと思います。子供の時から別の学年とふれあう学習の場や、メンタルマネジメントをして大人にも働きかけるにもよいかもかもしれません。子供の方が学習意欲があるので。セクシャリティや、家族関係について学ぶカリキュラムがあるといいと思います。
- ・ 毎日生活をしていて、やはりベビーカーでの移動時の手段でエレベーターがなかったり、2人子供いて荷物が多い際、たたまなければならぬ状況が多いし、理解が少ない。
- ・ 出産後、サポート(育児に対する)の話はよく聞きますが、自分がどの位大変になるのか、という想像がつかないので、よく分かりません。高齢で体力が持つのかは不安ですが、でも子どもは大好きなので、2人目希望しています。
- ・ 今の社会では子育てにかかる費用(教育費含む)が多すぎます。子供を持ちたくても費用を計算したらあきらめざるをえなくなるのが現在の子供~若者世代ではないでしょうか？
- ・ 今の出産、子育て適齢期世代は他人の力を借りて幸せな出産・育児をしようと思っているとしか思えない。子供を産み、育てるということは、自分の人生のほんの10年足らずを子供に捧げなければならないということを現実として自覚出来ない人にはする資格がないものだと思う。生活の為に致し方なく働くという以外で、自分のキャリアだの生きがいなどと言って生まれた子供をすぐに保育園等に預けるということを平気で出来るような人は、最初から子供を持つなどと考えないで欲しい。出産、子育て適齢期世代の意識改革をして、子供の為に生きるということの重要性、素晴らしさを教えていくことが、少子化へのほんの少しの歯止めになることだと思う。
- ・ 企業、行政、地区単位で役割分担を決め全面的に子育てを支援する体制を創ることで少子化は改善されます。
- ・ 現実的に考えると、文京区に住んでいる間に子どもを産み育てるのは無理。その理由は今の職場では2人とも産休、育休取得出来ない。どちらかが辞めれば生活できないため。よって将来的に子どもは欲しいが、実家付近に戻って親のサポートが得られないことには、出産、育児は困難。
- ・ 子育てをしているママをつなぐサークルのようなものをもっと充実させてほしいです。
- ・ 今日ではひとり親、別居での共同育児、同性での育児など、多様なパートナー又は単独での育児を求める人が増えている反面、行政がそれについて行けてない事で、未だにそれらの人達やそういった家庭で育つ子供達への差別的意識が薄れずにあると思う。私が子供を授かった時、金銭的他社会、行政で守ってもらっている安心感がなくては、出産する事を憂鬱と感じずにはいられないと思う。
- ・ 子どもは日本の未来であるし、人の数=経済規模なのだから少子化対策、子育てをする環境・援助・教育の全てを連携させた施策をとってほしい。
- ・ 最近、女性(母親)が働く事ばかりサポートがあるような気がして、逆に働いていない専業主婦の

立場が弱くなりそうな気がしています。外で仕事をせず、家事をするという選択もありだということも認めてほしいと思います。

- ・ 文京区は育児がしやすい区と聞き、もっと力を入れてその部分を充実させアピールしたらいいと思う。
- ・ 子供は3人、本当は欲しいが、東京（文京区など）の住宅（家賃高すぎる。狭い。）事情では、2人までが精いっぱい…と思っています。住む家があれば、教育費はなんとかなるのに…というところ です。
- ・ 少子化対策や女性が輝ける社会などと耳あたりのよいことばだけが流れているが、実が伴っていない。先ほどのニュースで社会保障費の4割以上が高年齢に流れているとあったが、団塊以上の世代の生活と将来ある若者や子供の生活と、どちらにバランスを取るかは言わずもがなだと思う。それとは別に、昨今の親は過保護すぎる。今の状況では正直、この国で子育てはしたくない。子供はいてもいいが、子育ては日本以外の国でしたい。できるものならば。
- ・ 子供がすこやかに生活できることが大事だと思います。
- ・ 生活に余裕があるわけではないが、なんとか夫のみの収入でギリギリで生活しています。子供が小さいうちは妻が家にいて守ってあげたい一緒にいてあげたいと思っています。働く女性ばかりが優遇されていくサービスに不満をもちます。
- ・ 私は、文京区の出身です。結婚して転居し、保育園とママさん保育が自宅の近くにあり、苦勞せず入園できました。子供が病気になっても、母が元気だったので時間を作ってきてもらいました。離婚して、文京区に戻っても、母子家庭と転園した子の空きがありすぐに入れました。両親も近く、地元の為、友人にも助けてもらいました。今、育児をしている周りの方の話を聞くと、大変なようです。預かる側の大変さも分かるので、上手く回るような環境作りができる事を望みます。
- ・ 実家に関する事で、年に1~2回海外に行く機会が一昨年頃から生じた。結婚後のこと。これが自分のやりたい事、続けていきたい事とも重なった。子供は欲しいが子供が出来ると両立できなくなる。実家関係なので子供を預けて行くことが難しい（夫の家に預けられるか？）まだ妊娠もしていないので今考えることではないが…。
- ・ ベビーカーの取扱い 電車に乗る方で、ベビーカーを使用する為に、もう少し配慮が必要かと思われます。また、ベビーカーを持って乗られる方へのマナーやルールを設置するべきではないかと思 います。（例：入口付近に、いっきに2~3台のベビーカーがおり、ふさいでしまっていたりする。おりの側も、足に引っかかってしまったりと危ない。都心での子育てに不安を持つ要素となっています。（ベビーカーなどで、自分は他人に迷惑をかけてしまうのではないかと。）
- ・ 子供が産まれた後の経済的な不安を拭きたい。
- ・ 文京区は税金・物価・その他の様々な事にかかるお金が高すぎると感じるため、区の出生率が低いのは当然。もし子供が産まれても、普通に仕事をしていると、文京区で子育てしようとは思わないのではと思う。
- ・ 文京区だけでなく全国的に見てもいろいろな施策が、「働く母のため」中心のように思えます。本来は「子ども」が主人公なので「子どもがどうしたいのか、どうしたら幸せなのか」を中心に考えてほしいです。
- ・ 働いている時は仕事ばかりでわかりませんでした。子供をもってイメージしていた生活を思うと、環境がこれほど“窮屈”だとは思いませんでした。保育園に入れない様ですし、月20万の収入（主人）で月4~5万の保育園料、正直きびしく、年金もはらえません。働きたくとも働けず、貧しくなるばかりです。

- ・ 街中・駅やスーパーなどで子どもをすごい勢いで叱っているお母さんを見かけることがよくあります。「自分の時間の都合に子どもが合わせない」という理由がその光景を見ていると伝わってきます。出産の経験がないので、参加している文京区の子育てサークルの方に聞いてみました。「世田谷区のショートステイ施設がとても産後のお母さんには助かる」と、それは経験してみないとわからないことでした。時間を子ども軸にできる世の流れを文京区からぜひ発信して欲しいです。
- ・ 文京区の出生率は低いかもしれませんが、お子様のいる家族が引越されてくる数が増えていると思います。育児に関してとてもいい環境にあり、しやすい場所と思っています。
- ・ 生活に関して特に気にすることなく育児ができるような社会を望みます。
- ・ 共働きの女性です。家事・育児は分担していますが父親はまず仕事が優先で、その上の空き時間でわずかな分を分担し、残りはすべて母親がやらなくてはいけない状況で、このような家庭は多いと思います。社会的意識として何となく「育児は母親の仕事で父親は“手伝う”のが望ましい」というものがあるので問9は4に○をつけました。日本の育児書はすべて「ママが・・・ママが・・・」となっているのが意識レベルの低さを示していると思います。米国の育児書は「parent」となっていました。行政サービスについては充分であり有難いと感じています。ただ、育児休暇を取らず再度途中で復職した時に保育園に空きがなく、毎月20万円余のベビーシッター代が負担でした。働く母親としては、行政レベルより社会の意識改革の必要性が高いと感じます。
- ・ 小・中・高・大学生の保育体験赤ちゃん0才～6才、6才～12才、12才～18才、子供が子供の面倒を見る体験授業の必須。赤ちゃんをさわった事ない男女が大人になって子供が生まれても、そこが体験数0でスタートとはパパ、ママ、赤ちゃん全員ストレスが多い。体験させておいてあげたい。

12. 結婚・妊娠・出産・育児全般のサポートについて

22件

- ・ 妊娠・出産・育児等で気軽に相談できるサービスをもっとわかりやすく示して欲しい（このアンケートまでそういうサービスがあることすら知らなかったのだ）
- ・ 区で行っているサービスやサポートについての情報を知らない・気がつかないケースがとても多いように思いました。フルタイムで仕事をしていますので、積極的に情報を集めていないのが現状ではありますが、今の時勢的にもそうした人が多くいると思います。もっと身近で親しみやすいSNSなどで、情報が自然に集められるとよいかと思います。（知らないだけかもしれませんが、周知不足かと…）
- ・ 会社員で年収1,600万は別に裕福ではないです。助成金の拡充をお願いします。
- ・ 経済的支援をどんどんしてほしい。
- ・ 少子化対策は、いろいろな側面からのアプローチ・サポートが必要だと感じます。全てを国や地方でまかなうのは大変だと思いますが、実際は経済的な面が、とにかくきつと感じますし、周囲も経済面で困窮している声をよく聞きます。生まれ育った町で子供を産み育てたい、と思っても、郊外に引越す人も少なくないです。不妊治療をはじめ子供を産んだあとも、サポート体制が手厚ければ、第2子、第3子も考えられると思います。また、核家族化が進む中、大家族での育児のメリットが大いにあると考えています。大家族での育児の推進など。本当に様々な角度から考えられると思いますが、現実的なところで、出産費用や育児に関わる費用のサポート。家庭の事情によりケースは様々だと思います。シングルマザーや片親の場合のサポート。不妊治療費の補助、母乳が出ない方のミルク代の補助などなど…。
- ・ 区として取組んでいる内容について、知らないことも多いと思うので、様々な媒体で宣伝・アピールをしてほしい。

- ・ 出産・育児に関する補助金。
- ・ 少子化の原因は様々に言われますが、安心して妊娠・出産・育児に取り組むことが困難であることが、起点にあるように感じています。例えば、晩婚化も、その原因の一つに妊娠・出産・育児への漠然とした不安があり、結婚に踏み切れない等の話も聞いたことがあります。出産・育児への経済的補助や、保育施設の拡充など、立体的な施策を期待します。
- ・ 親の介護等、結婚・妊娠・出産・育児の大きな障害となることについては、行政の支援が必要だと考えます。
- ・ 少子化に取り組むことは良いと思いますが、ちょっと遅いのでは？まあ、やらないよりはいいですが。と思ってしまうような突然のアンケートですね。今後子ども3人以上出産の家庭にはお祝い金を区からさしあげるとか、子どもたちが広々と遊べる公園等を整備するとか、子育て家庭への家賃補助制度とか、色々よろしくをお願いします。
- ・ 結婚から妊娠、出産、育児を経ていく上での生活のいろはがわかるようなHPなどを区に作っていただきたい。(ライフサイクルのどのステージでどんな手続きが必要であるか、等)
- ・ 妊娠から子育て時期の医療費を無料にする。
- ・ 近年、出生率が下がり続けているのは、結婚できない(しない)人が増えているという所から来ているとも思うが、既婚でも、経済的、仕事の理由で子供を作れない、産めないという点も大きな原因だと思う。どちらの問題も、結婚や、出産・子育てに対する国からの支援が弱いからだと強く思う。これを改善しないと、日本の未来はないし、みんなが苦しくなると思う。
- ・ 文京区のレンタサイクルの(電動アシスト付)駐輪場を増やしてほしい。自家用車を持っていない方が多くいるかと思うので、あるととても助かります。
- ・ 結婚したタイミングで、今後の生活(地域活動や出産、育児)に関する案内(区で行っているもの)を教えてくれるサービスがあれば嬉しいです。また、今後も文京区で生活(結婚から出産まで)したいので、出産、育児へのサポート内容も定期的に教えてほしいです。
- ・ 結婚は個々適齢期が有り何とも言えませんが、女性の出産、育児等に関するふさわしい時期としては20代後半~30代後半が適当だと思います。社会全体、組織全体が協力しなければ、このまま更なる少子化への一途へ進むことでしょう。女性、男性の収入格差等、経済的な要因も含め、今後次世代を担う世代には出産、育児は負担であり、大きな問題だと思います。共働きで、身近に親族のサポートがなければ保育費だけでも家計が圧迫されてしまう。(離婚した場合の母子貧困家族育児放棄などの社会問題にも周囲が手を差しのべなければ・・・と)
- ・ 妊娠~育児まで、どのようなサポート(人的、金銭的)が受けられるか、詳しく知ることのできる機会がほしい。また、万が一不妊と判明した場合でも、安心して不妊治療を受けられるようなサポートをしてほしい。
- ・ 不妊治療、育児手当の所得制限が低すぎる。段階的に幅をもたせたり全ての人に手当が行き渡るようにしてほしい。税金を多く納めて手当が無い(少ない)のはとても理不尽です。育児の相談も、できるといわれていますが、電話してもまともに相談にのってくれないのではないし、すぐに話ができるわけでもなく・・・面倒です。リフレッシュ育児もほとんど取れず、毎回本当に不思議に思います。子供の人数に対してもう少し融通の効く対応をしてほしいです。
- ・ 経済的理由で結婚・育児ができない人を減らす為、ベーシックインカム制度を検討して下さい。
- ・ 税金を高齢者に対して手厚く用いるよりも出産、育児に対してより多く用い出生率を上げる方が未来は明るいと思います。
- ・ 行政が力を入れていることはよくわかるが、情報の集め方、発信の仕方を工夫してほしい。例えば

フェイスブックとか、SNSの活用か区報以外の媒体（雑誌のような手にとりやすく、わかりやすいもの）を作るなど。

- ・ 結婚・妊娠・出産・育児、これに関しては経験者や、今まさに進行中の人たちの意見を拾い上げてより良いサービスに向けて変化させていていただきたいです。これから迎える人にとっては、興味を持てるような事業があるともっと意識を高められるのではと思います。皆、実際に直面した時に真剣に考えはじめるので難しいとは思いますが。

13. 今回のアンケートについて

15 件

- ・ 自分の理解はまだまだ足りないと思います。どういうことを頭に入れておいたらいいか、きっかけや、ポジティブに考えられる良い方法、先輩方の知恵などが分かれば、安心して出産、育児ができると思います。このような機会を下さり、ありがとうございます。引きつづき、よろしくおねがいします。
- ・ アンケートに事実婚が考えられていないのも問題である。
- ・ 結婚したくても、していない、子供がほしくても作れない人のことを考慮していない設問があり、傷つきました。
- ・ 子どもがすでに大きくなり、小さい子の育児・まして出産を考える段階ではないので、アンケートが意味がない。アンケートを送る人をもう少し限定した方がよい。
- ・ 問9の部分に少し不快感を覚えました。問10では6のように「どちらか」という回答がありました。問9には「どちらかがパートタイムで働き、どちらかがフルタイムで働く」という回答がありませんでした。「働くことには絶対的な男女差がある」ようにも感じられる質問で、不快感よりも違和感を覚えてしまいました。
- ・ このアンケートをぜひ男性にも受けて頂いてはいかがですか？妊娠は女性だけのものではありません。内容を少し変えて男性にも受けて頂くべきと考えます。妊娠は女性だけではできないのですから。
- ・ 現在の少子高齢化の社会の中で、このような調査を区として行うことは素晴らしいことだと思います。簡単に解決できる問題ではないですが、このような地域の声を受け入れた支援が行われることを心より期待しています！
- ・ 本アンケートに同封されていたガイドブックは本当に必要とする人だけに送ってはどうか。
- ・ このアンケートの結果を“郵送”で送って頂きたいです。また、その結果をいかにアクションにつなげるか、そのアクションの結果もお知らせ頂きたいです。
- ・ このようなアンケートを実施しないでほしい！
- ・ 個人的にはweb回答の方が楽かなと思います。数年前なら回答したくない内容の調査でした。そんな人もいつかは回復します。
- ・ 現在、子宮や卵巣を取る必要がある病気にかかっている最中にこの調査は精神的につらいです。一人で生きていく為のフォローは行政はしてくれないのでしょうか？産婦人科と言うのも、子供を産めなくなる病気を持っている者が通うにはかなりきつい状況です。妊婦さんがうらやましく思えてしまいます。
- ・ 健康な人にもお願いした方がよかったかも。このアンケートを答える時に心に深く傷を負う人もいるかもしれません。
- ・ 妊娠出産は女性しかできませんが、仕事で社会貢献している女性も多いので、女性一般に対して妊娠出産を強制するようなこのようなアンケートはやめていただきたいです。

- ・ 現在、私自身は独身ですが、子育て支援の推進という意味でも、また自分自身の将来設計を考える上でも、今回のような調査は有意義と思います。他の自治体に比して、文京区は熱心に取り組んでいるという印象があります。今後もいっそう子育て支援の充実を期待しております。

14. その他

34 件

- ・ 結婚・妊娠・出産・育児を 20 代まで当然のことと考えていた。しかし、年を重ねるにつれて、そうではないことがよくわかるようになった。また幸せになるために、これらがあるとも思わなくなった。
- ・ 産婦人科の女医の少なさを考えると、子供は欲しくない。
- ・ 独身なので、まだ実感や気になることが思い浮かびません。でも、将来自分が親になったときは、今、不安視されていることが全て解決されていけばいいなと思います。
- ・ 核家族化により、結婚観が変化し、親世代も未熟な部分があり、色々な事を家庭だけで伝えていくのが難しくなっている状況なのだと感じます。結婚・妊娠・出産・育児については、身近な人だけでなく、多くの人の意見を聞いた方が良くと思います。特に男性は、保健体育の授業のように、希望者だけではなく全員が考える機会を持つとともっと円満な家庭が増え子供にも社会にも良い影響を与えるのではと考えます。
- ・ 若い人達が住みたくなるような、街づくりを希望。高齢者、資産家には魅力的かもしれませんが、若者（地元出身でない）が気軽に移住できる住宅（賃貸）がない。
- ・ 江戸川橋駅（文京区水道）の自転車置き場が駅近くに少ない。夫婦の通勤に便利な場所だが家賃相場が高く、住み続けられるのか分からない。子供を持ったら難しいかも。
- ・ 独身者は納税力があると考えられている場合が多く、だから所得税等の控除が少ないと思っている。負担するのはガマンするが、相応のサービスを望む。払い損を感じ、それならば他の市区町村に寄附することを考えてしまう。核家族化の中で出産・育児重視は当然。
- ・ 自分が生まれ育った文京区で今後も生活をしたい（育児も含む）が、住宅が高く、なかなか見つからない。あるいは高くて手が出ない。このままでは区外を検討せざるを得ない可能性も高く、何とかしたい。
- ・ まだ自分の将来を考えることで精一杯です。
- ・ 無知なので、自分がその立場に直面した時、どうしていいかわからなくなりそう。不安はあるが、実際それをサポートするセミナー等があったとしても、面倒くさくて足を運ぶことはしなさそう。
- ・ 結婚にも子供にも興味がないため、特にありません。
- ・ 未婚の人のためのサービスが望まれる。
- ・ 結婚・妊娠・出産・育児以外にも公平に。例えば、シングルの人に対しても税金を活用してほしい。
- ・ 現在は夫と 2 人暮らしたが、子どもが出来たら住居を変える必要があると思う。その際、文京区は土地（家賃）が安くないので、ずっと住み続けたくても、他の市町村へ移らなければいけないと思う。出来れば、このまま文京区に住み続けたいので、若いサラリーマン家庭が家&マンションを購入できる区になってくれると嬉しいです。一軒家を探していると、再建築不可の物件がたくさんありますが、再建築OKなら購入したいと思う不動産も多いので、古い家（住んでない家）はどんどん建て直しを進められるようにしてほしいです。
- ・ 住宅補助（賃貸でも）があると助かります。
- ・ 家賃が高いので文京区で暮らしつつ、子育てしていくのは難しいように感じてしまう。
- ・ 精神衛生上好ましい環境を望む。

- ・ 日本の未来のために子供は必要ですが、そこばかりに目を向けるのはどうなのでしょう。同じ位、介護にも力を入れて欲しいです。
- ・ 経験のないことで、情報を得る機会もないことなので不安があります。
- ・ 経済的に自立できないと子供を作るべきではないと思っているので、まずはそこに注力することになりそうだ。並行して相手を探して最終的に子育てとなるにはまだまだ時間が必要だと思って生活をしている次第です。子供は欲しいけれど、厳しいのが現状。
- ・ お金がかかるのでどれもできない。税金をもっと安くしてください。結婚しても貧困層に落ちぶれる世の中をなんとかしてください。
- ・ 個人の選択であり、行政がここまで質問することに疑問がある方が多いのでは。望む人に届く支援となるように希望します。
- ・ 現在の日本では、結婚だけでなく、妊娠・出産・子育ては非常に大変な事と考えます。今の子供達が大人になった時最低限の生活が出来ているのか、とても不安です。そして、私達 30代から 4、50代の老後はどうなっていくのか不安ばかりなのが現状です。
- ・ 経済が発展し、豊かになると出生率が低くなるのは世界各国共通なので、低人口、低経済成長の中でも、将来の税収入増加の見込みがなくても、国を維持できる方法をとるのが良いと思う。節約、リサイクル、不要な事業カット。必要なだけ費用が足りない→寄付の呼びかけ内情を開示GW、夏休み、盆休み、冬休み、正月休みそれぞれ 15日間連続の国の祝日にする等、休日をふやす。日本人はなかなか自主的に休日をとりにくい性質の為祝日をたくさん作って金土日、土日月の連休をふやす。
- ・ 結婚して子供を産むことが全て、というのは今はもう古いと思います。結婚しない自由、子供をもたない自由があってもいいと思うのだけれど、小さな子供のいる母親たちだけが声をあげて、権利を主張することに最近では、違和感をおぼえます。
- ・ 夫婦、人それぞれ、望ましい人生のあり方は異なる。どの形でも尊重しあえる社会にしたい。結婚→妊娠→出産というのではない生き方もある。
- ・ 子育ても一段落ですが、これからは親の介護、そして自分自身の老後の心配と心配事は続きます。
- ・ 結婚・子育てしていこうと思っはいるが、特に何の不安（経済的・肉体的など）も感じていない。
- ・ 子育て促進は大いに行うべきだと思うが、独身が不利になるような制度はやめてほしい。（税制など）
- ・ 現在、晩婚化が進んでいること、共働き世帯が増え、少子化であること。以上3点に関係していると思われるのは、経済的な不安を少なからず抱えていることではないだろうか。これまでの生活レベルが維持できるか？パートナーや子どもを養っていけるだろうか？そういった不安を拭えるような支援があれば、と思う。
- ・ 文京区役所の人間が本気で出生率を増やそうとしているとはとても思えません。他区から転入してきましたが、中・高年と老人の住みやすい街ですね。近所の人の子供に対する態度も酷いものです。これからは、中国人他外国人に沢山移住してもらった方が、出生率が上がるのでは？
- ・ 仕事が多く、毎日残業して帰ることが殆どなので、結婚や妊娠などについて真剣に考える時間がありません。
- ・ 結婚も遠い話なので、まだあまり考えられておりません。
- ・ 文京区は家賃が高いので、若い人向けに補助を出して欲しい。夫婦別姓を導入して欲しい。旧姓の使用と戸籍上のいろいろな手続きを考えると結婚することをためらう。

IV 調査票

「結婚・妊娠・出産・育児に関する意識調査」 ご協力をお願い

日頃から区政の推進にご理解・ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

日本における少子高齢化社会の急速な進展の中、少子化対策への取組みが求められています。

文京区では、合計特殊出生率が平成 25 年に 1.09 となり、前年より伸びておりますが、都の 1.13、国の 1.43 と比べて低い状況にあります。こうしたことから、今年度より新たに「ぶんきょうハッピーベビープロジェクト」として少子化に対する取組みを開始しました。

このプロジェクトでは、子どもを望むすべての人が安心して子どもを産み、育てられるよう、区民の健康の維持・増進の取組みを中心に様々な支援を行うものです。

つきましては、今後の少子化対策及び区民の健康維持・増進のための取組みの基礎的な情報とさせていただくため、結婚・妊娠・出産・育児に関する区民の皆様の意識や実態などをお伺いする意識調査を実施することといたしました。

この調査の対象者は、区内にお住まいの満 20 歳以上 45 歳以下の方々から無作為に 8,000 名を選ばせていただきました。調査は無記名で実施し、回答いただいた内容は上記の目的のみに利用するとともに、調査結果は、「〇〇の意見が何%」といった統計的な処理をした上で公表いたしますので、個人の情報が公表されることは一切ありません。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 26 年 11 月

文京区長 成澤 廣修

☆ご記入にあたってのお願い

- ◇ 調査票には、**あて名のご本人**がご記入ください。
- ◇ 濃いえんぴつ、ボールペンまたは万年筆でご記入ください。
- ◇ お答えは、あてはまる回答の番号に○を付けてください。
なお、複数回答もごございますので、○は設問で指定した選択数まで付けてください。
- ◇ お答えの中で「その他」を選んだときは、その内容をできるだけ具体的に（ ）の中にご記入ください。
- ◇ 設問によってご回答いただく方が限られる場合がありますので、説明文や矢印に従ってご回答ください。特に説明のない場合は、次の設問にお進みください。

ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れて、12月1日(月)までにポストに投函してください。切手は不要です。

文京区 保健衛生部 健康推進課 電話：03-5803-1229

《回答方法等、調査に関するお問い合わせ先》

調査実施機関 株式会社エスピー研
千代田区飯田橋3-11-20
電話：03-3239-2695（直通） 担当：牧（まき）
（土日・祝日を除く、午前9時30分～午後5時15分）

<結婚について、お伺いします。>

問1 婚姻状況についてお答えください。(〇は1つ)

1 結婚している ⇒ 結婚 () 年目	→ 【3ページの間3へお進みください】
2 結婚していたが今は死別している	} 問2へ
3 結婚していたが今は離別している	
4 結婚したことはない	

(問1で、「4 結婚したことはない」と答えた方に)

→ 問1-2 自分の結婚について、これまで具体的に考えたことはありますか。(〇は1つ)

1 ある	2 どちらともいえない	3 ない
------	-------------	------

問2 結婚についてのご自身のお考えにあてはまるものはどれですか。(〇は1つ)

1 ぜひ結婚したい	3 結婚してもしなくてもよい	→ 問2-5へ
2 できれば結婚したい	4 結婚はしたくない	

(問2で、「1 ぜひ結婚したい」「2 できれば結婚したい」と答えた方に)

→ 問2-1 結婚したいと考える理由としてあてはまるものはどれですか。(〇は2つまで)

1 生涯のパートナーが欲しいから	4 同世代の周りの友人が結婚しているから
2 子どもを持ちたいから	5 以前から結婚に憧れているから
3 親から自立し、親を安心させたいから	6 その他 (具体的に)

(問2で、「1 ぜひ結婚したい」「2 できれば結婚したい」と答えた方に)

→ 問2-2 何歳で結婚したいとお考えですか。(回答欄に数字を記入)

() 歳

(問2で、「1 ぜひ結婚したい」「2 できれば結婚したい」と答えた方に)

→ 問2-3 問2-2でお答えいただいた結婚したい年齢に理由があれば教えてください。(〇は2つまで)

1 異性と出会う機会が少なくなってしまうと思うから	5 就職できる時期を考えて
2 結婚後、出産・育児する年齢を考えて	6 その他
3 まわりがだいたいこれぐらいで結婚しているから	(具体的に)
4 経済的な余裕を考えて	7 特に理由はない

(問2で、「1 ぜひ結婚したい」「2 できれば結婚したい」と答えた方に)

→ 問2-4 実際に結婚する年齢は何歳だと思いますか。(回答欄に数字を記入)

() 歳

→ 問3へお進みください

(問2で、「3 結婚してもしなくてもよい」「4 結婚はしたくない」と答えた方に)

問2-5 結婚しなくてもよい、したくないと考える理由にあてはまるものはどれですか。

(○は2つまで)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 一人が気楽だから | 6 自分が未熟だから |
| 2 結婚したら経済的に負担が大きいため | (精神的に大人になっていないから) |
| 3 仕事に集中したいから | 7 (相手の) 家族や親せき付き合いが面倒だから |
| 4 結婚に良いイメージがないから | 8 その他(具体的に) |
| 5 結婚したいと考える相手にめぐり会えないから | 9 特に理由はない |

<子どもを持つことについて、お伺いします。>

問3 お子さんの人数は何人ですか。人数をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|------|-------------|
| 1 1人 | 4 4人 |
| 2 2人 | 5 5人以上 |
| 3 3人 | 6 いない → 問4へ |

(問3で、「1」～「5」と答えた方に)

→ 問3-1 第一子を出産した時のその子の母親の年齢をお答えください。(回答欄に数字を記入)

() 歳

<お子さんがいらっしゃる方は、4ページの問6-2へお進みください。>

問4 妊娠・出産・子育てについて具体的に考えたことはありますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|-------------|------|
| 1 ある | 3 どちらともいえない | 5 ない |
| 2 少しはある | 4 あまりない | |

問5 これまでに妊娠・出産に関する情報を得たことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|------------|
| 1 ある | 2 ない → 問6へ |
|------|------------|

(問5で、「1 ある」とお答えの方に)

→ 問5-1 妊娠・出産に関する情報を得たのはどのような場所、機会でしたか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 小・中学校の頃授業で | 5 インターネット、TV、雑誌で |
| 2 高等学校の授業で | 6 病院・診療所などでの診察の際に |
| 3 その他の学校の授業で | 7 その他 |
| 4 講演会などで | (具体的に) |

問6 あなたは、子どもを持ちたいと思いますか。(○は1つ)

1 ぜひ子どもを持ちたい	3 子どもはいてもいなくてもよい	} 問7へ
2 できれば子どもを持ちたい	4 子どもは持ちたくない	
	5 子どもを持つことを考えたことがない	

(問6で、「1 ぜひ子どもを持ちたい」「2 できれば子どもを持ちたい」とお答えの方に)

→ 問6-1 何歳で子どもを持ちたいですか。(回答欄に数字を記入)

() 歳

(お子さんがいらっしゃる方)、または

(問6で、「1 ぜひ子どもを持ちたい」「2 できれば子どもを持ちたい」とお答えの方に)

→ 問6-2 理想としては何人子どもが欲しいですか。(○は1つ)

※お子さんがいらっしゃる方は、現在いるお子さんを含めた人数をお答えください。

1 1人	4 4人
2 2人	5 5人以上
3 3人	

(お子さんがいらっしゃる方)、または

(問6で、「1 ぜひ子どもを持ちたい」「2 できれば子どもを持ちたい」とお答えの方に)

→ 問6-3 実際には何人の子どもを持つと思いますか。(○は1つ)

※お子さんがいらっしゃる方は、現在いるお子さんを含めた人数をお答えください。

1 1人	4 4人
2 2人	5 5人以上
3 3人	6 持てないと思う

(問6-2でお答えいただいた理想の人数より、問6-3でお答えいただいた実際の人数が少ない方に)

→ 問6-4 理想とする子どもの人数を持てないと思う理由を教えてください。(○は2つまで)

1 仕事でキャリアアップしたいから
2 職場に迷惑をかけるから
3 育児、家事にかかる負担が大きくなってしまふから
4 保育所等、子育て支援のサービスの不足に対する不安が大きふから
5 年齢的に難しいと思ふから
6 健康上の理由により難しいから
7 経済的に負担が大きふと思ふから
8 その他 (具体的に)

<以下、すべての方にお伺いします。>

仕事、家族についてあなたの希望や考えをお答えください。

問7 現在の仕事に対してやりがいがありますか。(○は1つ)

- 1 ある 2 どちらでもない 3 ない 4 仕事をしていない → 問8へ

(問7で、「1 ある」「2 どちらでもない」「3 ない」と答えた方に)

問7-1 現在の職場での、妊娠・出産に伴う休暇の取得のしやすさについて教えてください。

(○は1つ)

- 1 取得しやすい 3 どちらかといえば取得しにくい
2 どちらかといえば取得しやすい 4 取得しにくい

問8 仕事と家族生活、地域の活動や個人の生活について、あなたが望ましいと思うのは次のうちどれですか。(○は1つ)

- 1 「仕事」を優先する
2 「家庭生活」を優先する
3 「地域の活動や個人の生活」を優先する
4 「仕事」と「家庭生活」を優先する
5 「仕事」と「地域の活動や個人の生活」を優先する
6 「家庭生活」と「地域の活動や個人の生活」を優先する
7 わからない

問9 小学校入学前の子どもがいる家族にとって、家庭と仕事のあり方として最も望ましいのはどれだと思いますか。(○は1つ)

- 1 母親は家にいて、父親はフルタイムで働く
2 母親はパートタイムで働き、父親はフルタイムで働く
3 両親ともフルタイムで働く
4 両親ともパートタイムで働く
5 父親はパートタイムで働き、母親はフルタイムで働く
6 父親は家にいて、母親はフルタイムで働く
7 わからない

問10 家庭での育児や家事は、だれの役割だと思いますか。(○は1つ)

- 1 妻の役割である 5 夫の役割である
2 基本的に妻の役割であり、
夫はそれを手伝う程度 6 どちらか、できる方がすればよい
3 妻も夫も同程度に行う 7 その他
(具体的に)
4 基本的に夫の役割であり、
妻はそれを手伝う程度 8 わからない

<妊娠・出産に関する知識について、お伺いします。>

問11 以下は「子どもを授かる能力」に関する文章です。この文章の内容が「正しい」と思うか、それとも「まちがい」と思うかを選択してください。

わからない場合には「わからない」に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	正しい	まちがっている	わからない
記入例 ⇒	1	②	3
① <u>女性の加齢</u> による不妊の知識	1	2	3
② <u>性交渉</u> による不妊の知識	1	2	3
③ <u>女性の喫煙</u> による不妊の知識	1	2	3
④ <u>男性の喫煙</u> による不妊の知識	1	2	3
⑤ <u>不妊である人の割合</u> に対する知識	1	2	3
⑥ <u>男性の不妊</u> についての知識	1	2	3
⑦ <u>過去と比較した現在の年齢</u> における不妊の知識	1	2	3
⑧ <u>生活習慣</u> による不妊の知識	1	2	3
⑨ <u>疾患</u> による不妊の知識	1	2	3
⑩ <u>女性の月経</u> に対する不妊の知識	1	2	3
⑪ <u>体重増加</u> による不妊の知識	1	2	3
⑫ <u>男性の生殖器</u> に対する不妊の知識	1	2	3
⑬ <u>性感染症</u> による不妊の知識	1	2	3

※実際の調査以外で妊孕性尺度の質問項目を利用することは著作権上の制限があり、質問項目の内容を要約しています。

問12 今後の妊娠のための健康づくりに取り組んでいることがありますか。(〇はいくつでも)

1 栄養バランスに気を付けている	10 セックスの頻度を増やす
2 体を冷やさないように気を付けている	11 妊娠しやすいタイミングでセックスする
3 規則正しい生活を心がけている	12 書籍や雑誌、ムック、インターネットなどで情報収集する
4 スポーツ・運動をしている	13 妊娠・出産した友人や家族、親戚などの体験談を聞く
5 お酒の量を控える、またはやめている	14 妊娠・出産に関するイベントや講演会などに行く
6 タバコを控える、または禁煙している	15 積極的に葉酸を摂るようにしている
7 人間ドックや健康診断を定期的に受けている	16 その他(具体的に)
8 基礎体温を記録している	17 取り組んでいることはない
9 排卵検査薬などで排卵の時期・タイミングを知る	

<子育てに対する考え方、意識について、お伺いします。>

問13 子どもを持つことに関する以下のことについて、あなたの考えにあてはまるのはどれですか。

(〇はそれぞれ1つずつ)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない
記入例 ⇒	1	②	3	4	5
① 子どもがいると生活が豊かになり楽しくなる	1	2	3	4	5
② 子どもを持つことは自然なことである	1	2	3	4	5
③ 子どもを持つことで自分が成長できる	1	2	3	4	5
④ 子どもは夫婦関係を安定させる	1	2	3	4	5
⑤ 子どもは家系を次世代につなぐ	1	2	3	4	5
⑥ 子どもは老後の支えになる	1	2	3	4	5
⑦ 子どもは将来の社会の支えとなる	1	2	3	4	5
⑧ 子どもがいる生活に憧れる	1	2	3	4	5
⑨ 子どもを持つと自分の自由な時間が制限される	1	2	3	4	5
⑩ 仕事との両立が大変である	1	2	3	4	5
⑪ 経済的な負担が重くなる	1	2	3	4	5
⑫ 身体的な負担が重くなる	1	2	3	4	5
⑬ 精神的な負担が重くなる	1	2	3	4	5
⑭ 就職や仕事上のチャンスが制限される	1	2	3	4	5
⑮ 親の社会的信用が高くなる	1	2	3	4	5

問 14 出産と子育て初期の際にどのようなサポートを希望しますか。(○は2つまで)

- | |
|----------------------------|
| 1 里帰り出産による親族のサポート |
| 2 親族が自身の住まいに来てやってくれる育児サポート |
| 3 配偶者の育児サポート |
| 4 地域の育児サポート (近隣住民、民生委員など) |
| 5 行政の育児サポート (ホームヘルパーなど) |
| 6 病院や助産院での産後ケア |
| 7 その他 (具体的に) |
| 8 特に希望するサポートはない |

問 15 子どもを持つうえで利用できる区のサービスで知っているものを教えてください。

(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 子育て相談 | 5 子育てホームヘルパー |
| 2 子育てサークル | 6 赤ちゃん訪問 |
| 3 一時保育 | 7 知っているものはない → 問 16 へ |
| 4 子どもの医療費助成、児童手当等 | |

(問 15 で、「1」～「6」のいずれかをお選びの方に)

→ 問 15-1 区のサービスをどこで知りましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 区報 | 5 家族・友人・知人 |
| 2 ホームページ | 6 産院・病院 |
| 3 子育て応援メルマガ | 7 区職員など |
| 4 子育てガイド | 8 その他 (具体的に) |

問 16 妊娠、出産、子育てに際し、お住まいの地域ごとに保健師などの継続的に相談できる人がいることを知っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|--------------|--------|
| 1 知っている | 2 なんとなく知っている | 3 知らない |
|---------|--------------|--------|

問17 文京区では早い時期から自らの将来について考え、健康で豊かな生活を送ることを目的とした研修といった、ライフプランについて考えるセミナーを実施していく予定です。そのようなライフプランについて考えるセミナーなどを受講したことがありますか。

(○は1つ)

1 ある

2 ない → 問18へ

(問17で、「1 ある」とお答えの方に)

→ 問17-1 ライフプランについて考えるセミナーなどを受講したのはどのような機会でしたか。(○はいくつでも)

1 区・都など主催のセミナー

3 仕事での研修

2 民間のセミナー

4 その他(具体的に)

問18 問17のような研修の機会があれば参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

1 参加してみたい

2 自主的には(会社等の研修でない限り)参加したくない

3 参加したくない

<健康に関する状況・知識について、お伺いします。>

問19 あなたの身長と体重を記入してください。(回答欄に数字を記入)
【おおむねで結構です。】

身長 () cm

体重 () kg

問20 あなたは、タバコを吸っていますか。あるいは吸ったことがありますか。(○は1つ)

1 現在吸っている

3 吸ったことはない → 問21へ

2 以前は吸っていたが、今は吸っていない

(問20で、「1 現在吸っている」「2 以前は吸っていたが、今は吸っていない」とお答えの方に)

→ 問20-1 1日に平均して何本タバコを吸いますか。または、吸っていましたか。(回答欄に数字を記入)

1日 () 本

(問20で、「1 現在吸っている」「2 以前は吸っていたが、今は吸っていない」とお答えの方に)

→ 問20-2 習慣的にタバコを吸うようになってから何年間タバコを吸っていますか。または、吸っていましたか。(回答欄に数字を記入)

() 年

問21 あなたは、週に何日くらいお酒を飲みますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|----------|------------------|--------|
| 1 毎日 | 4 週1～2日 | 6 やめた(1年以上やめている) | } 問22へ |
| 2 週5～6日 | 5 月に1～3日 | 7 ほとんど飲まない(飲めない) | |
| 3 週3～4日 | | | |

(問21で、「1」～「5」とお答えの方に)

▶ 問21-1 お酒を飲む日は1日あたり、どれくらいの量を飲みますか。清酒に換算し、あてはまる番号を選んでください。(○は1つ)

※清酒1合(180ml)は、次の量にほぼ相当します。

ビール・発泡酒中瓶(約500ml)、ワイン2杯(約240ml)
焼酎20度(135ml)、焼酎25度(110ml)、焼酎35度(80ml)
チューハイ7度(350ml)、ウイスキーダブル1杯(60ml)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1 1合未満 | 3 2合以上～3合未満 | 5 4合以上～5合未満 |
| 2 1合以上～2合未満 | 4 3合以上～4合未満 | 6 5合以上 |

問22 平均的な1週間で、強い身体活動(重い荷物の運搬、自転車で坂道を上ること、ジョギング、テニスのシングルスなど、身体的にきつと感じるような、かなり呼吸が乱れるような活動)を行うことはありますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 はい → 週()日 | 2 いいえ → 問23へ |
|--------------|--------------|

(問22で、「1 はい」とお答えの方に)

▶ 問22-1 強い身体活動を行う日は、通常1日どのくらいの時間そのような活動を行いますか。(回答欄に数字を記入)

1日()時間()分

問23 平均的な1週間で、中等度の身体活動(軽い荷物の運搬、子どもとの鬼ごっこ、ゆっくり泳ぐこと、テニスのダブルス、カートを使わないゴルフなど、身体的にやや負荷がかかり、少し息がはずむような活動)を行うことはありますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 はい → 週()日 | 2 いいえ → 問24へ |
|--------------|--------------|

(問23で、「1 はい」とお答えの方に)

▶ 問23-1 中等度の身体活動を行う日は、通常1日どのくらいの時間そのような活動を行いますか。(回答欄に数字を記入)

1日()時間()分

問24 平均的な1週間で、10分以上続けて歩くことはありますか。(○は1つ)

1 はい → 週 () 日

2 いいえ → 問25へ

(問24で、「1 はい」とお答えの方に)

▶ 問24-1 そのような日には、通常1日どのくらいの時間歩きますか。(回答欄に数字を記入)

1日 () 時間 () 分

問25 平日に、通常1日合計してどのくらいの時間、座ったり寝転んだりして過ごしていますか。仕事、勉強などで机に向かったり、友人とおしゃべりをしたり、読書をしたり、座ったり、寝転んでテレビを見たりといったすべての時間を含みます。
なお、睡眠時間は含めないでください。(回答欄に数字を記入)

1日 () 時間 () 分

問26 あなたの自宅の近所、または勤務(通学)先の近くや途中に、運動のできる施設はありますか。(○はいくつでも)

1 ジムがある

3 運動のできる公園がある

2 プールがある

4 ない

問27 あなたは、主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが、1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。(○は1つ)

※「主食」とは、米、パン、めん類などの穀類です。

「主菜」とは、魚や肉、卵、大豆製品などを使った副食の中心となる料理です。

「副菜」とは、野菜や海草、きのこなどを使った料理です。

1 ほとんど毎日

3 週に2~3日

2 週に4~5日

4 ほとんどない

問28 あなたは朝食を食べていますか。(○は1つ)

1 ほぼ毎日食べる

2 週に2~3日は食べる

3 食べない

問29 あなたは普段外食をすることがありますか。(○は1つ)

※外食とは、飲食店での食事など家庭外で食べる場合とします。

1 毎日2回以上(週14回以上)外食をする

2 毎日1回程度(週7回以上14回未満)外食をする

3 週2回以上7回未満外食をする

4 外食をしない、または週1回程度の外食をする

問30 あなたは普段中食をすることがありますか。(○は1つ)

※中食とは家庭以外の場所で出前をとったり、市販のお弁当を買って食べる場合とします。

例えば、職場で市販のお弁当を買って食べた場合は中食とします。

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 | 毎日2回以上(週14回以上)中食をする |
| 2 | 毎日1回程度(週7回以上14回未満)中食をする |
| 3 | 週2回以上7回未満、中食をする |
| 4 | 中食をしない、または週1回程度の中食をする |

問31 以下のことがらについて、あてはまるものはどれですか。(○はそれぞれ1つずつ)

		あてはまる	ややあてはまる	あてはまらない
記入例 ⇒		1	②	3
(1) 病院や薬局からもらう説明書やパンフレットを読む際に	① 読めない漢字がある	1	2	3
	② 字が細かくて読みにくいと感じる	1	2	3
	③ 内容が難しくて分かりにくいと感じる	1	2	3
	④ 読むのに時間がかかる	1	2	3
	⑤ 誰かに代わりに読んでもらうことがある	1	2	3
(2) ある病気と診断された際、その病気やその治療法・健康法について	⑥ いろいろなところから情報を集めた	1	2	3
	⑦ たくさんある情報から自分が求めるものを選び出した	1	2	3
	⑧ 自分が見聞きした情報を理解できた	1	2	3
	⑨ 病気についての自分の意見や考えを医師や身近な人に伝えた	1	2	3
(3) ある病気と診断された際、その病気やその治療法・健康法に関して、自分が見聞きした情報を	⑩ 見聞きした情報をもとに実際に生活を変えてみた	1	2	3
	⑪ 自分にも当てはまるかどうか考えた	1	2	3
	⑫ 信頼性に疑問を持った	1	2	3
	⑬ 正しいかどうか聞いたり調べたりした	1	2	3
	⑭ 病院や治療法などを自分で決めるために調べた	1	2	3

<医療機関の利用状況について、お伺いします。>

結婚している（問1で「1」と答えた）方にお伺いします。

問32 あなたか配偶者、あるいはお二人で不妊治療を受けたことはありますか。（〇は1つ）

- 1 現在、治療中
- 2 過去に受けたことがある
- 3 受けたことはないが、これから受けたと思っている
- 4 受けたことがなく、今後も受けるつもりはない
- 5 考えたことがない、わからない

以下、すべての方にお伺いします。

問33 生理周期や生殖に関することなどを相談できるかかりつけの病院（泌尿器科・産婦人科・婦人科など）はありますか。（〇は1つ）

- 1 ある
- 2 ない

問34 生理周期や生殖に関することなどを気軽に相談できる人はいますか。（〇は1つ）

- 1 いる
- 2 いない → 問35へ

（問34で、「1 いる」とお答えの方に）

→ 問34-1 その人は医師、看護師などの専門的な知識を有する人ですか。（〇は1つ）

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 わからない

<行政による支援について、お伺いします。>

問35 今後力を入れてほしい施策として希望するものはどれですか。（〇は3つまで）

- 1 妊娠・出産、乳幼児健診などを支える保健医療体制の整備
- 2 保育園誘致など保育サービスの充実
- 3 定期的（平日・土日・夜間含む）に利用できる保育サービスの充実
- 4 リフレッシュ等のために利用できる一時預かりサービスの充実
- 5 不妊治療費用の補助
- 6 男性も女性も仕事と子育てが両立しやすい環境の整備
- 7 妊娠・出産・子育てについての相談サービス
- 8 乳幼児連れでも活動しやすいまちづくり
- 9 子育て家庭のための住宅施策の推進
- 10 児童手当などの給付や利用料金減免などの経済的援助
- 11 その他（具体的に)
- 12 特にない・わからない

F 5 あなたの最終学歴（卒業済みの学歴）について教えてください。（○は1つ）

1 中学卒業	5 大学・大学院卒業
2 高等学校卒業	6 その他
3 高等専修学校卒業	(具体的に)
4 高等専門学校・短期大学卒業	

F 6 あなたの現在のご職業は何ですか。アルバイト・パートなども含めてお答えください。複数ある場合は、主なものをお答えください。（○は1つ）

1 自営業（農林漁業、商工・サービス業、自由業の自営業主および家族従業者）	→ F 7 へ
2 管理職（会社の部長級以上、官公庁の課長級以上など）	
3 専門技術職（勤務医師、研究所研究員、技師など）	
4 事務職（事務職、営業職、教員など）	
5 現業職（生産工程、販売・サービス、運転手、保安職などの従事者）	
6 専業主婦・主夫	} F 7 へ
7 学 生（専門学生、大学生、大学院生）	
8 無 職	

（F 6で、「2」～「5」とお答えの方に）

▶ F 6 - 1 あなたの現在のご職業の雇用形態や従業上の地位は何ですか。（○は1つ）

1 会社役員	4 派遣・契約・嘱託社員
2 正社員・正規職員	5 その他
3 アルバイト・パート	(具体的に)

（結婚している（問1で「1」と答えた）方に、以下をお伺いします。）

F 7 配偶者の方の年齢をお答えください。（回答欄に数字を記入）

() 歳

F 8 配偶者の方の最終学歴（卒業済みの学歴）について教えてください。（○は1つ）

1 中学卒業	5 大学・大学院卒業
2 高等学校卒業	6 その他
3 高等専修学校卒業	(具体的に)
4 高等専門学校・短期大学卒業	

F 9 配偶者の現在のご職業は何ですか。アルバイト・パートなども含めてお答えください。
複数ある場合は、主なものをお答えください。(○は1つ)

- | | |
|--|---------|
| 1 自営業 (農林漁業、商工・サービス業、自由業の自営業主および家族従業者) | → F10 へ |
| 2 管理職 (会社の部長級以上、官公庁の課長級以上など) | |
| 3 専門技術職 (勤務医師、研究所研究員、技師など) | |
| 4 事務職 (事務職、営業職、教員など) | |
| 5 現業職 (生産工程、販売・サービス、運転手、保安職などの従事者) | |
| 6 専業主婦・主夫 | } F10 へ |
| 7 学 生 (専門学生、大学生、大学院生) | |
| 8 無 職 | |

(F 9で、「2」～「5」とお答えの方に)

→ F 9 - 1 配偶者の現在のご職業の雇用形態や従業上の地位は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 会社役員 | 4 派遣・契約・嘱託社員 |
| 2 正社員・正規職員 | 5 その他 |
| 3 アルバイト・パート | (具体的に) |

F10 ご夫婦の中で、夫が担っている家事・育児時間について教えてください。

(1) 【休日】の夫の家事・育児時間 (○は1つ)

- | | | |
|---------|-------------|-------------|
| 1 なし | 3 2時間～4時間未満 | 5 6時間～8時間未満 |
| 2 2時間未満 | 4 4時間～6時間未満 | 6 8時間以上 |

(2) 【平日】の夫の家事・育児時間 (○は1つ)

- | | | |
|---------|-------------|-------------|
| 1 なし | 3 1時間～2時間未満 | 5 3時間～4時間未満 |
| 2 1時間未満 | 4 2時間～3時間未満 | 6 4時間以上 |

アンケートは以上です。

～ お忙しいところアンケート調査にご協力いただきましてありがとうございました。～

結婚・妊娠・出産・育児に関する意識調査
報 告 書

平成27年3月

文京区 保健衛生部 健康推進課

文京区春日1丁目16番21号

電話：03-5803-1229（直通）

古紙再生紙を使用しています。